

科目名	科目担当代表教員	ページ数
文章表現	佐々木 雅哉	5
心理学概論	小塚 美由記	14
食生活論	荒井 三津子	23
生活と社会環境	辻 幸美	32
総合教養講座	白戸 力弥	41
日本国憲法	奥谷 知冬	50
現代医療と福祉・介護	高岡 哲子	59
キャリア入門	木村 悠里菜	68
キャリア形成	木村 悠里菜	75
生命科学	宮下 和夫	82
情報処理リテラシー	松岡 審爾	91
情報処理リテラシー	松岡 審爾	98
統計の基礎	武田 裕康	105
数理・データサイエンス・AI入門	松岡 審爾	114
数理・データサイエンス・AI実践	松岡 審爾	121
物理学	松岡 審爾	128
基礎化学	藤井 駿吾	137
英語Ⅰ	Patrick Hall	146
英語Ⅰ	Patrick Hall	155
英語Ⅱ	Walzem Allen George	164
英語Ⅲ	Joseph S Tomasine	173
中国語Ⅰ	玉 珍	182
中国語Ⅱ	玉 珍	191
韓国語Ⅰ	金 京室	200
韓国語Ⅱ	金 京室	209
生涯スポーツⅠ	平岡 英樹	218
生涯スポーツⅠ	平岡 英樹	227
生涯スポーツⅡ	平岡 英樹	236
人間発達学	横井 裕一郎	245
解剖学Ⅰ	木村 一志	254
解剖学Ⅱ	池野 秀則	263
生理学Ⅰ	木村 一志	272
生理学Ⅱ	木村 一志	279
生理学Ⅲ	木村 一志	286
生理学演習	木村 一志	295
生理学演習	木村 一志	304
運動学Ⅰ	高田 雄一	313
運動学Ⅱ	大森 圭	322
運動学実習	大森 圭	331
運動学実習	大森 圭	339
リハビリテーション工学	金谷 匡紘	347

病理学	瀧山 晃弘		354
微生物・免疫学	木村 一志		363
終末期医療	佐藤 明紀		370
内科学	水越 常德		377
整形外科学	鈴木 信		386
脳神経内科学	松谷 学		395
小児科学	横井 裕一郎		404
精神医学Ⅰ	瀧山 晃弘		411
リハビリテーション医学	鈴木 信		420
老年医学	瀧山 晃弘		427
臨床心理学	松岡 紘史		434
リハビリテーション栄養学	佐々木 将太		441
臨床薬理学	續 佳代		448
救急医学	俵 敏弘		455
言語障害治療学	金浜 悦子		462
医学概論	鈴木 信		469
リハビリテーション概論	白戸 力弥		476
公衆衛生学	佐々木 幸子		483
地域包括ケアシステム論	水本 淳		490
統計と社会調査法	小田 史郎		497
チーム医療概論	坂東 奈穂美		506
応用解剖学演習	池野 秀則		513
応用解剖学演習	池野 秀則		527
精神医学Ⅱ(理学療法)	瀧山 晃弘		541
理学療法概論Ⅰ	橋田 浩		550
理学療法概論Ⅱ	橋田 浩		557
運動生理学	大森 圭		564
病態運動学	牧野 均		573
基礎解剖学実習	池野 秀則		580
基礎解剖学実習	池野 秀則		588
理学療法研究法	佐々木 幸子		596
理学療法研究セミナー	橋田 浩		603
理学療法研究	橋田 浩		612
医療統計学	加茂 憲一		626
理学療法管理経営学Ⅰ	南部 路治		633
理学療法管理経営学Ⅱ	横井 裕一郎		640
理学療法評価学Ⅰ	佐藤 明紀		647
理学療法評価学Ⅱ	柴田 恵理子		654
理学療法評価学Ⅲ	松田 直樹		661
理学療法評価学実習Ⅰ	佐藤 明紀		668
理学療法評価学実習Ⅰ	佐藤 明紀		676
理学療法評価学実習Ⅱ	佐藤 明紀		684

理学療法評価学実習Ⅱ	佐藤 明紀		692
高次脳機能障害学	大坂 隆介		700
物理療法学Ⅰ	水本 淳		707
物理療法学Ⅱ	水本 淳		714
物理療法学演習	水本 淳		721
物理療法学演習	水本 淳		730
基礎運動療法学	柴田 恵理子		739
義肢装具学Ⅰ	牧野 均		746
義肢装具学Ⅱ	牧野 均		753
義肢装具学演習	牧野 均		760
義肢装具学演習	牧野 均		769
運動器障害理学療法学	橋田 浩		778
運動器障害理学療法学演習	高田 雄一		787
運動器障害理学療法学演習	高田 雄一		796
神経障害理学療法学Ⅰ	柴田 恵理子		805
神経障害理学療法学Ⅱ	柴田 恵理子		812
神経障害理学療法学演習	柴田 恵理子		819
神経障害理学療法学演習	柴田 恵理子		828
内部障害理学療法学	佐藤 明紀		837
内部障害理学療法学演習	佐藤 明紀		846
内部障害理学療法学演習	佐藤 明紀		855
子どもの理学療法学Ⅰ	横井 裕一郎		864
子どもの理学療法学Ⅱ	横井 裕一郎		871
子どもの理学療法学演習	横井 裕一郎		878
子どもの理学療法学演習	横井 裕一郎		887
日常生活活動学	佐々木 幸子		896
日常生活活動学演習	佐々木 幸子		903
日常生活活動学演習	佐々木 幸子		912
理学療法総合セミナー	佐藤 明紀		921
徒手理学療法学実習	大森 圭		930
徒手理学療法学実習	大森 圭		939
スポーツ領域理学療法学実習	高田 雄一		948
スポーツ領域理学療法学実習	高田 雄一		955
トレーニング・コンディショニング理学療法学実習	大森 圭		962
トレーニング・コンディショニング理学療法学実習	大森 圭		971
高齢者理学療法学	佐々木 幸子		980
地域理学療法学	水本 淳		987
地域理学療法学演習	水本 淳		994
地域理学療法学演習	水本 淳		1003
臨床実習Ⅰ(見学実習)	柴田 恵理子		1012
臨床実習Ⅱ(訪問・通所)	水本 淳		1021
臨床実習Ⅲ(検査測定評価)	高田 雄一		1030

臨床実習Ⅳ(総合Ⅰ)	池野 秀則		1039
臨床実習Ⅴ(総合Ⅱ)	佐藤 明紀		1048

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 人間と文化					
科目名		文章表現				ナンバリング	1102
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	佐々木 雅哉						
授業の位置づけ							
初年次教育の一環として、大学の授業や実習に必要なスタディスキル(読み・書きの基本、レポートやプレゼンテーション表現、情報の活用や処理の方法)を学ぶための科目である。 幅広い教養を身につけるために、社会で必要となる文章作成能力、プレゼンテーション能力の基礎を修得する科目である。							

- ・社会に存在する様々な文章について、分類することができる。
- ・各講義の目標とする文章表現技術を習得し、実際的な文章作成ができる。
- ・文字・漢字、言葉や文の正誤・適否・美醜等が区別できる。

授業の方法

- 1.講義形式で、文章作成の要素を中心に説明を行う。
- 2.説明に基づいて実際に各自文章作成や相互評価を行う。
- 3.インタビュー・ドキュメンテーション・投稿・観察等を実際に行い、その結果を文章作成に反映させる。
- 4.完成させた文章を、担当教員の指示により提出する。

ICT活用

必要に応じてパワーポイント等を用いた授業を実施し、ICTを活用する。

実務経験のある教員の教育内容

公立小学校での担任、管理職経験や研究団体での研究歴があり、学校教育や国語科教育に幅広い知識と経験を有する。これらを生かし、多面的な視野に基づく文章表現の指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

作成した課題は、提出後の講義において適宜紹介したり、例示したりして評価内容を可視化していく。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【オリエンテーション】 講義内容を概観し、到達目標や評価について理解する。 「文章の書き方」の基本について学ぶ。 ・学生時代に書く文章には何がある？ ・タイトルの意図 ・「作文」と「小論文」	これまでに書いた文章について、どんなものがあつたかを想起する。	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第2回	ゲスト講師による講義①【新聞って何だろう】 当日の新聞を教材に、「テレビとネットの違い」、「信頼できる情報源」などを学ぶ。	新聞の入手方法を調べたり、実際に紙面を観察したりする。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第3回	【会話表現から学ぶ①】 聞き取りやすさ／あいさつ／敬語の使い方	新書などから好きな本を選び、通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			

第4回	ゲスト講師による講義②【新聞を呼んでみよう】 当日の新聞を教材に、「新聞製作の仕組み」、「面建て」、「読者参加(投稿)面」などについて学ぶ。	いろいろな新聞を通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第5回	ゲスト講師による講義③【新聞の作り方】 新聞製作における、「5W1H」、「取材・執筆法」、「レイアウト」などを学ぶ。	いろいろな新聞を通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第6回	ゲスト講師による講義④【友だち新聞を作ろう】 ペアをつくり、前回までの講義を参考に、取材一記事執筆を体験する。	いろいろな新聞を通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			

第7回	ゲスト講師による講義⑤【オールドメディアとSNSの功罪】 SNSやオールドメディアの功罪を学ぶ。	いろいろな新聞を通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第8回	【会話表現から学ぶ②】 発声／自己紹介文／先方を意識した話し方／声かけ／電話／面接	新書などから好きな本を選び、通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第9回	ゲスト講師による講義【表現・基礎① 瑞々しい文章とは】 谷川俊太郎を通して	新書などから好きな本を選び、通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			

第10回	【表現・基礎②】 文章を書くときの留意点／書き方の基本／正しい表記	新書などから好きな本を選び、 通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の 課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第11回	【表現・応用①】 実習日誌／札状・手紙／メール	新書などから好きな本を選び、 通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の 課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第12回	【表現・応用②】 履歴書／エントリーシート／送付状／送り方	新書などから好きな本を選び、 通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時の 課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			

第13回	【表現・応用③】 小論文の基本的な書き方を学ぶ ・テーマ設定の仕方、具体例と問題意識 ・様式の復習	新書などから好きな本を選び、 通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時 の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第14回	【表現・応用④】 効果的な(広告)宣伝フレーズを考える。 イベントポスターや新聞広告などのキャッチコピーに注目 する。	新書などから好きな本を選び、 通読する。(90分)	講義の要点・課題の整理・本時 の課題文の完成と提出。(90分)
担当教員			
第15回	【まとめ】 これまで学んできた文章表現の技法を反芻しながら、再確 認していく。 得た知見をまとめる。	これまで授業で使用した資料類 をまとめ、復習しておく。(90分)	指定された提出課題の完成・提 出。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・授業参加度 20% ・課題 80%(提出の指示があった課題を、すべて評価の対象とする)
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

必要に応じて提示する。

履修条件・留意事項等

状況により、講義内容の変更や順序が変わる場合がある。
出席の確認をGoogle classroom で行うことがあるので、スマートフォンなどの端末を持ちこむこと。
連絡はGoogle classroom を通じて行う。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 人間と文化					
科目名		心理学概論				ナンバリング	1110
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	小塚 美由記						
授業の位置づけ							
本科目は、リハビリテーション学科理学療法専攻と作業療法専攻のディプロマポリシーでは「臨床場面や研究において状況の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけている(思考・判断・表現)」に位置付けられ、2年前期の「臨床心理学」と連携している。看護学科のディプロマポリシーでは、「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。(思考・判断・表現)」に位置付けられており、1年次後期の「メンタルヘルス」と連携している。地域未来学科のディプロマポリシーでは「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有している。(知識・技能)」地域社会における意欲的かつ主体性のある個人や企業の学習活動を引き出し、支援することで、生涯学習社会の実現に貢献できる。(関心・意欲・態度)」に位置付けられている。健康栄養学科では、「幅広い教養を身につける」「教養人文系」に位置付けられている。							
授業の概要							
本科目では、人格論に焦点を合わせながら現代心理学の概観を試みる。まず学習、動機づけ、知覚等の心理学的概念を用いて人格の形成過程を説明する。さらに摂食障害、薬物依存、多重人格等、広く人格障害に関与する異常行動の病理に言及する。履修者は、心理学を通して、人間が、外側からは知ることのできない人間のこころの内側とそのしくみをどのように解き明かしてきたのかを知ると同時に、その方法を自分自身にも適用し、自分を客観的に見つめ、いまの自分がどのように形成されてきたのか、また、今の自分をどのように変えていくことができるのかという問題に答えられることを期待する。							
到達目標							

- ①心理学が辿った歴史的な研究の過程と特徴を理解できる。(知識・技能)
 ②心理学概論の研究の変遷を適切にとらえ表現することができる。(思考・判断・表現)
 ③心理学概論の学習を他のメンバーと協力し、学習課題を解決することができる。(関心・意欲・態度)

授業の方法

パワーポイントにより講義形式で行う。
 アクティブラーニングとして題材を提示し、グループワークも行う。

ICT活用

Googleフォームを使用する

実務経験のある教員の教育内容

課題に対するフィードバックの方法

質問は授業中、Googleフォームで質問を受け付け、都度回答を行う。問題に関する解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 基礎心理学の進化心理学による行動的形質であるヒューマン・ユニバーサルズの意味、自己の発見、ヒポクラテスの単純元素、プラトンの自己概念、イスラムと精神医学について理解できる。	シラバスにより学習の見通しを持ち、第1回のテーマに関する配布資料に目を通す。(90分)	ヒューマン・ユニバーサルズ、自己の発見、ヒポクラテスの単純元素、プラトンの自己概念、イスラムと精神医学について整理する。(90分)
担当教員			
第2回	古代心理学における共通感覚の意味からデカルトの思考機械と松果体とその役割、ウィリスの脳解剖とウィリス動脈輪、さらにジョン・ロックの知性の本性としての自己の記憶内容について理解できる。	共通感覚から知識の本性までの該当テーマについて、事前配布資料を熟読し学習内容の把握をする。(90分)	デカルトの思考機械、ウィリスの脳解剖、ウィリス動脈輪、知識の本性について、配布資料をもとに整理する。(90分)
担当教員			
第3回	パークリーの観念と実物からフェヒナーの法則、キルケゴールの自己の選択、フィニアス・ゲージの記憶による前頭前野・大脳皮質の実行機能を中心に学習内容を理解できる。	パークリーの観念と実物からフェヒナーの法則、キルケゴールの自己の選択、フィニアス・ゲージの記憶による前頭前野等の機能について、配布資料を読み理解する。(90分)	パークリーの観念と実物からフェヒナーの法則、キルケゴールの自己の選択、特にフィニアス・ゲージの記憶の研究内容を中心に整理する。(90分)
担当教員			

第4回	モーズリーの気分障害からダーウインの情動、フランシス・ゴルトンの優生学、シャルコーのヒステリー法則、情動のジェームズ・ランゲ説及び感情心理学と情動の2要因理論について理解できる。	気分障害、情動、優生学、ヒステリー法則、ジェームズ・ランゲ説についての範囲の配布資料を熟読し、授業準備をする。(90分)	気分障害から情動、優生学、ヒステリー法則、ジェームズ・ランゲ説及び感情心理学と情動の2要因理論について整理する。(90分)
担当教員			
第5回	大脳半球優位性、特にフロイトの精神分析理論を中心に、心理学の原理、自律神経系の研究を理解できる。	大脳半球優位性、フロイトの精神分析、心理学の原理、自律神経系の研究の範囲の配布資料を熟読し、授業準備をする。(90分)	大脳半球優位性、フロイトの精神分析を中心に、心理学の原理、自律神経系の研究を整理する。(90分)
担当教員			
第6回	双極性障害から劣等コンプレックスを中心に、サイコドラマの研究について理解できる。	双極性障害からサイコドラマの研究までの範囲の配布資料を熟読し、授業準備をする。(90分)	双極性障害から劣等コンプレックスを中心に、サイコドラマの研究を整理する。(90分)
担当教員			

第7回	知能指数から発達心理学を中心に、心理学の場理論の研究について理解できる。	知能指数、発達心理学、心理学の場理論の研究の範囲の配布資料を熟読し、授業準備をする。(90分)	知能指数、発達心理学を中心に、心理学の場理論の研究を整理する。(90分)
担当教員			
第8回	自閉症(自閉症スペクトラム・ASD)から知能の心理学、アルバート・エリスの認知行動療法(研究)を中心に理解できる。	自閉症、知能の心理学、アルバート・エリスの認知行動の研究の範囲の配布資料を熟読し、授業準備をする。(90分)	自閉症、偏見の学習、アルバート・エリスの認知行動の研究を整理する。(90分)
担当教員			
第9回	人生の八つの段階と、欲求の段階構造の研究を中心に理解できる。	人生の八つの段階、欲求の段階構造の研究の範囲の配布資料を熟読し、授業準備をする。(90分)	人生の八つの段階、欲求の段階構造の研究の学習内容を整理する。(90分)
担当教員			

第10回	言語の獲得からフェスティンガーの認知的不協和、モデリング行動を中心に学習内容を理解できる。	言語の獲得、認知的不協和、「スイッチを入れて、波長を合わせ、社会に背を向けよ」の範囲の配布資料を熟読し、授業準備をする。(90分)	言語の獲得から認知的不協和、モデリング行動を中心に学習内容を整理する。(90分)
担当教員			
第11回	フーコーの人間観から抑うつテスト、学習の中心課題であるボウルビィの愛着理論、家族療法の研究を理解できる。	フーコーの人間観、抑うつテスト、愛着理論、家族療法の研究の範囲の配布資料を熟読し、授業準備をする。(90分)	フーコーの人間観から抑うつテスト、愛着理論、家族療法の研究を整理する。(90分)
担当教員			
第12回	学習の中心となる記憶地図からヒューリスティックス、アイデンティティ、衝動性と強迫性の研究について理解できる。	記憶地図、ヒューリスティックス、アイデンティティ、衝動性と強迫性の研究の範囲の配布資料を熟読し、授業準備をする。(90分)	記憶地図からヒューリスティックス、アイデンティティ、衝動性と強迫性の研究について整理する。(90分)
担当教員			

第13回	感覚データから、学習の中心である自己肯定感、フロー体験、機能的MRIの研究までを理解できる。	感覚データ、フロー体験、機能的MRIの研究の範囲の配布資料を熟読し、授業準備をする。(90分)	感覚データから自己肯定感、フロー体験、機能的MRIの研究までを整理する。(90分)
担当教員			
第14回	学習のまとめとしての小テストを実施し、六つの基本感情、心的外傷後ストレス(PTSD)、意識に関する難問について理解できる。	小テストに向けての準備をし、六つの基本感情、心的外傷後ストレス、意識に関する難問の範囲の配布資料を熟読し、授業準備をする。(90分)	六つの基本感情、心的外傷後ストレス、意識に関する難問の研究を整理する。(90分)
担当教員			
第15回	ミラーニューロン、社会的調和、再現可能性の危機、パーソナリティ・ビッグファイブ理論について理解でき、本科のまとめを行う。	ミラーニューロン、社会的調和、再現可能性の危機、ビッグファイブ理論の配布資料を熟読し、授業準備をする。(90分)	ミラーニューロン、社会的調和、再現可能性の危機、ビッグファイブ理論を整理し、本科目のまとめを行う。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	70	各授業で理解度確認問題やミニレポート(各14回)70%
その他	30	まとめテスト(1回)
教科書		
適宜資料配布		
参考文献		

『図鑑心理学～歴史を変えた100の話～』(トム・ジャクソン著・清水寛之／井上智義監訳・NEWTON PRESS・2020年発行)

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 人間と文化					
科目名		食生活論				ナンバリング	1164
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	荒井 三津子						
授業の位置づけ							
ヒトが食べるモノ、食べるコト、食べる理由を広く学び、食生活全般を扱う学習に必要な基礎知識を身につける教養科目である。また、人間の文化を学ぶことにより幅広く教養を身につけるための科目である。リハビリテーション学科理学療法専攻と作業療法学科のディプロマ・ポリシーでは、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。（関心・意欲・態度）」に位置付けられ、「リハビリテーション栄養学」と連携している科目である。看護学科ではのディプロマポリシーでは「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。（思考・判断・表現）」に位置付けられられている。地域未来学科のディプロマポリシーでは「幅広い視点から地域課題を発見し、課題解決に向けて主体的に行動でき、かつ、地域において協働できる人的資源の開発や組織体制の構築に貢献できる。（思考・判断・表現）」に位置付けられ、「北海道の食文化」と連携した科目である。健康栄養学科では、「幅広い教養を身につける」「教養人文系」に位置付けられ、「栄養学入門」「応用栄養学」と特に連携した科目となる。さらに、栄養学系教科、調理学および調理科学系教科、食品学系教科の学習の理解に役立つだけでなく、生物学や食文化に視野を広げることで、さまざまな領域の指導者、教育者に必要な教養と実践力を身につけることができる科目である。							
授業の概要							
ヒトはなぜ食べるのか。なぜダイエットするのか。なぜ食卓に花を飾るのか。人間にとって「食」は単に栄養補給のための餌ではなく「食事」である。生命を維持するための「食事」の機能と重要性を確認し、国内外の食事の歴史、文化、食器、食の様式や食事作法、食に関する広告や現在の食事情、将来予測される問題点等について多角的に学習する。							
到達目標							

医療現場や教育機関で食事に関する指導を行う上で必要な食器、食具の歴史や種類、使い方、食空間の演出方法に関して説明できる。

○ 国内外の食事様式の歴史を学ぶことで、食べることの文化的な意味を説明できる。

○ 食に関する情報や広告、外食産業などの仕組みや戦略を理解し、多様化する食事の未来を予測できる。

○ インターネット時代の食事やキャラクター弁当、遺伝子組み換えや環境問題など、食事に関する幅広いテーマについて、将来、医療や教育の現場で問題を提起し議論を展開できる。

授業の方法

- ①必要に応じて板書とパワーポイントを利用し、視覚的な理解を深める。
- ②内容に合わせ、学生たちの調査報告をとりいれ、活発な議論により、食生活への関心を深める。
- ③中間テストとレポート提出により理解度をはかり指導する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

北海道立の高等学校と歯科衛生士専門学校で生物学、調理師学校食文化等の教育経験がある。また長く生活文化研究所を運営しており、人間の生活と食文化、食生活に関する幅広い知識と指導経験がある。この経験を生かし、卒業後の実務に活かせる知識と技術、指導者になるための心構えも指導する。

課題に対するフィードバックの方法

調査レポートと確認試験を採点評価後返却し、講義時間内に解説を行う。提出してもらったレポートと確認試験に質問欄を設け、質問があった場合は直接コメントを返す。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	「食」は生理的、文化人類学的、社会学的、生物学的、環境学的など様々な方向からアプローチできる興味深いテーマである。初回は自分たちが食べる理由や目的について真摯に考察し、15回の講義内容を俯瞰して学習の意味を確認する。	私たちが食べる理由について考えてくること。90分程度。	生き物とはなにか、たべるとはなにかをまとめる 90分程度。
担当教員			
第2回	私たちが食べなければならない理由について、イキモノとはなにかという生物学的視野から学び直す。動物に共通する食べる仕組みの精巧さを確認し、同時に他の動物と人間の「食べる」理由の違いについて考察する。	私たちが食べる理由について考えてくること。90分程度。	生き物とはなにか、たべるとはなにかをまとめる 90分程度。
担当教員			
第3回	＜食べるヒト・食べる仕組みと最新の「腸内」事情＞ ヒトの消化の仕組みを概観し、食べモノと健康、腸内細菌および消化器官系医療の最新事情について学ぶ。	ヒトが食べない理由を考えてくる 90分程度。	食べる理由と食べない理由をまとめる。90分程度。
担当教員			

第4回	＜ヒトが食べない理由・ダイエットと肥満＞ ダイエットの起源とその変遷、現状と背景を学習する。過食の原因と効果的なダイエット法、機能性食品についての知識も確認し、栄養や健康の指導者としての姿勢を考える。	ヒトが食べない理由を考えてくる。90分程度。	食べる理由と食べない理由をまとめる。90分程度。
担当教員			
第5回	＜ヒトが食べない理由・ベジタリアン事情とフードファディズム＞ 世界にひろがるベジタリアンの実状とその思想の背景、および、特定の食品に過剰な健康効果を期待したり否定するフードファディズムについて学習する。	マスコミが話題にする食を調べる。90分程度。	食事作法の学習の意義をまとめる。90分程度。
担当教員			
第6回	＜「食べ方」を学ぶ理由＞ 学校における栄養教育と家庭と社会における「食べ方」の学びについて学習する。国内外のさまざまな食事作法が誕生した背景と食事作法の意味、さらに継承されつづける理由について考察する。	マスコミが話題にする食を調べる。90分程度。	食事作法の学習の意義をまとめる。90分程度。
担当教員			

第7回	<ヒトから人間へ・食べるモノの変遷> 私たちの「食」の過去と現在を概観する。日本の食事様式の歴史や、外食と中食の歴史と現状についても学習する。そのプロセスで「餌」から「食事」へとその意味を変えてきた人間の「食」の複雑さについて考察する。 アクティブラーニングとして、周囲と自分たちの食事について話し合いをし、発表してもらう。	動物の餌と人間の食事の違いを考える。90分程度。	カラダに良いとはどういうことか、まとめる。90分程度。
担当教員			
第8回	<おいしさとはなにか> 「からだにいい」とはなにか。「栄養がある」とはどういうことか。「おいしい」とはどのようなものか。普段なにげなく口にする表現の意味するところを科学的に学び、食事の機能と意味を理解する。	動物の餌と人間の食事の違いを考える。90分程度。	カラダに良いとはどういうことか、まとめる。90分程度。
担当教員			
第9回	<ヒトはなぜ食べるのか> 講義の前半の総まとめを行い、人間が食べる理由、食べない理由について多方面から考察する。	前半のノートを整理してくる。90分程度。	最新のバイオテクノロジーについて整理する。90分程度。
担当教員			

第10回	<「食」の未来> 染色体操作や遺伝子組み換えなど、最新の品種改良や魚介類の養殖について、その手法や課題、可能性について詳しく学習する。同時に食をめぐる地球規模の環境問題についても学び、未来の「食」に関する課題を考察する。	前半のノートを整理してくる。90分程度。	最新のバイオテクノロジーについて整理する。90分程度。
担当教員			
第11回	<食事空間を学ぶ> 火と水、道具の利用がなければ私たちの「食」の発展はなかった。火と水がどのように扱われ、「台所」はどのように進化してきたか、その変化の社会的文化的意味も合わせて学習する。配膳や食事様式についても学び、食空間の機能についての知識を深める。	自分の料理道具と食空間を調査する。90分程度。	日本の食文化の歴史をまとめる。90分程度。
担当教員			
第12回	<「食」をめぐる仕掛け・外食の歴史と広告> 外食の歴史を概観し、現代の外食産業を支える広告の機能と種類を学習する。そのことから私たちの食行動の変化や時代の流れ、加えて食の未来と問題点を広く考察する。	自分の料理道具と食空間を調査する。90分程度。	日本の食文化の歴史をまとめる。90分程度。
担当教員			

第13回	＜「食」の演出＞ 料理・食器・盛り付け・食卓・食空間のインテリアなど、人間はなぜ「食」の場面を飾るのか。なぜ演出が必要なのか。色彩学やデザインの基礎を学び、食卓装飾の歴史をたどりながら、食べることの意味を広く考察する。	自分の料理道具と食空間を調査する。90分程度。	日本の食文化の歴史をまとめる。90分程度。
担当教員			
第14回	＜餌場から食事の場へ・テーブルコーディネートの機能＞ 食欲やコミュニケーションに大きく作法する食卓の演出について、具体的に学習する。色彩学やテーブルコーディネートの基礎知識を確認し、「食」の場面に必要な知識や技術の深さと広さについて学ぶ。	食の未来と教育について考察する。90分程度。	食の未来と教育について考察する。90分程度。
担当教員			
第15回	＜年中行事と祭り・儀礼の食・縁起について＞ 食の場面における「ハレ」と「ケ」、および日本の冠婚葬祭や年中行事の食の多様性と意味について幅広く学習する。「食」がもつコミュニケーションツールとしての機能や、人間のこころの「よりどころ」や「やすらぎ」としての役割についても考察する。 試験	試験範囲復習。90分程度。	試験の見直し。90分程度。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	70	確認テスト2回
その他	30	調査レポートの評価
教科書		
なし		
参考文献		

なし
履修条件・留意事項等
私語厳禁。
備考欄
特になし

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 人間と文化					
科目名		生活と社会環境				ナンバリング	1128
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	辻 幸美、金子 翔拓						
授業の位置づけ							
各該当学科のディプロマ・ポリシー・カリキュラムポリシー・アドミッションポリシーを鑑み、現代日本の社会環境を高齢者や代表的な疾患による身体障害を持つ人を通して理解するとともに科学的思考力と創造的思考力を活用して医療の発展と社会へ貢献できる研究の基本的な能力を身につける共通重要科目であり、更に人の生活全般と関連し、地域医療や社会環境を考える基礎となると共に、将来医療職種専門職を希望される学生においては、必要と考える。また「人間の文化を学ぶことにより幅広く教養を身につけるための科目である。」特に看護科においては、看護の基盤となる問題解決能力を活用して看護過程の展開や臨床判断を行うための基本的な能力を会得する重要科目である。（思考・判断・表現）							

- ① 現代日本の地域医療の現状を説明できる。
- ② 代表的な疾患に適合した生活環境の整備について説明できる。
- ③ 今後の日本における生活環境のあるべき姿を考え、説明することができる。

授業の方法

パワーポイントを用い講義形式ですすめる。また、講義後に課題を提示し講義内容の確認を行う。

ICT活用

授業中の課題の一部にグーグルクラスルームを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

金子翔拓:病院やクリニックなどの身体障害領域において作業療法士として勤務した経験を活かし、社会と生活環境の授業を行う。

辻幸美:22年間、脳神経外科病院で看護師として務めた経験を活かし、社会と生活環境の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

前回授業の最後に提出された課題に関して、次回の授業で補足説明や解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 医療保険制度の現状を理解する(診療報酬制度等も含む)	自身を取り巻く生活環境について考えてくること。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第2回	高齢者の生活と社会環境① 高齢者(虚弱老人・認知症を含む)と生活について理解を深める。	高齢者と生活について調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第3回	高齢者の生活と社会環境② 高齢者(虚弱老人・認知症を含む)に適する生活環境の整備について理解を深める。	高齢者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		

第4回	高齢者の生活と社会環境③高齢者(虚弱老人・認知症を含む)が生活するうえでの「リスク」について理解を深める。	高齢者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第5回	障害者の生活と社会環境① 筋ジストロフィー疾患患者の生活環境の整備について考える。	筋ジストロフィー疾患患者の生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第6回	障害者の生活と社会環境②重症心身障害児(者)の症状や障害の概要を説明し、患者の生活様式について理解を深める。	重症心身障害児(者)はどのような症状を呈するのかについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		

第7回	障害者の生活と社会環境③ 精神疾患患者の生活環境の整備について考える。	精神疾患患者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第8回	ハンセン病とハンセン病療養施設の生活と社会環境について、過去の日本における偏見と差別を鑑み考える。	ハンセン氏病を取り巻く社会の歴史を調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	辻 幸美		
第9回	介護保険制度の現状を理解し、地域社会で在宅サービスを受ける対象者について理解する。	介護保険制度について調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		

第10回	障害者の生活と社会環境④ 脳卒中患者の症状や障害の概要を説明し、患者の生活様式について理解を深める。	脳卒中とはどのような症状を呈するのかについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第11回	障害者の生活と社会環境④ 脳卒中患者の生活環境の整備について考える。	脳卒中患者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第12回	障害者の生活と社会環境⑤ パーキンソン病患者の症状や障害の概要を説明し、患者の生活様式について理解を深める。	パーキンソン病とはどのような症状を呈するのかについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		

第13回	障害者の生活と社会環境⑤パーキンソン病患者の生活環境の整備について考える。	パーキンソン病患者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第14回	障害者の生活と社会環境⑥脊髄損傷患者の症状や障害の概要を説明し、患者の生活様式について理解を深める。	脊髄損傷患者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第15回	障害者の生活と社会環境⑥脊髄損傷患者の生活環境の整備について考える。 まとめ 1～14回までの内容について総復習を行い、障害を持つ人の生活環境について理解する。	脊髄損傷患者が生活しやすい環境とは何かについて調べておくこと。 1～14回の内容について、これまでに作成したノートを確認しておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめること。(90分)
担当教員	金子 翔拓		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業中の課題、授業への参加態度 なお、レポート課題等の提出期限を厳守についても評価の対象である。 辻50% 金子50%
その他	0	・授業への参加態度 ・レポート課題等の提出期限を厳守すること
教科書		
なし(プリントにて対応)		
参考文献		

特に指定しない

履修条件・留意事項等

なし

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 人間と文化					
科目名		総合教養講座				ナンバリング	1100
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	白戸 力弥、松岡 審爾、大森 圭、小塚 美由記						
授業の位置づけ							
初年次教育の一環として、大学での学習から生活、さらに課外活動や大学祭、建学の理念など広範な分野を理解を深める。本科目の履修により、今後4年間の大学生活がより有意義なものになるよう、新入生を導く道標を示す授業である。 国際教養学科のディプロマ・ポリシー (DP) の「複数の専門分野を総合的に理解するとともに、世界の諸地域の課題を理解し分析することのできる幅広い教養を身につけている。【思考・判断・表現】」、「グローバル社会の中で、世界の人々と共生・協働することを可能とする国際性や共感力を備えている。【関心・意欲・態度】」と関連する。国際コミュニケーション学科のDPの「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。【思考・判断・表現】」、「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている。【関心・意欲・態度】」と関連する。地域未来学科のDPの「地域社会における教育の役割を理解し、教育学に関する専門的知識・技能を身につけ、生涯にわたり学び続ける素養を有している。【関心・意欲・態度】」と関連する。看護学科のDPの「医療・看護に関わる社会や時代の変化の本質を考究でき、豊かな人間性と高い倫理観、社会的責任感を持ち、時代の変化に合わせて主体的に社会を支えることができる。【関心・意欲・態度】」と関連する。リハビリテーション学科理学療法学専攻のDPの「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる。【関心・意欲・態度】」、「幅広く教養を深め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会をさせることができる。【関心・意欲・態度】」と特に関連する。また作業療法学専攻のDPの「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる。【関心・意欲・態度】」、「幅広く教養を高める向上心を持ち、作業療法学の持続的な発展に貢献するという使命感を持っている。【関心・意欲・態度】」、「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。【思考・判断・表現】」と特に関連する。							
授業の概要							
この科目は、初年次教育として本学の学生としての所属意識を育み、学生生活をどう有意義に過ごすかを意識化してもらうためのものである。また、これからの社会の変化に対応できる学際的で教養豊かな人間性を養い、本質的な物の見方、捉え方をより豊かなものとし、不確実な時代を自分らしく生きるための柔軟性と自立性を養うことを目的とした科目である。さらに、SDGsの本質を理解し、地球規模の視野で持続可能について考え、地域創生の視点で行動できるグローバルな思想を兼ね備えた人材を育成することを目的としている。							
到達目標							

- ・本学の建学の理念、宗教と食事制限、SDGsやカーボンニュートラルの取り組みの重要性を理解できること。
- ・4年間を通して、しっかりとした履修計画を立てられること。
- ・大学生活を快適に送るために必要な規則を理解し、それに沿った行動を取れること。
- ・Google Classroomの利用ができること。
- ・図書館を利用し、学習に必要な図書を借りることができること。
- ・充実した大学生活を送るため、勉学、課外活動を含めた効率の良い1日の行動計画を立案・実行出来ること。
- ・大学を盛り上げるための具体的な提案が出来ること。

授業の方法

パワーポイントを用いた授業を行う。また、学内Wi-Fiを用いたICTを用いた授業を行う。さらに、えこりん村でSDGs研修を行う。

ICT活用

一部の授業回で、提示したURLにアクセスし、操作を行ってもらう予定である。また、グーグルフォームなどを使用する

実務経験のある教員の教育内容

ゲスト講師として、恵庭市職員による恵庭市の紹介、警察官とIT企業の職員によるインターネット上の脅威と防御方法を予定している。

課題に対するフィードバックの方法

グーグルフォームを用いた授業の感想等を述べてもらい、フィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	北海道文教大学建学の理念 鶴岡夫妻が遺した灯火 学訓「清く 正しく 雄々しく進め」に込められた、真理を探究する明晰な頭脳、誠実な精神、チャレンジ精神を目指す理念を共有する。	本学の創設者である鶴岡夫妻について調べておく。(90分)	各自の目指す職業で鶴岡夫妻の建学理念を実現する方法についてまとめる。(90分)
担当教員	大森 圭		
第2回	授業を受講するには① 履修方法・登録方法について、具体的に説明する。また、履修要件、進級基準や卒業要件について説明する。	学生便覧の「履修ガイド」を読んでおく。(90分)	各自、WSDBを使用して履修科目を登録する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第3回	授業を受講するには② Google Classroomの使い方について	本学から付与されるGoogleアカウントでログインする。(90分)	各科目のClassroomに参加する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		

第4回	授業に役立つ図書館の利用法 本学図書館の概要と利用方法について説明する。 レポート作成や発表資料作成で必要になる資料について、 蔵書検索機(OPAC)を含めた探し方の方法を習得する。 (図書館)	学生便覧の「図書館」の部分を 読んでおく。(90分)	実際に図書館を訪れ、蔵書検索で興味のある本を探してみる。 また、インターネット経由で蔵書を検索してみる。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第5回	SNSの利用上の注意について 大学生活におけるSNSの利用上の注意点について理解を 深め、良識あるSNSの利用ができるようになる。	現在までのSNSのトラブルで社会的問題となった内容を調べる。 (90分)	大学生活で節度のあるSNSの利用法について復習する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第6回	グローバル化に対応した食知識 グローバル化が進んでいる現代において、外国の食文化や知識を得ることは、どの職業においても円滑なコミュニケーションをとるための一助となる。	宗教によって禁忌とされている食べ物(あるいは食べることが許されている食べ物)について調べておく。(90分)	食事に対する宗教上の戒律の理由についてまとめる。(90分)
担当教員	小塚 美由記		

第7回	サイバーセキュリティについて スマートフォンやパソコン等が普及し誰でも気軽にインターネットを利用できるようになっている一方で、インターネットにまつわるトラブルが増加している。本学では全館Wi-Fiが利用できるためインターネットを安全に使用するためには、より注意が必要である。そこで、無線LANにおいてどのような脅威がありどのように対処すればよいのか、また、無線LANを利用するにあたっての注意事項をゲスト講師を招いて学ぶ。 (NTT東日本、北海道警察サイバーセキュリティ対策本部)	インターネット使用にあたってどのような脅威があるかを調べておく。(90分)	セキュリティ対策や身につけるべき情報モラルを復習しておく。(90分)
担当教員	松岡 審爾		
第8回	学友会・課外活動団体紹介 中央執行委員会の役割と位置付けについて知り、学生としての自覚を持ち、自ら積極的に大学生活をより有意義にするため、各自が出来ることを考える一助とする。(学友会) 各団体の活動内容と団体所属学生の大学生活を紹介し、勉学と課外活動の両立を図るための具体的な方法を把握する。(各団体)	学生便覧で、学友会に関する項目に目を通しておく。また、大学ホームページなどで、本学所属の課外活動団体について調べておく。(90分)	自らの大学生活を有意義なものにするための目標と計画を立てる。また、勉学時間、課外活動、アルバイトなど各自の1日の行動を見直し、有意義な時間を過ごせるよう計画を立てる。(90分)
担当教員	大森 圭		
第9回	大学祭実行委員会紹介 大学祭実行委員会の役割と位置付けと、大学祭の歴史について紹介する。	各大学の大学祭内容について調べておく。(90分)	各大学の大学祭内容について分かる範囲で調べておく。(90分)
担当教員	大森 圭		

第10回	学生支援について 教職センターの取り組み	本学の学生支援、教職センター について調べておく。(90分)	本学の学生支援、教職センター について復習する。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第11回	恵庭市の歴史と特徴 恵庭市役所からゲスト講師を招き、これからの4年間のほと んどの時間を過ごす恵庭市について理解を深め、地域社 会との連携を深める。 (恵庭市企画課)	恵庭市のホームページなどから 、恵庭市の概要、特長について 調べておく。(90分)	各自の目指す職業で、恵庭市 の未来に貢献する施策を考える 。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第12回	未来のために、今この一瞬を大切に ゲスト講師: 青木さやか 氏	ゲスト講師のこれまでの活動、取 り組みについて、インターネット 等で調べておく。(90分)	講義内容を振り返り、自ら実践 できることを考える。(90分)
担当教員	白戸 力弥		

第13回	主にモスバーガーの経営、商品開発、現場での体験に基づく組織論や人材育成の経験から、「正解を探すより、自分で選んだ道を正解にする力を身につける」方法について紹介する。 ゲスト講師: 田村茂 氏	ゲスト講師のこれまでの活動、取り組みについて、インターネット等で調べておく。(90分)	講義内容を振り返り、自ら実践できることを考える。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第14回	えこりん村SDGs研修① えこりん村の取り組みを研修し、持続可能な社会の在り方について学ぶ。	SDGsの17の目標、およびえこりん村の取り組みをインターネット等で調べておく。(90分)	共有した他のグループの情報をもとに、研修の復習をおこなう。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第15回	えこりん村SDGs研修② えこりん村の取り組みを研修し、持続可能な社会の在り方について学ぶ。	SDGsの17の目標、およびえこりん村の取り組みをインターネット等で調べておく。(90分)	共有した他のグループの情報をもとに、研修の復習をおこなう。(90分)
担当教員	白戸 力弥		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業の感想等の提出(50%)および授業参加の積極性(50%)
その他	0	なし。
教科書		
なし。		
参考文献		

渡部俊弘／人とつながる「笑いと涙」の40年一恵庭で描く地方大学のプラットフォーム構想／丸善プラネット
 渡部俊弘／トシさんが行く！～北海道の食の礎を築いた鶴岡トシのパワフル人生記～／北海道文教大学出版会

履修条件・留意事項等

ゲスト講師等の都合により、授業計画の順序通りの内容とならないため、決定次第、別途連絡する。合理的な理由による欠席は点数を考慮するので欠席届を出すこと。14回・15回の授業は、えこりん村での日帰り研修を行う。研修日程は別途、連絡する。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 社会と制度					
科目名		日本国憲法				ナンバリング	1120
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	奥谷 知冬						
授業の位置づけ							
人間の社会を学ぶことにより幅広く教養を身に付ける科目である。							

- 憲法の意味内容について説明できる。
- 基本的人権の種類及びその重要性について説明できる。
- 日本の統治の仕組みについて説明できる。
- 以上の能力を活用して、とりわけ法的な社会課題を発見、分析、評価した上で、当該社会課題に対する自身の見解を論じることができる。

授業の方法

- パワーポイントによる資料、教科書、その他適宜配布する資料を用いた、講義形式の授業を実施する。
- Googleフォーム等を利用した確認テストを行う。

ICT活用

授業の資料を事前にGoogleクラスルームにアップロードし、予習・復習に活用できるようにする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして理解度確認テストを実施後、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業の概要、成績評価の方法について説明を行う。 憲法の歴史や意味について解説する。 日本の法令・判例の調べ方を習得する。	授業資料及び配布資料を読む(60分)。	講義内容及び確認テストを復習した上で、憲法の条文や配布資料の中に紹介されている判例にアクセスする(120分)。
担当教員			
第2回	人権享有主体に係る諸論点、とりわけ子どもの人権及び外国人の人権に係る判例について解説する。	授業資料及び教科書のTheme1及びTheme2を読む(60分)。	講義内容及び確認テストを復習した上で、講義内容に関連すると思われるニュースを調べ、問題の所在及びその可否を検討する(120分)。
担当教員			
第3回	日本国憲法が明示的に規定していない新しい人権、とりわけプライバシー権及び自己決定権に係る条文及び判例について解説する。	授業資料及び教科書のTheme3、Theme4を読む(60分)。	講義内容及び確認テストを復習した上で、講義内容に関連すると思われるニュースを調べ、問題の所在及びその可否を検討する(120分)。
担当教員			

第4回	法の下での平等に係る条文及び判例について解説する。	授業資料及び教科書のTheme5、Theme6を読む(60分)。	講義内容及び確認テストを復習した上で、講義内容に関連すると思われるニュースを調べ、問題の所在及びその可否を検討する(120分)。
担当教員			
第5回	信教の自由に係る条文及び判例について解説する。	授業資料及び教科書のTheme7を読む(60分)。	講義内容及び確認テストを復習した上で、講義内容に関連すると思われるニュースを調べ、問題の所在及びその可否を検討する(120分)。
担当教員			
第6回	表現の自由に係る条文及び判例について解説する。	授業資料及び教科書のTheme8、Theme9を読む(60分)。	講義内容及び確認テストを復習した上で、講義内容に関連すると思われるニュースを調べ、問題の所在及びその可否を検討する(120分)。
担当教員			

第7回	営業の自由に係る条文及び判例について解説する。	授業資料及び教科書のTheme10を読む(60分)。	講義内容及び確認テストを復習した上で、講義内容に関連すると思われるニュースを調べ、問題の所在及びその可否を検討する(120分)。
担当教員			
第8回	生存権に係る条文及び判例について解説する。	授業資料及び教科書のTheme11を読む(60分)。	講義内容及び確認テストを復習した上で、講義内容に関連すると思われるニュースを調べ、問題の所在及びその可否を検討する(120分)。
担当教員			
第9回	教育権に係る条文及び判例について解説する。	授業資料及び教科書のTheme12を読む(60分)。	講義内容及び確認テストを復習した上で、講義内容に関連すると思われるニュースを調べ、問題の所在及びその可否を検討する(120分)。
担当教員			

第10回	適正手続の保障、とりわけ行政手続・刑事手続・死刑制度に係る条文及び判例について解説する。	授業資料、配布資料(参考文献の70-73ページをコピーしたもの)、教科書のTheme13を読む(60分)。	講義内容及び確認テストを復習した上で、講義内容に関連すると思われるニュースを調べ、問題の所在及びその当否を検討する(120分)。
担当教員			
第11回	天皇及び平和主義に係る条文及び判例について解説する。	授業資料及び教科書のTheme14、Theme15を読む(60分)。	講義内容及び確認テストを復習した上で、講義内容に関連すると思われるニュースを調べ、問題の所在及びその当否を検討する(120分)。
担当教員			
第12回	国会に係る条文及び判例について解説する。	授業資料及び教科書のTheme16、Theme17を読む(60分)。	講義内容及び確認テストを復習した上で、講義内容に関連すると思われるニュースを調べ、問題の所在及びその当否を検討する(120分)。
担当教員			

第13回	内閣及び憲法改正に係る条文及び判例について解説する。	授業資料及び教科書のTheme18、Theme22を読む(60分)。	講義内容及び確認テストを復習した上で、講義内容に関連すると思われるニュースを調べ、問題の所在及びその当否を検討する(120分)。
担当教員			
第14回	裁判所に係る条文及び判例について解説する。	授業資料及び教科書のTheme19、Theme20を読む(60分)。	講義内容及び確認テストを復習した上で、講義内容に関連すると思われるニュースを調べ、問題の所在及びその当否を検討する(120分)。
担当教員			
第15回	地方自治に係る条文及び判例について解説する。	授業資料及び教科書のTheme21を読む(60分)。	講義内容及び確認テストを復習した上で、講義内容に関連すると思われるニュースを調べ、問題の所在及びその当否を検討する(120分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で実施する確認テスト(75%)及び授業参加度(25%)
その他	0	
教科書		
いちばんやさしい憲法入門〔第7版〕／初宿正典、高橋正俊、米沢広一、棟居快行著／有斐閣		
参考文献		

図録日本国憲法〔第3版〕／斎藤一久、堀口吾郎編／弘文堂
その他、講義中に適宜紹介する。

履修条件・留意事項等

資料はGoogleクラスルームにアップロードするため、各自用意し持参すること。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 社会と制度					
科目名		現代医療と福祉・介護				ナンバリング	1122
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	高岡 哲子						
授業の位置づけ							
各該当学科のディプロマポリシーを鑑み、地域包括ケアシステムにおいて高齢者障害者等が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、[住まい][医療][介護][看護][予防][生活支援]が切れ目なく一体的に提供ができ、「心/意 欲/態度」が養われる重要な科目である。更に日本の社会事情を広く理解するうえで必要な知識としての[医療/福祉/介護]に焦点をあて、近未来 の社会制度を思考し、構築するための基礎的能力の向上を目指す。							

- ・現代社会における医療・福祉・介護の制度と役割を体系的に理解し説明できる。
- ・人間理解・倫理・ICFの視点を踏まえ、利用者の尊厳と意思を尊重した支援のあり方を考察できる。
- ・現場の課題を分析し、多職種連携やICT・DXの活用を含めた解決策を提案できる。
- ・これからの地域共生社会における専門職としての役割を自覚し、主体的に学び続ける姿勢を示すことができる。

授業の方法

講義:教員による解説を中心に、最新のデータや事例を交えながら、医療・福祉・介護の制度や現場の課題について学ぶ。
 グループワーク:学生同士でディスカッションし、現場の課題を分析し、解決策を考える。
 発表:各グループの成果を発表し、全体で学びを共有する。

ICT活用

本授業では、Googleフォームを活用した課題の収集を通じて、学習の効率化を図る。またAI、遠隔医療など、医療・福祉分野でのICT活用事例を授業内で紹介し、現場での実践的な活用方法を学ぶ。

実務経験のある教員の教育内容

総合病院において看護師として約7年間勤務し、多職種と連携しながら高齢者のケアに携わった経験を活かし、本授業を実施する。現場で直面した医療・福祉・介護の課題やチーム医療の重要性を具体的な事例を交えて伝えることで、制度や理論だけでなく実践的な視点での学びを深める。

課題に対するフィードバックの方法

本授業では提出された課題に対し、共通フィードバックを中心に実施し、全体の理解を深める。また、個別のフィードバックは、単位取得が危うい場合や、課題の理解が大きくずれている場合に実施する。該当する学生には具体的な改善点を提示し、学習の方向性を修正できるよう支援する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	テーマ:オリエンテーション(講義) 内容:講義のねらいを含む授業の説明	・シラバスを熟読する(約90分)。 ・ノートを一冊用意する。	本日の講義内容をまとめて記載する(90分)。
担当教員			
第2回	テーマ:人間理解 内容: ・多様な存在としての人間 ・ICF(国際生活機能分類) ①ノート提出	ICFについて調べ、「生活を見る」とはどういう意味か考えて記載する(約90分)。	実際の場면을想像して、生活を大切にしたい関わり方を記載する(約90分)。
担当教員			
第3回	テーマ:自立と自律 内容:「自分でできること」と「自分で決めること」の違い ②ノート提出	「自立」と「自分で決めること」の違いを調べ、自分の考えを記載する(90分)。	授業を通して気づいたことを整理して記載する(90分)。
担当教員			

第4回	テーマ:倫理 内容:生命倫理、情報の取り扱い、職業倫理の基礎 ③ノート提出	・医療や福祉の仕事で大切にされている考え方やルールを調べて記載する。 ・ルールと心構えの違いを調べて記載する。 (90分)	難しい判断が必要な場面を考え、自分ならどうするかを記載する(90分)。
担当教員			
第5回	テーマ:生命科学と健康 内容:生物学的な生と死、予防医学の重要性 ④ノート提出	WHOが考える健康の意味を調べ、自分にとっての健康について記載する(約90分)。	授業後、健康の考え方がどう広がったか振り返り、記載する(約90分)。
担当教員			
第6回	テーマ:社会における医療の役割 内容:救急から慢性期まで、医療の公共性 ⑤ノート提出	医療の役割についてニュースや資料を見て調べて記載する(90分)。	社会の中で医療がどんな意味を持つか自分の言葉でまとめて記載する(90分)。
担当教員			

第7回	テーマ:社会問題と医療・福祉 内容:格差、ヤングケアラー、孤独死の実態 ⑥ノート提出	孤立や生活の大変さについての例を調べて記載する(90分)。	社会の問題と支援の関係について考えを記載する(90分)。
担当教員			
第8回	テーマ:福祉の役割 内容: ・セーフティネットとしての機能 ・基本的人権 ⑦ノート提出	・福祉が何を目指しているのか調べて記載する。 ・セーフティネットの意味を調べて記載する。 (90分)	福祉がどんな人に関係するか整理して記載する(90分)。
担当教員			
第9回	テーマ:社会と福祉 内容: ・制度(保険制度)の仕組みと持続可能性 ・各国との比較 ⑧ノート提出	日本の介護のしくみについて調べて記載する(60分)。	介護制度をよくするためのアイデアを記載する(90分)。
担当教員			

第10回	テーマ:介護の目的と役割 内容: ・「お世話」ではなく「生活の再構築」としての介護 ・多職種連携 ⑨ノート提出	いろいろな職種が協力している例を調べて記載する(90分)。	生活の再構築とは何かを整理して記載する(90分)。
担当教員			
第11回	テーマ:超高齢社会のニーズ 内容: ・2040年問題 ・認知症ケアの広がり ⑩ノート提出	高齢者が増えている社会の課題を調べて記載する(約90分)。	よりよく暮らすために大切なことを考えて記載する(約90分)。
担当教員			
第12回	テーマ:医療・福祉のDX 内容: ・テクノロジーによる変革と人間らしさ ・医療現場の人手不足 ⑪ノート提出	医療や介護で使われているロボットやICT,AI技術の例を調べて記載する(90分)。	技術と人の関わりについて自分の意見を記載する(90分)。
担当教員			

第13回	テーマ:地域共生社会 内容: ・制度の壁を超えた支え合い ・インクルージョン ⑫ノート提出	地域で支え合うしくみについて調べて記載する(90分)。	地域共生社会を実現するために必要なことを記載する(90分)。
担当教員			
第14回	テーマ:最期にかかわる意思決定支援(ACP) 内容:人生の幕引きをどうデザインするか ⑬ノート提出	人生の最終段階のケアについて調べて記載する(90分)。	自分で決めることの大切さについて考えて記載する(90分)。
担当教員			
第15回	テーマ:全体総括 内容: ・14回までのふりあえりと、これからの社会での役割 ・ケーススタディ・ディスカッション	これまでの授業(第2回～第14回)を振り返り、次の問いについて記載する。 1.最も印象に残っているテーマは何か 2.自分の考えが変わった内容は何か (90分)	課題レポートを記載する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	20	レポート: 1回×20点=20
その他	80	ノート提出: 13回×6点=78点 (13回全部提出した場合+2点)
教科書		
なし		
参考文献		

必要時講義中に提示する。

履修条件・留意事項等

私語、指示時以外の携帯電話の使用を禁止する。
学習は主体的に行う。
欠席した場合は、必ず欠席届を提出する。
遅刻早退する、もしくはした場合は、必ず、教員へ申し出る。

備考欄

なし

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 社会と制度					
科目名		キャリア入門				ナンバリング	1132
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	木村 悠里菜						
授業の位置づけ							
本科目は、初年次教育の一貫として、大学生活の充実や社会で活躍するために、「キャリア」・「キャリアデザイン」の重要性を学ぶ。加えて、これらにとって必要なスキルのひとつである「人間関係づくりとコミュニケーション」を理解するための科目である。なお本科目は、「キャリア形成」と連携している教養科目である。							
授業の概要							
グローバル化と高度情報化が益々進展する現代社会においては、自己のアイデンティティを確立することが重要である。そのために、我々を取りまく文化、環境を再認識しながら自らの生き方や生活、仕事について考えることを目指す。							
到達目標							

- ・「キャリア」や「キャリアデザイン」を説明できる。
- ・自己理解の方法(「人生曲線」、「ジョハリの窓」等)、「計画的偶発性」について述べることができる。
- ・「人間関係づくりとコミュニケーション」の5つの視点、「社会人基礎力」を説明できる。

授業の方法

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画等を併用しながら、講義形式とアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式の授業を実施する。
- ・理解度確認のために、期末レポートを実施する。

ICT活用

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画等を併用しながら、視覚的に内容が理解しやすい授業を実施する。
- ・Google Classroomを活用し、配布資料を共有するため、授業前に各自印刷し持参する。

実務経験のある教員の教育内容

大手消費財メーカーのマーケティング職や外資系コンサルティングファームでの経営コンサルタント職等の実務経験を活かして、「キャリア」・「キャリアデザイン」・「人間関係づくりとコミュニケーション」について実例を交えた具体的な授業を実施する。

課題に対するフィードバックの方法

各講義において振り返りを実施し、学生の理解度の確認を行う。加えて質問については、解説を適宜実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーションの実施と、「キャリア」・「キャリアデザイン」などを理解する。	これまで「キャリア」という言葉を使ったり聞いたりした事があれば、その場面はどのようなものだったかを具体的に思い出す。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第2回	働くことの意味などを考えた上で、我々を取り巻く市場環境や「社会人基礎力」などを学ぶ。	高校生と大学生の違いと、働くことの意味について、調べ、考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第3回	自己理解の方法の全体像を理解した上で、テストの実施を通して学ぶ。「計画的偶発性」などを学ぶ。	「私は…」から始まる文で、自己紹介の内容を考える。(10個以上)(90分) 例:私は、北海道文教大学の学生です。など	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第4回	「人間関係づくりとコミュニケーション」のきづくの視点などの概要を理解する。	生まれてから現在までの人生の中で、印象に残った出来事を整理する。(90分) 例:高校に合格した。失恋した。など	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第5回	「人間関係づくりとコミュニケーション」のうけいれるの視点などの概要を理解する。	自分自身の日頃のコミュニケーション方法を振り返る。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第6回	「人間関係づくりとコミュニケーション」のむきあうの視点などの概要を理解する。	これまでの人生において苦痛や怒り、悩み・不快・不安のあった出来事と、その出来事をどうしてほしかったのかを考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第7回	「人間関係づくりとコミュニケーション」のみつめる・みとおすの視点などの概要を理解する。	自分自身の興味・性格・能力・動機を整理する。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第8回	これまでの講義の総括を実施した上で、大学4年間の目標などを考える。	大学4年間で成し遂げたいことを考えた上で、そのための方法を調べる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	期末レポート
その他	40	準備学習・事後学習の状況・授業態度や意欲など
教科書		
人間関係づくりとコミュニケーション/山内雅恵(監修)、船木幸弘(編著)他/金子書房		
参考文献		
授業内で順次紹介する。		
履修条件・留意事項等		

- ・各講義で使用する資料はGoogle Classroom上にアップロードするため、各自印刷し持参する。
- ・出欠管理は、講義内で実施する予定である。
- ・授業態度が不適切である場合(例:私語、授業内容と関係のない行為)、欠席扱いとなることがある。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 社会と制度					
科目名		キャリア形成				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	木村 悠里菜						
授業の位置づけ							
本科目は、社会で活躍する事を視野にいれ、「キャリア」・「キャリアデザイン」の重要性を学ぶ。加えて、これらにとって必要なスキルのひとつである「人間関係づくりとコミュニケーション」を理解し、役立てるための科目である。なお本科目は、「キャリア入門」の発展となる。							

- ・「キャリア」や「キャリアデザイン」、「計画的偶発性」を説明できる。
- ・「人間関係づくりとコミュニケーション」の5つの視点、「社会人基礎力」について論じることができ、活用することができる。
- ・キャリアに関する具体的な事例に対し、「人間関係づくりとコミュニケーション」の5つの視点、「社会人基礎力」から説明できる。

授業の方法

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画等を併用しながら、講義形式とアクティブラーニングの手法を取り入れた演習方式の授業を実施する。
- ・理解度確認のために、期末レポートを実施する。

ICT活用

- ・パワーポイントによるプレゼンテーション資料と教科書、動画等を併用しながら、視覚的に内容が理解しやすい授業を実施する。
- ・Google Classroomを活用し、配布資料を共有するため、授業前に各自印刷し持参する。

実務経験のある教員の教育内容

大手消費財メーカーのマーケティング職や外資系コンサルティングファームでの経営コンサルタント職等の実務経験を活かして、「キャリア」・「キャリアデザイン」・「人間関係づくりとコミュニケーション」について実例を交えた具体的な授業を実施する。

課題に対するフィードバックの方法

各講義において振り返りを実施し、学生の理解度の確認を行う。加えて質問については、解説を適宜実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーションの実施と、「キャリア」・「キャリアデザイン」・「計画的偶発性」などを理解する。	・「キャリア」の意味やイメージについて思いつくまに考える。 ・「キャリア」の意味について調べる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第2回	人生曲線、パーソナリティ検査、ジョハリの窓などを学び、テストを実施することで自己理解を深める。「社会人基礎力」について学ぶ。	家族や友人、知人などから、自分自身がどのようにみえているかをヒアリングする。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第3回	人生曲線などの作成や、基本的なORJIサイクル・落とし穴などの理解をとおして、「人間関係づくりとコミュニケーション」のきつづくの視点などを理解する。	出生から現在までの人生の中で、印象に残った出来事を整理した上で、今後の人生の見通しを立てる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第4回	コミュニケーションの分類を学んだ上で、アサーティブな表現などを中心に理解することで、「人間関係づくりとコミュニケーション」のうけいれるの視点などを理解する。	相手を尊重し、自分の意見や感情をうまく相手に伝えるためのコミュニケーション方法を考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第5回	不合理な信念(ビリーフ)やABCD理論などを学び、「人間関係づくりとコミュニケーション」のむきあうの視点などを理解する。	自分が持つ思い込みにどのようなものがあるのかを考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第6回	ライフ・キャリアのレインボー、統合的ライフ・プランニング、価値観、人間の能力の3つの領域などを学ぶことで、「人間関係づくりとコミュニケーション」のみつめる・みとおすの視点などを理解する。	自分がどんなことに価値を見出し、やる気を起こすのかを考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			

第7回	社会人基礎力などを理解する。加えて動画の視聴を通して学ぶ。	様々な人々と仕事をするために必要なことを考える。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
第8回	これまでの講義の総括を実施する。加えて、キャリアデザインなどについて考える。	なりたい自分ややりたい仕事について考えた上で調べる。(90分)	授業内容を整理する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	期末レポート
その他	40	準備学習・事後学習の状況・授業態度や意欲・グループワークなどの状況など
教科書		
人間関係づくりとコミュニケーション/山内雅恵(監修)、船木幸弘(編著)他/金子書房		
参考文献		
授業内で順次紹介する。		
履修条件・留意事項等		

- ・講義資料はGoogle Classroomにアップロードするため、各自印刷し持参
- ・出欠管理は、講義内で実施予定
- ・グループワークが中心となるため、積極的参加が必須
- ・授業態度が不適切な場合(例:私語、授業と関係のない行為)、欠席扱いとなることがある
- ・本科目は、キャリア入門の振返りを含む

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		生命科学				ナンバリング	1150
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	宮下 和夫						
授業の位置づけ							
科学的知識を学ぶことにより、幅広く教養を身につけるための科目である。 「解剖学」、「生理学」、「生化学」(健康栄養)、「解剖学I」、「解剖学II」、「生理学I」、「生理学II」(看護、リハビリ)、「免疫学」(看護)、「教科教育法 理科」(こども発達)と連携する教養科目である。							

- ・生物が物質から成る細胞を単位に構成されることを理解する
- ・遺伝子の重要性と役割を理解する
- ・細胞・分子レベルでの栄養素の重要性と代謝の仕組みについて理解する
- ・疾病と関係する諸因子(遺伝、食品、環境)について理解する

授業の方法

本授業で学ぶべき内容をわかりやすく解説したパワーポイントスライドの映写により講義を進め、指定した教科書も参照しながら学ぶ。授業への出席確認はGoogleクラスルームを活用して行う。
アクティブラーニングとして、学期末の講義において、小グループでのディスカッションに基づく課題研究発表を行う。

ICT活用

実習等との日時重複、その他不可避の状況により授業が対面実施できない場合には、Googleクラスルームよりオンデマンドビデオ配信授業を実施する。

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

授業後、復習教材として、Googleクラスルームに各回の授業で用いたパワーポイントスライドから抜粋してPDFにした授業資料、および各回の授業内容の理解・定着度をチェックする確認小テスト(自己採点、解答解説もGoogleクラスルームに掲載、成績評価には含めない)を掲載するので、筆記試験に向けた準備・復習に活用されたい。
2回実施する筆記試験後には、解答解説を授業内で行うとともにGoogleクラスルームに掲載する。
授業内容等に関する質問は、授業の前後に直接対面で、あるいはGoogleクラスルームへのメールで受け付ける。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	物質から成る生物：科目ガイダンスとして、本科目の位置づけ、概要、到達目標、授業方法・進め方、成績評価等について、シラバスに基づき説明する。授業内容としては、非生物と異なる生物の特性、生物が細胞から成ることを理解する。	シラバスをよく読んで、この科目で学ぶこと、学習目標等を把握しておく。また教科書のp.2～6、p.14～16を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、生物を構成する分子で最も多い水分子の意義を説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テストに回答して自己採点する。(120分程度)
担当教員			
第2回	タンパク質：分子生物学のセントラルドグマに登場する物質のうち、タンパク質について、基本構造と性質、生物・生命現象における機能・重要性について学ぶ。	教科書p.7～8, p.116, p.175を読み、疑問点・不明点を整理しておく。また、アミノ酸について簡単に調べておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、タンパク質の変性について説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テストに回答して自己採点する。(120分程度)
担当教員			
第3回	核酸①(DNA)：分子生物学のセントラルドグマに登場する物質のうち、核酸(DNA、RNA)について、共通する構造を学び、さらにDNAについて、特徴的な構造・性質、生物・生命現象における重要性について学ぶ。DNA、遺伝子、ゲノム、染色体を正しく区別して認識できるよう解説する。	教科書p.11～16, p.18～19を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、DNA、遺伝子、ゲノム、染色体の言葉の意味を正しく理解して、それぞれ説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テストに回答して自己採点する。(120分程度)
担当教員			

第4回	核酸②(RNA)：分子生物学のセントラルドグマに登場する物質のうち、RNAについて、特徴的な構造・性質、生物・生命現象における重要性について学ぶ。	教科書 p.14～17を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、ノートを整りし、遺伝暗号コードがなぜ3文字(3塩基)配列なのか、説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テストに回答して自己採点する。(120分程度)
担当教員			
第5回	細胞の基本構造：生物の最小構成単位である細胞について、基本構造を学び、原核生物・真核生物の違いを学ぶ。真核生物を構成する真核細胞がもつ細胞内小器官、特に細胞膜、核、ミトコンドリアについて、構造・機能を学ぶ。	教科書p.3～12を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、ノートを整りし、なぜウイルスは現代生物学では生物とみなされないのか、説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テストに回答して自己採点する。(120分程度)
担当教員			
第6回	遺伝情報の複製と細胞周期：遺伝情報の複製について、2本鎖DNAの半保存的複製の分子機構の基礎を学ぶ。細胞の生活環である細胞周期の中で、細胞分裂に先立つ特定の時期においてのみ遺伝情報の複製が行われること、また真核生物のDNA末端の繰り返し配列テロメアについても学ぶ。	教科書p.62～71を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、真核生物のDNA末端複製問題とはどのようなことか、説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テスト、第6回の回答・自己採点とともに、筆記試験Aに向けて、第1回から第5回の講義内容、出題された確認小テストの問題も復習する。(120分程度)
担当教員			

第7回	筆記試験A：第1回から第6回までの授業内容に関する筆記試験(60分程度)を実施する。試験答案回収の後、試験問題と解答の解説を行う。	授業ノートを整理して、第1回から第6回の講義内容、出題された確認小テストの問題を復習する。(120分程度)	筆記試験Aの確認・復習をして、理解・定着の不足していたところを拡充する。(60分程度)
担当教員			
第8回	ヒトを始めとする動物における栄養素の役割を正しく理解する。特に消化の仕組みとして、口、胃、十二指腸、小腸、大腸の働きと、各臓器が分泌する消化酵素とその特徴について学ぶ。	食物の消化・吸収について簡単に調べ、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、食物の消化と吸収の仕組みを簡単に説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テストに回答して自己採点する。(120分程度)
担当教員			
第9回	タンパク質、糖質、脂質などの消化について理解する。それぞれの栄養素の分解を理解するために、その化学構造の特徴について学ぶ。	教科書p.120～124を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、タンパク質、糖質、脂質の化学構造的な特徴を説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テストに回答して自己採点する。(120分程度)
担当教員			

第10回	栄養素の代謝によるエネルギー産生とそのメカニズムについて理解する。糖質と脂質の分解によって生み出されるエネルギーの特徴や肥満と痩せすぎの問題点について学ぶ。	教科書p.127～132を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、栄養素の代謝について説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テストに回答して自己採点する。(120分程度)
担当教員			
第11回	体を正常に維持する上で必要な仕組み(呼吸、血液循環、体内環境維持)について理解する。特に栄養摂取のアンバランスによって引き起こされる疾病リスクについて学ぶ。	教科書p.133～147を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、適切な栄養素の摂取について説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テストに回答して自己採点する。(120分程度)
担当教員			
第12回	がんについて基本的な仕組みについて理解する。がんの原因として考えられる要因、アポトーシス、細胞の寿命とがんとの関係などについて学ぶ。	教科書p.61～73を読み、疑問点・不明点を整理しておく。(60分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理し、がんの原因について説明できるようにする。Googleクラスルーム掲載の確認小テスト、第12回分の回答・自己採点とともに、筆記試験Bに向けて、第1回から第11回の講義内容、出題された確認小テストの問題、筆記試験Aも復習する。(120分程度)
担当教員			

第13回	筆記試験B: これまでの全授業内容に関する筆記試験 (60分程度)を実施する。試験答案回収後、試験問題と解答の解説を行う。 翌週の第14回, 第15回授業で実施するグループ発表に向け、グループに分かれて準備作業を開始する。	授業ノートを整理して、第1回から第6回、第8回から第12回までの講義内容、出題された確認小テストの問題、筆記試験Aの復習をする。(120分程度)	授業ノート・授業資料PDFを読み返して学習内容を確認・整理する。グループ発表の準備を始める。(60分程度)
担当教員			
第14回	グループ発表: 設定された課題テーマについて、グループごとにパワーポイントスライドを使った発表を行い、参加者全員でディスカッションする。	グループごとに課題テーマに関するディスカッション、パワーポイントスライド作成、発表練習などを行う。(90分程度)	グループ発表に向けた準備作業を行う。(90分程度)
担当教員			
第15回	グループ発表: 前回授業に引き続いて、設定された課題テーマについて、グループごとにパワーポイントスライドを使った発表を行い、参加者全員でディスカッションする。課題レポートについて解説する。	グループごとに課題テーマに関するディスカッション、パワーポイントスライド作成、発表練習などを行う。(90分程度)	自身のグループだけでなく他のグループの発表も踏まえ、課題レポートを作成・提出する。(90分程度)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	80	出席：15回の授業のうち第7, 13, 14, 15回を含む12回以上の出席を単位取得要件とする 筆記試験：第7回、第13回の授業内に実施する2回の筆記試験の得点を成績評価対象とする(筆記試験A 30点、筆記試験B 50点)
その他	20	グループ発表：第14, 15回の授業時に実施する、予めグループで準備した発表について成績評価対象とする(10点) 課題レポート：第15回の授業で提示する決められた書式で作成し、Googleクラスルームを通じて期日までに提出するレポートを成績評価対象とする(10点)
教科書		
みんなの生命科学 第2版 北口哲也・塚原伸次・坪井貴司・前川文彦 化学同人 ISBN 9784759820997		
参考文献		

授業において適宜紹介する

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		情報処理リテラシー(1組)				ナンバリング	1160
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	松岡 審爾						
授業の位置づけ							
初年次教育の一環として、大学の学修や社会に必要なスキルである情報リテラシーを修得する科目であり、数理・データサイエンス・AIへの関心を高めそれを適切に理解し活用する基礎的な能力を養う科目である。また、理学療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている」と関係がある科目である。作業学療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。」「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。」と特に関係がある科目である。看護学科の「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。」と特に関係がある科目である。「数理・データサイエンス・AI実践」につながる科目である。							
授業の概要							
コンピュータを用いた表計算、プレゼンテーションの基本操作を学ぶことにより、情報の分析方法およびプレゼンテーション方法を習得する。							
到達目標							

1. 表計算ソフトExcelを用いた基本的な計算やグラフ作成を行うことができる。
2. Excelによりデータの加工、可視化を行いデータの特徴を抽出することができる。
3. プレゼンテーションソフトPowerPointを用いて、広く情報を伝えるためのプレゼンテーションを作成できる。

授業の方法

Excelを用いた分析、Powerpointを用いた表現は各人がパソコンを操作して習得する。特に第8回目はパワーポイントのプレゼンテーション資料を主体的に作成する。補足的な説明が必要な事項についてはパワーポイントを用いて講義形式で行う。

ICT活用

Google Formのテスト作成機能を用いて、宿題を出題する(全8回)。パソコンを用いた演習を行う(全8回)。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして宿題の正解を表示するとともに、宿題と同時に提出された質問事項に答える。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【データ活用のプロセス】データ活用の概略についての知識を得る。 【情報の分析:Excelの基本1 データと数式の入力】データ入力および効率的な数値入力(オートフィル)を習得する。数式の入力方法・コピーを習得する。相対参照と絶対参照の使い分けを習得する。	シラバスを読み、教科書のp20～p26とp91～p93を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第2回	【情報の分析:Excelの基本2 関数の使用法】ホームタブの合計ボタンから呼び出す関数の使用法、数式バーの関数挿入ボタンからの関数の使用法を習得する。数値分析に必要な関数の探し方を理解する。統計関数、数学／三角関数の使い方を習得する。	教科書のp94～p98を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第3回	【情報の分析:Excelの基本3 検索関数、条件分岐、データベース】あるデータに別のデータ列を結合するVLOOKUP関数を習得する。条件に応じて処理を変えるIF関数の使い方を習得する。リスト形式のデータベースの基本的な操作である並べ替え、抽出を修得する。	教科書のp99～p105を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			

第4回	【情報の分析:Excelの基本4:ピボットテーブル、グラフ作成(1)】 データベースから集計表を作成できるピボットテーブル機能を修得する。Excelを用いた棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、棒グラフ、散布図などのグラフの特徴を学びそれらの作成方法を習得する。	教科書のp37～p41,p44～p48とp106～p116を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第5回	【情報の分析:Excelの基本5:グラフ作成(2)】実験系のレポート作成に必要な、棒グラフの誤差範囲の作成方法を習得する。 【情報の分析:データ分析演習】 教科書記載の顧客分析に関するダミーデータを使用して、データ分析に必要な手順を学ぶ。インターネットの普及に関連した実データをもとにしてデータ分析の実際を学ぶ。	教科書のp42～p43とp52～p63とp127～p129を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第6回	【情報の分析結果の表現:PowerPointの基本1～スライドの作成、ビジュアル表現】スライドの作成、コピーや移動方法、スライドの編集方法を習得する。Excelの表やグラフを挿入する方法、ビジュアルな表現を実現するワードアート、SmartArtの作成法を習得する。	教科書のp168～p174を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			

第7回	【情報の分析結果の表現:PowerPointの基本2-効果の設定と実行操作】スライドへのテキストボックス、画像および図形の挿入方法を習得する。スライドショーにおける画面切り替え効果とアニメーション効果の設定を習得する。スライドショーの実行操作、リハーサル機能を習得する。	教科書のp165～p167を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第8回	【情報の分析および結果の表現演習】データ分析からそれをもとにしたスライド作成までの演習を行う。	教科書のp34とp164を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	55	授業参加度(授業内で作成したファイルの提出):全8回分で55点(回数に応じて比例配分)
その他	45	宿題:全8回分で45点(出席回の提出分を回答状況に応じて加算、欠席回の提出はDH適用時に配慮)
教科書		
はじめの第一歩 基礎からはじめるデータサイエンス／ノア出版		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		

なし

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		情報処理リテラシー(2組)				ナンバリング	1160
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	松岡 審爾						
授業の位置づけ							
初年次教育の一環として、大学の学修や社会に必要なスキルである情報リテラシーを修得する科目であり、数理・データサイエンス・AIへの関心を高めそれを適切に理解し活用する基礎的な能力を養う科目である。また、理学療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている」と関係がある科目である。作業学療法学専攻のディプロマ・ポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。」「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。」と特に関係がある科目である。看護学科の「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。」と特に関係がある科目である。「数理・データサイエンス・AI実践」につながる科目である。							
授業の概要							
コンピュータを用いた表計算、プレゼンテーションの基本操作を学ぶことにより、情報の分析方法およびプレゼンテーション方法を習得する。							
到達目標							

1. 表計算ソフトExcelを用いた基本的な計算やグラフ作成を行うことができる。
2. Excelによりデータの加工、可視化を行いデータの特徴を抽出することができる。
3. プレゼンテーションソフトPowerPointを用いて、広く情報を伝えるためのプレゼンテーションを作成できる。

授業の方法

Excelを用いた分析、Powerpointを用いた表現は各人がパソコンを操作して習得する。特に第8回目はパワーポイントのプレゼンテーション資料を主体的に作成する。補足的な説明が必要な事項についてはパワーポイントを用いて講義形式で行う。

ICT活用

Google Formのテスト作成機能を用いて、宿題を出題する(全8回)。パソコンを用いた演習を行う(全8回)。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして宿題の正解を表示するとともに、宿題と同時に提出された質問事項に答える。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【データ活用のプロセス】データ活用の概略についての知識を得る。 【情報の分析:Excelの基本1 データと数式の入力】データ入力および効率的な数値入力(オートフィル)を習得する。数式の入力方法・コピーを習得する。相対参照と絶対参照の使い分けを習得する。	シラバスを読み、教科書のp20～p26とp91～p93を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第2回	【情報の分析:Excelの基本2 関数の使用法】ホームタブの合計ボタンから呼び出す関数の使用法、数式バーの関数挿入ボタンからの関数の使用法を習得する。数値分析に必要な関数の探し方を理解する。統計関数、数学／三角関数の使い方を習得する。	教科書のp94～p98を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第3回	【情報の分析:Excelの基本3 検索関数、条件分岐、データベース】あるデータに別のデータ列を結合するVLOOKUP関数を習得する。条件に応じて処理を変えるIF関数の使い方を習得する。リスト形式のデータベースの基本的な操作である並べ替え、抽出を修得する。	教科書のp99～p105を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			

第4回	【情報の分析:Excelの基本4:ピボットテーブル、グラフ作成(1)】データベースから集計表を作成できるピボットテーブル機能を修得する。Excelを用いた棒グラフ、折れ線グラフ、円グラフ、棒グラフ、散布図などのグラフの特徴を学びそれらの作成方法を習得する。	教科書のp37～p41,p44～p48とp106～p116を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第5回	【情報の分析:Excelの基本5:グラフ作成(2)】実験系のレポート作成に必要な、棒グラフの誤差範囲の作成方法を習得する。 【情報の分析:データ分析演習】教科書記載の顧客分析に関するダミーデータを使用して、データ分析に必要な手順を学ぶ。インターネットの普及に関連した実データをもとにしてデータ分析の実際を学ぶ。	教科書のp42～p43とp52～p63とp127～p129を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第6回	【情報の分析結果の表現:PowerPointの基本1～スライドの作成、ビジュアル表現】スライドの作成、コピーや移動方法、スライドの編集方法を習得する。Excelの表やグラフを挿入する方法、ビジュアルな表現を実現するワードアート、SmartArtの作成法を習得する。	教科書のp168～p174を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			

第7回	【情報の分析結果の表現:PowerPointの基本2-効果の設定と実行操作】スライドへのテキストボックス、画像および図形の挿入方法を習得する。スライドショーにおける画面切り替え効果とアニメーション効果の設定を習得する。スライドショーの実行操作、リハーサル機能を習得する。	教科書のp165～p167を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第8回	【情報の分析および結果の表現演習】データ分析からそれをもとにしたスライド作成までの演習を行う。	教科書のp34とp164を読んでおく。(90分)	授業に関連する教科書の範囲を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	55	授業参加度(授業内で作成したファイルの提出):全8回分で55点(回数に応じて比例配分)
その他	45	宿題:全8回分で45点(出席回の提出分を回答状況に応じて加算、欠席回の提出はDH適用時に配慮)
教科書		
はじめの第一歩 基礎からはじめるデータサイエンス／ノア出版		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		

なし

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		統計の基礎				ナンバリング	1156
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	武田 裕康						
授業の位置づけ							
教養科目のカリキュラムマップの「科学的知識を学ぶことにより、幅広く教養を身につけるための科目である」および、「数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それを適切に理解し活用する基礎的な能力を養う科目である。」と関連する。また、理学療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。(知識・技能)」、「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。(知識・技能)」、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」と関連する。また作業療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。(知識・技能)」と主に関連する。さらに地域未来学科のディプロマ・ポリシーの「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる(思考・判断・表現)」と関連する科目である。							
授業の概要							
主としてネイマン-ピアソン理論に基づき、個々の数量的現象の変動や差異と有意性、および集団の特性と変化の推移を理解する手段として統計学の基本的な知識を身につける。さらに統計手法を利用して様々な自然現象や社会現象を把握する際の留意点を十分に理解したうえで、代表値の求め方や分散の取り扱い、相関関係の検討法、各種検定法の特性などを学び、コンピュータを利用して統計処理するための基本理論を学ぶ。							
到達目標							

1. データをもとにして統計的な記述を行いその特徴を見出すことができる。
2. 統計的推定の考え方を説明することができる。
3. 統計的検定の考え方を説明することができる。
4. 各種検定法の特性を理解し、データに適した方法を選択できる。
5. 統計検定を正しく行い、適切な検定結果から正しい結論を導くことができる。

授業の方法

パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。
理解度確認テストを実施するとともに、宿題を課す(全15回)。第6回以降の後半は問題解決を通じて能動的に学ぶアクティブ・ラーニング型となる。
フィードバックとして理解度確認テスト・宿題を実施後、解答の解説を行う。

ICT活用

Google Classroomの小テスト機能を用いて練習問題を提供し自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、理解度確認テスト・宿題を実施後、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【記述統計①】データの整理と視覚化をおこなうための度数分布表とヒストグラム、また、データを代表する値である平均値と中央値、最頻値について高校までに学習した内容を確認する。また、統計処理の対象となるデータが4つの尺度(比例尺度、間隔尺度、順序尺度、名義尺度)に分類されることを学ぶ。	配布資料及び教科書1のp14～p27を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第2回	【記述統計②】データのばらつきを表す指標(散布度)である分散、標準偏差、四分位偏差について高校までに学習した内容を確認し、データの代表値と散布度の表し方を学ぶ。また、確率分布を理解し、二項分布および代表的な分布である正規分布の性質を理解する。	配布資料及び教科書1のp28～p31、p42～p48、p60～p67を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第3回	【推測統計①】統計的調査を母集団全体に行うことは実用的ではないので、標本を抽出して母集団の性質を推測する。まず母集団が正規分布することを仮定して標本から母数を推定する考え方を学んだのち、正規母集団の分散が既知のときに母平均を区間推定する方法を学ぶ。	配布資料及び教科書1のp84～p89、p96～p98、p100～p102、p106～p109、p112～p117を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			

第4回	【推測統計②】正規分布する母集団から標本抽出し、母分散を区間推定する方法を学ぶ。また、正規分布するが分散が未知の母集団、さらには分布も分散も未知の母集団から標本抽出し、母平均を区間推定する方法を学ぶ。これらの理解に必要な自由度、中心極限定理、t分布、カイ二乗分布を学ぶ。	配布資料及び教科書1のp94、p133～136、p71～p73、p96～p98、p118～p128、p68～p70を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第5回	【推測統計③】統計的検定の基本的手順を習得し、検定における「帰無仮説」「危険率」「棄却」等の考え方を理解する。あわせて、片側検定、両側検定の使い分けや判定の誤り(第1種の過誤、第2種の過誤)を学ぶ。	配布資料及び教科書1のp138～p154を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第6回	【実践編①】関連2群の差の検定法として「対応あるt検定」「ウィルコクソン符号付順位和検定」を学ぶ。これは同じ個体内での変化など、関連のある2つの量に差があるかどうかを判定できる。2つの検定のうちどれを用いるかは正規性の有無で判断するので、正規性の検定も習得する。	配布資料及び教科書2のp48～p51、p101～p110を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			

第7回	【実践編②】独立2群の差の検定法として「スチューデントのt検定」「ウェルチのt検定」「マン・ホイットニー検定」を学ぶ。これらの検定のうちどれを用いるかは正規性の検定、等分散性の検定により判断する。なお、等分散性の検定に必要なF分布についても紹介する。	配布資料、教科書1のp74～p76、p167～p170 及び教科書2のp81～99を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第8回	【実践編③】独立な多群(3群以上)の差を検定する方法として「一元配置分散分析」を分散分析の原理の基本とともに学ぶ。また、正規性や多群の等分散性がないときに用いる「クラスカル・ウォリス検定」、多群の等分散性の検定である「バートレット検定」を学ぶ。	配布資料、教科書1のp192～p206 及び教科書2のp111～p124 を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第9回	【実践編④】関連ある多群の差を検定する「重複(または反復)測定一元配置分散分析」を紹介する。また、2要因を同時に分析する「二元配置分散分析」を学ぶ。ここでは2要因の組合せに対してデータが1つの場合に用いる「繰り返しのない二元配置分散分析」「フリードマン検定」を学ぶ。	配布資料、教科書1のp207～p213 及び教科書2のp125～p130、p139～p148を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			

第10回	【実践編⑤】分散分析では多群のどこかに差があるかを検定するが、どの群とどの群に差があるかはわからない。これを明らかにする検定が多重比較である。ここではその概念を学び様々な多重比較法を紹介する。	配布資料を読んでおくこと。また、教科書2のp165～p195が範囲だが、このうちp165、p168～p172を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第11回	【実践編⑥】2要因の組合せに対してデータが複数存在する場合に用いる「繰り返しのある二元配置分散分析」について学ぶ。またここで得られる2要因の絡みあいの指標＝「交互作用」の解釈も学ぶ。さらに、「重複測定二元配置分散分析」についても紹介する。	配布資料、教科書1のp218～p226 及び教科書2のp149～p163を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第12回	【実践編⑦】2つの変量の間に相関関係があるかどうかを調べる「ピアソンの相関係数の検定」「スピアマンの順位相関係数検定」を学び、ここで得られる相関係数の意味を学ぶ。また、回帰分析のうち単回帰分析について学ぶ。	配布資料、教科書1のp34～p40、p172～p184 及び教科書2のp197～p218を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			

第13回	【実践編⑧】「2×2分割表」について学ぶ。これは2つの名義尺度の変数があり、各変数が2つの値しかとらないとき、変数間の関連の有無を調べる検定法である。ここでは、「カイ2乗独立性の検定」、「フィッシャーの直接確率計算法」、「マクニマー法」について学ぶ。	配布資料及び教科書2のp239～p253を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第14回	【実践編⑨】「m×n分割表」について学ぶ。これは2つの名義尺度か順序尺度の変数があり、少なくとも1つの変数が3つ以上の値をとるとき、変数間の関連の有無を調べる検定法である。ここでは「カイ2乗独立性の検定」等について学ぶ。	配布資料及び教科書2のp259～p276を読んでおくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
第15回	【実践編⑩】実践編の総まとめとして、調査したいデータに対してどの検定を選択したらよいかを習得する。 【番外編】統計的検定の問題点について考察する。効果の大きさをあらわす統計的指標である効果量について簡単に紹介する。	教科書2でこれまで行った検定法を復習しておくこと。(90分)	配布資料を復習し宿題を行うこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しません
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	50	各講義中に提出する理解度チェック問題の提出(15回)
その他	50	各回ごとの宿題の提出(15回)
教科書		
1. 統計解析がわかる／涌井良幸, 涌井貞美／技術評論社 2. 4steps エクセル統計(第5版)／柳井久江／オーエムエス出版		
参考文献		

なし
履修条件・留意事項等
特になし
備考欄
特になし

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		数理・データサイエンス・AI入門				ナンバリング	1166
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	松岡 審爾						
授業の位置づけ							
数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それを適切に理解し活用する基礎的な能力を養うための科目である。地域未来学科の「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる」、国際教養学科のディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている」と特に関係がある科目であり、国際コミュニケーション学科のディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている」と関係がある科目である。また、看護学科の「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。」と特に関係があり、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、科学的思考と創造的思考で生涯にわたって看護学と医療保健の質向上に貢献できる。」と関係がある。理学療法学専攻の「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている」と特に関係があり、作業療法学専攻の「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている」「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。」と特に関係がある科目である。「数理・データサイエンス・AI実践」につながる科目である。							
授業の概要							
ICT(情報通信技術)の進歩によってビッグデータをはじめとする様々なデータから、統計、科学的手法、人口知能(AI)を駆使して価値を引き出すデータサイエンスが求められている。この授業ではデータサイエンスの概略や代表的な数理的手法、なかでもAIのさまざまな手法や活用事例を学ぶ。さらに、データやAIの利活用において留意すべき事項も学習する。							
到達目標							

数理・データサイエンス・AIが、現在進行中の社会変化に深く寄与し、生活に影響を与えていることを説明できる。
 数理・データサイエンス・AIが日常生活や社会の課題を解決するうえで有用であると同時に限界もあることについて説明できる。
 数理・データサイエンス・AIが適用されることにより様々な領域であらたな価値がうみだされている実例をあげることができる。
 数理・データサイエンス・AIを活用するにあたって留意すべき事(ELSI、個人情報保護、データを扱う上での倫理)について説明できる。
 実際のデータが与えられたとき、そのデータの全体像をよみとり、その特徴を可視化するための手法を説明することができる。

授業の方法

パワーポイント等を用いて講義形式ですすめる。Google Formを用いて意見を出し合う(第7回、第8回)。

ICT活用

Google Formのテスト作成機能を用いて、宿題を出題する(全8回)。Google Formを用いて意見を出し合う(第7回、第8回)。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして宿題の正解を表示するとともに、宿題と同時に提出された質問事項に答える。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【データ・AI利活用により社会で起きている変化および最新動向】ICT(情報通信技術)の進歩によるビッグデータの集積やIoTの登場、およびAI((Artificial Intelligence:人工知能)の技術の発達、それらがもたらすSociety 5.0の社会をイメージできるようにする。【社会で活用されているデータ】データの種類、および社会でどのようにデータが活用されているかを学ぶ。【データ・AIの活用領域】AIとはなにか、AIの社会における利活用事例を学ぶ。【生成AIの活用の留意点】近年急速に発展した生成AIの特徴、弱点、利用にあたって留意すべき点を概説する。	ビッグデータ、IoT、Society 5.0、生成AIについて調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第2回	【データ分析のプロセスとデータ収集】データ分析のプロセスを概説したのち、外部団体(e-Stat等)の実データをインターネットから取得する方法、実データの加工解析の概要を学ぶ。【データの可視化・基本統計量】データが得られたら、まず行うべきデータの可視化、基本統計量(代表値、散布度)の確認について概説する。【2つの変数の間の関係】2つの量的変数の間の関係を可視化する散布図からわかること、および相関と因果関係について学ぶ。また、2つの質的変数の間の関係の把握するクロス集計について学ぶ。	データの特徴を表す方法および2変数の関係を調べる方法について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第3回	【機械学習における学習方法】AIの分析で用いられる機械学習の3つの学習方法(教師あり、教師なし、強化学習)を理解する。【AIの手法1:教師あり機械学習(回帰)】このうち教師あり機械学習の手法には回帰と分類があることを学ぶ。この中でまず回帰分析とそれらの応用事例を学ぶ。	機械学習とその学習方法について調べておく。また、このうち教師あり機械学習の回帰について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			

第4回	【AIの手法2:教師あり学習(分類)】 教師あり機械学習の分類を行う手法のひとつとしてよく用いられるロジスティック回帰分析および決定木分析の概略を理解する。また、機械学習の分類性能の評価指標である正答率、適合率、偽陽性率、真陽性率、ROC曲線、AUCについて理解する。	教師あり機械学習の分類、特にロジスティック回帰分析および決定木分析について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第5回	【AIの手法3 :教師なし学習】 教師なし機械学習の手法のうち、クラスタリング、アソシエーション分析(=連関分析)について学ぶ。クラスタリングはデータを似たもの同士にグループ分けする手法であり、ここではk-means法を紹介する。アソシエーション分析は同時に購入される商品セットやその確率を算出してマーケティング施策に活かすことができる手法である。 【AIの手法4 :ニューラルネットワーク】 ニューラルネットワーク、ディープラーニングの概略を学ぶ。ディープラーニングによる画像認識の概略を理解する。 【過学習】訓練データに対して適合しているが、検証データに対しては適合できていない状態である過学習について理解する。	教師なし機械学習のクラスタリング、アソシエーション分析およびニューラルネットワークについて調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第6回	【社会におけるAIの利活用の現場】 ロボティクス、生成AI、データサイエンスの3つの視点から社会におけるAI利活用の現場レベルの事例を紹介する。その中で共通の重要事項である【データの有用性×人の価値観】のアプローチについて学ぶ。 【実データを用いた解析と結果の共有・伝達方法】 データの共有・伝達に関して、ある企業のクラウドデータプラットフォームの活用事例を用いてデータ解析、共有、伝達の流れを紹介する。 【データ・AI利活用の最新動向】 国内・国外それぞれの最新のAI活用事例を解説する中で、これからの社会の変化についての予測視点の提供を行う。 (ゲスト講師:山本光喜EZOAI代表)	AIが社会において利活用されている例を調べておく。また、クラウドデータプラットフォームとはなにかを調べておく(90分)	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			

第7回	【データを守るうえでの留意事項ー情報セキュリティ・情報倫理】情報化社会におけるデータの守り方である情報セキュリティ、個人情報の保護、情報を扱う上での法規や倫理について理解する 【データ・AIを扱う上での留意事項1ーELSI、AIの公平性・平等性】すべての科学・技術に関する普遍的考え方であるELSI (Ethical: 倫理的、Legal: 法的、Social Issues: 社会的課題)について学ぶ。公平性、平等性を疎外するバイアスとはなにか、どのようなバイアスがありどのような問題が生じているのかについて学ぶ。	科学・技術に関する普遍的考え方であるELSI、AI利用における公平性、平等性を損なう原因となるバイアスについて調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
第8回	【データ・AIを扱う上での留意事項2ーAIの透明性・説明可能性、AIに関する社会的課題】AIの透明性・説明可能性がなぜ必要なのか、それを実現するための技術などについて学ぶ。また、AIに関する様々な社会的課題 (AIにより人間が支配される可能性、人間の仕事の激減、AIによるトラブルと責任の所在、ビッグデータとプライバシー、AIの創作物に対する著作権)について学ぶ。	AI技術の発展がもたらすであろう様々な社会的課題について調べておく(90分)。	授業で行った全範囲について復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合 (%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	55	授業参加度:全8回分で55点(回数に応じて比例配分)
その他	45	宿題:全8回分で45点(出席回の提出分を回答状況に応じて加算、欠席回の提出はDH適用時に配慮)
教科書		
なし		
参考文献		
AIリテラシーの教科書／浅岡伴夫他／東京電機大学出版局 Python3年生機械学習のしくみ／森巧尚／翔泳社 Q&A AIの法務と倫理／古川直裕他／中央経済社		
履修条件・留意事項等		

なし

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		数理・データサイエンス・AI実践				ナンバリング	1167
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	松岡 審爾						
授業の位置づけ							
数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、それを適切に理解し活用する基礎的な能力を養うための科目である。地域未来学科の「地域社会のデジタル化等の変化に適応しながら、地域の特性を踏まえた教育の在り方について考究し、地域の未来を担う人づくりに貢献できる」、国際教養学科のディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている」と特に関係がある科目であり、国際コミュニケーション学科のディプロマ・ポリシー「北海道、日本及び世界諸地域の課題に対応できる情報処理や分析の能力、論理的・批判的な思考や判断をする能力を身につけている」と関係がある科目である。また、看護学科の「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。」と特に関係があり、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、科学的思考と創造的思考で生涯にわたって看護学と医療保健の質向上に貢献できる。」と関係がある。理学療法学専攻の「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている」と特に関係があり、作業療法学専攻の「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている」「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。」と特に関係がある科目である。「数理・データサイエンス・AI入門」からつながる科目である。							
授業の概要							
表計算ソフトやプログラミング言語であるPythonを用いて、インターネットから情報を取得してその特徴をとらえる方法、およびデータサイエンスで用いられるAIの手法を駆使してデータを分析する方法を習得する。							
到達目標							

インターネットから取得したデータを分析できる形に整えることができる。
 データを分析できる形に整えることができる。
 データの基本統計量の計算や可視化を行うことによりデータを読みとることができる。
 データの特徴を説明することができる。
 任意のデータファイルを読み込み、機械学習の教師あり学習の回帰、分類の手法でデータを分析することができる。

授業の方法

各人がパソコンを操作してExcelやPythonを実際に動かしながら学習してゆく(全8回)。説明部分はパワーポイント等を用いて講義形式ですすめる。

ICT活用

Google Formのテスト作成機能を用いて、宿題を出題する(全8回)。パソコンを用いた演習を行う(全8回)。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして宿題の正解を表示するとともに、宿題と同時に提出された質問事項に答える。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【データを扱う方法】インターネットから取得されたデータを分析できる形に整える方法を習得する。 【データを読む方法】データの特徴を得るために表計算ソフトの分析ツールを用いて基本統計量(代表値の計算、データのばらつき(分散、標準偏差))を実際に計算する。データの分布を表すヒストグラムの作成法を習得する。	Excelで基本統計量を求める方法を調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第2回	【表計算ソフトを用いたデータの可視化による説明】グラフによるデータの表現を概観する。特に2変数のデータの間の関係を調べるために、表計算ソフトを用いた散布図の作成、相関係数の計算、および散布図から単回帰式を求める方法を習得する。また、分類の様子を概観するための層別散布図の作成方法を習得する。 【クロス集計】二つの質的変数の間の関係を調べるクロス集計表をピボットテーブルを用いて作成する方法を習得する。	Excelによる散布図の作成、ピボットテーブルの作成方法を調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第3回	【AI開発を行う道具・Python入門】Google Colaboratoryを用いてプログラム言語であるPythonを実行する方法を習得する。 【プログラミングの基本1】Python言語を用いて、プログラミングの基本である3つの処理(順次処理、条件分岐、反復処理)のうち順次処理、条件分岐を体験する。	プログラミングの基本のうち順次処理、条件分岐について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			

第4回	【プログラミングの基本2】Python言語を用いて、プログラミングの基本である3つの処理(順次処理、条件分岐、反復処理)のうち反復処理を体験する。 【Pythonを用いたデータの可視化】Pythonを用いてパソコン上のデータファイルを読み込み、代表値の計算、データの分布やばらつき等のデータの可視化を行うプログラムを生成AIを用いて作成する。	プログラミングの基本のうち反復処理について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第5回	【機械学習 教師あり学習(回帰)】回帰分析の概要を復習したのち重回帰において説明変数が量的変数の場合に限らず説明変数にダミー変数を含む場合の意味について学習する。生成AIを用いて機械学習としての重回帰を実行するPythonプログラム作成を体験する。Pythonを用いて実際に回帰分析(単回帰、重回帰)を行う方法を習得するとともに、その活用法を学習する。	回帰分析について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第6回	【機械学習 教師あり学習(分類)】Pythonのscikit-learnというライブラリーを用いて、分類を行うロジスティック回帰分析、決定木分析、ランダムフォレストなどの特徴を理解し、それらの実装を体験する。	機械学習における分類の手法について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			

第7回	【機械学習 教師なし学習】多くの変数を少数の合成変数にまとめる手法である主成分分析について理解し、Pythonのscikit-learnを用いて主成分分析後の分類(ロジスティック回帰など)を体験する。アソシエーション分析を体験する。k-means法によるクラスタリングを実データを用いて実行し、その解釈について学習する。	主成分分析、アソシエーション分析およびクラスタリング手法であるk-means法について調べておく(90分)。	提示資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第8回	【ニューラルネットワークによる分類】ニューラルネットワーク、ディープラーニングの概要を復習したのち、さらに詳細な理解をするためにA Neural Network Playgroundを用いてニューラルネットワークにおける隠れ層の意味、活性化関数、過学習と正則化、ハイパーパラメータについて学習する。 【Pythonによるニューラルネットワークの実装】Pythonを用いたニューラルネットワークによる分類を実行プログラムを用いてデータを分析する方法を習得する。	ニューラルネットワークにおける隠れ層の意味、活性化関数、過学習と正則化、ハイパーパラメータについてこれまで習ったことを復習しておく。	授業で行った全範囲について復習し宿題を行う。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	70	授業参加度:全8回分で55点(回数に応じて比例配分) 授業内の提出物:全8回分で15点(回数に応じて比例配分)
その他	30	宿題:全8回分で30点(出席回の提出分を回答状況に応じて加算、欠席回の提出はDH適用時に配慮)
教科書		
なし		
参考文献		
AIリテラシーの教科書／浅岡伴夫他／東京電機大学出版局 Python3年生機械学習のしくみ／森巧尚／翔泳社 Q&A AIの法務と倫理／古川直裕他／中央経済社		
履修条件・留意事項等		

CL教室のパソコンでGoogle Classroomのログインができるように本学のGoogleのID、パスワードがわかるようにしておいて下さい。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		物理学				ナンバリング	1152
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	松岡 審爾						
授業の位置づけ							
科学的知識を学ぶことにより、幅広く教養を身につけるための科目である。 「運動学Ⅰ」(理学、作業)、「運動学Ⅱ」(理学、作業)、「物理療法学Ⅰ」(理学)、「物理療法学Ⅱ」(理学)、「物理療法学演習」(理学)と連携している教養科目である。 看護学科のディプロマ・ポリシー「看護学の本質を理解するために必要な、文理横断的かつ学際的な知識と論理的な思考力を有し、看護を取り巻く状況の変化に柔軟に対応できる。(思考・判断・表現)」と特に関係がある科目である。 理学療法学専攻のディプロマ・ポリシー「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・理解)」と特に関係がある科目である。 作業療法学専攻のディプロマ・ポリシー「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、作業療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」と関係がある科目である。							
授業の概要							
物理学は広範な自然現象を統一的に理解しようとするものであり、全ての自然科学の基礎をなしている。ここでは、生体力学や運動学の基礎となるニュートン力学および熱力学の基本的な考えや電磁気学の基礎法則を理解し、剛体の力学、変形体の力学および生体組織の力学的性質および電気、電磁波、超音波の性質や生体作用について学習する。							
到達目標							

1. ニュートンの法則にもとづいて運動方程式を記述し、物体の運動を求めることができる。
2. 力のモーメントを用いて剛体のつりあいの式を記述できる。
3. 変形する物体の力学的性質や波動の性質について説明できる。
4. 仕事とエネルギー、力学的エネルギー保存の法則、熱エネルギーについて説明できる。
5. 電磁現象の概略(電気力や磁力の原因、電磁誘導、電磁波の性質)を説明できる。

授業の方法

パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。
理解度確認テストを実施するとともに、コメントを書かせる(全15回)。
毎回の内容について宿題を課す(1回目～14回目)。
9回目と15回目に試験を実施する。
フィードバックとして理解度確認テストと宿題の解説を行う。

ICT活用

Google Formのテスト作成機能を用いて、確認テストと宿題として練習問題を提供し自主学習を促す。
授業の動画(パワーポイントの説明に音声を入力したもの)をGoogle Classroomにアップし復習に活用できるようにする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして理解度確認テストおよび宿題の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	はじめに 物理学で用いられる単位系について学ぶ。 力学1 【運動の記述】直線上を運動する物体の速度、加速度の計算方法を習得する。また、平面上の運動における物体の位置の表しかた、速度と速さの違いを理解する。	教科書のp5、p9～p10、p12、p14、p19、p25～p28を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第2回	力学2 【運動の記述】平面上の運動における物体の加速度の向きを知る方法を理解する。【ニュートンの運動の法則】ニュートンの運動の3法則である慣性の法則、運動の法則($F=ma$)および作用反作用の法則を理解する。 ・物体に働く力の矢印の書き方を習得する。 ・等速円運動する物体に働く力の向きを理解する。	教科書のp29、p34～p37、p39～p40、p73～p75を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第3回	力学3 【ニュートンの運動の法則の応用】・地球上の物体に働く重力と落下運動について理解する。・床等に置かれた物体が静止するために垂直抗力が働くことが必要なことを理解する。物体の運動方程式を立てることによって、物体に働く力や加速度を求める方法を習得する。・平面における運動式を理解する。	教科書のp41,p43、p46～p47を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			

第4回	力学4【ニュートンの運動の法則の応用】・力の合成と分解を理解する。・静止摩擦力、最大摩擦力、動摩擦力のちがいを理解する。・垂直抗力と摩擦係数から最大摩擦力、動摩擦力を計算する方法を習得する。斜面上の物体の運動方程式を立てる方法を習得する。	教科書のp42～p43、p45下半分、p48～p50を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第5回	力学5【剛体の力学】・大きさがあるが変形しないというモデルである「剛体」の概念を理解する。物体の回転状態を変化させる作用である力のモーメントの計算方法を習得する。力のモーメントをもとにして重心という概念を理解できること、また重心の位置を計算する方法を習得する。	教科書のp42、p51を読んでおく(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第6回	力学6【剛体の力学】・剛体の力学—剛体が回転せずにつりあうための条件を理解し、これに基づいて剛体に働く力を求める方法を習得する。 【仕事とエネルギー】仕事と仕事率の定義を理解する。	教科書のp44～p45、p52～p53、p59～p62を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			

第7回	力学7【仕事とエネルギー】・重力の位置エネルギー、運動エネルギーの計算方法を習得する。・仕事と運動エネルギーとの関係から力学的エネルギー保存則が導かれることを理解する。・力学的エネルギー保存の法則を用いて運動する物体の速さを求める方法を習得する。・より広い意味のエネルギー保存則を理解する。 【慣性力】・非慣性系における、みかけの力(慣性力)を学び、遠心力が慣性力であることを理解する。	教科書のp62～p66、p93を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第8回	力学8【変形する物体の静力学】・力を加えると変形するが、力を取り除くと元に戻る性質をもつ物体を弾性体という。弾性体のひずみが小さいとき、弾性体の変形のもととなる応力はひずみに比例する。このときの比例定数が弾性定数であり、これを用いて物体の変形量を計算する方法を習得する。また、いくつかの弾性率(ヤング率、剛性率)の違いを知る。	教科書のp101～p104を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第9回	力学9【流体の力学】・流体の力学—流体とはなにか、またその圧力の特徴を理解する。流体の密度や、ある深さにおける流体の圧力の計算方法を習得する。粘性がずれ応力であることを理解する。 ★授業の1回目から7回目の内容を範囲とした試験を行う。	教科書のp95～p101、p104～p108を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			

第10回	【波動】・波の表し方および波の基本式を理解する。・正弦波が波の基本的な形であることを理解する。・波の干渉と回折について理解する。・弦に生じる定在波の固有振動の計算を修得する。・超音波の性質を学ぶ。	教科書のp114～p124を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第11回	電磁気学1【電気力】・電気現象を引き起こす電荷について理解する。・真空中の電荷の間に働く力である電気力(クーロン力)の性質を学ぶ。電気力を働かせる空間である電場の概念を理解する。電位の定義を理解し電位差と電気量から電気力がした仕事量を計算する方法を習得する。・電場によって物体表面に電荷が現れる現象である静電誘導について理解する。	教科書のp158～p161、p162～p171を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第12回	電磁気学2【電流・電気回路】・電流、電圧と電気抵抗との間の関係であるオームの法則を理解する。・電力およびジュール熱の計算し、抵抗の発熱量を計算する方法を習得する。・交流による電力と実効値を理解する。・電荷を蓄える装置であるキャパシタの性質を理解する。・比誘電率について理解する。	教科書のp161～p162、p164～p165、p173～p175、p177～p179、p182～p184、p206～p208を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			

第13回	電磁気学3【磁場】・磁場の性質を理解する。・電流が磁場を発生されることを知り、定常電流がどのような向きの磁場を生じるかを理解する。・磁場中で運動する荷電粒子に働くローレンツ力の向き、また磁場中で電流が流れている導線に働く力を理解する。	教科書のp191～p199を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第14回	電磁気学4【電磁誘導】・電磁誘導(ファラデーの法則)、磁場が時間変化することにより電場が発生することを理解する。・磁場中でコイルを動かすと、磁場が時間変化していなくてもコイルに電流が流れることを理解する。・電場の変化によって磁場の発生することを理解する。・電磁波の発生機序を理解する。	教科書のp199～p203、p212～p214を読んでおく。(90分)。	授業に関連する教科書の範囲と配布資料を復習し宿題を行う(90分)。
担当教員			
第15回	【熱力学】・熱の移動方法は主に熱伝導、対流、熱輻射の3つがある。このうち熱伝導の性質、熱輻射の性質を理解する。 ★授業の8回目から14回目の内容を範囲とした試験を行う。	教科書のp136～p144、p147、p149～p150を読んでおく。(90分)。	授業で行った全範囲について復習しておく(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	72	授業参加度(理解度確認テストの提出)(1回目～14回目各1点×14回+15回目3点＝合計17点)、授業内(9回目と15回目)に実施する試験2回分の合計55点
その他	28	宿題(1回目～14回目各2点×14回＝合計28点)
教科書		
第3版 物理学入門 新装版 Web動画付／原康夫／学術出版図書		
参考文献		

医療系のための物理／佐藤幸一他／東京教学社

履修条件・留意事項等

理学療法学専攻の学生は、運動学、物理療法学の基本となるので、高校で物理基礎のみ履修の学生,それすら未履修の学生は必ず履修すること。作業療法学専攻の学生は、運動学の基本となるので履修するとよい。看護学科、健康栄養学科の学生は専門に直結するわけではないので数理分野が得意で興味があれば履修してもよい。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 自然と科学					
科目名		基礎化学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	藤井 駿吾、佐々木 将太						
授業の位置づけ							
初年次教育の一環として化学的知識を学ぶことによって、幅広い教養を身に付けるための科目である。生化学、基礎栄養学などの科目に必要とされる基礎的知識を学ぶ科目である。理学療法学科ではディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている」と、作業療法学科では「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている」と特に関連がある科目である。							

1. 原子の構造から、イオン、原子価を理解し、化学結合について説明できる。
2. 化学反応式の表す意味を理解し、反応式の量的関係の計算ができる。
3. 濃度計算ができる。(パーセント濃度、モル濃度)
4. 酸・塩基の定義を理解し、水素イオン濃度とpHの値を求めることができる。
5. 飽和炭化水素、特にアルカンの分子式、示性式、構造式を書くことができる。

授業の方法

パワーポイントによる講義形式で、必要に応じてプリント配布する。
理解度を確認するため、確認テストを実施する。

ICT活用

確認テストや、授業資料の配布にGoogleフォームやGoogle Classroomなどを使用する。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

Googleフォームによる確認テスト時は、回答送信後、得点および誤答に対する解説を返信する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	(佐々木) ・オリエンテーション ・原子の構造について学習する ・電子配置について学習する。	「原子核」、「電子」、「陽子」、「中性子」、「質量数」などの化学用語及び電子配置図について調べておく。(90分)	講義中に出題された問題を、自分の力で再度解答する。電子配置図を正確に書けるようにする。(90分)
担当教員	佐々木 将太		
第2回	(佐々木) ・イオンについて学習する。 ・電子式の書き方について学習する。(有機化学の分野でも使用) ・化学結合について学習する。 (1) イオン結合 (2) 共有結合(同種原子)	イオン結合、共有結合について調べておく。 「電子式」「構造式」の書き方について調べておく。(90分)	「電子式」「構造式」を確実に書くことができる。 化学式の表記の仕方を確実なものにする。(90分)
担当教員	佐々木 将太		
第3回	(佐々木) ・化学結合について学習する。 (3)共有結合(異種原子) ・化学式の読み方について、別紙プリントを配布して学習する。 ・分子量の求め方を学習する。	「共有結合」特に単結合、二重結合について、調べておく。 分子量の求め方を調べておく。(90分)	「共有結合」について、説明できるようにする。化学式が確実に読め、かつ書くことができ、分子量を求めることができる。(90分)
担当教員	佐々木 将太		

第4回	(佐々木) ・物質質量(モル)の概念について学習する。 ・物質質量(モル)の求め方について学習する。	「アボガドロ数」と「モル」の計算上での関係を調べておく。(90分)	講義で出題された問題を復習することで、考え方、求め方を確実なものにする。(90分)
担当教員	佐々木 将太		
第5回	(佐々木) ・化学反応式の量的関係について学習する。 (化学反応式を使った計算問題を解く)	化学反応式の係数が持つ意味について、計算にどのような使い方をするか確認しておく。(90分)	「モル」「体積」「アボガドロ数」「分子量」の相互関係を確実に理解し、計算で求めることができる。(90分)
担当教員	佐々木 将太		
第6回	(藤井) ・質量パーセント濃度についてしっかり学習する。	質量パーセント濃度の求め方について、高校時の教科書、参考書等で事前に確認しておく。(90分)	講義中に出題された問題や配布プリントを必ず復習し、自力で問題を確実に解くことができる。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		

第7回	(藤井) ・モル濃度についてしっかり学習する。 (1) 固体 (2) 液体	モル濃度の求め方について、高校時の教科書、参考書等で事前に確認しておく。(90分)	講義中に出題された問題や配布プリントを必ず復習し、自力で問題を確実に解くことができる。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第8回	(藤井) ・酸と塩基について学習する。 ・中和反応について学習する。	中和滴定を利用して、濃度の求め方を確認しておく。 特に、食酢中の酢酸の定量について確認しておく。(90分)	講義中に出題された問題や配布プリントを必ず復習し、自力で問題を確実に解くことができる。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第9回	(藤井) ・水素イオン濃度について学習する。 ・酸化・還元について学習する。	水素イオン濃度とpHの関係について調べておく。 酸化か還元かの判定方法について事前に調べておく。(90分)	講義中に出題された問題を復習し、pHと水素イオン濃度の関係を理解する。 酸化・還元の判断も確実にできる。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		

第10回	(藤井) ・有機化合物の歴史について学習する。 ・有機化合物(炭化水素化合物)の分類について学習する。 ・有機化合物の表し方(分子式、示性式、構造式)について学習する。	「分子式」「示性式」「構造式」の表し方の違いについて事前に調べておく。(90分)	簡単な有機化合物の「示性式」「構造式」を書くことにより、違いを確認し分類できる。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第11回	(藤井) ・飽和炭化水素のアルカンについて学習する。 (1)アルカンの性質 (2)アルカンの反応 (3)構造異性体	身近に存在する有機化合物である「アルカン」の性質、特徴及び用途について調べておく。(90分)	講義の内容を復習し、特に構造異性体の構造式を確実に書くことができる。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第12回	(藤井) ・IUPAC命名法について学習する。 ・不飽和炭化水素(アルケン)について学習する。 (1)アルケンの性質 (2)アルケンの反応	IUPAC命名法、アルケンの性質、特徴及び付加反応について事前に調べておく。(90分)	IUPAC命名法を用いて確実に物質名を答えることができる。付加反応について理解する。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		

第13回	(藤井) ・アルコールについて学習する。 (1)アルコールの利用方法 (2)アルコールの分類 (3)アルコールの命名法 (4)線描構造式	基本的なアルコールである「メタノール」「エタノール」「プロパノール」について調べておく。(90分)	講義内容を復習し、「アルコールの酸化」「アルコールの命名法」等自分の言葉で説明することができる。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第14回	(藤井) ・芳香族炭化水素について学習する。 (1)歴史 (2)構造異性体・命名法 (3)置換反応	「芳香族炭化水素」の構造の特徴や構造異性体について調べておく。(90分)	講義の中で出題された問題をしっかりと復習し、構造異性体、置換反応について、説明することができる。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
第15回	(藤井) ・身の回りに存在する芳香族炭化水素について学習する。	身の回りに存在する代表的な芳香族炭化水素について調べておく。(90分)	生活環境の中に多くの有機化合物が存在することを知ることにより、今後の生活での意識改革に繋がるとよい。(90分)
担当教員	藤井 駿吾		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各回で行う確認テストで評価する。
その他	0	特になし。
教科書		
特に指定しない。		
参考文献		

高校で使⽤した「教科書」または「参考書」があれば良い。

履修条件・留意事項等

特になし。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 外国語					
科目名		英語 I (1組)				ナンバリング	1170
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	Patrick Hall						
授業の位置づけ							
地域未来学科のディプロマポリシーの「地域社会の中核的コーディネーターとして、多様な主体とのつながりを生み出し、包摂的で持続可能な地域コミュニティを他者と共創できる(知識・技能)」ことと関係がある科目である。							

Students will practice everyday English skills needed for basic interpersonal communication. Focus will be on speaking, listening, and reading, and being able to describe basic things, ask and answer questions, explain and react appropriately, using good, clear, basic grammar constructions. Although the broad focus is general skills, attention will also be given to interacting with patients in a medical setting. (i.e. greeting patients, asking about their condition, giving instructions, etc.)

授業の方法

This is a lecture class where students will listen to the teacher's instruction and do exercises from the textbook. Based upon the activity, student will engage in pair-work, groupwork as well as work individually on various tasks.

ICT活用

If needed, this class may utilize Google Classroom as a Learning Management System (LMS).

実務経験のある教員の教育内容

Not Applicable

課題に対するフィードバックの方法

The teacher will give feedback by explaining the answers of the exercises, commenting on students' performance, and grading assignments.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	Class intro, syllabus, Unit 0	Go over syllabus and Unit 0 vocab (25 minutes)	Prepare Unit 1 p.12-16, p.I (20minutes)
担当教員			
第2回	Unit 1 Part I p. 12-16: Introducing self, giving and getting information from patients or others	Review Unit 1 part I p. 2-16 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit I part II p. 17-19 (20 Min)
担当教員			
第3回	Unit 1 Part II p.17-19: Introducing self, giving and getting information from patients or others	Review unit 1 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 2, p.20-24 (20 Min)
担当教員			

第4回	Unit 2, Part I p.20-24: Describing people, Be vs. Have grammar point, medical conditions	Review unit 2 p.20-24 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 2 Part II (p.25-27) (20 Min)
担当教員			
第5回	Unit 2, Part II p.25-27: Describing people, Be vs. Have grammar point, medical conditions	Review unit 2 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 3 (p28-32) (20 Min)
担当教員			
第6回	Unit 3, Part I p28-32: Schedules and routines. Making appointments with patients	Review unit 3 (p28-32) vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 3 Part II (p33-35) (20 Min)
担当教員			

第7回	Unit 3, Part II p33-35: Schedules and routines. Test Prep.	Prepare for Test!! (25minutes)	Review vocabulary and concepts (20 Min)
担当教員			
第8回	Midterm	Review concepts you had trouble with on test (25Min)	Prepare for Unit 4 Part I, p. 36-40 (20 Min)
担当教員			
第9回	Unit 4, Part I, p36-40: Describing basic physical things and relations (there is/there are etc.)	Review unit 4 (p36-40) vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare p41-43 (20 Min)
担当教員			

第10回	Unit 4 Part II, p41-43: Describing basic physical things and relations (there is/there are etc.)	Review unit 4 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 5, p.44-48 (20 Min)
担当教員			
第11回	Unit 5 Part I, p.44-48: Giving and receiving directions, use of basic prepositions. Room Picture activity.	Review unit 5 p. 44-48 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 5 Part II (p.49-51) (20 Min)
担当教員			
第12回	Unit 5 Part II, p.49-51: Giving and receiving directions, use of basic prepositions. Room Picture activity.	Review unit 5 (p.49-51) vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 6 (p.52-56) (20 Min)
担当教員			

第13回	Unit 6, Part I, p52-56: Describing past actions.	Review Unit 6 (p.52-56) (25 Min)	Please read and prepare Unit 6 Part II (p57-59) (20 Min)
担当教員			
第14回	Unit 6, Part II, p57-59: Describing past actions. Side by Side activity: Explaining a visit to a doctor's office in present and past tense. Test prep.	Review Units 4-6 thoroughly!! (as much time as you need, 1 hour mininum!)	Prepare for final exam!! (please study hard)
担当教員			
第15回	Final exam	Be sure all assignments have been completed and given to the teacher (perhaps 25 minutes to assess)	If you have any makeup work or late assignments, complete them and send to Professor (20 minutes, if necessary)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Midterm 30 Final 40 Attendance and participation, quizzes 30
その他	0	
教科書		
English Firsthand, Fifth Edition Written by March Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown Published by Pearson		
参考文献		

Handouts will be given in class

履修条件・留意事項等

please bring textbook, paper, pen or pencil, and previous handouts to each class

備考欄

Students will practice everyday English skills needed for basic interpersonal communication. Focus will be on speaking, listening, and reading, and being able to describe basic things, ask and answer questions, explain and react appropriately, using good, clear, basic grammar constructions. Although the broad focus is general skills, attention will also be given to interacting with patients in a medical setting. (i.e. greeting patients, asking about their condition, giving instructions, etc.)

授業の方法

This is a lecture class where students will listen to the teacher's instruction and do exercises from the textbook. Based upon the activity, student will engage in pair-work, groupwork as well as work individually on various tasks.

ICT活用

If needed, this class may utilize Google Classroom as a Learning Management System (LMS).

実務経験のある教員の教育内容

Not Applicable

課題に対するフィードバックの方法

The teacher will give feedback by explaining the answers of the exercises, commenting on students' performance, and grading assignments.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	Class intro, syllabus, Unit 0	Go over syllabus and Unit 0 vocab (25 minutes)	Prepare Unit 1 p.12-16, p.I (20minutes)
担当教員			
第2回	Unit 1 Part I p. 12-16: Introducing self, giving and getting information from patients or others	Review Unit 1 part I p. 2-16 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit I part II p. 17-19 (20 Min)
担当教員			
第3回	Unit 1 Part II p.17-19: Introducing self, giving and getting information from patients or others	Review unit 1 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 2, p.20-24 (20 Min)
担当教員			

第4回	Unit 2, Part I p.20-24: Describing people, Be vs. Have grammar point, medical conditions	Review unit 2 p.20-24 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 2 Part II (p.25-27) (20 Min)
担当教員			
第5回	Unit 2, Part II p.25-27: Describing people, Be vs. Have grammar point, medical conditions	Review unit 2 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 3 (p28-32) (20 Min)
担当教員			
第6回	Unit 3, Part I p28-32: Schedules and routines. Making appointments with patients	Review unit 3 (p28-32) vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 3 Part II (p33-35) (20 Min)
担当教員			

第7回	Unit 3, Part II p33-35: Schedules and routines. Test Prep.	Prepare for Test!! (25minutes)	Review vocabulary and concepts (20 Min)
担当教員			
第8回	Midterm	Review concepts you had trouble with on test (25 Min)	Prepare for Unit 4 Part I, p. 36-40 (20 Min)
担当教員			
第9回	Unit 4, Part I, p36-40: Describing basic physical things and relations (there is/there are etc.)	Review unit 4 (p36-40) vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare p41-43 (20 Min)
担当教員			

第10回	Unit 4 Part II, p41-43: Describing basic physical things and relations (there is/there are etc.)	Review unit 4 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 5, p.44-48 (20 Min)
担当教員			
第11回	Unit 5 Part I, p.44-48: Giving and receiving directions, use of basic prepositions. Room Picture activity.	Review unit 5 p. 44-48 vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 5 Part II (p.49-51) (20 Min)
担当教員			
第12回	Unit 5 Part II, p.49-51: Giving and receiving directions, use of basic prepositions. Room Picture activity.	Review unit 5 (p.49-51) vocabulary and concepts (25minutes)	Please read and prepare Unit 6 (p.52-56) (20 Min)
担当教員			

第13回	Unit 6, Part I, p52-56: Describing past actions.	Review Unit 6 (p.52-56) (25 Min)	Please read and prepare Unit 6 Part II (p57-59) (20 Min)
担当教員			
第14回	Unit 6, Part II, p57-59: Describing past actions. Side by Side activity: Explaining a visit to a doctor's office in present and past tense. Test prep.	Review Units 4-6 thoroughly!! 25 minutes or more...	Prepare for final exam!! 20 minutes or more
担当教員			
第15回	Final exam	Be sure all assignments have been completed and given to the teacher (25 minutes if necessary)	If you have any makeup work or late assignments, complete them and send to Professor (up to 20 minutes)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	Midterm 30 Final 40 Attendance and participation, quizzes 30
その他	0	
教科書		
English Firsthand, Fifth Edition Written by March Helgesen, John Wiltshier, Steven Brown Published by Pearson		
参考文献		

Handouts will be given in class

履修条件・留意事項等

please bring textbook, paper, pen or pencil, and previous handouts to each class

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 外国語					
科目名		英語Ⅱ				ナンバリング	1171
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	Walzem Allen George						

授業の位置づけ

本科目は、外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目である。前期に配置されている「英語Ⅰ」はネイティブ・スピーカー教員によるすべて英語で行われる会話の授業であるが、この後期に配置されている「英語Ⅱ」は日本人教員による専門用語等の説明において、必要に応じて日本語を使用する授業である。こうしたことを通じて、英語圏の国で日常生活に不便を感じないレベルの英語力を身に付けることを目指す授業である。

授業の概要

本授業では、高等学校での学習を基に比較的まとまりのある英文を正しく、丁寧に読み取ることを目的に、発音、語彙、語法、慣用的表現の解説と訓練を行うとともに、具体的な場面を設定して英語で自己表現することができるようになることを目的とする。

到達目標

- 日本語に訳することなしに英文の意味を理解するとともに、パラグラフ単位で意味が把握できる。
○具体的な場面における英会話の基礎を身に付け、発話できる。

授業の方法

教科書を中心に、プレゼン資料や板書と配布印刷物を用いた演習形式で行う。ほぼ毎回、単語テストまたは、確認テストを行う。(全13回) 授業内でその解説も行う。

ICT活用

プレゼンテーションソフトによる教材提示やリスニングを行うとともに、グーグルクラスルームを活用して、課題提出などを行う。

実務経験のある教員の教育内容

課題に対するフィードバックの方法

適宜、単語テストまたは、確認テストを行い、次週の授業内でその解説も行うことでフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	◎オリエンテーション・授業の進め方や評価方法を理解する。 ◎Unit1 For here, or to go? ・ファストフード店での注文に関する表現を学ぶ。	・Unit1 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit1 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			
第2回	◎Unit2 How many are in your party? ・レストランでの来客対応に関する表現を学ぶ。	・Unit2 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit2 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			
第3回	◎Unit3 I'll be right back. ・レストランでの接客サービスに関する表現を学ぶ。	・Unit3 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit3 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			

第4回	◎Unit4 Would you like me to heat this up? ・コンビニやスーパーでの接客サービスに関する表現を学ぶ。	・Unit4 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit4 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			
第5回	◎Unit5 Your total comes to 3,240 yen. ・買い物や飲食の会計に関する表現を学ぶ。	・Unit5 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit5 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			
第6回	◎Unit6 I'm truly sorry for the trouble ・商品やサービスへの苦情とその対応に関する表現を学ぶ。	・Unit6 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit6 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			

第7回	◎Review1 (Unit1-6) ・Unit1からUnit6までの復習をする。	・Review1 を事前に読んで、取り組んでおくこと。(25分)	・Review1に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			
第8回	◎Unit7 Do you have a reservation? ・ホテルや旅館での宿泊受付に関する表現を学ぶ。	・Unit7を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit7 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			
第9回	◎Unit8 Wi-Fi is available in this area. ・客が利用できるサービスや近隣情報の案内に関する表現を学ぶ。	・Unit8 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit8 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			

第10回	◎Unit9 I highly recommend Sakura Restaurant. ・旅行者の希望に応じた店や観光地などの提案に関する表現を学ぶ。	・Unit9 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit9 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			
第11回	◎Unit10 Turn right at the first intersection. ・道案内に関する表現を学ぶ。	・Unit10 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit10に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			
第12回	◎Unit11 Take the subway to Hommachi. ・交通案内や観光施設の情報提供に関する表現を学ぶ。	・Unit11 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit11 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			

第13回	◎Unit12 First, put the money in the machine. ・券売機や電化製品の使用方法の説明に関する表現を学ぶ。	・Unit12 を事前に読んでおくこと。(25分)	・Unit12 に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			
第14回	◎Review2 (Unit7-12) ・Unit7からUnit12までの復習をする。	・Review2 を事前に読んで、取り組んでおくこと。(25分)	・Review2に出てきた単語、表現を復習しておくこと。(20分)
担当教員			
第15回	◎まとめ ・この授業のまとめを行う。	・総復習して、課題に取り組むこと。(35分)	・学んだ内容のポイントを整理しておくこと。(10分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への取組状況(20%)、授業内小テスト(70%)、課題(10%)
その他	0	特になし
教科書		
You're welcome! / Tae Kudo / センゲージラーニング		
参考文献		

なし
履修条件・留意事項等
備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 外国語					
科目名		英語Ⅲ				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	Joseph S Tomasine						
授業の位置づけ							
学生の「関心・意欲・態度」の形成を図り、グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる人を育てる科目として位置付けられる。							

言語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠(CEFR)のCEFR例示的能力記述尺度「情報や論拠を求めて読む」(B1レベル)に基づいて、本科目の履修を通して、受講生は: ・身近な話題についての簡単な新聞記事から重要点を取り出せる。 ・関心のある身近な話題の中で遭遇しそうな事実関係情報の大部分を、もし読み返す十分な時間があれば理解できる。 ・博物館の展示の説明文や展示会の説明板などの記述的な記載の主要な部分を理解できる。 以上の目標を達成するために、受講生は下記の通り、英語インタラクション(相互行為)の実践を身につける。 ・ ・ ・ ・

授業の方法

各回の授業は、「講義」「タスク」「リフレクション(振り返り)」の3部構成とする。 ・講義: 教員による対話技法の解説を受け、受講生が講義内容のノート作成を行う。 ・タスク・アクティビティ: 特定の対話目標を達成するための演習を受講生が行い、その過程を各自で録音する。 ・リフレクション: 前段階の活動内容を受講生が書き起こし、自らの対話実践について省察・分析を行う。

ICT活用

・Google Classroomの利用 本科目では、学習管理システム(LMS)としてGoogle Classroomを使用する。受講生は必ず指定のクラスルームに参加すること。 ・反転授業(フリップ・クラスルーム) 本科目は「反転授業」形式を採用する。講義は事前に録画され、各回の授業前に配信される。受講生は事前に講義動画を視聴し、指定のフォーマット(標準様式)を用いてノートを作成しておくことが求められる。

実務経験のある教員の教育内容

該当無し

課題に対するフィードバックの方法

受講生は、以下の3つの方法で自身のパフォーマンスに関するフィードバックを受けるものとする。 ・自己: 自身の発話を書き起こし、強みと弱点の双方について分析を行う。 ・ピア: タスク遂行過程における他者との対話を通じ、自己のパフォーマンスを他者のものと比較・検討する。 ・教員: 教員からの講評を受け、自身のパフォーマンスについてさらなる省察を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション: 受講生は、本科目を履修する上で必要となる以下の概念について理解を深める。 ・シラバスの読み方(学習内容、事前・事後学習、評価) ・コース内におけるコミュニケーション(Google Classroom、メール、オフィスアワー) ・出席規定(欠席、遅刻、早退に関する方針) ・学習基準(ヨーロッパ言語共通参照枠:CEFR) ・タスクベースの学習構成(ディスカッション、アクティビティ、トランスクリプション) ・インタラクションの概念(順番交代、順番割り当て、各種連鎖) ・教育評価の概念(事実的知識、手続き的知識、認知的知識、メタ認知的知識) ・主要ドキュメント(指定様式1、指定様式2、指定様式3)	受講生はシラバスを読んで不明点や疑問を整理してオリエンテーションで問い合わせる準備をする。(90分)	受講生は、授業前に準備した質問と、授業中に得た回答やその他の情報を振り返り、改めてシラバスを読んで理解を深める。(90分)
担当教員			
第2回	単元1(タスク1): ・プレ・タスク: 対話技法の解説に関するディスカッションを行い、不明点を解消する。 ・タスク: ニュースや記事から重要な点を読み取ることを達成するための演習を受講生が行い、その過程を各自で録音する。 ・ポスト・タスク: 受講生がタスク中のやり取りを指定のフォーマット(様式1)に書き起こし、自らの対話実践について省察・分析を行う。	講義は事前に録画され、授業前に配信される。受講生は事前に講義動画を視聴し、指定のフォーマット(様式1)を用いてノートを作成しておく。(90分)	受講生は、授業前に作成したノートと、授業中に作成した書き起こしを振り返り、改めて講義の動画を視聴し、指定のフォーマット(様式1)を完成させる。(90分)
担当教員			
第3回	単元1(タスク2): ・プレ・タスク: 対話技法の解説に関するディスカッションを行い、不明点を解消する。 ・タスク: 公共の場における解説文(博物館や看板など)の理解を達成するための演習を受講生が行い、その過程を各自で録音する。 ・ポスト・タスク: 受講生がタスク中のやり取りを指定のフォーマット(様式1)に書き起こし、自らの対話実践について省察・分析を行う。	講義は事前に録画され、授業前に配信される。受講生は事前に講義動画を視聴し、指定のフォーマット(様式1)を用いてノートを作成しておく。(90分)	受講生は、授業前に作成したノートと、授業中に作成した書き起こしを振り返り、改めて講義の動画を視聴し、指定のフォーマット(様式1)を完成させる。(90分)
担当教員			

第4回	単元1(タスク3): ・プレ・タスク: 対話技法の解説に関するディスカッションを行い、不明点を解消する。 ・タスク: 身近なトピックに関する事実情報の理解を達成するための演習を受講生が行い、その過程を各自で録音する。 ・ポスト・タスク: 受講生がタスク中のやり取りを指定のフォーマット(様式1)に書き起こし、自らの対話実践について省察・分析を行う。	講義は事前に録画され、授業前に配信される。受講生は事前に講義動画を視聴し、指定のフォーマット(様式1)を用いてノートを作成しておく。(90分)	受講生は、授業前に作成したノートと、授業中に作成した書き起こしを振り返り、改めて講義の動画を視聴し、指定のフォーマット(様式1)を完成させる。(90分)
担当教員			
第5回	単元1のまとめ: ・プレ・タスク: 対話技法の解説に関するディスカッションを行い、不明点を解消する。 ・タスク: 単元中の自らの対話実践について省察・分析を行い、改善点を定める。 ・ポスト・タスク: 受講生がタスク中に見つけた改善点を指定のフォーマット(様式2)記入し、今後の学習計画を立てる。	講義は事前に録画され、授業前に配信される。受講生は事前に講義動画を視聴し、指定のフォーマット(様式2)を用いてノートを作成しておく。(90分)	受講生は、授業前に作成したノートと、授業中に記入した内容を振り返り、改めて講義の動画を視聴し、指定のフォーマット(様式2)を完成させる。(90分)
担当教員			
第6回	単元2(タスク1): ・プレ・タスク: 対話技法の解説に関するディスカッションを行い、不明点を解消する。 ・タスク: ニュースや記事から重要な点を読み取ることを達成するための演習を受講生が行い、その過程を各自で録音する。 ・ポスト・タスク: 受講生がタスク中のやり取りを指定のフォーマット(様式1)に書き起こし、自らの対話実践について省察・分析を行う。	講義は事前に録画され、授業前に配信される。受講生は事前に講義動画を視聴し、指定のフォーマット(様式1)を用いてノートを作成しておく。(90分)	受講生は、授業前に作成したノートと、授業中に作成した書き起こしを振り返り、改めて講義の動画を視聴し、指定のフォーマット(様式1)を完成させる。(90分)
担当教員			

第7回	単元2(タスク2): ・プレ・タスク: 対話技法の解説に関するディスカッションを行い、不明点を解消する。 ・タスク: 公共の場における解説文(博物館や看板など)を達成するための演習を受講生が行い、その過程を各自で録音する。 ・ポスト・タスク: 受講生がタスク中のやり取りを指定のフォーマット(様式1)に書き起こし、自らの対話実践について省察・分析を行う。	講義は事前に録画され、授業前に配信される。受講生は事前に講義動画を視聴し、指定のフォーマット(様式1)を用いてノートを作成しておく。(90分)	受講生は、授業前に作成したノートと、授業中に作成した書き起こしを振り返り、改めて講義の動画を視聴し、指定のフォーマット(様式1)を完成させる。(90分)
担当教員			
第8回	単元2(タスク3): ・プレ・タスク: 対話技法の解説に関するディスカッションを行い、不明点を解消する。 ・タスク: 身近なトピックに関する事実情報の理解を達成するための演習を受講生が行い、その過程を各自で録音する。 ・ポスト・タスク: 受講生がタスク中のやり取りを指定のフォーマット(様式1)に書き起こし、自らの対話実践について省察・分析を行う。	講義は事前に録画され、授業前に配信される。受講生は事前に講義動画を視聴し、指定のフォーマット(様式1)を用いてノートを作成しておく。(90分)	受講生は、授業前に作成したノートと、授業中に作成した書き起こしを振り返り、改めて講義の動画を視聴し、指定のフォーマット(様式1)を完成させる。(90分)
担当教員			
第9回	単元2のまとめ: ・プレ・タスク: 対話技法の解説に関するディスカッションを行い、不明点を解消する。 ・タスク: 単元中の自らの対話実践について省察・分析を行い、改善点を定める。 ・ポスト・タスク: 受講生がタスク中に見つけた改善点を指定のフォーマット(様式2)記入し、今後の学習計画を立てる。	講義は事前に録画され、授業前に配信される。受講生は事前に講義動画を視聴し、指定のフォーマット(様式2)を用いてノートを作成しておく。(90分)	受講生は、授業前に作成したノートと、授業中に記入した内容を振り返り、改めて講義の動画を視聴し、指定のフォーマット(様式2)を完成させる。(90分)
担当教員			

第10回	復習回: ・プレ・タスク: 自己評価の解説に関するディスカッションを行い、不明点を解消する。 ・タスク: 単元1と単元2での対話実践を受講生が比較し、その変化を分析して記録する。 ・ポスト・タスク: 受講生がタスク中で記録した結果を指定のフォーマット(様式3)に記入し、自らが設定した学習計画を改善する。	講義は事前に録画され、授業前に配信される。受講生は事前に講義動画を視聴し、指定のフォーマット(様式3)を用いてノートを作成しておく。(90分)	受講生は、授業前に作成したノートと、授業中に記入した内容を振り返り、改めて講義の動画を視聴し、指定のフォーマット(様式3)を完成させる。(90分)
担当教員			
第11回	単元3(タスク1): ・プレ・タスク: 対話技法の解説に関するディスカッションを行い、不明点を解消する。 ・タスク: ニュースや記事から重要な点を読み取ることを達成するための演習を受講生が行い、その過程を各自で録音する。 ・ポスト・タスク: 受講生がタスク中のやり取りを指定のフォーマット(様式1)に書き起こし、自らの対話実践について省察・分析を行う。	講義は事前に録画され、授業前に配信される。受講生は事前に講義動画を視聴し、指定のフォーマット(様式1)を用いてノートを作成しておく。(90分)	受講生は、授業前に作成したノートと、授業中に作成した書き起こしを振り返り、改めて講義の動画を視聴し、指定のフォーマット(様式1)を完成させる。(90分)
担当教員			
第12回	単元3(タスク2): ・プレ・タスク: 対話技法の解説に関するディスカッションを行い、不明点を解消する。 ・タスク: 公共の場における解説文(博物館や看板など)を達成するための演習を受講生が行い、その過程を各自で録音する。 ・ポスト・タスク: 受講生がタスク中のやり取りを指定のフォーマット(様式1)に書き起こし、自らの対話実践について省察・分析を行う。	講義は事前に録画され、授業前に配信される。受講生は事前に講義動画を視聴し、指定のフォーマット(様式1)を用いてノートを作成しておく。(90分)	受講生は、授業前に作成したノートと、授業中に作成した書き起こしを振り返り、改めて講義の動画を視聴し、指定のフォーマット(様式1)を完成させる。(90分)
担当教員			

第13回	単元3(タスク3): ・プレ・タスク: 対話技法の解説に関するディスカッションを行い、不明点を解消する。 ・タスク: 身近なトピックに関する事実情報の理解を達成するための演習を受講生が行い、その過程を各自で録音する。 ・ポスト・タスク: 受講生がタスク中のやり取りを指定のフォーマット(様式1)に書き起こし、自らの対話実践について省察・分析を行う。	講義は事前に録画され、授業前に配信される。受講生は事前に講義動画を視聴し、指定のフォーマット(様式1)を用いてノートを作成しておく。(90分)	受講生は、授業前に作成したノートと、授業中に作成した書き起こしを振り返り、改めて講義の動画を視聴し、指定のフォーマット(様式1)を完成させる。(90分)
担当教員			
第14回	単元3のまとめ: ・プレ・タスク: 対話技法の解説に関するディスカッションを行い、不明点を解消する。 ・タスク: 単元中の自らの対話実践について省察・分析を行い、改善点を定める。 ・ポスト・タスク: 受講生がタスク中に見つけた改善点を指定のフォーマット(様式2)記入し、今後の学習計画を立てる。	講義は事前に録画され、授業前に配信される。受講生は事前に講義動画を視聴し、指定のフォーマット(様式2)を用いてノートを作成しておく。(90分)	受講生は、授業前に作成したノートと、授業中に記入した内容をを振り返り、改めて講義の動画を視聴し、指定のフォーマット(様式2)を完成させる。(90分)
担当教員			
第15回	最終回: ・プレ・タスク: 自己評価の解説に関するディスカッションを行い、不明点を解消する。 ・タスク: 単元1と単元3での対話実践を受講生が比較し、その発展を分析する。 ・ポスト・タスク: 受講生がタスク中で分析した結果を教員に共有し、成績を確定する。	講義は事前に録画され、授業前に配信される。受講生は事前に講義動画を視聴し、ノートを作成しておく(様式自由)。(90分)	受講生は、授業前に作成したノートや、授業中に行った分析と面談をを振り返り、科目全体を振り返る。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	活動課題(第2～4回、6～8回、11～13回):45%(5%x9回分) 単元課題(第5回、9回、14回):30%(10%x3回分) 復習課題(第10回):25%(25%x1回分)
その他	0	該当無し
教科書		
教科書は使用しない。		
参考文献		

必要に応じて教員が配布又は指定する。

履修条件・留意事項等

該当無し

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 外国語					
科目名		中国語 I				ナンバリング	1178
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	玉 珍						
授業の位置づけ							
外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目である。 履修者が中国語を初めて学ぶことを前提として、入門中国語にとって最も大切な発音の練習から、中国語がどういう言語なのかを基礎的につかめるようにする。							

中国語の発音と基本文型を理解し、日常生活に必要な単語を応用して、身近な場面で使う表現を習得できるようになる。

授業の方法

授業時間を半分ずつ、前回の内容の復習と今回の新しい内容にあてる。

ICT活用

中国語学習にとって有用なホームページ、ネット教材を紹介し、独学において役立てることができるようにする。

実務経験のある教員の教育内容

(なし)

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業開始時に配られるノート兼ねたプリントの答えを記入して授業終了後に提出し、次回に返却されたものを見ながら重要点を復習する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション(授業の進め方・参考図書について) この講義における授業の進め方・評価の方法・習得できる 内容が理解できるようになる。	中国語に関する知識の探索。(90分)	中国語学習の方向性認識。(90分)
担当教員			
第2回	発音 プロローグA 第1課 中国語の音節声調、日本人にとって難しい発音 日本人にとって難しい中国語の発音が理解できるようになる。	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	声調の発音練習をすること(90分)
担当教員			
第3回	第2課 発音 中国語の短母音、複母音	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	母音の発音を練習すること(90分)
担当教員			

第4回	第3課 好久不見 発音 子音(1)	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	子音の発音練習をすること(90分)
担当教員			
第5回	第4課 请坐 発音 子音(2)	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	子音の発音練習をすること(90分)
担当教員			
第6回	第5課 你是哪国人 動詞 ”是”の使い方 いろいろな疑問文	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	動詞 ”是”の使い方 いろいろな疑問文の復習をすること(90分)
担当教員			

第7回	第6課 您贵姓 I 姓の言い方と尋ね方 IIフルネームの言い方と尋ね方	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	名前の尋ね方、言い方を練習する(90分)
担当教員			
第8回	第7課 你吃什么 1動詞文 II 選択疑問文	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	1動詞文 II 選択疑問文の作り方を練習する(90分)
担当教員			
第9回	第8課 我想去图书馆 1二つ以上の動詞からなる文ー連動文 II 希望や願望を表す助動詞”想”	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	1二つ以上の動詞からなる文ー連動文 II 希望や願望を表す助動詞”想”を使って文を練習する(90分)
担当教員			

第10回	第9課 校园里 有 银行 吗 I 動詞”有” II 動詞”在”	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	I 動詞”有” II 動詞”在”を使って文を作る練習をする。(90分)
担当教員			
第11回	第10課 今天 星期几 I 年月日、曜日の言い方 II 助動詞”得”と”要”	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	I 年月日、曜日の言い方を練習する。II 助動詞”得”と”要”を使って文を作る(90分)
担当教員			
第12回	第11課 汉语 难 吗 I 形容詞が述語になる文 II 時刻の言い方	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	I 形容詞が述語になる文を作成する。II 時刻の言い方を練習する。(90分)
担当教員			

第13回	第12課 多少钱 中国語のお金の言い方 II 量詞	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	中国語のお金の言い方を練習する II 量詞を覚える。(90分)
担当教員			
第14回	第13課 她今年十八岁 I 年齢の言い方と尋ね方 II 前置詞	前回の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	I 年齢の言い方と尋ね方を練習する。(90分)
担当教員			
第15回	確認テストとフィードバックをする。	今までの授業内容を復習しておく。(90分)	返却された確認テストを復習する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認テスト60%、参加態度・出席態度40%。
その他	0	授業態度が積極的な場合は加点する。
教科書		
いま始めよう！アクティブラーニングー初級中国語ー/陳淑梅 /朝日出版社		
参考文献		

授業中に適宜指示する。

履修条件・留意事項等

教科書は必ず購入すること

備考欄

なし。

中国語の発音と基本文型をさらによく理解し、日常生活に必要な単語を応用して、身近な場面で使う表現を習得できるようになる。

授業の方法

授業時間を半分ずつ、前回の内容の復習と今回の新しい内容にあてる。授業中に取ったノートの提出を、毎回授業終了時に求める。

ICT活用

中国語学習にとって有用なホームページ、ネット教材を紹介し、独学において役立てることができるようにする。

実務経験のある教員の教育内容

(なし)

課題に対するフィードバックの方法

確認テストのフィードバックを行う

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション(授業の進め方・参考図書について) この講義における授業の進め方・評価の方法・習得できる 内容が理解できるようになる。	中国語に関する知識の探索。(90分)	中国語学習の方向性認識。(90分)
担当教員			
第2回	前期の内容(発音・文法・語彙)の総復習。 後期の授業を始めるにあたり、必要な知識が分かるようになる。	前期の内容を復習し、授業の内容と進め方を把握しておく。(90分)	講義内提示した中国語の発音練習をすること。(90分)
担当教員			
第3回	第14課 我去动物园了 I 文末の”了” II 動詞の重ね(AA A “一” A “一下”)	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	講義内で習った文の発音練習をすること(90分)
担当教員			

第4回	第15課 你吃过川菜吗 I 経験を表す助詞”过” II 比較を表す前置詞”比”	前回の授業内容の重点を復習する。(90分)	助詞”过”、前置詞”比”の使い方の練習をすること。(90分)
担当教員			
第5回	第16課 你会拉二胡吗 I 助動詞 II 二重目的語構文	前回の授業内容の重点を復習する。(90分)	I 助動詞 II 二重目的語構文を復習する。(90分)
担当教員			
第6回	第17課 橘子可以尝尝吗 助動詞”可以” II 副詞”有点儿”と名詞”一点儿”	前回の授業内容の重点を復習する。(90分)	助動詞”可以” II 副詞”有点儿”と名詞”一点儿”使い方を復習する。(90分)
担当教員			

第7回	第18課 你汉语说得真好 I 様態補語 II 時間の長さ	前回の授業内容の重点を復習する。(90分)	様態補語の復習、時間の長さの言い方を復習する。(90分)
担当教員			
第8回	第19課 请再说一遍 I 結果補語 II 回数の言い方	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	結果補語や回数の言い方を復習する。(90分)
担当教員			
第9回	第20課 是什么时候丢的 I ”是 への”構文 II 禁止を表す”別”と”不要”	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	”是 への”構文、禁止を表す”別”と”不要”を使って文を作る。(90分)
担当教員			

第10回	第21課 我们进去吃吧 I 方向補語 II 動作行為の終了を表す助詞”了”	前回の授業内容の重点を復習しておく。(90分)	方向補語、動作行為の終了を表す助詞”了”を使って文を作る。(90分)
担当教員			
第11回	第22課 你干什么呢 I 動作行為の進行を表す表現 II 可能補語	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	動作行為の進行を表す表現の応用や可能補語を復習する。(90分)
担当教員			
第12回	第23課 横滨离东京远吗 I 前置詞”离”、”从”、”到” II 程度補語 第24課 他不会来的 I 助動詞”能” II 助動詞”会”	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	前置詞”离”、”从”、”到” II 程度補語の使い方、助動詞”能””会”を復習する。(90分)
担当教員			

第13回	第25課 我让他去超市买东西了 I 使役表現 II 主述述語文 第26課 快把窗户关上吧 I ”把”構文 II 存現文	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	使役表現, 主述述語文, ”把”構文, 存現文を復習する。(90分)
担当教員			
第14回	第27課 体温表被我爸爸弄坏了 I 不定疑問文 II 受身表現 第28課 下个星期就要放寒假了 I 助詞”着” II 就要 ～了	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	不定疑問文、受身表現、助詞”着”、就要 ～了を復習する。(90分)
担当教員			
第15回	まとめ 確認テスト、フィードバック	前回の授業で返却された提出物を再度読み、重点を復習する。(90分)	確認テストの振り返りをする。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認テスト60%、参加態度・出席態度40%
その他	0	なし
教科書		
いま始めよう！アクティブラーニングー初級中国語ー/陳淑梅 /朝日出版社		
参考文献		

なし
履修条件・留意事項等
前期の中国語Ⅰを履修しているか、中国語の基礎をマスターしていることを前提とする。
備考欄
なし。

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 外国語					
科目名		韓国語 I				ナンバリング	1188
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	金 京室						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目である。グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することにつながる科目である。							

- ・韓国語の基礎的な読み・書きができる。
- ・韓国語で簡単な自己紹介ができる。

授業の方法

- ・基本的には、パワーポイントと教科書を用いた方法で説明したのち、グループ学習を行う。

ICT活用

- ・Google formを用いた課題提出を行ってもらう。

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

課題に対し、授業中に口頭や実演にてフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション・ハングルについて ・ハングルの特徴について理解する	ハングル文字について確認しておくこと(90分)	講義で配布した資料および教科書を復習する(90分)
担当教員			
第2回	第1課 おはようございますー出会い I ・韓国語で挨拶ができる ・韓国語の母音を発音・書くことができる	教科書p1-4を読んでおく(90分)	講義の資料および教科書p1-4を復習する(90分)
担当教員			
第3回	第2課 おはようー出会い II ・韓国語で挨拶ができる ・韓国語の子音を発音・書くことができる	教科書p5-8を読んでおく(90分)	講義の資料および教科書p5-8を復習する(90分)
担当教員			

第4回	第3課 さようなら一別れⅠ ・韓国語で挨拶ができる ・濁り音の理解・発音・書くことができる	教科書p9-12を読んでおく(90分)	講義の資料および教科書p9-12を復習する(90分)
担当教員			
第5回	第4課 明日またね一別れⅡ ・韓国語で挨拶ができる ・激音の理解・発音・書くことができる	教科書p13-16を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p13-16を復習する(90分)
担当教員			
第6回	第1-4課のまとめと復習 ・韓国語で挨拶ができる ・韓国語を発音・書くことができる	教科書p1-16を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p1-16を復習する(90分)
担当教員			

第7回	第5課 これ、どうですか ・韓国語で尋ねる・答えることができる ・濃音を理解・発音・書くことができる	教科書p17-20を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p17-20を復習する(90分)
担当教員			
第8回	第6課 ありがとう ・韓国語で感謝を表現することができる ・半母音を理解・発音・書くことができる	教科書p21-24を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p21-24を復習する(90分)
担当教員			
第9回	第7課 ありがとうございます ・韓国語で丁寧に感謝を表現することができる ・パッチムを理解・発音・書くことができる	教科書p25-28を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p25-28を復習する(90分)
担当教員			

第10回	第8課 何ですか ・韓国語で質問することができる ・連音を理解・発音することができる ・数字を読むことができる	教科書p32-38を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p32-38を復習する(90分)
担当教員			
第11回	第5-8課のまとめと復習 ・韓国語で質問や答えができる ・韓国語を発音・書くことができる	教科書p17-38を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p17-38を復習する(90分)
担当教員			
第12回	第9課 申し訳ありません ・韓国語で謝罪することができる ・弱音化・鼻音化 I を理解・発音することができる	教科書p39-41を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p39-41を復習する(90分)
担当教員			

第13回	第10課 私は山崎未来です ・韓国語で自己紹介することができる ・助詞・疑問詞を理解・発音することができる	教科書p42-47を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p42-47を復習する(90分)
担当教員			
第14回	第11課 誕生日はいつですか？ ・韓国語で日付を理解・発音することができる ・韓国の記念日を発音することができる	教科書p48-51を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p48-51を復習する(90分)
担当教員			
第15回	第1－11課のまとめと復習 ・韓国語を発音・書くことができる ・簡単な会話ができる ・まとめ評価	教科書p1-51を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p1-51を復習する(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	筆記・口頭による課題で評価する(80%)・授業参加度(20%)
その他	0	なし
教科書		
コミュニケーション韓国語聞いて話そうⅠ 長谷川由起子 白帝社		
参考文献		

指定なし

履修条件・留意事項等

なし

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 外国語					
科目名		韓国語Ⅱ				ナンバリング	1189
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	金 京室						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの外国語を媒介としたコミュニケーション能力の基礎を修得する科目である。							

- ・韓国語の基礎的な読み・書きができる。
- ・韓国語で簡単な会話ができる。

授業の方法

- ・基本的には、パワーポイントと配布印刷物を用いた方法で説明したのち、グループ学習を行う。
- ・小テストを行い、理解度を確認する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

課題に対し、授業中に口頭や実演にてフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション・第1～11課の復習 ・第1～11課の復習を行う	第1～11課の復習しておくこと (90分)	講義で配布した資料および教科書 を復習する(90分)
担当教員			
第2回	第12課 なに学科ですか一所属と学年 ・疑問詞を使うことができる ・助詞の表現ができる	教科書p52-55を読んでおく(90 分)	講義の資料および教科書p52- 55を復習する(90分)
担当教員			
第3回	第13課 僕は音楽が好きです ・好みの表現ができる ・助詞の表現ができる	教科書p56-59を読んでおく(90 分)	講義の資料および教科書p56- 59を復習する(90分)
担当教員			

第4回	第14課 未来さんの携帯じゃありませんか ・指し示す言葉や所有・所属の表現ができる ・否定文が理解できる	教科書p60-63を読んでおく(90分)	講義の資料および教科書p60-63を復習する(90分)
担当教員			
第5回	第15課 彼女いますか？ ・存在表現ができる ・丁寧語・助詞の表現ができる	教科書p64-67を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p64-67を復習する(90分)
担当教員			
第6回	第16課 満では19です ・年齢を言うことができる ・助詞の表現ができる	教科書p68-73を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p68-73を復習する(90分)
担当教員			

第7回	第12-16課 まとめと復習 ・小テスト①	教科書p52-67を読んでおく、 発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p52-67を復習する(90分)
担当教員			
第8回	第17課 K-POPに大いに興味があります ・流音化・2重パッチムが理解できる ・助詞が表現できる	教科書p74-79を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p74-79を復習する(90分)
担当教員			
第9回	第18課 大学で習っています① ・否定表現ができる ・助詞が表現できる	教科書p80-87を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p80-87を復習する(90分)
担当教員			

第10回	第18課 大学で習っています② ・否定表現ができる ・助詞が表現できる ・逆接の接続語尾が表現できる	教科書p80-87を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p80-87を復習する(90分)
担当教員			
第11回	第19課 先週末何をしましたか ・過去形が理解できる ・行き来の目的を表す表現ができる	教科書p88-93を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p88-93を復習する(90分)
担当教員			
第12回	第20課 ソウルに旅行しようと思っています ・予定・つもりの表現ができる ・希望表現ができる	教科書p94-99を読んでおく、発音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p94-99を復習する(90分)
担当教員			

第13回	第17-20課 復習およびまとめ 小テスト②	教科書p74-99を読んでおく、発 音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p74- 99を復習する(90分)
担当教員			
第14回	韓国に行くならどこに行く？そこで何を食べる？ グループ 学習 ・韓国の旅行先についてグループで話し合い、予定を計画 する ・計画を発表する	韓国の地理について予習する(90分)	講義の資料や発表資料を復習 する(90分)
担当教員			
第15回	第1-20課のまとめと復習 小テスト③	教科書p1-99を読んでおく、発 音の練習をする(90分)	講義の資料および教科書p1-99 を復習する(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	筆記・口頭による復習テストで評価する(80%)・授業参加度(20%)
その他	0	なし
教科書		
コミュニケーション韓国語聞いて話そうⅠ 長谷川由起子 白帝社		
参考文献		

指定なし

履修条件・留意事項等

なし

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 スポーツと健康					
科目名		生涯スポーツ I (1組)				ナンバリング	1196
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	平岡 英樹						
授業の位置づけ							
様々なスポーツについての理解と実践方法を学ぶための科目である。							
</							

- ①スポーツ・運動することの楽しさや重要性を理解することができるようになる。
- ②ルールやマナーを理解し、ゲームを通して仲間を尊重するところを育てることができるようになる。
- ③日常生活において健康への意識を高め、体力の維持・増進を目指せるようになる。
- ④生涯を通じて積極的に且つ楽しく、スポーツや運動に親しむ意識を持ち、それを習慣化できるようになる。

授業の方法

チーム(グループ)分けをし、ゲームを中心として進める。
ゲーム内容や勝敗をもとに、技術の習得やチームワーク等を確認する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしては、ゲームによる個人技術の確認と評価

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業内容についてのガイダンス 授業内容の説明、受講上の注意事項、評価等についての解説する。	シラバスで授業の内容を確認する。(20分)	受講に関しての注意事項等を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	ソフトバレーボール(1) 基礎的なパス練習・アタック練習を行う。	ソフトバレーボールとはどのような競技なのかを調べておく。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			
第3回	ソフトバレーボール(2) 練習した技術をゲームの中で活用する	戦術・コンビネーションプレーを考える。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第4回	バドミントン・卓球(1) 基礎・応用練習ーサーブ・様々なストローク・ショットの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基本技術・ルールの確認。(25分)
担当教員			
第5回	バドミントン・卓球(2) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第6回	バレーボール(1) ゲーム(チームプレー)ー2人・3人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第7回	バレーボール② ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第8回	バレーボール③ ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第9回	バレーボール④ ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第10回	レクリエーション種目(1) ヘルスパレーボール、テニポン、ピロポロ、ドッジボール等に親しむ	レクリエーション種目にはどのようなものがあるか調べる(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第11回	レクリエーション種目(2) ヘルスパレーボール、テニポン、ピロポロ、ドッジボール等に親しみ理解する	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第12回	バスケットボール(1) 基礎・応用練習ーパス・シュート練習、2人・3人のプレーの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			

第13回	バスケットボール(2) ゲーム(技術の活用)ーパス・シュートをゲームの中で活用する。	簡単なルールを調べる。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第14回	バスケットボール(3) ゲーム(技術の応用)ー個人・2人・3人のプレーをゲームで活用する。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第15回	バスケットボール(4) ゲーム(チームプレー)ー個人・2人・3人・4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	15回の授業を通し、生涯スポーツの意義や重要性についての考えをまとめる(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点80%(準備・片付け・受講態度など)、レポート等課題提出による評価20%
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		

特になし、必要に応じて資料を配付

履修条件・留意事項等

ジャージ等の運動・スポーツに適した服装・スポーツシューズ(屋内用)を着用して受講すること
屋外で行う場合は屋外用のスポーツシューズを着用して受講すること
天候その他状況により種目が変更となる場合がある
積極的にプレーに参加すること

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 スポーツと健康					
科目名		生涯スポーツ I (2組)				ナンバリング	1196
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	平岡 英樹						
授業の位置づけ							
様々なスポーツについての理解と実践方法を学ぶための科目である。							
</							

- ①スポーツ・運動することの楽しさや重要性を理解することができるようになる。
- ②ルールやマナーを理解し、ゲームを通して仲間を尊重するところを育てることができるようになる。
- ③日常生活において健康への意識を高め、体力の維持・増進を目指せるようになる。
- ④生涯を通じて積極的に且つ楽しく、スポーツや運動に親しむ意識を持ち、それを習慣化できるようになる。

授業の方法

チーム(グループ)分けをし、ゲームを中心として進める。
ゲーム内容や勝敗をもとに、技術の習得やチームワーク等を確認する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしては、ゲームによる個人技術の確認と評価

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業内容についてのガイダンス 授業内容の説明、受講上の注意事項、評価等についての解説する。	シラバスで授業の内容を確認する。(20分)	受講に関しての注意事項等を確認する。(25分)
担当教員			
第2回	ソフトバレーボール(1) 基礎的なパス練習・アタック練習を行う。	ソフトバレーボールとはどのような競技なのかを調べておく。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			
第3回	ソフトバレーボール(2) 練習した技術をゲームの中で活用する	戦術・コンビネーションプレーを考える。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第4回	バドミントン・卓球(1) 基礎・応用練習ーサーブ・様々なストローク・ショットの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基本技術・ルールの確認。(25分)
担当教員			
第5回	バドミントン・卓球(2) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第6回	バレーボール(1) ゲーム(チームプレー)ー2人・3人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第7回	バレーボール② ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第8回	バレーボール③ ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第9回	バレーボール④ ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			

第10回	レクリエーション種目(1) ヘルスパレーボール、テニポン、ピロポロ、ドッジボール等に親しむ	レクリエーション種目にはどのようなものがあるか調べる(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第11回	レクリエーション種目(2) ヘルスパレーボール、テニポン、ピロポロ、ドッジボール等に親しみ理解する	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第12回	バスケットボール(1) 基礎・応用練習ーパス・シュート練習、2人・3人のプレーの練習を行う。	簡単なルールを調べる。(20分)	基礎技術・ルールを確認する。(25分)
担当教員			

第13回	バスケットボール(2) ゲーム(技術の活用)ーパス・シュートをゲームの中で活用する。	簡単なルールを調べる。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第14回	バスケットボール(3) ゲーム(技術の応用)ー個人・2人・3人のプレーをゲームで活用する。	技術・戦術の確認。(20分)	実施の内容と感想を書きとめておく。(25分)
担当教員			
第15回	バスケットボール(4) ゲーム(チームプレー)ー個人・2人・3人・4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術の確認。(20分)	15回の授業を通し、生涯スポーツの意義や重要性についての考えをまとめる(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点80%(準備・片付け・受講態度など)、レポート等課題提出による評価20%
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		

特になし、必要に応じて資料を配付

履修条件・留意事項等

ジャージ等の運動・スポーツに適した服装・スポーツシューズ(屋内用)を着用して受講すること
屋外で行う場合は屋外用のスポーツシューズを着用して受講すること
天候その他状況により種目が変更となる場合がある
積極的にプレーに参加すること

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		教養科目 スポーツと健康					
科目名		生涯スポーツⅡ				ナンバリング	1197
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	平岡 英樹						
授業の位置づけ							
様々なスポーツについての理解と実践方法を学ぶための科目である。							

- ①スポーツ・運動することの楽しさや重要性を理解することができるようになる。
- ②ルールやマナーを理解し、ゲームを通して仲間を尊重するところを育てることができるようになる。
- ③日常生活において健康への意識を高め、体力の維持・増進を目指せるようになる。
- ④生涯を通じて積極的に且つ楽しく、スポーツや運動に親しむ意識を持ち、それを習慣化できるようになる。

授業の方法

チーム(グループ)分けをし、ゲームを中心として進める。
ゲーム内容や勝敗をもとに、技術の習得やチームワーク等を確認する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしては、ゲームによる個人技術の確認と評価

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	授業内容についてのガイダンス 授業内容の説明、受講上の注意事項、評価等について解説する。	シラバスで授業内容を確認する (20分)	受講にあたっての注意事項等を確認する(25分)
担当教員			
第2回	バドミントン・卓球(1) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス ・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認(20分)	実施の内容と感想を書きとめる(25分)
担当教員			
第3回	バドミントン・卓球(2) ゲーム(技術の応用・コンビネーションプレー)ーシングルス ・ダブルスによるゲームを行う。	技術・戦術の確認(20分)	実施の内容と感想を書きとめる(25分)
担当教員			

第4回	バレーボール(1) ゲーム(チームプレー)ー2人・3人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術を確認する(20分)	実施の内容と感想を書きとめる(25分)
担当教員			
第5回	バレーボール(2) ゲーム(チームプレー)ー6人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術を確認する(20分)	実施の内容と感想を書きとめる(25分)
担当教員			
第6回	バスケットボール(1) ゲーム(技術の応用)ー個人・2人・3人のプレーがゲームで活用する。	技術・戦術を確認する(20分)	実施の内容と感想を書きとめる(25分)
担当教員			

第7回	バスケットボール(2) ゲーム(チームプレー) 一個人・2人・3人・4人・5人のプレーを応用したチームプレー(攻撃・守備)でゲームを行う	技術・戦術を確認する(20分)	実施の内容と感想を書きとめる(25分)
担当教員			
第8回	フットサル(1) ゲーム(技術の応用) ルールを理解し、個人・2人・3人のプレーがゲームで活用する。	技術・戦術を確認する(20分)	実施の内容と感想を書きとめる(25分)
担当教員			
第9回	フットサル(2) ゲーム(技術の応用) 一個人技術を活用し、2人・3人のプレーを生かし、5人でゲームを行う。	技術・戦術を確認する(20分)	実施の内容と感想を書きとめる(25分)
担当教員			

第10回	ニュースポーツ(1) 基礎技術を活用しゲームを行う	ニュースポーツにはどのような競技があるかかを調べる(20分)	基本技術・ルールの確認(25分)
担当教員			
第11回	ニュースポーツ(2) 基礎技術・コンビプレーを活用しゲームを行う	技術・戦術を確認する(20分)	実施の内容と感想を書きとめる(25分)
担当教員			
第12回	ニュースポーツ(3) 基礎・応用技術を活用しゲームを行う	技術・戦術を確認する(20分)	実施の内容と感想を書きとめる(25分)
担当教員			

第13回	ニュースポーツ(4) 基礎・応用技術を活用しゲームを行う	技術・戦術を確認する(20分)	実施の内容と感想を書きとめる(25分)
担当教員			
第14回	モルック(1) ルールを理解しゲームを行う。	モルックとはどのような種目なのかを調べる(20分)	基本技術・ルールの確認(25分)
担当教員			
第15回	モルック(2) ルールを理解し、戦術を考えながらゲームを行う。	技術・戦術を確認する(20分)	15回の授業を通し、生涯スポーツの意義や重要性について考え、今後どのように生涯スポーツと関わっていくかまとめる(25分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	平常点80%(準備・片付け・受講態度など)、レポート等課題提出による評価20%
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		

特になし、必要に応じて資料を配付

履修条件・留意事項等

ジャージ等の運動・スポーツに適した服装・スポーツシューズ(屋内用)を着用して受講すること
 屋外で行う場合は屋外用のスポーツシューズを着用して受講すること
 天候その他状況により種目が変更となる場合がある
 積極的にプレーに参加すること

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		人間発達学				ナンバリング	2200
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	横井 裕一郎						
授業の位置づけ							
初年次教育の一環として、専門領域の学習のための基礎を学び、専門用語の読み書きを獲得する科目である。本科目は理学療法学専攻では「小児科学」「子どもの理学療法学」「子どもの理学療法学演習」、作業療法学専攻では「小児科学」、「発達障害作業療法治療学」、「発達障害作業療法学演習」の基礎となる科目である。本科目は理学療法学専攻のディプロマポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技能を身につけている(知識・技能)」と関連しており、特に「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」と強く関連している。また「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる(関心・意欲・態度)」と関連している。また作業療法学専攻では「作業療法を実践するために必要な基本的な知識を身につけている(知識・技能)」、「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。(知識・技能)」と関連している。特に「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。(知識・技能)」と強く関連している。本科目は正常運動発達、認知機能発達、日常生活動作の発達など、年齢ごとに変化していく機能について基本的知識を修得する科目である。							
授業の概要							
この科目では人間発達がいかなるものであるか、それにどのような要因が影響するのかという事を通して、人間は発達するものとしての理解を深める。胎生期から成人するまでの運動、認知能力、社会性、摂食嚥下、家族関係等の発達から、発達上の課題を学ぶ。発達の概念、発達の理論、発達検査、運動発達など様々な発達を学習し、発達に影響を及ぼす要因を理解し、人間の発達がどのように起こり得るかについて理解を深める。さらに成人・老人までを生涯発達と捉え、各ライフステージの課題を理解することで、障害学や疾患との結びつきを考える基礎を学習する。							
到達目標							

1. 人間の発達とは何か説明できる
2. 発達検査・評価の種類を学習して必要に応じた選択ができる
3. 運動発達と姿勢反射の関係を説明できる
4. 子どもの発達には環境が影響することを説明できる

授業の方法

教科書、教科書の内容をわかりやすく説明するためにパワーポイント、動画、配付資料を使用して講義形式ですすめる。理解度を確認するために、講義中にまとめレポート、15回目の講義の中でまとめテストを行う。

ICT活用

Google classroomを使用した事前の資料配付、必要に応じて動画配信を行う。

実務経験のある教員の教育内容

小児理学療法の36年の実務経験があり、現在でも地域の発達支援センターにて、保護者を含めた子どもの発達支援を行っている。新生児・乳幼児から学齢児、大人まで成長した人の支援の経験を元に、発達の遅れの児、発達性協調運動障害などの発達支援に必要な内容を教育する。

課題に対するフィードバックの方法

授業時間内のレポート作成は、授業時間内に課題を提示する。レポートについては授業時間に回収して、確認後、必要に応じて紙面に記載してフィードバックする

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	発達概念について 発達の定義、発達の原則などについて学習する	教科書第1章を読んでおく(90分)	教科書と配布資料の見直し(90分)
担当教員			
第2回	発達の理論 ライフサイクルに沿った心理、精神的な発達について学習する	教科書第2章を読んでおく(90分)	教科書と配布資料の見直し(90分)
担当教員			
第3回	発達検査 子どもを理解するために必要な発達検査を学習する。また障害に応じた発達検査についても学習する	教科書第3章を読んでおく(90分)	教科書と配布資料の見直し(90分)
担当教員			

第4回	姿勢反射・反応 子どもの発達の背景、基盤となる反射・反応を学習する	教科書第4章を読んでおく(90分)	教科書と配布資料の見直し(90分)
担当教員			
第5回	発達① 0～6ヵ月までの知覚運動発達などを学習する。	教科書5章・6章を読んでおく(90分)	教科書と配布資料の見直し(90分)
担当教員			
第6回	発達② 7～12ヵ月までの知覚運動発達などを学習する。	教科書7章・8章を読んでおく(90分)	教科書と配布資料の見直し(90分)
担当教員			

第7回	発達③ 6歳までの知覚運動発達などを学習する	教科書9章・10章を読んでおく (90分)	教科書と配布資料の見直し(90分)
担当教員			
第8回	発達④胎児期 胎児期からすでに発達が始まっていることを学習する	教科書第11章を読んでおく(90分)	教科書と配布資料の見直し(90分)
担当教員			
第9回	発達⑤上肢の発達 上肢は支持機能から操作機能へ発達する。その過程について学習する。	配布資料を読んでおく(90分)	教科書と配布資料の見直し(90分)
担当教員			

第10回	発達⑥言語の発達 言葉の発達の基礎となる心の発達、構音の発達について学習する	配布資料を読んでおく(90分)	教科書と配布資料の見直し(90分)
担当教員			
第11回	発達⑦摂食嚥下の発達 食べる発達の基礎は口腔運動が重要である。また構音の発達とも密接に関係していることを学習する	配布資料を読んでおく(90分)	教科書と配布資料の見直し(90分)
担当教員			
第12回	発達⑧ 遊び・ADL(食事・排泄・更衣動作)の発達について学習する	教科書第12章を読んでおく(90分)	教科書と配布資料の見直し(90分)
担当教員			

第13回	発達⑨ 感覚・知覚・視覚認知・社会性の発達について学習する	教科書第13章を読んでおく(90分)	教科書と配布資料の見直し(90分)
担当教員			
第14回	発達⑩ 学童・青年・成人・老年期の発達について学習する	教科書第14章を読んでおく(90分)	教科書と配布資料の見直し(90分)
担当教員			
第15回	人間発達学の到達度確認	1回目から14回目までの教科書、資料を学習する(300分)	まとめテスト内容の再確認(30分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	到達度の確認テスト(100点満点として1.3倍にして130点換算にする。 授業前・中のレポート作製は1回5点で14回(合計70点)とする。これらを合計して200点満点とし、120点未満の学生は不可、もしくは不可保留とする
その他	0	
教科書		
人間発達学/上杉雅之監修/医歯薬出版		
参考文献		

人間発達学/浅野大喜/メディカルビュー

履修条件・留意事項等

遅刻3回を1回の欠席として計算する。理解度を確認するために予習・復習すること。
授業前・中のレポート作成、到達度確認テストを合わせて6割に達しない場合は、不可もしくは不可保留とし再テストを行う

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		解剖学Ⅰ				ナンバリング	2202
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	木村 一志、池野 秀則						
授業の位置づけ							
理学療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」ことと関係がある科目である。また、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」こととも関係する。 作業療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」ことと関係がある科目である。また、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、作業療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」と「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。(思考・判断・表現)」こととも関係する。 運動学Ⅰ、基礎解剖学実習(理学療法学専攻)、解剖学Ⅲ(作業療法学専攻)、解剖学実習(作業療法学専攻)の基礎となる。							

1. 骨格全体の成り立ち, 個々の骨と筋との関連を説明できる.
2. 関節と靱帯の構造と機能・作用を説明できる.
3. 骨格筋の構造(起始・停止, 走行, 神経支配)とその作用を説明できる.
4. 脊髄・脳の構造と機能を説明できる.
5. 脊髄神経, 脳神経, 自律神経の走行と機能・作用を説明できる.

授業の方法

教科書および配布資料を基にした講義形式で進める.
適宜パワーポイントを用いる.
毎回、講義内容の理解度確認のため、小テストを行う.

ICT活用

適宜Google Classroomにて講義資料や演習問題、補助教材などを配布し、予習・復習と自主学習を促す。
必要に応じてWebアプリのvisible body 等を活用し自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

池野: 老健併設の総合病院に理学療法士としてまた、専門学校で理学療法学科教員として勤務した経験を活かして筋骨格系についての授業を行う。
木村: 該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして小テストは採点后、コメントを付して返却します。
フィードバックとして授業内容への質問は、その質問と回答を履修登録者全員で共有します。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	解剖学総論 解剖学の歴史 骨学総論 骨の種類・形態・構造・骨の成長・骨の機能・滑膜性連結(関節)の形態による分類について学ぶ。	事前に教科書を使って学習内容の範囲を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。(90分)
担当教員	池野 秀則		
第2回	運動器の解剖学 脊柱 脊柱の形・構成、椎骨の一般的特徴、個々の椎骨(頸椎・胸椎・腰椎・仙骨・尾骨)について学ぶ	事前に教科書を使って学習内容の範囲を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。(90分)
担当教員	池野 秀則		
第3回	頭蓋(脳頭蓋・顔面頭蓋)について学ぶ 新生児の頭蓋について学ぶ 胸郭(肋骨・胸椎・胸骨)の連結について学ぶ	事前に教科書を使って学習内容の範囲を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。(90分)
担当教員	池野 秀則		

第4回	上肢帯骨(鎖骨・肩甲骨)、自由上肢骨について学ぶ。 手根管について学ぶ。 上肢の靱帯について学ぶ 手指の関節の呼び方について学ぶ	事前に教科書を使って学習内容の範囲を読んでおくこと.(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと.(90分)
担当教員	池野 秀則		
第5回	下肢帯骨(寛骨)について学ぶ 骨盤(寛骨・仙骨・尾骨)について学ぶ 自由下肢骨について学ぶ ショパール関節・リスフラン関節について学ぶ	事前に教科書を使って学習内容の範囲を読んでおくこと.(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと.(90分)
担当教員	池野 秀則		
第6回	筋学総論 筋の種類、筋の付着、随意筋・不随意筋,平滑筋・横紋筋について学ぶ 起始・停止(停止が起始に近づく回転運動)について学ぶ 筋膜・筋間隔について学ぶ 肘関節に働く筋・支配神経について学ぶ	事前に教科書を使って学習内容の範囲を読んでおくこと.(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと.(90分)
担当教員	池野 秀則		

第7回	前腕(回内・回外)に働く筋と支配神経について学ぶ 肩関節に働く筋と支配神経について学ぶ 上肢帯骨(肩甲骨)挙上・下制に働く筋・支配神経について学ぶ	事前に教科書を使って学習内容の範囲を読んでおくこと.(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと.(90分)
担当教員	池野 秀則		
第8回	上肢帯骨(肩甲骨)内転・外転・上方回旋・下方回旋,上肢帯骨(鎖骨)下制に働く筋・支配神経について学ぶ 手関節に働く筋と支配神経について学ぶ 腱板について学ぶ	事前に教科書を使って学習内容の範囲を読んでおくこと.(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと.(90分)
担当教員	池野 秀則		
第9回	膝関節,股関節に働く筋・支配神経について学ぶ 骨盤挙上に働く筋と神経について学ぶ 股関節の複合運動について学ぶ 下肢の靱帯および鵞足、スカルパ三角について学ぶ	事前に教科書を使って学習内容の範囲を読んでおくこと.(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと.(90分)
担当教員	池野 秀則		

第10回	足関節及び足部に働く筋・支配神経について学ぶ 体幹に働く筋・支配神経について学ぶ 吸気運動(吸気・強制呼気)に働く筋・支配神経について学ぶ 頸部(屈曲・伸展)の筋について学ぶ	事前に教科書を使って学習内容の範囲を読んでおくこと.(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと.(90分)
担当教員	池野 秀則		
第11回	神経系1 神経組織の構成, 神経細胞の構造、神経組織の発生について学ぶ.	事前に配布する講義資料と教科書を使って学習内容の範囲を読んでおくこと.(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと.(90分)
担当教員	木村 一志		
第12回	神経系2 脳の構造・機能 ― 大脳, 小脳, 脳幹, 脳神経について学ぶ.	事前に配布する講義資料と教科書を使って学習内容の範囲を読んでおくこと.(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと.(90分)
担当教員	木村 一志		

第13回	神経系3 脊髄の構造・機能, 脊髄神経, 脊髄反射, 脳脊髄液, 脳と脊髄の血管について学ぶ.	事前に配布する講義資料と教科書を使って学習内容の範囲を読んでおくこと.(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと.(90分)
担当教員	木村 一志		
第14回	感覚器 体性感覚, 視覚, 聴覚・平衡覚, 嗅覚, 味覚の感覚受容器とその神経伝導路について学ぶ.	事前に配布する講義資料と教科書を使って学習内容の範囲を読んでおくこと.(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと.(90分)
担当教員	木村 一志		
第15回	まとめと試験 これまでに学んだ内容についてまとめるとともに、理解の確認を行うためにまとめの試験を行う。	第1～14回の講義内容を復習しておくこと。(150分)	まとめの試験の出題内容について確認しておくこと。(30分)
担当教員	池野 秀則		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	まとめの試験(80%)、 講義ごと的小テスト(10%)、 授業への参加態度(10%)
その他	0	
教科書		
1.PT・OT・STのための解剖学 渡辺正仁監修 廣川書店 2.イラスト解剖学 松村譲児著 中外医学社 3.ネッター解剖学アトラス 相磯貞和・今西宣品監訳 南江堂 4.ネッター解剖学カラーリングテキスト 相磯貞和監訳 南江堂		
参考文献		

なし

履修条件・留意事項等

生理学との関連で理解を深めること。
 6回以上欠席するとこの科目を不可とする。(公欠を含む)
 授業を欠席する場合は事前に連絡すること。
 欠席した場合は必ず欠席届(または公欠届)を提出すること。
 欠席した授業の補講やまとめの試験の追試験を希望する場合は申し出ること。
 欠席理由が病院受診・忌引きなどやむを得ない事由の場合に限り、補講の受講・追試験の受験を認める。
 また、欠席届の提出が無い場合は補講・追試験・再試験の受験を認めない。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		解剖学Ⅱ				ナンバリング	2203
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	池野 秀則						
授業の位置づけ							
理学療法学専攻のディプロマポリシーのうち、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」と「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる(関心・意欲・態度)」ことと関連する。また、作業療法学専攻のディプロマポリシーのうち、「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、作業療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる(関心・意欲・態度)」、「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている(思考・判断・表現)」ことと関連する。 この科目は「生理学Ⅱ」と関連し、「応用解剖学実習」、「内科学」、「病理学」の基礎となる。							

1. 細胞・組織の構造と機能を説明できる.
2. 循環器系の構造と機能を説明できる.
3. 消化器系, 呼吸器系の構造と機能を説明できる.
4. 泌尿器系, 生殖器の構造と機能を説明できる.
5. 内分泌系, 人体発生の基礎について説明できる.

授業の方法

教科書および配布資料を基にした講義形式で進める.
適宜パワーポイントを用いる.
毎回講義の初めに確認小テストを行う.

ICT活用

適宜Webにて学習の補助教材の配布などを予定.

実務経験のある教員の教育内容

老健施設併設総合病院勤務等の経験から理学療法及び作業療法の臨床に即した情報を加えながら講義を進めていく.

課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義開始時に準備学習欄に記載された内容の小テストを行い, 適宜フィードバックとして解説を行う.
この小テストは出席票を兼ねる.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	循環器系1 血液血管の役割 胸大動脈・腹大動脈・頸動脈について学ぶ 上腕動脈～手の動脈について学ぶ	第Ⅳ章循環器系の血液・血管系の役割、血管の構造についてあらかじめよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、とくに血液・血管の役割について確認しておくこと(90分)
担当教員			
第2回	循環器系2 腹腔動脈・上腸間膜動脈・下腸間膜動脈について学ぶ 骨盤の動脈・腹壁動脈について学ぶ 大腿～足の動脈について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の当該部分をよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと(90分)
担当教員			
第3回	循環器系3 静脈系 上大静脈・上肢の静脈・皮静脈について学ぶ 肝門脈・奇静脈・下肢の静脈について学ぶ リンパ系 一次リンパ組織・二次リンパ組織について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の当該部分をよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと(90分)
担当教員			

第4回	循環器系4 心臓の形態と機能について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の当該部分をよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと(90分)
担当教員			
第5回	呼吸器系 気管・気管支・気道の組織について学ぶ 肺の形態と機能について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の当該部分をよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと(90分)
担当教員			
第6回	消化器系1 消化器系の機能と支配神経について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の当該部分をよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと(90分)
担当教員			

第7回	消化器系2 口腔について学ぶ 唾液腺・咽頭・リンパ性咽頭輪について学ぶ 食道について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の当該部分をよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと(90分)
担当教員			
第8回	消化器系3 胃・小腸(十二指腸)について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の当該部分をよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと(90分)
担当教員			
第9回	消化器系4 小腸(空腸・回腸)・大腸について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の当該部分をよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと(90分)
担当教員			

第10回	消化器系5 肝臓・胆嚢・膵臓について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の当該部分をよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと(90分)
担当教員			
第11回	泌尿器系1 腎臓・尿管について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の当該部分をよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと(90分)
担当教員			
第12回	泌尿器系2 膀胱・尿道について学ぶ 生殖器系 男女の生殖器について学ぶ 乳房と乳腺について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の当該部分をよく読んでおくこと(90分)	重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと(90分)
担当教員			

第13回	細胞 核・細胞骨格・器官・組織について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の 当該部分をよく読んでおくこと (90分)	重要事項をノートにまとめ、確認 しておくこと(90分)
担当教員			
第14回	内分泌系 下垂体(前葉・後葉)・松果体・甲状腺・上皮小体・副腎に ついて学ぶ 人体発生の基礎について学ぶ	前回の内容を確認し、教科書の 当該部分をよく読んでおくこと (90分)	重要事項をノートにまとめ、確認 しておくこと(90分)
担当教員			
第15回	まとめの試験 これまで学んだ内容について確認を行う	これまで学んだ授業内容につい てまとめ、復習しておくこと(90分)	わからなかった試験問題につい て調べ、復習しておくこと(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認小テスト10%まよめの試験90%で60%以上を単位取得とする
その他	0	
教科書		
PT・OT・STのための解剖学 渡辺正仁監修 廣川書店 イラスト解剖学 松村謙児著 中外医学社 ネッター解剖学アトラス 相磯貞和訳 南江堂		
参考文献		

履修条件・留意事項等

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		生理学 I				ナンバリング	2210
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	木村 一志						
授業の位置づけ							
理学療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」ことと関係がある科目である。また、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」こととも関係する。 作業療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」ことと関係がある科目である。また、「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。(知識・技能)」、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、作業療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」、「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。(思考・判断・表現)」こととも関係する。 生命科学と関連し、生理学II、生理学III、解剖学II、病理学、生理学演習の基礎となる。							
授業の概要							
医療系分野の必須基礎知識である人体の生理機能を学習する。複雑な人体の生理機能のうち、まずは生体の生命活動を維持するために必要な体液・血液と循環・呼吸、消化と吸収・排泄、ホルモンなどの機能について、解剖学の知識を活用しながら学習する。							
到達目標							

細胞、組織、骨・軟骨、筋、体液・血液、循環に関する基本用語を説明することができる。
骨代謝、筋収縮、循環の仕組みと体液成分の機能を説明することができる。
関連する医学専門書が読解できる。

授業の方法

パワーポイントと配布資料を用いて講義形式で進める。
毎回、講義内容確認のため小テストを行うとともに講義内容への質問・感想を記載してもらう。
最終回にまとめの試験を行う。

ICT活用

講義資料を事前にGoogle Classroomにアップして、予習・復習に活用できるようにする。
授業後に演習問題をGoogle Classroomにアップして復習と自主学習に活用できるようにする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして小テストは採点后、コメントを付して返却します。
フィードバックとして授業内容への質問は、その質問と回答を履修登録者全員で共有します。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	細胞:生命の基本単位である細胞の構成要素と機能について理解する。 細胞内小器官の機能について理解する。細胞が行う生命活動について理解する。	事前配布資料と教科書のp2-6を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第2回	組織:人体を構成する組織について理解する。上皮組織、支持組織、筋組織、神経組織の構造と機能について理解する。 骨・軟骨組織:骨・軟骨・関節の構造と機能について理解する。 骨のリモデリングについて理解する。	事前配布資料と教科書のp133～141を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第3回	筋組織:骨格筋、心筋、平滑筋の構造と機能について理解する。	事前配布資料と教科書のp118-132,p320を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			

第4回	血液、体液1:体液の組成とその働きを理解する。 血液、血球の役割について理解する。	事前配布資料と教科書のp188-193を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第5回	血液、体液2:血液凝固と血栓線溶の仕組みについて理解する。	事前配布資料と教科書のp194-197を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第6回	循環1:血液循環について理解する。心臓の働きと刺激伝導系について理解する。心電図と心周期について理解する。	事前配布資料と教科書のp156-162、p287-294を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			

第7回	循環2:血管と血圧について理解する。血圧調節の仕組みを理解する。リンパ管とリンパ液の循環について理解する。	事前配布資料と教科書のp163-169、p280-286を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第8回	まとめと試験 これまでに学んだ内容についてまとめるとともに、理解の確認を行うためにまとめの試験を行う。	第1～7回の講義内容を復習しておくこと。(150分)	まとめの試験の出題内容について確認しておくこと。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	まとめの試験(80%)、講義ごと的小テスト(10%)、授業参加度(10%)。
その他	0	
教科書		
Crosslink basic リハビリテーションテキスト 生理学、角田亘・後藤純信編集、メジカルビュー社		
参考文献		
PTOT生理学、岡田隆夫・鈴木敦子・長岡正範著、医学書院 標準生理学、本間研一監修、医学書院 生理学テキスト、大地陸男 著、文光堂 シンプル生理学、貴邑富久子・根来英雄著、南江堂 カラーイラストで学ぶ集中講義 生理学、岡田隆夫、メジカルビュー社 細胞の分子生物学、中村桂子・松原健一監訳、ニュートンプレス		
履修条件・留意事項等		

解剖学や生命科学との関連で理解を深めること。
 3回以上欠席するとこの科目を不可とする。(公欠を含む)
 授業を欠席する場合は事前に連絡すること。
 欠席した場合は必ず欠席届(または公欠届)を提出すること。
 欠席した授業の補講やまとめの試験の追試験を希望する場合は申し出ること。
 欠席理由が病院受診・忌引きなどやむを得ない事由の場合に限り、補講の受講・追試験の受験を認める。
 また、欠席届の提出が無い場合は補講・追試験・再試験の受験を認めない。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		生理学Ⅱ				ナンバリング	2211
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	木村 一志						
授業の位置づけ							
理学療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」ことと関係がある科目である。また、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」こととも関係する。 作業療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」ことと関係がある科目である。また、「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。(知識・技能)」、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、作業療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」、「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。(思考・判断・表現)」こととも関係する。 生命科学、生理学Iと関連し、生理学Ⅲ、解剖学Ⅱ、病理学、生理学演習の基礎となる。							
授業の概要							
脳機能を始めとする神経機能と情報伝達、脳血流の維持と血流調節メカニズムについて、細胞レベルから臓器器官まで幅広く理解し、神経・循環障害とリハビリテーションの機能回復について生理科学的観点から学習する。							
到達目標							

呼吸、消化と吸収、代謝、排泄に関する基本用語を説明することができる。
呼吸、消化と吸収、排泄、体液成分調節、代謝の仕組みと体液成分の機能を説明することができる。
関連する医学専門書が読解できる。

授業の方法

パワーポイントと配布資料を用いて講義形式で進める。
毎回、講義内容確認のため小テストを行うとともに講義内容への質問・感想を記載してもらう。
最終回にまとめの試験を行う。

ICT活用

講義資料を事前にGoogle Classroomにアップして、予習・復習に活用できるようにする。
授業後に演習問題をGoogle Classroomにアップして復習と自主学習に活用できるようにする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして小テストは採点后、コメントを付して返却します。
フィードバックとして授業内容への質問は、その質問と回答を履修登録者全員で共有します。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	呼吸1:呼吸器の構造と機能を理解する。 呼吸運動について理解する。	事前配布資料と教科書のp178-181を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第2回	呼吸2:ガス交換、呼吸の調節について理解する。 肺気量曲線と換気障害について理解する。	事前配布資料と教科書のp171-177、p182-187、p298、p304-311を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第3回	消化と吸収1:消化管の基本構造を理解する。唾液の役割とその分泌の仕組みを理解する。 嚥下の仕組みを理解する。 胃、小腸、大腸の働きについて理解する。 排便の仕組みを理解する。	事前配布資料と教科書のp214-218、p222-228を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			

第4回	消化と吸収2:肝臓、膵臓の機能を理解する。 各栄養素の消化と吸収の仕組みについて理解する。	事前配布資料と教科書のp218-222を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第5回	栄養と代謝、体温調節:エネルギー代謝について理解する。 体温調節の仕組みについて理解する。	事前配布資料と教科書のp261-269を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第6回	体液の調節と尿の生成1:腎臓の基本的構造と機能について理解する。 尿の生成過程と体液量調節について理解する。	事前配布資料と教科書のp204-211を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			

第7回	体液の調節と尿の生成2:膀胱と畜尿・排尿の仕組みについて理解する。 体液の酸塩基平衡の仕組みについて理解する。	事前配布資料と教科書のp211-213、p270-277を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第8回	まとめと試験 これまでに学んだ内容についてまとめるとともに、理解の確認を行うためにまとめの試験を行う。	第1～7回の講義内容を復習しておくこと。(150分)	まとめの試験の出題内容について確認しておくこと。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	まとめの試験(80%)、講義ごと的小テスト(10%)、授業参加度(10%)。
その他	0	
教科書		
Crosslink basic リハビリテーションテキスト 生理学、角田亘・後藤純信編集、メジカルビュー社		
参考文献		
PTOT生理学、岡田隆夫・鈴木敦子・長岡正範著、医学書院 標準生理学、本間研一監修、医学書院 生理学テキスト、大地陸男 著、文光堂 シンプル生理学、貴邑富久子・根来英雄著、南江堂 カラーイラストで学ぶ集中講義 生理学、岡田隆夫、メジカルビュー社 細胞の分子生物学、中村桂子・松原健一監訳、ニュートンプレス		
履修条件・留意事項等		

解剖学や生命科学との関連で理解を深めること。
 3回以上欠席するとこの科目を不可とする。(公欠を含む)
 授業を欠席する場合は事前に連絡すること。
 欠席した場合は必ず欠席届(または公欠届)を提出すること。
 欠席した授業の補講やまとめの試験の追試験を希望する場合は申し出ること。
 欠席理由が病院受診・忌引きなどやむを得ない事由の場合に限り、補講の受講・追試験の受験を認める。
 また、欠席届の提出が無い場合は補講・追試験・再試験の受験を認めない。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		生理学Ⅲ				ナンバリング	2212
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	木村 一志						
授業の位置づけ							
理学療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」ことと関係がある科目である。また、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」こととも関係する。 作業療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」ことと関係がある科目である。また、「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。(知識・技能)」、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、作業療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる(関心・意欲・態度)」、「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている(思考・判断・表現)」こととも関係する。 生理学I、IIと関連し、生理学演習、応用解剖学演習(理学療法学専攻)、解剖学実習(作業療法学専攻)の基礎となる。							
授業の概要							
脳機能を始めとする神経機能と情報伝達のメカニズムについて、分子・細胞レベルから臓器に至るまで幅広く学習する。感覚受容、運動調節、自律神経系、内分泌、生殖・発生、脳の可塑性や高次機能の仕組みを生理学的観点から学び、リハビリテーションによる機能回復について理解する。							
到達目標							

神経細胞の活動を理解し、説明することができる。
 神経細胞による情報伝達の仕組みを理解し、説明することができる。
 感覚受容の仕組みを理解し、説明することができる。
 中枢神経系による運動調節の仕組みを理解し、説明することができる。
 自律神経・内分泌や生殖の仕組みを理解し、説明することができる。
 その他の脳の働きを理解し、説明することができる。

授業の方法

パワーポイントと配布資料を用いて講義形式で進める。
 毎回、講義内容確認のため小テストを行うとともに講義内容への質問・感想を記載してもらう。

ICT活用

講義資料を事前にGoogle Classroomにアップして、予習・復習に活用できるようにする。
 授業後に演習問題をGoogle Classroomにアップして復習と自主学習に活用できるようにする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして小テストは採点后、コメントを付して返却します。
 フィードバックとして授業内容への質問は、その質問と回答を履修登録者全員で共有します。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	神経科学概論 神経系の成り立ちについて理解する。脳・脊髄の構造と機能について理解する。	教科書のp19-26を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			
第2回	神経の情報伝達機構 神経情報の伝達メカニズムについて理解する。 イオンチャネルと活動電位、シナプスの構造と機能、神経筋接合部、神経伝達物質について理解する。	事前配布資料や教科書のp7-18を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			
第3回	感覚の受容と脳における情報処理1 視覚、聴覚の受容機構とその神経伝導路を理解する。	事前配布資料や教科書のp98-102、104、105を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			

第4回	感覚の受容と脳における情報処理2 平衡覚、嗅覚、味覚の受容機構とその神経伝導路を理解する。	事前配布資料や教科書のp93、97、98、102、103を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			
第5回	感覚の受容と脳における情報処理3 体性感覚と内臓感覚の受容機構とその神経伝導路を理解する。	事前配布資料や教科書のp87-96を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			
第6回	脳と脊髄による運動制御1 運動野―皮質脊髄路による運動制御の仕組みを理解する。 脊髄反射による運動制御の仕組みを理解する。	事前配布資料や教科書のp34、57-62、79-86を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			

第7回	脳と脊髄による運動制御2 大脳基底核による運動制御の仕組みを理解する。小脳による運動制御の仕組みを理解する。	事前配布資料や教科書のp36-44、52-56を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			
第8回	ゲスト講師(北海道大学医学研究科神谷温之教授)による特別講義 シナプスの可塑性、記憶と学習のメカニズムについて理解する。	事前配布資料を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。(30分)
担当教員			
第9回	視床下部と内分泌、自律神経1 視床下部による下垂体の内分泌制御、交感神経と副交感神経による各臓器の機能調節について理解する。	事前配布資料や教科書のp107-117、229-235を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			

第10回	視床下部と内分泌、自律神経2 松果体、副腎、甲状腺、副甲状腺、膵臓が分泌するホルモンの機能とその調節機構について理解する。	事前配布資料や教科書のp235-243を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			
第11回	生殖と発生 女性生殖器の構造と機能を理解する。男性生殖器の構造と機能を理解する。ヒトの発生と老化について理解する。	事前配布資料や教科書のp244-260、p255-260を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			
第12回	神経発生と脳の可塑性 神経系発生のメカニズムについて理解する。 神経回路形成の仕組みを理解する。 脳の可塑性について理解する。	事前配布資料を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			

第13回	脳と行動、脳の高次機能 脳と行動の関係について理解する。摂食行動、動機づけ、情動、脳波と睡眠について理解する。脳の言語処理機能について理解する。	事前配布資料や教科書のp30-31、p322-325を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			
第14回	成長と老化 成長と老化の過程を理解する。老化により起こる人体生理機能の変化を理解する。	事前配布資料や教科書のp255-260を読んでおくこと。(15分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(30分)
担当教員			
第15回	まとめと試験2 第1-14回までに学んだ内容についてまとめるとともに、理解の確認を行うためにまとめの試験を行う。	第1-14回までの講義内容を復習しておくこと。(40分)	試験の出題内容について確認しておくこと。(5分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	まとめの試験(80%)、 講義ごと的小テスト(10%)、 授業参加度(10%)。
その他	0	
教科書		
Crosslink basic リハビリテーションテキスト 生理学、角田亘・後藤純信編集、メジカルビュー社		
参考文献		

PTOT生理学、岡田隆夫・鈴木敦子・長岡正範著、医学書院
 標準生理学、本間研一監修、医学書院
 神経科学―脳の探求―、藤井聡監訳、西村書店
 エッセンシャル神経科学、前田正信 監訳、丸善
 カールソン神経科学テキスト、中村克樹監訳、丸善
 カンデル神経科学、宮下保司 監訳、メディカルサイエンスインターナショナル
 もっとよくわかる！脳神経科学、工藤佳久著、羊土社

履修条件・留意事項等

解剖学や運動学との関連で理解を深めること。
 6回以上欠席するとこの科目を不可とする。(公欠を含む)
 授業を欠席する場合は事前に連絡すること。
 欠席した場合は必ず欠席届(または公欠届)を提出すること。
 欠席した授業の補講やまとめの試験の追試験を希望する場合は申し出ること。
 欠席理由が病院受診・忌引きなどやむを得ない事由の場合に限り、補講の受講・追試験の受験を認める。
 また、欠席届の提出が無い場合は補講・追試験・再試験の受験を認めない。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		生理学演習(1組)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	木村 一志、大川 浩子、池野 秀則、柴田 恵理子、南部 路治						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」ことと「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」ことに関係がある科目である。 生理学I、II、IIIと関連する。							
授業の概要							
生理学の講義で得た知識をもとに、筋収縮、筋電図、呼吸、循環、感覚(体性感覚、視覚、聴覚)などの測定・観察項目について16名程度を少人数グループとして演習を行い、人体の生理について理解を深める。また、測定したデータをもとに考察を行い、レポート作成することで、論理的な思考を育む。							
到達目標							

実験を行うことにより人体の生理機能を実感する。
実験を通じて人体の構造と機能をより深く理解し、実践・応用、説明ができる。
実験により得られたデータを適切に解析・解釈し、それを基に適切なレポートを作成できる。

授業の方法

実験の目的・方法については演習ガイドによる説明を行い、実験手技についてはデモンストレーションを行う。毎回、異なるテーマの実験を行う。毎回、実験後に実験目的、内容、実験結果および実験結果の解析・解釈をまとめたレポートを作成する。全員が授業計画通り全ての実験を行うが、グループごとに行う実験の順番は異なる。詳細は生理学演習ガイドに記載する。

ICT活用

一部の実験項目については、演習で使用した資料をWebで公開し、レポート作成への活用を促す。

実務経験のある教員の教育内容

木村、池野、大川:該当なし
柴田:理学療法士として勤務した経験を活かして、筋電図の演習の指導を行う。
南部:理学療法士として勤務した経験を活かして、循環の演習の指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしてレポートにコメントを付して返却します。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス 演習ガイドを配布し、実験項目と内容の説明を行うとともにレポートの作成法や評価のポイントについて説明する。 グループ分け、実習室使用のルール、注意事項などについてガイダンスを行う。	なし	なし
担当教員	大川 浩子、池野 秀則、木村 一志、柴田 恵理子、南部 路治		
第2回	筋電図1: 上下肢の表面筋電図の記録 肘関節屈曲・伸展運動時、立ち座り動作時の筋電図を記録する。	演習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	なし
担当教員	大川 浩子、池野 秀則、木村 一志、柴田 恵理子、南部 路治		
第3回	筋電図2: 運動神経伝導速度の測定 刺激部位を変化させることで得られた筋電波形から運動神経伝導速度を算出する。	演習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	なし
担当教員	大川 浩子、池野 秀則、木村 一志、柴田 恵理子、南部 路治		

第4回	筋電図のデータ整理とレポート作成 ・力と筋電図の大きさの関係、収縮様式や関節角度による筋活動の変化を考察する。 ・神経伝導速度から末梢神経の特性と速度に影響する要因を学習する。	なし	期限内にレポートを作成し、提出すること。(240分)
担当教員	大川 浩子、池野 秀則、木村 一志、柴田 恵理子、南部 路治		
第5回	感覚1:視覚 網膜上の盲点の位置測定を行う。 錯視図を参考に視覚のあいまいさを実感する。	演習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	なし
担当教員	大川 浩子、池野 秀則、木村 一志、柴田 恵理子、南部 路治		
第6回	感覚1のデータ整理とレポート作成 網膜の中心(中心窩)から盲点までの距離を推定する。 左目について盲点の存在を確認し、盲点補完作用の意義を考える。	なし	期限内にレポートを作成し、提出すること。(120分)
担当教員	大川 浩子、池野 秀則、木村 一志、柴田 恵理子、南部 路治		

第7回	感覚2:聴覚 気導・骨導聴力を測定する。	演習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	なし
担当教員	大川 浩子、池野 秀則、木村 一志、柴田 恵理子、南部 路治		
第8回	感覚2のデータ整理とレポート作成 気導聴力と骨導聴力の聴覚伝導路の違いを確認する。 聴力レベルと周波数及び年齢との関係を考察する。	なし	期限内にレポートを作成し、提出すること。(120分)
担当教員	大川 浩子、池野 秀則、木村 一志、柴田 恵理子、南部 路治		
第9回	心電図:正常心電図の導出記録 肢導出と胸部導出による心電図の記録を行う。	演習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	なし
担当教員	大川 浩子、池野 秀則、木村 一志、柴田 恵理子、南部 路治		

第10回	血圧測定 聴診法による血圧測定の方法を理解する。 姿勢変換後の経時的な血圧測定を行う。	演習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	なし
担当教員	大川 浩子、池野 秀則、木村 一志、柴田 恵理子、南部 路治		
第11回	心電図・血圧:データ整理とレポート作成 心電図をP, QRS, T波について潜時振幅を測定する。 測定した心電図記録を用いて電気軸を求める。 重力が血圧変動に及ぼす影響について考察する。	なし	期限内にレポートを作成し、提出すること。(240分)
担当教員	大川 浩子、池野 秀則、木村 一志、柴田 恵理子、南部 路治		
第12回	顕微鏡1:骨格筋標本の観察・スケッチ 顕微鏡の使い方を学習する。 骨格筋標本を観察し、筋紡錘をスケッチする。	演習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	なし
担当教員	大川 浩子、池野 秀則、木村 一志、柴田 恵理子、南部 路治		

第13回	顕微鏡1:レポート作成 筋紡錘の機能を調べ、伸張反射の機序を考察する。	なし	期限内にレポートを作成し、提出すること。(120分)
担当教員	大川 浩子、池野 秀則、木村 一志、柴田 恵理子、南部 路治		
第14回	顕微鏡2:血球の観察・スケッチとレポート作成 顕微鏡で血球を観察する。 各血球(赤血球、好中球、好酸球、好塩基球、単球、リンパ球)を区別し、スケッチする。	演習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	なし
担当教員	大川 浩子、池野 秀則、木村 一志、柴田 恵理子、南部 路治		
第15回	顕微鏡2:レポート作成 各白血球(好中球、好酸球、好塩基球、単球、リンパ球)が全白血球に占める比率を求める。 各白血球の機能について考察する。	なし	期限内にレポートを作成し、提出すること。(120分)
担当教員	大川 浩子、池野 秀則、木村 一志、柴田 恵理子、南部 路治		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	全ての授業に出席し、レポートを全て提出しないと単位を認定しない。 レポート(80%)、 授業への積極的参加度(20%)。
その他	0	
教科書		
生理学演習ガイドを配布する。		
参考文献		

新訂生理学実習書、日本生理学会編、南江堂
 コメディカルのための生理学実習ノート、杉春夫著、南江堂
 生理学実習NAVI、大橋敦子監修、医歯薬出版
 生理学I、II、IIIの授業で使用した教科書

履修条件・留意事項等

全ての授業に出席し、レポートを全て提出しないと単位を認定しない。
 演習に積極的に参加すること。
 全てのレポートを期限内に提出すること。
 遅刻・欠席は厳禁。
 白衣、ネームプレート、実習靴を必ず着用すること。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		生理学演習(2組)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	木村 一志、大川 浩子、池野 秀則、柴田 恵理子、南部 路治						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」ことと「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」ことに関係がある科目である。 生理学I、II、IIIと関連する。							
授業の概要							
生理学の講義で得た知識をもとに、筋収縮、筋電図、呼吸、循環、感覚(体性感覚、視覚、聴覚)などの測定・観察項目について16名程度を少人数グループとして演習を行い、人体の生理について理解を深める。また、測定したデータをもとに考察を行い、レポート作成することで、論理的な思考を育む。							
到達目標							

実験を行うことにより人体の生理機能を実感する。
実験を通じて人体の構造と機能をより深く理解し、実践・応用、説明ができる。
実験により得られたデータを適切に解析・解釈し、それを基に適切なレポートを作成できる。

授業の方法

実験の目的・方法については演習ガイドによる説明を行い、実験手技についてはデモンストレーションを行う。毎回、異なるテーマの実験を行う。毎回、実験後に実験目的、内容、実験結果および実験結果の解析・解釈をまとめたレポートを作成する。全員が授業計画通り全ての実験を行うが、グループごとに行う実験の順番は異なる。詳細は生理学演習ガイドに記載する。

ICT活用

一部の実験項目については、演習で使用した資料をWebで公開し、レポート作成への活用を促す。

実務経験のある教員の教育内容

木村、池野、大川:該当なし
柴田:理学療法士として勤務した経験を活かして、筋電図の演習の指導を行う。
南部:理学療法士として勤務した経験を活かして、循環の演習の指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとしてレポートにコメントを付して返却します。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス 演習ガイドを配布し、実験項目と内容の説明を行うとともにレポートの作成法や評価のポイントについて説明する。 グループ分け、実習室使用のルール、注意事項などについてガイダンスを行う。	なし	なし
担当教員	大川 浩子、池野 秀則、木村 一志、柴田 恵理子、南部 路治		
第2回	筋電図1: 上下肢の表面筋電図の記録 肘関節屈曲・伸展運動時、立ち座り動作時の筋電図を記録する。	演習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	なし
担当教員	大川 浩子、池野 秀則、木村 一志、柴田 恵理子、南部 路治		
第3回	筋電図2: 運動神経伝導速度の測定 刺激部位を変化させることで得られた筋電波形から運動神経伝導速度を算出する。	演習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	なし
担当教員	大川 浩子、池野 秀則、木村 一志、柴田 恵理子、南部 路治		

第4回	筋電図のデータ整理とレポート作成 ・力と筋電図の大きさの関係、収縮様式や関節角度による筋活動の変化を考察する。 ・神経伝導速度から末梢神経の特性と速度に影響する要因を学習する。	なし	期限内にレポートを作成し、提出すること。(240分)
担当教員	大川 浩子、池野 秀則、木村 一志、柴田 恵理子、南部 路治		
第5回	感覚1:視覚 網膜上の盲点の位置測定を行う。 錯視図を参考に視覚のあいまいさを実感する。	演習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	なし
担当教員	大川 浩子、池野 秀則、木村 一志、柴田 恵理子、南部 路治		
第6回	感覚1のデータ整理とレポート作成 網膜の中心(中心窩)から盲点までの距離を推定する。 左目について盲点の存在を確認し、盲点補完作用の意義を考える。	なし	期限内にレポートを作成し、提出すること。(120分)
担当教員	大川 浩子、池野 秀則、木村 一志、柴田 恵理子、南部 路治		

第7回	感覚2:聴覚 気導・骨導聴力を測定する。	演習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	なし
担当教員	大川 浩子、池野 秀則、木村 一志、柴田 恵理子、南部 路治		
第8回	感覚2のデータ整理とレポート作成 気導聴力と骨導聴力の聴覚伝導路の違いを確認する。 聴力レベルと周波数及び年齢との関係を考察する。	なし	期限内にレポートを作成し、提出すること。(120分)
担当教員	大川 浩子、池野 秀則、木村 一志、柴田 恵理子、南部 路治		
第9回	心電図:正常心電図の導出記録 肢導出と胸部導出による心電図の記録を行う。	演習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	なし
担当教員	大川 浩子、池野 秀則、木村 一志、柴田 恵理子、南部 路治		

第10回	血圧測定 聴診法による血圧測定の原理を理解する。 姿勢変換後の経時的な血圧測定を行う。	演習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	なし
担当教員	大川 浩子、池野 秀則、木村 一志、柴田 恵理子、南部 路治		
第11回	心電図・血圧:データ整理とレポート作成 心電図をP, QRS, T波について潜時振幅を測定する。 測定した心電図記録を用いて電気軸を求める。 重力が血圧変動に及ぼす影響について考察する。	なし	期限内にレポートを作成し、提出すること。(240分)
担当教員	大川 浩子、池野 秀則、木村 一志、柴田 恵理子、南部 路治		
第12回	顕微鏡1:骨格筋標本の観察・スケッチ 顕微鏡の使い方を学習する。 骨格筋標本を観察し、筋紡錘をスケッチする。	演習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	なし
担当教員	大川 浩子、池野 秀則、木村 一志、柴田 恵理子、南部 路治		

第13回	顕微鏡1:レポート作成 筋紡錘の機能を調べ、伸張反射の機序を考察する。	なし	期限内にレポートを作成し、提出すること。(120分)
担当教員	大川 浩子、池野 秀則、木村 一志、柴田 恵理子、南部 路治		
第14回	顕微鏡2:血球の観察・スケッチとレポート作成 顕微鏡で血球を観察する。 各血球(赤血球、好中球、好酸球、好塩基球、単球、リンパ球)を区別し、スケッチする。	演習ガイドの該当ページをよく読み、実験内容を把握しておくこと。(30分)	なし
担当教員	大川 浩子、池野 秀則、木村 一志、柴田 恵理子、南部 路治		
第15回	顕微鏡2:レポート作成 各白血球(好中球、好酸球、好塩基球、単球、リンパ球)が全白血球に占める比率を求める。 各白血球の機能について考察する。	なし	期限内にレポートを作成し、提出すること。(120分)
担当教員	大川 浩子、池野 秀則、木村 一志、柴田 恵理子、南部 路治		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	全ての授業に出席し、レポートを全て提出しないと単位を認定しない。 レポート(80%)、 授業への積極的参加度(20%)。
その他	0	
教科書		
生理学演習ガイドを配布する。		
参考文献		

新訂生理学実習書、日本生理学会編、南江堂
 コメディカルのための生理学実習ノート、杉春夫著、南江堂
 生理学実習NAVI、大橋敦子監修、医歯薬出版
 生理学I、II、IIIの授業で使用した教科書

履修条件・留意事項等

全ての授業に出席し、レポートを全て提出しないと単位を認定しない。
 演習に積極的に参加すること。
 全てのレポートを期限内に提出すること。
 遅刻・欠席は厳禁。
 白衣、ネームプレート、実習靴を必ず着用すること。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		運動学 I				ナンバリング	2226
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	高田 雄一、金子 翔拓						
授業の位置づけ							
理学療法学専攻のディプロマポリシーのうち、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」ことと特に関連があり、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる(関心・意欲・態度)」ことにも関連する科目である。また、作業療法学専攻のディプロマポリシーのうち、「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」、「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている(思考・判断・表現)」ことと関連がある。 物理学と解剖学 I と関連があり、運動学実習の基礎となる。							
授業の概要							
解剖学、生理学、生体力学を基礎とし、人体の運動・動作における関節運動機能を学ぶ。特に運動器(筋骨格系)の機能解剖を中心に身体運動の特徴を理解する。また、姿勢や動作の分析および解析の基礎を学び、理学療法学、作業療法学の基礎を理解する。							
到達目標							

1. 力学の基礎、運動器の基本構造と機能について理解できる
2. 身体各関節の構造と機能について理解できる
3. 姿勢、歩行の基礎について理解できる

授業の方法

パワーポイントもしくは教科書、その両方を用いた講義形式にて説明する。
各回にテストを実施して理解度を確認する。

ICT活用

Google classroomを用いて課題を提出する。

実務経験のある教員の教育内容

高田、金子ともに整形外科領域のリハビリテーションに従事しており、その経験を踏まえて授業を担当する。

課題に対するフィードバックの方法

1～14回に確認テストを実施して理解度を確認する。
15回目には1～14回の内容についてテストを行い、それまでに学んだ内容について知識の整理と理解を促す。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 運動器の基本構造と機能① 骨・関節と筋の基本構造と機能について学習する	運動学P12-19, 運動学(羊土社) P27-43を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめること(90分)
担当教員	高田 雄一		
第2回	運動器の基本構造と機能② 骨・関節と筋の基本構造と機能について学習する	運動学P12-19, 運動学(羊土社) P27-43を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめること(90分)
担当教員	高田 雄一		
第3回	股関節の運動学について学習する	運動学P55-62, 運動学(羊土社) P118-124を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめること(90分)
担当教員	高田 雄一		

第4回	膝関節の運動学について学習する	運動学P63-72, 運動学(羊土社)P125-134を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめること(90分)
担当教員	高田 雄一		
第5回	足関節の運動学について学習する	運動学P73-82, 運動学(羊土社)P135-147を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめること(90分)
担当教員	高田 雄一		
第6回	脊柱・体幹の運動学① 頸椎・胸椎・胸郭について学習する	運動学P83-90, 運動学(羊土社)P95-110を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめること(90分)
担当教員	高田 雄一		

第7回	脊柱・体幹の運動学② 腰椎・骨盤 顔面および頭部の運動学について学習する	運動学P91-99, 運動学(羊土社) P111-117を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまと めておくこと(90分)
担当教員	高田 雄一		
第8回	生体力学 力と運動、姿勢と姿勢制御について学習する	運動学P2-10, 運動学(羊土社) P10-26, 運動学P111-119, 運 動学(羊土社)P148-152を読ん で予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまと めておくこと(90分)
担当教員	高田 雄一		
第9回	歩行について学習する	運動学P121-130, 運動学(羊土 社)P153-165を読んで予習して おくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまと めておくこと(90分)
担当教員	高田 雄一		

第10回	正常歩行、異常歩行について学習する	運動学P121-130, 運動学(羊土社)P153-165を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめておくこと(90分)
担当教員	高田 雄一		
第11回	肩複合体の運動学について学習する	運動学P21-32, 運動学(羊土社)P63-70を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめておくこと(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第12回	肘関節・前腕の運動学について学習する	運動学P33-42, 基運動学(羊土社)P71-75を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめておくこと(90分)
担当教員	金子 翔拓		

第13回	手関節・手指関節の運動学について学習する①	運動学P43-54, 運動学(羊土社)P76-87を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめておくこと(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第14回	手関節・手指関節の運動学について学習する②	運動学P43-54, 運動学(羊土社)P76-87を読んで予習しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめておくこと(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第15回	全体のまとめとテスト	1-14回までの内容を整理しておくこと(90分)	授業で学んだことを復習してまとめておくこと(90分)
担当教員	高田 雄一		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	1-14回に実施する確認テスト、出席・授業態度等(30%) 15回に実施するテスト:6割以上合格(70%)
その他	0	なし
教科書		
運動学/石川朗、種村留美/株式会社 中山書店 運動学第2版 (PT・OTビジュアルテキスト専門基礎)/山崎敦 /羊土社		
参考文献		

基礎運動学第6版/中村隆一著/医歯薬出版

履修条件・留意事項等

解剖学や生理学との関連で理解を深めること。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		運動学Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	大森 圭、橋田 浩、金子 翔拓、鈴木 信						
授業の位置づけ							
理学療法学専攻のディプロマポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」と特に関連し、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる(関心・意欲・態度)」とも関連する。 作業療法学専攻のディプロマポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」と特に関連し、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」と「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている(思考・判断・表現)」とも関連する。							
授業の概要							
身体運動の基礎となる生体の形体と生理機能について、特に筋骨格系と神経系の理解を深め、運動の発現する一連のプロセス(企画・命令から実施まで)を理解する。さらに身体運動の発達や文化的側面に関する知見に加え、運動を観察・分析する方法について学習する。							
到達目標							

- ・デコおよび重心について説明できる。
- ・床反力、床反力作用点について説明できる。
- ・関節モーメントと筋活動について説明できる。
- ・歩行のバイオメカニクスを説明できる。
- ・四肢の運動学各論を説明できる。
- ・脊柱の運動学各論を説明できる。

授業の方法

パワーポイント、印刷資料を活用しながら講義形式で行う。
確認テストを行い、フィードバックとして確認テストの解説を行う。

ICT活用

小テストや講義は状況に応じてオンライン授業で行う。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

出席と理解度確認を兼ねて小テストを行い、回収後に解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	身体運動のバイオメカニクス①: 力の合成と分解および生体におけるテコについて理解する	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		
第2回	身体運動のバイオメカニクス②: 重心の求め方および速度、加速度について理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		
第3回	身体運動のバイオメカニクス③: 床反力と重心加速度につ いて理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		

第4回	身体運動のバイオメカニクス④:床反力作用点(COP)とは何か理解する。	教科書の該当するchapterを読んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		
第5回	身体運動のバイオメカニクス⑤:関節モーメントのパワーと筋活動について理解する。	教科書の該当するchapterを読んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		
第6回	身体運動のバイオメカニクス⑥:立ち上がりのバイオメカニクスについて理解する。	教科書の該当するchapterを読んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		

第7回	身体運動のバイオメカニクス⑦: 歩き始めのバイオメカニクスについて理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		
第8回	身体運動のバイオメカニクス⑧: 歩行のバイオメカニクス1 重心と床反力作用点について理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	大森 圭		
第9回	身体運動のバイオメカニクス⑨: 歩行のバイオメカニクス2 重心の動きを滑らかにする機能について理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	橋田 浩		

第10回	身体運動のバイオメカニクス⑩:歩行のバイオメカニクス3 歩行の観察—OGIGの方法について理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	橋田 浩		
第11回	運動学各論①:下肢の運動学(股関節、膝関節、足関節) について理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	橋田 浩		
第12回	運動学各論②:脊柱の運動学(顎関節、頸椎、胸椎)につ いて理解する。	教科書の該当するchapterを読 んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	金子 翔拓		

第13回	運動学各論③: 脊柱の運動学(腰椎、骨盤)について理解する。	教科書の該当するchapterを読んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	金子 翔拓		
第14回	運動学各論④: 上肢の運動学(肘関節)について理解する。	教科書の該当するchapterを読んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	鈴木 信		
第15回	運動学各論⑤: 上肢の運動学(手および手指)について理解する。	教科書の該当するchapterを読んでおくこと(90分)	講義の復習をすること(90分)
担当教員	鈴木 信		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	復習テスト(90%) 授業参加態度(10%)
その他	0	なし
教科書		
基礎バイオメカニクス第2版/山本澄子 他 著/医歯薬出版株式会社		
参考文献		

基礎運動学 第6版/中村隆一 他 著/医歯薬出版株式会社
 観察による歩行分析/Kristen Gotz-Neumann著 月城慶一 他 訳/医学書院筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版/Donald A. Neumann/医歯薬出版株式会社

履修条件・留意事項等

特になし

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		運動学実習(1組)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分	実習	単位	1
担当教員	大森 圭、橋田 浩、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」ことと特に関連があり、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる(関心・意欲・態度)」こととも関連する科目である。 運動学Ⅰ・Ⅱと関連し、徒手理学療法学実習の基礎となる。							
</							

- ・運動器(筋・骨格)系の体表解剖を理解し触診ができる
- ・観察による姿勢、歩行、動作の分析ができる
- ・機器を使用した動作分析を理解できる
- ・上肢、手指の運動・動作解析ができる

授業の方法

各授業はじめに配布物やパワーポイント等にて実習の説明と講義を行う。その後、少人数グループに分かれて課題の観察記録や計測を行う。グループごとでディスカッションとまとめを行い、レポート作成し提出する。

ICT活用

原則使用しない。(必要に応じてグーグルクラスルームを活用する。)

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

授業内あるいはオンラインやメール等での質疑応答やディスカッションおよび課題レポートや次回授業時などでフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	・運動器(筋・骨格)と関節運動 下肢下肢二関節筋の運動学的影響について	下肢二関節筋について解剖学 と運動学の復習と知識の整理 (90分)	下肢二関節筋の運動学的影響 についての整理とまとめ (90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		
第2回	・歩き始めの動作解析 歩きはじめのCOPの変化について	歩きはじめの運動学的特徴の復 習と知識の整理 (90分)	歩きはじめのCOPについての整 理とまとめ (90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		
第3回	・定常歩行と応用歩行 歩行中のCOPの変化について	歩行中のCOPについての復習と 知識の整理 (90分)	歩行中のCOPの変化について の整理とまとめ (90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		

第4回	・姿勢観察 座位・立位の姿勢観察について	座位および立位の運動学的特徴の復習と知識の整理 (90分)	座位・立位の姿勢観察の整理とまとめ (90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		
第5回	・動作観察と解析 寝返りおよび立ち上がり動作の観察と運動学的解析	寝返り・立ち上がり動作の運動学的特徴の復習と知識の整理 (90分)	寝返り・立ち上がり動作の整理とまとめ (90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		
第6回	・歩行観察と解析 正常歩行観察と解析について	正常歩行についての復習と知識の整理(90分)	正常歩行観察と解析の整理とまとめ (90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		

第7回	運動器(筋・骨格)と関節運動1・頭頸部、上肢帯と上肢の体表解剖と触診について	頭頸部、上肢帯と上肢の体表解剖の知識の整理(90分)	頭頸部、上肢帯と上肢の体表解剖と触診の確認(90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		
第8回	運動器(筋・骨格)と関節運動2・体幹、下肢帯と下肢の体表解剖と触診について	体幹、下肢帯と下肢の体表解剖の知識の整理(90分)	体幹、下肢帯と下肢の体表解剖と触診の確認(90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		
第9回	上肢の運動学実習1・手指・手関節・前腕・肘関節の運動学実習	手指・手関節運動の整理(90分)	手指・手関節運動の確認とまとめ(90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		

第10回	上肢の運動学実習2・上肢の運動・動作解析実習	手指・手関節運動の整理(90分)	手指・手関節運動の確認とまとめ(90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		
第11回	上肢の運動学実習3 ・ 肩関節・肩甲上腕リズムについて	肩関節・肩甲上腕リズムの知識の整理(90分)	肩関節・肩甲上腕リズムの確認とまとめ(90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		
第12回	上肢の応用的動作・物品操作に関わる運動学と動作分析	上肢の応用的動作の知識の整理(90分)	物品操作に関わる運動学と動作分析の確認とまとめ(90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	参加態度(10%) 課題レポート(90%)
その他	0	なし
教科書		
・観察による歩行分析 訳 月城慶一ら 医学書院 ・基礎運動学 第6版補訂 中村隆一著 医歯薬出版株式会社		
参考文献		

・筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版 Donald A.Neumann 医歯薬出版株式会社

履修条件・留意事項等

必要資料は随時配布します。
実習科目につき、白衣、Tシャツ、短パンを用意してください。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		運動学実習(2組)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分	実習	単位	1
担当教員	大森 圭、橋田 浩、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」ことと特に関連があり、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる(関心・意欲・態度)」こととも関連する科目である。 運動学Ⅰ・Ⅱと関連し、徒手理学療法学実習の基礎となる。							
授業の概要							
運動学を基盤とし、実習において体表解剖、臨床的・運動学的計測を行い、正常な関節構成体の形態および関節運動を理解する。また、機器を用いた動作分析を通して身体の運動様式について理解を深める。さらに、視知覚系が身体運動に与える影響について学習する。							
到達目標							

- ・運動器(筋・骨格)系の体表解剖を理解し触診ができる
- ・観察による姿勢、歩行、動作の分析ができる
- ・機器を使用した動作分析を理解できる
- ・上肢、手指の運動・動作解析ができる

授業の方法

各授業はじめに配布物やパワーポイント等にて実習の説明と講義を行う。その後、少人数グループに分かれて課題の観察記録や計測を行う。グループごとでディスカッションとまとめを行い、レポート作成し提出する。

ICT活用

原則使用しない。(必要に応じてグーグルクラスルームを活用する。)

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

授業内あるいはオンラインやメール等での質疑応答やディスカッションおよび課題レポートや次回授業時などでフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	・運動器(筋・骨格)と関節運動 下肢下肢二関節筋の運動学的影響について	下肢二関節筋について解剖学 と運動学の復習と知識の整理 (90分)	下肢二関節筋の運動学的影響 についての整理とまとめ (90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		
第2回	・歩き始めの動作解析 歩きはじめのCOPの変化について	歩きはじめの運動学的特徴の復 習と知識の整理 (90分)	歩きはじめのCOPについての整 理とまとめ (90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		
第3回	・定常歩行と応用歩行 歩行中のCOPの変化について	歩行中のCOPについての復習と 知識の整理 (90分)	歩行中のCOPの変化について の整理とまとめ (90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		

第4回	・姿勢観察 座位・立位の姿勢観察について	座位および立位の運動学的特徴の復習と知識の整理 (90分)	座位・立位の姿勢観察の整理とまとめ (90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		
第5回	・動作観察と解析 寝返りおよび立ち上がり動作の観察と運動学的解析	寝返り・立ち上がり動作の運動学的特徴の復習と知識の整理 (90分)	寝返り・立ち上がり動作の整理とまとめ (90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		
第6回	・歩行観察と解析 正常歩行観察と解析について	正常歩行についての復習と知識の整理(90分)	正常歩行観察と解析の整理とまとめ (90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		

第7回	運動器(筋・骨格)と関節運動1・頭頸部、上肢帯と上肢の体表解剖と触診について	頭頸部、上肢帯と上肢の体表解剖の知識の整理(90分)	頭頸部、上肢帯と上肢の体表解剖と触診の確認(90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		
第8回	運動器(筋・骨格)と関節運動2・体幹、下肢帯と下肢の体表解剖と触診について	体幹、下肢帯と下肢の体表解剖の知識の整理(90分)	体幹、下肢帯と下肢の体表解剖と触診の確認(90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		
第9回	上肢の運動学実習1・手指・手関節・前腕・肘関節の運動学実習	手指・手関節運動の整理(90分)	手指・手関節運動の確認とまとめ(90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		

第10回	上肢の運動学実習2・上肢の運動・動作解析実習	手指・手関節運動の整理(90分)	手指・手関節運動の確認とまとめ(90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		
第11回	上肢の運動学実習3 ・ 肩関節・肩甲上腕リズムについて	肩関節・肩甲上腕リズムの知識の整理(90分)	肩関節・肩甲上腕リズムの確認とまとめ(90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		
第12回	上肢の応用的動作・物品操作に関わる運動学と動作分析	上肢の応用的動作の知識の整理(90分)	物品操作に関わる運動学と動作分析の確認とまとめ(90分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、金子 翔拓、白戸 力弥、金谷 匡紘		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	参加態度(10%) 課題レポート(90%)
その他	0	なし
教科書		
・観察による歩行分析 訳 月城慶一ら 医学書院 ・基礎運動学 第6版補訂 中村隆一著 医歯薬出版株式会社		
参考文献		

・筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版 Donald A.Neumann 医歯薬出版株式会社

履修条件・留意事項等

必要資料は随時配布します。
実習科目につき、白衣、Tシャツ、短パンを用意してください。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 人体の構造と機能及び心身の発達					
科目名		リハビリテーション工学				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	金谷 匡紘、田中 栄一、梅田 信吾						
授業の位置づけ							
理学療法学専攻のディプロマポリシーのうち、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」ことと特に関連があり、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる(関心・意欲・態度)」こととも関連している。 作業療法学専攻のディプロマポリシーのうち、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」、「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている(思考・判断・表現)」、「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている(思考・判断・表現)」ことと関連している。							
授業の概要							
リハビリテーションのための工学の基礎を理解するために、その歴史、手法、および実際の使用例について学ぶ。特に理学療法士・作業療法士に必要な人体の制御機能および情報処理特性などに関して生体力学・人間工学的観点から、その特性に適合した福祉機器の開発とその利用方法について学習する。加えて、リハビリテーションに関わるテクノロジーについての最新の知見と臨床での適応について学習する。							
到達目標							

リハビリテーション工学の概要を理解し、説明できる。
車いすの種類や構造、その適応について理解し説明できる。
自助具、医療・福祉機器等を用いた生活の支援方法について理解し、説明できる。

授業の方法

パワーポイントと配布資料を用いた講義形式で進める。また、最新のトピックス等の情報も適宜、提供する。
理解度についてまとめのテストを用いて確認する。

ICT活用

Google classroom等を用いた資料提供やフィードバック等を実施する予定である。

実務経験のある教員の教育内容

全ての教員がリハビリテーション工学に携わる実務経験を有する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に適宜、質問を受けます。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	リハ工学総論。リハビリテーション工学の歴史をはじめ福祉機器の開発や医学と工学の連携などリハビリテーション工学の概要を学習する。	これまでの講義で習得したリハビリテーションに関する基礎知識を復習しておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	梅田 信吾		
第2回	車椅子の種類、構造など身体機能に合わせた車椅子の知識や技術について学習する	これまでの講義で習得したリハビリテーションに関する基礎知識を復習しておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	梅田 信吾		
第3回	コミュニケーションとリハ工学 ・コミュニケーション障害とその支援技術について理解する ・コミュニケーション支援が特別な介入ではなく、日常生活の一部であることに気づく	コミュニケーションに関連する解剖学生理学について復習しておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	田中 栄一		

第4回	自助具とリハ工学・3Dプリンタを用いた自助具製作の可能性を知る。 ・自助具の役割と、利用者ごとのニーズに合わせた支援のあり方を理解する ・自助具が個々の日常生活の質を向上させる具体的手段であることを実感する	これまでの講義で習得したリハビリテーションに関する基礎知識を復習しておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	田中 栄一		
第5回	パラスポーツとリハ工学 ・障害者スポーツを体験し、障害を持つ方がスポーツに参加する際の課題や工夫を理解する	これまでの講義で習得したリハビリテーションに関する基礎知識を復習しておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	田中 栄一		
第6回	eスポーツとリハ工学 ・eスポーツにおけるデジタル技術が、リハビリテーションや障害者支援にどのように応用できるかを探る	これまでの講義で習得したリハビリテーションに関する基礎知識を復習しておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	田中 栄一		

第7回	フィールドワーク: 多様な障害の視点で探るバリアフリー環境～ ・多様な障害の視点からバリアや課題を発見し、具体的な改善策を検討する	これまでの講義で習得したリハビリテーションに関する基礎知識を復習しておくこと(90分)	授業の復習をしておくこと(90分)
担当教員	田中 栄一		
第8回	リハビリテーションに関わるテクノロジーの最新トピックスとこれまでの学習のまとめ リハビリテーションに関わるテクノロジーの最新トピックスについて紹介するとともに、その臨床応用についてこれまでの講義内容で得られた知識についてのまとめと、テストを用いて復習し、理解を深める。	これまでの授業で学んだことを復習しておくこと(90分)	全体の授業を通して復習をしておくこと(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	定期試験外テスト(40%)、講義内課題(30%)、講義参加度・レポート課題(30%)
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		
都度紹介する		
履修条件・留意事項等		

8回中3回の欠席で単位の認定が不可

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		病理学				ナンバリング	2300
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	瀧山 晃弘						
授業の位置づけ							
理学療法・作業療法に必要な病理学の基礎的知識・技能を身につけるための科目である。 理学療法学専攻のディプロマポリシーのうち、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」ことと特に関連し、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる(関心・意欲・態度)」ことと関連する科目である。また、作業療法学専攻のディプロマポリシーのうち、「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」、「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている(思考・判断・表現)」、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、作業療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる(関心・意欲・態度)」ことと関連する。 両専攻ともに「微生物・免疫学」、「解剖学Ⅱ」、「生理学Ⅱ」と関連し、「内科学」「脳神経内科学」「整形外科学」「小児科学」「老年医学」「救急医学」の基礎となる。							
授業の概要							
病気の原因やその発症のメカニズムについて、細胞・組織傷害、細胞死と老化、先天異常と遺伝病、代謝障害、循環障害、炎症と感染症、免疫疾患、腫瘍など原因や機序別に分けて学習する。また、それぞれの代表的な疾患に加え、リハビリテーションが介入する代表的な内部障害疾患についての病因・病態について具体的に学ぶ。							
到達目標							

1. 病院病理の役割や病理診断の意義、加えて病理解剖の意義を説明できる。
2. 細胞傷害および細胞死の分類や機序、その形態的特徴を述べることができる。
3. 先天異常や遺伝性疾患、代謝異常、循環障害、腫瘍について、それぞれの病態や種類、発症機序を説明できる。また、それぞれの代表的疾患を挙げ説明できる。
4. 各臓器の代表的疾患について、それぞれの発症機序や病態を説明できる。

授業の方法

パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。
必要に応じてオンライン授業を実施する。

ICT活用

Google ClassroomのGoogleフォームを用いて練習問題を提供し、自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

病理専門医として病理診断や病理解剖などに従事した経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、練習問題の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【病理学総論1.「病理学とは」「細胞傷害」】 病理学の概念と医学における位置付け、医療における病理診断の役割について学ぶ。また、細胞傷害の種類やその機序、及び傷害を受けた細胞組織の形態変化やその修復について学習する。	参考書のpp.14～52を読んでおく。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第2回	【病理学総論2.「先天異常」】 先天異常の種類と代表的な疾患、先天奇形について学ぶ。染色体異常とその代表的疾患として、常染色体の異常によるダウン症候群や、性染色体の異常によるクラインフェルター症候群、ターナー症候群などを学ぶ。また、各種遺伝性腫瘍の概要を学ぶ。	参考書のpp.53～64を読んでおく。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第3回	【病理学総論3.「循環障害」】 体液循環の機構や、局所の循環障害として、血栓、塞栓、梗塞の関係、出血、うつ血と浮腫、ショックについて、また全身循環障害について学ぶ。	参考書のpp.65～75を読んでおく。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			

第4回	【病理学総論4.「炎症」】 炎症に関わる細胞の種類や液性因子、炎症の分類やその転帰について学ぶ。急性炎症の結果としての膿瘍や蜂窩織炎、肉芽組織など、及び慢性非特異性炎症と肉芽腫を形成する特異性炎症との違いについて学ぶ。	参考書のpp.76～87を読んでおく。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第5回	【病理学総論5.「免疫異常とアレルギー」】 免疫と免疫系の細胞、I型からV型までの各種のアレルギー反応、臓器移植と拒絶反応、先天性免疫不全症と後天性免疫不全症候群(AIDS)、臓器特異的自己免疫疾患や膠原病などについて学ぶ。	参考書のpp.88～102を読んでおく。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第6回	【病理学総論6.「感染症」】 感染の原因となる病原体の種類や感染の成立、病原体に対する宿主の反応、病原性と増殖速度、日和見感染、病原体の感染経路、内因性感染症と外因性感染症、劇症型感染症などについて学ぶ。	参考書のpp.103～117を読んでおく。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			

第7回	【病理学総論7.「腫瘍」】 腫瘍の概念や分類、良性腫瘍と悪性腫瘍、上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍の違いとその形態的特徴、発生機序、がんの浸潤・転移や病期、宿主への影響や予後の違い、がんの診断、治療法などについて学ぶ。	参考書のpp.118～134を読んでおく。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第8回	【病理学各論1.「心臓の疾患」「脈管系の疾患」】 狭心症や心筋梗塞などの虚血性心疾患、心筋炎と心筋症、リウマチ熱と感染性心内膜炎、心弁膜症、心房中隔欠損症や心室中隔欠損症などの先天性心疾患、心不全、動脈瘤、動脈硬化症、血管炎などについて学ぶ。	参考書のpp.136～166を読んでおく。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第9回	【病理学各論2.「造血系・リンパ系の疾患」】 巨赤芽球性貧血など各種の貧血、血液凝固因子や血小板の異常による出血性疾患、白血病、多発性骨髄腫などの形質細胞性腫瘍、各種の悪性リンパ腫、リンパ節炎などその他の造血系・リンパ系疾患について学ぶ。	参考書のpp.167～185を読んでおく。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			

第10回	【病理学各論3.「呼吸器系の疾患」】 扁桃炎やアデノイド肥大、鼻咽頭腫瘍、喉頭腫瘍など上気道の疾患、慢性閉塞性肺疾患、拘束性肺疾患、肺塞栓症などの肺血管疾患、肺炎、抗酸菌感染症、肺癌とその主な組織型、その他の肺疾患について学ぶ。	参考書のpp.186~212を読んでおく。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第11回	【病理学各論4.「消化管の疾患」】 白板症や口腔癌、歯源性腫瘍などの口腔・顎部の疾患、胃食道逆流症、食道静脈瘤、食道癌などの食道の疾患、慢性胃炎や胃潰瘍、胃癌、胃の悪性リンパ腫など胃の疾患、炎症性腸疾患や大腸癌など小腸・大腸の疾患について学ぶ。	参考書のpp.213~237を読んでおく。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第12回	【病理学各論5.「肝臓、胆嚢、膵臓の疾患」】 各種ウイルス性肝炎、アルコール性肝疾患、代謝機能障害関連脂肪肝炎、肝硬変、肝細胞癌などの肝臓の疾患、胆石症と慢性胆嚢炎、胆道癌などの胆嚢・胆道の疾患、急性膵炎と慢性膵炎、膵癌などの膵臓の疾患について学ぶ。	参考書のpp.238~254を読んでおく。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			

第13回	【病理学各論6.「泌尿器系、男性生殖器系、女性生殖器系と乳腺、内分泌系の疾患」】 糸球体疾患、腎細胞癌などの泌尿器系の疾患、精巣腫瘍や前立腺過形成、前立腺癌などの男性生殖器系の疾患、子宮頸癌、子宮体癌、乳癌などの女性生殖器系と乳腺の疾患、下垂体腺腫、甲状腺癌など内分泌系の疾患について学ぶ。	参考書のpp.255～323を読んでおく。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第14回	【病理学各論7.「筋・骨格系、皮膚、脳・神経系、眼と耳、全身性疾患」】 筋ジストロフィー、重症筋無力症、骨肉腫などの筋・骨格系の疾患、炎症性皮膚疾患や皮膚の腫瘍、脳血管疾患、頭蓋内感染症、脱髄疾患、主な神経系腫瘍、膠原病やアミロイドーシスなどの全身性疾患について学ぶ。	参考書のpp.324～398を読んでおく。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第15回	【まとめと修了テスト】 第1回から第14回までの総括、及び修了テストを実施する。	第1回から第14回までの内容を復習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各回で実施する小テスト(50%)、第15回の修了テスト(50%)など。詳細は授業中に伝える。
その他	0	なし
教科書		
教科書は指定しないが、参考文献に挙げた『クイックマスター病理学第2版／堤寛著／サイオ出版』を教科書に準ずる参考書として使用する。		
参考文献		

クイックマスター病理学第2版／堤寛著／サイオ出版
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学 第4版／梶原博毅監修／医学書院

履修条件・留意事項等

特記事項なし。

備考欄

特記事項なし。

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		微生物・免疫学				ナンバリング	2262
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	木村 一志						
授業の位置づけ							
理学療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。また、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。(知識・技能)」ことや「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる。(関心・意欲・態度)」とも関係する。 作業療法学専攻のディプロマ・ポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」ことと関係がある科目である。また、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。(知識・技能)」、「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。(思考・判断・表現)」、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、作業療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」こととも関係する。 病理学、救急医学を学ぶ基礎となる。							
授業の概要							
感染症の原因となる病原微生物についてウイルスや細菌、真菌、原虫、寄生虫に分類して、それぞれの生物学的特徴などを学ぶほか、それらの感染症の基本や感染に対する生体防御機構として機能する免疫の基本システムについて、自然免疫と適応(獲得)免疫に分けて学習する。							
到達目標							

1. 細菌・ウイルス・真菌・原虫・蠕虫の種類やそれぞれの特性を説明できる。
2. 微生物感染やそれに対する生体防御機構の種類を説明できる。
3. 生体防御機構の中で重要な免疫に係る細胞や液性因子についてそれぞれの機能を説明できる。
4. 自然免疫の仕組みを説明できる。
5. 獲得(適応)免疫の仕組みを説明できる。
6. 感染症の制御、予防方法について説明できる。

授業の方法

パワーポイントと配布資料を用いて講義形式で進める。
 毎回、講義内容確認のため小テストを行うとともに講義内容への質問・感想を記載してもらう。
 最終回にまとめの試験を行う。

ICT活用

講義資料を事前にGoogle Classroomにアップして、予習・復習に活用できるようにする。
 授業後に演習問題をGoogle Classroomにアップして復習と自主学習に活用できるようにする。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして小テストは採点后、コメントを付して返却します。
 フィードバックとして授業内容への質問は、その質問と回答を履修登録者全員で共有します。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	微生物学1 微生物の分類について理解する。細菌と細菌による感染症を理解する。抗菌薬について理解する。	教科書のp22-25、28-37、97-99を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第2回	微生物学2 ウイルス・プリオンとその感染症を理解する。抗ウイルス薬について理解する。	事前配布資料と教科書のp37-41、p106-110を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第3回	微生物学3 真菌、原虫、蠕虫とその感染症を理解する。抗真菌薬について理解する。	事前配布資料と教科書のp26-28、p110-112を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			

第4回	免疫学1 免疫担当細胞・組織とその機能について理解する。	事前配布資料と教科書のp53-59を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第5回	免疫学2 自然免疫と獲得免疫(適応免疫)の仕組みを理解する。	事前配布資料と教科書のp59-66を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第6回	免疫学3 免疫寛容の仕組みを理解する。 免疫系の疾患を理解する。	事前配布資料と教科書のp66-73を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			

第7回	感染症の制御 社会的に感染症を防ぐ方法を理解する。 滅菌・消毒など感染経路別の予防対策を理解する。	事前配布資料と教科書のp75-96を読んでおくこと。(90分)	講義で説明した重要事項をノートにまとめ、確認しておくこと。授業後に配布する演習問題に取り組むこと。(90分)
担当教員			
第8回	まとめと試験 これまでに学んだ内容についてまとめるとともに、理解の確認を行うためにまとめの試験を行う。	第1～7回の講義内容を復習しておくこと。(150分)	まとめの試験の出題内容について確認しておくこと。(30分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	まとめの試験(80%)、講義ごと的小テスト(10%)、授業参加度(10%)。
その他	0	
教科書		
感染制御の基本がわかる微生物学・免疫学第2版、増澤俊幸著、羊土社		
参考文献		
よく分かる微生物学の基本としくみ/高麗紀寛著/秀和システム シンプル微生物学/小熊恵二・堀田博・若宮伸隆編集/南江堂 新クイックマスター微生物学/西條政幸著/医学芸術社 好きになる免疫学第2版/萩原清文著・山本一彦監/講談社サイエンティフィック わかる！身につく！病原体・感染・免疫、藤本秀士編著、南山堂		
履修条件・留意事項等		

高校の生物基礎の教科書にある免疫の項目について復習してくること。
 3回以上欠席するとこの科目を不可とする。(公欠を含む)
 授業を欠席する場合は事前に連絡すること。
 欠席した場合は必ず欠席届(または公欠届)を提出すること。
 欠席した授業の補講やまとめの試験の追試験を希望する場合は申し出ること。
 欠席理由が病院受診・忌引きなどやむを得ない事由の場合に限り、補講の受講・追試験の受験を認める。
 また、欠席届の提出が無い場合は補講・追試験・再試験の受験を認めない。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		終末期医療				ナンバリング	2312
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	佐藤 明紀						
授業の位置づけ							
理学療法学専攻のディプロマポリシーのうち「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」および「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」と特に関連があり、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる(関心・意欲・態度)」「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる(関心・意欲・態度)」とも関連する科目である。 作業療法学専攻のディプロマポリシーのうち「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、作業療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる(関心・意欲・態度)」と特に関連があり、「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている(思考・判断・表現)」「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる(関心・意欲・態度)」とも関連する科目である。 「内部障害理学療法学」および「内部障害作業療法学」と関連が深い科目として位置付けられている。							
授業の概要							
超高齢社会の日本は、がんをはじめ難病等で終末期を在宅および施設で迎えることが増える多死の時代となってきた。医療・福祉専門職として、寄り添う医療により、患者の死やそれを取り巻く家族等、終末期医療に対する医療の現状や倫理観を学生の修学早期に理解する。あわせて、理学療法士・作業療法士として「生」と「死」に向き合う姿勢を養い、終末期における倫理観および多職種連携の重要性について理解を深める。							
到達目標							

- ・終末期の概念について理解できる。
- ・終末期を支える理学療法士および作業療法士の役割を理解できる。
- ・終末期を支える医療者の役割を理解し、多職種によるチーム医療の重要性について理解できる。

授業の方法

医療の各分野の専門家による講義を含め、講義形式で進める。
必要に応じて、課題の提示やグループワークを実施する。

ICT活用

Google Classroom を活用し、課題提示やアンケートを通して双方向型の授業を行う。
必要に応じて、オンライン授業やオンデマンド形式による授業を実施する。

実務経験のある教員の教育内容

担当教員は理学療法士としての臨床および研究経験を有しており、その実務経験を踏まえて授業を展開する。
また、臨床経験豊富な医療専門職をゲスト講師として招き、多職種で終末期を支える実践について学ぶ機会を設ける。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において課題に対する講評および補足説明を行う。
また、レポート内容に応じて、次回以降の授業において紹介・解説を行うことがある。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	終末期医療の概念および現状と課題について学習する。	講義内容に関連する文献や書籍に目を通しておくこと。(90分)	講義内容を整理し、ノートにまとめること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第2回	医療現場における終末期医療の実際について学習する。	関連文献や資料に目を通しておくこと。(90分)	講義内容をノートにまとめ、理解を深めること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第3回	医療現場および在宅における終末期リハビリテーションについて学習する。	関連文献や資料に目を通しておくこと。(90分)	講義内容を整理し、ノートにまとめること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		

第4回	「生と死」について、グループワークを通して学習する	関連文献や資料に目を通して おくこと。(90分)	グループワークの内容を振り返り、 考察をまとめること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第5回	終末期を支えるⅠ ― 緩和ケア(1)総論 緩和ケアの概念と基本について理解する。(ゲスト講師:未 定)	関連文献や資料に目を通して おくこと。(90分)	講義内容を整理し、ノートにま とめること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第6回	終末期を支えるⅡ ― 緩和ケア(2) コメディカル役割(看護師の立場)について理解する。(ゲ スト講師:山崎)	関連文献や資料に目を通して おくこと。(90分)	講義内容を整理し、ノートにま とめること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		

第7回	終末期を支えるⅢ ― 緩和ケア(3) コメディカルの役割(ソーシャルワーカーの立場)について理解する。(ゲスト講師:高木)	関連文献や資料に目を通して おくこと。(90分)	講義内容を整理し、ノートにまと めること(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第8回	終末期を支えるⅣ ― 緩和ケア(4) 終末期を支える医療人として何ができるかを考察する。(ゲ スト講師:未定)	関連文献や資料に目を通して おくこと。(90分)	講義全体を振り返り、学習内容 を整理すること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	出席態度、授業内の課題、その他のレポートなどを総合的に評価する。レポートは自分の考えを論理的に展開すること。 出席・態度(20%) レポート課題(80%)
その他	0	
教科書		
なし。 必要に応じてパワーポイントなどの資料を配布する。		
参考文献		
DEATH「死」とは何か/文響社 /Shelly Kagan ソフトランディング/BFP/柴田岳三 終末期リハビリテーション臨床アプローチ/MEDUICAL VIEW/安部能成		
履修条件・留意事項等		

特に履修条件は設けない。
授業中は指定された座席に着席すること。
欠席する場合は、所定の手続きを行い、必ず届け出ること。

備考欄

医療者として必要な「考える力」を身に付けることを重視する。
必要に応じて、パワーポイント等の資料を配布する。

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		内科学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	水越 常德、明石 浩史、永洞 明典、諸原 基貴						
授業の位置づけ							
理学療法学専攻のディプロマポリシーのうち、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」と特に関連があり、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」「グローバル化の進展を視野に入れた、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる(関心・意欲・態度)」とも関連する科目である。 作業療法学専攻のディプロマポリシーのうち、「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている(思考・判断・表現)」「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、作業療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる(関心・意欲・態度)」と関連する科目である。 この科目は、「解剖学」「病理学」と関連し、「内部障害理学療法学」「内部障害作業療法学」の基礎となる。							

- ・各内科疾患について 教科書にある Point を理解したうえで説明できる。
- ・各内科疾患の概念、臨床症状、検査所見、治療を説明できる。

授業の方法

- ・教科書、パワーポイントと配布印刷物を用いて、講義形式で行う。
- ・確認テストを行い、自身の理解度を確認する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

確認テストについては、解答後に解説を含めたフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	循環器・腎泌尿器① 循環器の主な疾患である、心不全、虚血性心疾患、心筋疾患、心臓弁膜症、先天性心疾患、高血圧症、動脈硬化、動脈疾患、静脈疾患について学ぶ。	教科書の p95～p176を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	永洞 明典		
第2回	循環器・腎泌尿器② 循環器の主な疾患である、心不全、虚血性心疾患、心筋疾患、心臓弁膜症、先天性心疾患、高血圧症、動脈硬化、動脈疾患、静脈疾患について学ぶ。また、腎泌尿器の代表疾患である、慢性腎臓病、糸球体腎炎(原発性腎疾患)、続発性腎疾患、腎・泌尿器感染症、泌尿器科疾患、腎不全について学ぶ。	前回の学習範囲を復習し、教科書のp95～p176、p375～p438を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	永洞 明典		
第3回	循環器・腎泌尿器③と確認テスト 腎泌尿器の代表疾患である、慢性腎臓病、糸球体腎炎(原発性腎疾患)、続発性腎疾患、腎・泌尿器感染症、泌尿器科疾患、腎不全について学ぶ。また、到達度を確認するテストを行う。	前回の学習範囲を復習し、教科書の p385～p421を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	永洞 明典		

第4回	消化器① 食道の疾患、胃・十二指腸の疾患、大腸の疾患、肛門の疾患について学ぶ。	教科書の p177～p240を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	明石 浩史		
第5回	消化器② 食道の疾患、胃・十二指腸の疾患、大腸の疾患、肛門の疾患について学ぶ。	前回の学習範囲を復習し、教科書の p177～p240を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	明石 浩史		
第6回	肝胆膵① 肝臓疾患、胆道疾患、膵疾患について学ぶ。	教科書の p241～p294を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	明石 浩史		

第7回	肝胆膵②と確認テスト 肝臓疾患、胆道疾患、膵疾患について学ぶ。また、到達度を確認するテストを行う。	前回の学習範囲を復習し、教科書の p241～p294を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	明石 浩史		
第8回	呼吸器① 代表的な疾患である、呼吸器感染症、アレルギー・免疫疾患、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺疾患、気道系疾患、肺腫瘍、肺循環疾患、換気異常、呼吸不全、胸膜疾患、縦隔疾患について学ぶ。	教科書の p25～p84を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	諸原 基貴		
第9回	呼吸器② 代表的な疾患である、呼吸器感染症、アレルギー・免疫疾患、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺疾患、気道系疾患、肺腫瘍、肺循環疾患、換気異常、呼吸不全、胸膜疾患、縦隔疾患について学ぶ。	前回の学習範囲を復習し、教科書の p25～p84を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	諸原 基貴		

第10回	呼吸器③ 代表的な疾患である、呼吸器感染症、アレルギー・免疫疾患、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺疾患、気道系疾患、肺腫瘍、肺循環疾患、換気異常、呼吸不全、胸膜疾患、縦隔疾患について学ぶ。	前回の学習範囲を復習し、教科書の p25～p84を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	諸原 基貴		
第11回	内分泌・代謝① 内分泌疾患である、視床下部・下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患について学ぶ。また、代謝疾患である、糖尿病、低血糖症、肥満症、メタボリックシンドローム、脂質異常症(高脂血症)、痛風／高尿酸血症、ビタミン欠乏症・過剰症について学ぶ。	教科書の p295～p374を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	水越 常德		
第12回	内分泌・代謝② 代謝疾患である、糖尿病、低血糖症、肥満症、メタボリックシンドローム、脂質異常症(高脂血症)、痛風／高尿酸血症、ビタミン欠乏症・過剰症について学ぶ。	前回の学習範囲を復習し、教科書の p295～p374を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	水越 常德		

第13回	感染症と確認テスト 感染症である、細菌性疾患、真菌性疾患、ウイルス性疾患について学ぶ。また、到達度を確認するテストを行う。	8～10回目の学習範囲を復習し、教科書の p595～p636を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	諸原 基貴		
第14回	血液・膠原病① 血液疾患である、赤血球の疾患、白血球の疾患、出血性疾患について学ぶ。また、膠原病、膠原病と同様の全身性炎症性疾患、膠原病に関連した疾患、アレルギー性疾患について学ぶ。	教科書の p511～p594を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	水越 常德		
第15回	血液・膠原病②と確認テスト 血液疾患である、赤血球の疾患、白血球の疾患、出血性疾患について学ぶ。また、膠原病、膠原病と同様の全身性炎症性疾患、膠原病に関連した疾患、アレルギー性疾患について学ぶ。到達度を確認するテストを行う。	11・12、14回の学習範囲を復習し、教科書の p511～p594を予習する。(90分)	授業資料と関連する教科書の範囲を復習する。(90分)
担当教員	水越 常德		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認テスト(90%)、授業の参加度(10%)
その他	0	
教科書		
なるほどなっとく！ 内科学 改訂3版／浅野嘉延／南山堂		
参考文献		

随時紹介する。

履修条件・留意事項等

感染症等により授業の形態が変わる場合は別途説明する。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		整形外科科学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	鈴木 信、橋田 浩						
授業の位置づけ							
理学療法学専攻のディプロマポリシーのうち、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」と特に関連があり、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」「グローバル化の進展を視野に入れた、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる(関心・意欲・態度)」「科学的根拠に基づいた理学療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている(思考・判断・表現)」とも関連する科目である。 作業療法学専攻のディプロマポリシーのうち、「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」と特に関連があり、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている(思考・判断・表現)」「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、作業療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる(関心・意欲・態度)」とも関連する科目である。 この科目は病理学と関連し、運動器障害理学療法学や運動器障害作業療法学の基礎となる。							
授業の概要							
脊柱および四肢の骨格・関節・神経・筋組織は運動器を構成し、身体の運動を司る。運動器の疾患および障害の治療は予防も含めて理学療法士・作業療法士が行う医学的リハビリテーションそのものである。これら運動器に発生する疾患および障害の疫学や予後、病因や症候について学び、その画像や生理的検査に基づく診断と治療を学習するとともに、保存的および外科的治療の適応と方法について理解する。また、高度な機能を要求されるスポーツ外傷や障害の分野においても、その病態と予防および治療について学習する。							
到達目標							

- 1.一般的な整形外科疾患について、疫学、予後、病因、症候、検査所見、画像所見、診断、治療について説明できる。
- 2.一般的な整形外科疾患について、医学的リハビリテーションとの関連性を説明できる。

授業の方法

- 1.教科書を中心に授業を行い、講義形式ですすめる。
- 2.整形外科学領域の一般的疾患の症状に関しては、画像をスライドで示しながら講義をすすめる。
- 3.授業の終わりには質問の時間を設ける。
- 4.理解度の確認として単元毎に小テストを実施する。

ICT活用

Google Classroom、Google Form、Slido Adminを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

担当者は、整形外科専門の医療機関において勤務経験がある。この経験を活かして整形外科学の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

小テストの解説を行う。また、小テストや最終確認テストの結果、合格点に達しなかった場合は、合格点に達するまで繰り返し再テストやレポート課題を実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	・オリエンテーション ・運動器の生理(骨、関節、筋、神経)を理解する	授業内容について教科書の関連する部分(2～38ページ)を読んでもおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第2回	整形外科の治療(保存療法、手術療法)を理解する	授業内容について教科書の関連する部分(76～95ページ)を読んでもおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第3回	上肢の疾患を理解する	授業内容について教科書の関連する部分(96～143ページ)を読んでもおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		

第4回	外傷を理解する	授業内容について教科書の関連する部分(300～345ページ)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第5回	・小テスト1:第1回目～4回目を試験範囲とする ・スポーツ外傷、障害を理解する	小テスト1の試験範囲について教科書の関連する部分およびノートを確認しておくこと。また、授業内容について教科書の関連する部分(346～355ページ)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	鈴木 信		
第6回	下肢の疾患を理解する	授業内容について教科書の関連する部分(144～205ページ)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	鈴木 信		

第7回	・小テスト1の解説を行う ・末梢神経損傷を理解する	授業内容について教科書の関連する部分(276～299ページ)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	鈴木 信		
第8回	・リウマチ性疾患を理解する ・変形性関節症を理解する ・骨系統疾患を理解する	授業内容について教科書の関連する部分(378～433ページ)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	鈴木 信		
第9回	・小テスト2:第5回目～8回目を試験範囲とする ・代謝性骨疾患を理解する	小テスト2の試験範囲について教科書の関連する部分およびノートを確認しておくこと。また、授業内容について教科書の関連する部分(434～449ページ)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	鈴木 信		

第10回	体幹の疾患を理解する	授業内容について教科書の関連する部分(206～275ページ)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	鈴木 信		
第11回	・小テスト2の解説を行う ・老年症候群を理解する	授業内容について教科書の関連する部分(466～473ページ)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	鈴木 信		
第12回	切断、熱傷を理解する	授業内容に関して文献やインターネット等を用いて事前に調べておくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	鈴木 信		

第13回	・小テスト3:第9回目～12回目を試験範囲とする ・整形外科疾患の画像評価を理解する	小テスト3の試験範囲について教科書の関連する部分およびノートを確認しておくこと。また、授業内容に関して文献やインターネット等を用いて事前に調べておくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	鈴木 信		
第14回	・小テスト3の解説を行う ・最終確認テストに向けた総復習	本講義の資料や教科書の関連する部分およびノートを確認しておくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	鈴木 信		
第15回	最終確認テスト	本講義の資料やノート、小テストを全て見直しておくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	鈴木 信		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(10%) 小テスト(30%) 最終確認テスト(60%)
その他	0	なし
教科書		
病気が見える vol.11 運動器・整形外科 第2版 医療情報科学研究所編集 メディックメディア 2024年		
参考文献		

標準整形外科学 第14版 井樋栄二・他編集 医学書院 2020年
リハで読むべき運動器画像 塩野寛大監修 MEDICAL VIEW 2018年

履修条件・留意事項等

聴講に際しては、すでに学んだ運動器の解剖や生理学を十分に復習して臨むこと。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		脳神経内科学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	松谷 学、林 貴士						
授業の位置づけ							
理学療法学専攻のディプロマポリシーのうち、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」ことと特に関連があり、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる(関心・意欲・態度)」、「科学的根拠に基づいた理学療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている(思考・判断・表現)」こととも関連する。 作業療法学専攻のディプロマポリシーのうち、「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」、「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている(思考・判断・表現)」、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、作業療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる(関心・意欲・態度)」ことと関連する。 「病理学」と関連する科目である。							
授業の概要							
脳神経内科疾患は、障害が中枢神経系、末梢神経系、自律神経系、筋肉に及び、小児から高齢者までのリハビリテーション治療の対象として重要である。臨床の現場では神経学的な検査を行い、その結果に基づき適切な治療計画と実施がなされなければならない。講義では、神経系の解剖と機能および画像診断等を理解し、その上で各種の神経・筋疾患の臨床像と病態に基づく治療が理解出来るように計画されている。							
到達目標							

- ・神経学的症候を神経系の解剖、機能と関連付けて述べることができる。
- ・神経学的検査および補助検査を理解し、その臨床的意義を述べることができる。
- ・主な脳神経内科疾患について、その特徴や臨床経過、治療法等について述べることができる。

授業の方法

- ・教科書とパワーポイントを併用して、講義形式で進める。
- ・脳神経内科疾患について、症候や病態の考え方、必要な検査法について、演習でディスカッションを行い、理解を深める。
- ・まとめの講義と質疑応答、および確認テストを2回行い、理解の定着を図る。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

松谷、林ともに脳神経内科診療と脳神経内科疾患のリハビリテーションに長年携わってきた。日本神経学会専門医・指導医、日本内科学会総合内科専門医・指導医、日本認知症学会専門医・指導医の資格を有する。医学部神経内科の非常勤講師、臨床教授として、学生指導に関わってきた経験を活かし、脳神経内科学の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、質疑応答の時間を設ける。期間中2回の確認テストを実施し、終了後に解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	序論： 神経系の基本構造、情報伝達機能、脳神経内科疾患の大まかな全体像を学習する。	教科書の第1章を予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	松谷 学		
第2回	中枢神経系の構造と機能： 中枢神経系を構成する各部位の構造と機能、求心性/遠心性伝導路を学習する。	教科書の第2章を予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	松谷 学		
第3回	末梢神経系の構造と機能： 末梢神経の構造と機能を、脳神経、脊髄神経、神経叢、自律神経を含めて学習する。	教科書の第3章を予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	松谷 学		

第4回	症候学1(運動・感覚系): 神経系の障害された際の症候を学習し、先に学んだ神経解剖や機能と関連付けて述べるができるようにする。神経学的診察法について学ぶ。	教科書の第4章を予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	松谷 学		
第5回	症候学2(高次脳機能): 神経系の障害された際の症候を学習し、先に学んだ神経解剖や機能と関連付けて述べるができるようにする。とくに意識と高次脳機能障害について焦点を当てる。	教科書の第5章を予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	松谷 学		
第6回	神経学的診断と補助検査法: 近年のリハビリテーション臨床で重要な画像検査や各職協働に必要な生理学的検査の基本を学習する。確認テストとその解説(1回目)これまでの講義内容とのまとめと質疑応答。	教科書の第6章を予習する。(90分) これまでの講義内容を教科書を中心として復習、確認する。各章の章末テスト、並びに総論確認テスト(教科書第6章にあり)を各自予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)総論確認テストの内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	松谷 学		

第7回	脳血管障害1: 患者数の多い疾患分野である。脳血管の解剖とその血管障害より生じる症候を学ぶ。 種々の脳血管障害を学ぶ。	教科書の第7章、第8章を予習する。(100分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	林 貴士		
第8回	脳血管障害2: 患者数の多い疾患分野である。脳血管の解剖とその血管障害より生じる症候を学ぶ。 種々の脳血管障害を学ぶ。	教科書の第7章、第8章を予習する。(100分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	林 貴士		
第9回	感染症・自己免疫疾患(脱髄疾患含む): 炎症を基盤とした疾患群を学習する。内科学の感染症・抗原病・自己免疫疾患の領域とも一部関連する。 末梢神経障害・筋疾患: 末梢神経系、筋、神経筋接合部の疾患について学ぶ。内科学の抗原病・自己免疫疾患の領域とも一部関連する。	教科書の第9章、10章を予習する。(各90分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	林 貴士		

第10回	脳腫瘍・頭部外傷： 脳神経外科で扱う手術が必要になることが多い疾患について学習する。治療として手術の必要な神経疾患を特にまとめて学習する。	教科書の第11章を予習する。 (90分)	講義内容を教科書で復習する。 (90分)
担当教員	林 貴士		
第11回	水頭症・代謝性疾患(遺伝形式含む)・脊髄疾患：水頭症、代謝性疾患(先天代謝疾患、代謝性脳症)、脊髄疾患について学習する。	教科書の第12章を予習する。 (90分)	講義内容を教科書で復習する。 (90分)
担当教員	林 貴士		
第12回	神経変性疾患1(運動障害を中心に)： 代表的な神経系の疾患群である運動障害を中心とする神経変性疾患を学ぶ。	教科書の第13章を予習する。 (90分)	講義内容を教科書で復習する。 (90分)
担当教員	林 貴士		

第13回	神経変性疾患2(認知症を中心に):認知症を主体とする神経変性疾患を学習する。	教科書の第14章を予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	林 貴士		
第14回	頭痛、てんかん:頻度の高い発作性の神経疾患を学習する。またこれまでの各論の内容を振り返る。	教科書の第15章を予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。(90分)
担当教員	林 貴士		
第15回	確認テストとその解説(2回目) これまでの講義内容とのまとめと質疑応答。	各章の章末テスト、並びに各論確認テスト(教科書第15章にあり)を各自予習する。(90分)	講義内容を教科書で復習する。確認テストの内容を教科書等で復習する。(90分)
担当教員	林 貴士		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・確認テスト2回(1回目40%、2回目60%) ・出席回数が3分の2に達しない場合は不合格
その他	0	
教科書		
永井知代子/ビジュアル臨床神経学/医歯薬出版株式会社		
参考文献		

- ・川平和美 編集/標準理学療法学・作業療法学専門基礎分野 神経内科学/医学書院
- ・病気の見える⑦脳と神経/メディックメディア
- ・他 随時紹介する。

履修条件・留意事項等

備考欄

比較的に見やすく学習しやすい教科書を指定した。授業には必ず持参し、また各自復習、国家試験、勤務初期に役立てて欲しい。

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		小児科学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	横井 裕一郎						
授業の位置づけ							
理学療法学専攻のディプロマポリシーのうち、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」ことと特に関連があり、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる(関心・意欲・態度)」こととも関連する。 作業療法学専攻のディプロマポリシーのうち、「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」、「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている(思考・判断・表現)」、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、作業療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる(関心・意欲・態度)」ことと関連する。 小児科学は、人間発達学、病理学を基盤とし、次に学ぶ専門科目である「子どもの理学療法学」または「発達障害作業療法治療学」に繋がる科目である。小児の各種疾患の成因や病態および治療を科学的根拠の上に立って理解し、また小児の健康的な発育・発達を支援するための基礎的な知識を獲得するための授業であり、理学療法士や作業療法士となるために、必要な科目である。							
授業の概要							
理学療法士・作業療法士に必要な発達に伴う小児科学の基礎を学習する。特に疾病の概要、運動および精神発達の評価と種々の疾患や障がい基礎について理解する。							
到達目標							

1. 小児の成長や発達に伴う正常な運動および精神発達の評価ができる。
2. 種々の疾患に関する知識を取得, 理解し, それらの説明ができる。
3. 小児リハビリテーションの必要性、概要について説明できる。

授業の方法

教科書を中心に、パワーポイント、動画、配付資料を使用して講義形式ですすめる。配付資料は事前にgoogle classroomに配布する。講義形式で行い、講義中にアクティブラーニングの一環として、講義の1～7回目まで課題レポートを作成する。

ICT活用

講義資料、子どもの動画については、必要に応じてgoogle classroomで共有して、ICT(Information and Communication Technology)機能を活用する。

実務経験のある教員の教育内容

小児施設での実務経験を踏まえた講義を行う。現在でも児童発達支援センター等にて小児理学療法を行い、35年経験している。この経験を生かして小児科の概論から各論まで、また病気、障がいと幅広く講義する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回、提出する課題レポートをチェックして、必要に応じて返却時にコメントを記載してフィードバックする

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 概論:発達・成長、標準的評価方法、小児保健について学習する。	教科書第1章を読む。事前配付資料を読んで必要に応じて印刷すること(90分)	配付資料から授業の内容確認と得られた知識と理解度を確認する(90分)。
担当教員			
第2回	疾患別各論① 先天異常、新生児医療、内分泌疾患、血液疾患、アレルギー疾患、リウマチ、小児がんについて学習する。	教科書第2章の講義該当部分を読む。事前配付資料を読んで必要に応じて印刷すること(90分)	配付資料から授業の内容確認と得られた知識と理解度を確認する(90分)。
担当教員			
第3回	疾患別各論② 呼吸器疾患、消化器疾患、循環器疾患、腎・泌尿器疾患について学習する。	教科書第2章の講義該当部分を読む。事前配付資料を読んで必要に応じて印刷すること(90分)	配付資料から授業の内容確認と得られた知識と理解度を確認する(90分)。
担当教員			

第4回	疾患別各論③ 神経・筋疾患(てんかん, 脳性麻痺、二分脊椎症、筋ジストロフィーなどの筋疾患)と薬物治療について学習する。	教科書第2章の講義該当部分を読む。事前配付資料を読んで必要に応じて印刷すること(90分)	配付資料から授業の内容確認と得られた知識と理解度を確認する(90分)。
担当教員			
第5回	疾患別各論④ 骨・関節疾患(骨形成不全症、先天性多発性関節拘縮症、発育性股関節形成不全、ペルテス病、分娩麻痺など)について学習する	教科書第2章の講義該当部分を読む。事前配付資料を読んで必要に応じて印刷すること(90分)	配付資料から授業の内容確認と得られた知識と理解度を確認する(90分)。
担当教員			
第6回	疾患別各論⑤ 小児精神疾患(自閉症スペクトラム症、注意欠陥多動症、知的発達症、発達性協調運動症など)、眼科・耳鼻科的疾患、重症心身障害児について学習する。	教科書第2章の講義該当部分を読む。事前配付資料を読んで必要に応じて印刷すること(90分)	配付資料から授業の内容確認と得られた知識と理解度を確認する(90分)。
担当教員			

第7回	専門職による介入 小児リハビリテーション(理学療法、作業療法、言語聴覚療法)、小児看護、障害福祉・教育について学習し、ディスカッションを行う。	教科書第3章の講義該当部分を読む。事前配付資料を読んで必要に応じて印刷すること(90分)	配付資料から授業の内容確認と得られた知識と理解度を確認する(90分)。
担当教員			
第8回	到達度の確認	1回目から7回目までの講義、レポート、配付資料を学習する(270分)。	試験の内容について復習する(90分)。
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	72% 第8回目のまとめの振り返り試験 28% 講義中のレポート提出(4点×7回)
その他	0	なし
教科書		
リハビリテーションテキスト 小児科学 メディカルビュー社		
参考文献		
人間発達学/上杉雅之/医歯薬出版(1年次に人間発達学で使用)		
履修条件・留意事項等		

遅刻3回を1回の欠席として計算する。毎回、レポートを作成して提出し、それを4点満点で点数化する。
休んだ場合は、レポート点数は0点とする。公欠の場合は後日レポート提出で点数化する。
総合的に評価を行い、評価段階で60点以下の場合は不可保留とし、再度到達度の確認を行う。ただし極端に点数が低い場合は不可とする。

備考欄

講義資料は事前にgoogle classroomにて提示する。印刷配布はしないのでPC,タブレットで閲覧するか、印刷して持参すること

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		精神医学Ⅰ				ナンバリング	2310
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	瀧山 晃弘						
授業の位置づけ							
理学療法・作業療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけるための科目である。 理学療法学専攻のディプロマポリシーのうち、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」ことと特に関連があり、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる(関心・意欲・態度)」、「科学的根拠に基づいた理学療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている(思考・判断・表現)」ことにも関連する。作業療法学専攻のディプロマポリシーのうち、「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」、「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている(思考・判断・表現)」、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、作業療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる(関心・意欲・態度)」ことと関連する。 また、両専攻ともに「精神医学Ⅱ」、作業療法学専攻においては「精神障害作業療法治療学」の基礎となる。							
授業の概要							
精神疾患患者のリハビリテーション計画を立案する上で必要となる、主要な精神科疾患についての知識を学ぶ。精神障害の分類についての考え方、精神科疾患の概念、疫学的事項、症状、診断、経過、成因と治療の概要について学習する。							
到達目標							

1. 精神医学に関する基本的な知識を理解し、説明できる。
2. 理学療法士・作業療法士としてリハビリテーションを実践していくときに、精神科疾患を持つ患者をよく理解し適切に対応できるようになる。
3. 国家試験「精神医学」範囲の出題を確実に得点できるようになる。

授業の方法

パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。
必要に応じGoogle Classroomでオンライン授業を行う。
第1回から第14回まで、Google ClassroomのGoogleフォームを用いた理解度確認テストを行う。

ICT活用

Google ClassroomのGoogleフォームを用いて練習問題を提供し自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

医師としての臨床経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

小テストのフィードバックとして解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【精神医学総論1.「精神医学とは」】 精神医学の特色を身体医学との比較で学び、かつ協働領域との連携の重要性について学ぶ。また、古代ギリシアから中世のアニミズム的な考え方を経て現代にいたる精神医学の歴史について学ぶ。	参考書のpp.1～10を読んでおくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第2回	【精神医学総論2.「精神障害の成因と分類」・「精神機能の障害と精神症状」①】 精神障害の3つの成因とその概念、精神障害の分類について学ぶ。また、意識とその障害、注意と見当識の障害、精神遅滞や認知症など知能とその障害、性格の分類とその障害について学ぶ。	参考書のpp.11～22を読んでおくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第3回	【精神医学総論3.「精神機能の障害と精神症状」②】 記憶の概念と分類、記憶障害とその分類、感情の概念と不安や抑うつなど感情の障害の種類、欲動と意志の概念とその障害、自我意識の概念と離人体験やさせられ体験など自我意識の障害について学ぶ。	参考書のpp.22～28を読んでおくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			

第4回	【精神医学総論4.「精神機能の障害と精神症状」③】 知覚とその障害としての錯覚、既視感・未視感、幻覚、思考とその障害としての思路の障害、思考体験様式の障害、思考内容の障害としての妄想、病識とその障害、及び主な精神状態像について学ぶ。	参考書のpp.28～38を読んでおくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第5回	【精神医学総論5.「精神機能の障害と精神症状」④】 失語、失行、失認など神経心理学的症状について学ぶ。 Wernicke-Lichtheimの失語図式に基づき運動失語、感覚失語、伝導失語、超皮質運動失語、超皮質感覚失語などの臨床像の分類を学ぶ。	参考書のpp.38～45を読んでおくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第6回	【病理学総論6.「精神障害の診断と評価」①】 精神障害の診断や評価の基本となる精神医学的診察法、病歴の聴取について学ぶ。また、頭部CTやMRI、SPECT、脳波などの身体的検査法の概略について学ぶ。	参考書のpp.46～53を読んでおくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			

第7回	【精神医学総論7.「精神障害の診断と評価」②】 各種知能検査、記銘力検査、Kohs立方体テスト、HDS-R、MMSE、MMPI、ロールシャッハテスト、P-Fスタディなどの各種心理検査法の概要、精神症状や社会生活、主観的QOLの評価法の概略について学ぶ。	参考書のpp.53～67を読んでおくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第8回	【精神医学各論1.「脳器質性精神障害」①】 脳器質性精神障害の経過による症状の特徴、原因となる主な疾患について学ぶ。主な老年期の認知症疾患であるアルツハイマー型認知症、前頭側頭型認知症、レビー小体型認知症、血管性認知症の特徴やリハビリテーションについて学ぶ。	参考書のpp.68～81を読んでおくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第9回	【精神医学各論2.「脳器質性精神障害」②】 パーキンソン病やハンチントン舞踏病など大脳基底核の変性疾患、進行麻痺や単純ヘルペス脳炎などの脳の感染症、頭部外傷と外傷性脳損傷、中毒、脳腫瘍、脱髄性疾患、代謝障害、正常圧水頭症などについて学ぶ。また、てんかんの概念、発作型と病型の分類、発作症状や精神症状の特徴、経過と予後、治療の一般的原則と主な抗てんかん薬、抗てんかん薬の対象となる発作型と主な副作用、ケアとリハビリテーションについて学ぶ。	参考書のpp.81～93, 115～126を読んでおくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			

第10回	【精神医学各論3.「症状性精神障害」】 症状性精神障害の概念と症状の特徴について学ぶ。低血糖、ペラグラ、Wernicke脳症、電解質異常、全身性エリテマトーデスなどの膠原病、甲状腺機能障害など基礎となる主な疾患、治療および経過について学ぶ。	参考書のpp.94～99を読んでおくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第11回	【精神医学各論4.「精神作用物質による精神および行動の障害」】 アルコールや依存性薬物による精神的・社会的障害を理解し、特にアルコール依存症候群に見られるアルコール離脱症候群、アルコール幻覚症、Korsakoff精神病などについて、またAAなどの自助グループについて学ぶ。	参考書のpp.100～114を読んでおくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第12回	【精神医学各論5.「統合失調症およびその関連障害」】 統合失調症がどのような病気か、病型や診断基準、経過と予後、急性期・慢性期における精神症状の特徴、社会生活における制限の特徴、治療法とリハビリテーションの基本について理解する。	参考書のpp.127～148を読んでおくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			

第13回	【精神医学各論6.「気分(感情)障害」①】 気分(感情)障害の概念および病型の分類について学ぶ。 概念の歴史的変遷、うつ病と双極症の主な病型とその経過などに関して学ぶ。	参考書のpp.149～163を読んでおくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第14回	【精神医学各論7.「気分(感情)障害」②】 うつ病と双極症について、症状や経過の特徴、誘因・病因と発症の機制、治療と援助、リハビリテーションのあり方などに関して学ぶ。	参考書のpp.149～163を読んでおくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第15回	【まとめと修了テスト】 第1回から第14回までの総括、及び修了テストを実施する。	第1回から第14回までの内容を復習しておくこと。(90分)	参考書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テストの提出状況(50%)、および最終回の修了テスト(50%)。詳細は授業中に伝える。
その他	0	なし
教科書		
教科書は指定しないが、参考文献に挙げた『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版増補版／上野武治 編集／医学書院』を教科書に準ずる参考書として使用する。		
参考文献		

標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版増補版／上野武治 編集／医学書院
標準精神医学第9版／尾崎紀夫・三村將監修、水野雅文・村井俊哉・明智龍男 編集／医学書院

履修条件・留意事項等

特記事項なし。

備考欄

特記事項なし。

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		リハビリテーション医学				ナンバリング	2314
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	鈴木 信						
授業の位置づけ							
理学療法学専攻では、ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」と特に関係がある科目である。さらに、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる(関心・意欲・態度)」「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる(関心・意欲・態度)」「臨床場面や研究において状況の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけている(思考・判断・表現)」とも関係する。 作業療法学専攻では、ディプロマ・ポリシーの「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる(関心・意欲・態度)」と特に関係がある科目である。さらに、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている(知識・技能)」「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる(関心・意欲・態度)」「臨床場面や研究において状況の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけている(思考・判断・表現)」とも関係する。 両専攻ともにリハビリテーション概論と関連し、チーム医療概論の基礎となる。							
授業の概要							
リハビリテーション医学の実践であるリハビリテーション医療は障害を最小化し、残存能力を最大化するための治療と予防である。本講義ではリハビリテーション治療について、代表的な疾患を通して基本的な考え方を学ぶ。また、リハビリテーション医学とは何かについて学び、あるべき理学療法士像や作業療法士像について考察する。							
到達目標							

1. リハビリテーション医学における障害の捉え方を説明できる.
2. 代表的な疾患に関して, リハビリテーション医学の治療目的を説明できる.
3. リハビリテーション医学の中の理学療法や作業療法の役割を説明できる.

授業の方法

- ・教科書および配布資料に沿って授業を行い, 講義形式ですすめる
- ・授業内において質問の時間を設ける
- ・各回の授業の終わりにGoogle Formを用いて小テストを行い, 授業の振り返りを行う

ICT活用

自主学習支援のため, 講義資料を Google Classroom で配布する.
Google Form を用いた双方向型授業を取り入れる.

実務経験のある教員の教育内容

担当者は医療機関において勤務経験があり, その経験を活かして具体的・実践的な内容を盛り込んで授業を行う.

課題に対するフィードバックの方法

Google Form による小テストで出席者の理解度を確認した上で, 必要な解説を行う.

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション リハビリテーション医療の内容やチームアプローチについて学ぶ	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			
第2回	リハビリテーション医療を実施するための国際生活機能分類について学ぶ	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			
第3回	代表的な運動器疾患の臨床症状と理学療法および作業療法の治療手技について学ぶ	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			

第4回	高齢者に対するリハビリテーション医療の現状について学ぶ	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			
第5回	脳血管障害の臨床症状と理学療法および作業療法の治療手技について, 神経学的な視点から学ぶ	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			
第6回	リハビリテーションの対象となる神経筋疾患の臨床症状について理解し, 理学療法および作業療法の介入目的とその方法について学ぶ	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			

第7回	認知症について, その分類と臨床症状について学ぶ	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			
第8回	内部疾患(呼吸器・循環器疾患)により発生する様々な障害について学ぶ	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト(80%) 授業参加度(20%)
その他	0	
教科書		
リハビリテーション医学／上月正博・高橋仁美 編／メジカルビュー社		
参考文献		
必要に応じて授業中に文献を紹介する		
履修条件・留意事項等		

- ・準備学習が済んでいることを前提に授業をすすめる
- ・質問や確認事項がある場合は、積極的に発言すること
- ・Google Classroom にアクセスできる通信機器を持参のこと

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		老年医学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	瀧山 晃弘、佐々木 幸子、辻 幸美						
授業の位置づけ							
理学療法・作業療法を行うために必要な、老年医学に関連する基本的な専門的知識・技術を身につけるための科目である。 理学療法学専攻のディプロマポリシーのうち、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」ことと特に関連があり、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる(関心・意欲・態度)」、「科学的根拠に基づいた理学療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている(思考・判断・表現)」ことにも関連する。また作業療法学専攻のディプロマポリシーのうち、「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」、「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている(思考・判断・表現)」、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、作業療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる(関心・意欲・態度)」ことと関連する。 この科目は、「病理学」と関連があり、「高齢者理学療法学」「内部障害理学療法学」の基礎となる。							
授業の概要							
超高齢社会を迎え老年学の重要性はいやが上にも増大し、高齢者医療においては、診断や治療を行うのみではなく、社会生活にまで配慮した、全人的医療の実践が望まれる。そのためには医療、リハビリテーション、看護、栄養など専門職のチームによる理解を深めたい。							
到達目標							

1. 老化と老年期を包括的に理解し、説明できる。
2. 高齢者の個別の疾患、障害への理解を深め、応用できる。
3. 高齢者の全人間的復権、リハビリテーション看護などの重要性について理解し、説明できる。

授業の方法

板書と教科書を活用しながら講義形式ですすめる。パワーポイントと配布印刷物も用いる。Google Classroomを用いた理解度確認テストを時間内に行う(全6回程度)。必要に応じてオンライン授業を実施する。
フィードバックとして理解度確認テストの解説を行う。

ICT活用

Google Classroomの小テスト機能を用いて練習問題を提供し、自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

各教員は医師、看護師、薬剤師、理学療法士等の資格に基づく臨床経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

講義の中で小テストについて解説する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	加齢と老化(瀧山晃弘) ・老年学とは ・老化と加齢の定義、老化の機序 ・老化による生理機能の低下 ・老年病と老年症候群	教科書の該当する部分を読んでおくこと。生理学・運動学などを復習しておくこと。(90 分)	内科学・神経内科学・整形外科科学・治療学などの知識と統合すること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第2回	高齢者に特徴的な症候と疾患1(瀧山晃弘) ・循環器疾患 ・呼吸器疾患 ・消化器疾患	教科書の該当する部分を読んでおくこと。生理学・運動学などを復習しておくこと。(90 分)	内科学・治療学などの知識と統合すること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第3回	高齢者に特徴的な症候と疾患2(瀧山晃弘) ・骨・運動器疾患 ・精神・神経疾患 ・耳鼻咽喉疾患 ・眼疾患その他	教科書の該当する部分を読んでおくこと。生理学・運動学・精神医学・臨床心理学などを復習しておくこと。(90 分)	内科学・神経内科学・整形外科科学・治療学などの知識と統合すること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		

第4回	高齢者に特徴的な症候と疾患3 (瀧山晃弘) ・内分泌疾患 ・血液・免疫疾患 ・腎・泌尿器疾患 ・皮膚・口腔疾患	教科書の該当する部分を読んでおくこと。生理学などを復習しておくこと。(90分)	内科学・神経内科学・治療学などの知識と統合すること。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
第5回	高齢者のリハビリテーション1 (佐々木幸子) 高齢者に対するリハビリテーションの特徴、目的、注意点について理解する ・サルコペニア・フレイル ・転倒・骨折 ・変形性関節症	医療概論・リハビリテーション概論などの内容をよく復習しておくこと。(90分)	内科学・神経内科学・整形外科学・治療学などの知識と統合すること。(90分)
担当教員	佐々木 幸子		
第6回	高齢者のリハビリテーション2 (佐々木幸子) 高齢者に対するリハビリテーションの特徴、目的、注意点について理解する ・脳血管疾患 ・循環器疾患 ・呼吸器疾患	医療概論・リハビリテーション概論などの内容をよく復習しておくこと。(90分)	内科学・神経内科学・整形外科学・治療学などの知識と統合すること。(90分)
担当教員	佐々木 幸子		

第7回	老年看護学における理論と実際（辻幸美） 内容:老年看護学の概要や老年看護学の定義、役割 行動目標:医療チームの一員である看護師が基盤としてい る考え方が理解できる。	教科書 34 高齢者の医療、看護 、介護・福祉、保健 B を熟読し ておくこと。(90分)	看護師と連携することで得られる 患者にとってのメリットを考える。 (90分)
担当教員	辻 幸美		
第8回	まとめと修了テスト(瀧山晃弘) 第1回から第7回までの総括、及び修了テストを実施する。	第1回から第7回までの学習内容 を復習しておくこと。(90分)	修了テストを自己採点し、理解 が不十分な点を確認しておくこ と。(90分)
担当教員	瀧山 晃弘		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	一部の講義で小テストを行う(50%)。最終回に修了テストを実施する(50%)。詳細は授業中に伝える。
その他	0	なし
教科書		
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学(第6版)／編集:大内尉義／医学書院		
参考文献		
必要に応じて紹介する。		
履修条件・留意事項等		

積極的に学修すること。

備考欄

特記事項なし。

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		臨床心理学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	松岡 紘史						

授業の位置づけ

理学療法学専攻のディプロマポリシーのうち、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」および「臨床場面や研究において状況の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけている(思考・判断・表現)」と特に関連があり、「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる(関心・意欲・態度)」とも関連する科目である。

作業療法学専攻のディプロマポリシーのうち、「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている(思考・判断・表現)」科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている(思考・判断・表現)」「臨床場面や研究において状況の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけている(思考・判断・表現)」と関連する科目である。

授業の概要

臨床心理学は心理学の古くて新しい応用領域である。伝統的な臨床心理学は精神力動論に基礎を置き、過去に遡っていわゆる心因を求め(病因論)、パーソナリティや内的葛藤を重視、自己洞察と人格成長を援助することを目指してきた。一方、健康心理学や行動医学と一緒に発展してきた新しい臨床心理学は、認知・行動理論に基礎を置き、客観的に得られるデータによって(evidence based medicine)、身体と精神疾患の治療と予防、リハビリテーションへと幅広い、未来志向の多様な援助を目標とする。科学的な方法論に基づいた健康関連行動、疾病関連行動の理解こそ、臨床場面の医師、看護、コメディカルが問題なく共有でき、相互のコミュニケーションに大いに役立つ、医療専門職としての基礎知識といえる。健康と臨床に関係する題材を中心に、医療への応用について学習する。

到達目標

1. 医療の中での臨床心理学の必要性について説明できる。
2. 代表的な臨床心理学的アセスメントの方法について説明できる。
3. 代表的な心理療法について説明できる。
4. 行動理論の代表的な基礎理論を説明できる。
5. 行動理論の代表的なアプローチを説明できる。

授業の方法

パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。
理解度確認テストを実施する(8回)。

ICT活用

google formsを用いた双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

医療機関での臨床心理学の実戦経験を講義におりまぜながら、臨床心理学を用いた患者理解・対応について講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法

理解度確認テストの解答をフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	臨床心理学とは 臨床心理学で対象となる問題行動や不適応症状を学習するとともに、どのような領域で臨床心理学が利用されているかを理解する。	参考文献を中心に臨床心理学の必要性について考えておくこと。(60分)	配布プリントをもとに復習を行うこと。(120分)
担当教員			
第2回	アセスメント 臨床心理学で用いられるアセスメントについて理解する	参考文献を中心に臨床心理学で用いられるアセスメントについて予習しておくこと。(60分)	配布プリントをもとに復習を行うこと。特に、国家試験の過去問については十分復習すること。(120分)
担当教員			
第3回	臨床心理学の諸理論 臨床心理学を代表する、精神力動的理論、人間性心理学について学び、それぞれの理論的立場の異動について理解する。	参考文献を中心に臨床心理学で用いられる心理療法(行動療法以外)について予習しておくこと。(60分)	配布プリントをもとに復習を行うこと。特に、国家試験の過去問については十分復習すること。(120分)
担当教員			

第4回	行動理論:学習理論 臨床心理学の実践で不可欠となってきた行動理論の アプローチの中で, 問題行動の理解の仕方の基礎となる 学習理論について理解する。	参考文献を中心に学習理論に ついて予習しておくこと。(60分)	配布プリントをもとに復習を行う こと。(120分)
担当教員			
第5回	行動理論:機能分析 臨床心理学の実践で不可欠となってきた行動理論の アプローチの中で, 問題行動の理解の仕方の1つである機 能分析を理解する。	参考文献を中心に機能分析に ついて予習しておくこと。(60分)	配布プリントをもとに復習を行う こと。(120分)
担当教員			
第6回	行動理論:行動のコントロール 臨床心理学の実践で不可欠となってきた行動理論の アプローチの中で, 行動のコントロールに関するアプ ローチを理解する。	参考文献を中心に行動のコント ロールの方法について予習して おくこと。(60分)	配布プリントをもとに復習を行う こと。(120分)
担当教員			

第7回	行動理論:認知のコントロール 臨床心理学の実践で不可欠となってきた行動理論のアプローチの中で、認知のコントロールに関するアプローチを理解する。	参考文献を中心に認知のコントロールの方法について予習しておくこと。(60分)	配布プリントをもとに復習を行うこと。(120分)
担当教員			
第8回	行動理論:気分・感情のコントロール 臨床心理学の実践で不可欠となってきた行動理論のアプローチの中で、気分・感情のコントロールに関するアプローチを理解する。	参考文献を中心に気分・感情のコントロールの方法について予習しておくこと。(60分)	配布プリントをもとに復習を行うこと。(120分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験を実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	レポート(60%) 理解度確認テスト(40%)
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
リハベーシック 心理・臨床心理学／内山 靖他編／医歯薬出版株式会社 実践家のための認知行動療法テクニックガイド／鈴木伸一他／北大路書房 認知行動療法事典／日本認知・行動療法学会編／丸善出版		
履修条件・留意事項等		

特になし

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		リハビリテーション栄養学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	佐々木 将太						

授業の位置づけ

【理学療法学専攻】

ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」および「予防医療の観点から、健康の増進や維持、生涯にわたる心身の健康づくりに関して幅広いリハビリテーションを担うことができる(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。また、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適應できる能力を身につけている(知識・技能)」「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる(関心・意欲・態度)」「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる(関心・意欲・態度)」「臨床場面や研究において状況の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけている(思考・判断・表現)」こととも関係する。

【作業療法学専攻】

ディプロマ・ポリシーの「予防医療の観点から、健康の増進や維持、生涯にわたる心身の健康づくりに関して幅広いリハビリテーションを担うことができる(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。また、「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている(思考・判断・表現)」「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる(関心・意欲・態度)」「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、作業療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる(関心・意欲・態度)」こととも関係する。

授業の概要

食事は健康を維持・増進するために欠かせないものである。栄養素の摂取は健康状態と関連し、年齢に適した食事をとることが大切であり、過不足のない状態を維持することが重要である。リハビリテーションを行う際、低栄養状態では十分な効果を期待できないと言われており、対象者の栄養状態の評価を適切に行う必要がある。本科目では、人間の健康および疾病と栄養摂取との関連について学習し、栄養スクリーニングやアセスメントの基礎知識を身につける内容とする。

到達目標

- ・栄養素とその働きを説明できる。
- ・栄養状態の評価に必要な指標，臨床検査値，身体計測法などについて説明できる。
- ・栄養補給法の概略について説明できる。
- ・病態と栄養学的対策との関連を説明できる。
- ・リハビリテーションにおける栄養知識の重要性を説明できる。

授業の方法

スライドおよび配布資料を用いて講義形式で進める。
授業の理解度を深めるため，授業毎に確認小課題を実施する。

ICT活用

授業に関する事項は，Classroom等のgoogleに関連するアプリを用いる。

実務経験のある教員の教育内容

なし

課題に対するフィードバックの方法

課題へのフィードバックは，ルーブリックを通して行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【ガイダンス】【栄養知識の重要性】 栄養、および栄養素の概念とリハビリテーションにおける栄養知識の重要性を学ぶ。 【栄養の基礎① 栄養補給ルート】 治療に用いられる栄養補給法の概略について学ぶ。 【栄養学の基礎② 栄養ケアプロセス】 栄養ケアプロセスの概略について学ぶ。	序章: pp.1-18 第1章 1. 栄養補給ルート: pp.20-22 第1章 7. 栄養ケアプロセス: pp.78-84 を読んでおく (90分)	配布資料および授業内容を整理する (90分)
担当教員			
第2回	【栄養の基礎③ 栄養素の役割】 栄養素代謝の概略について学ぶ。 リハビリテーションを行う患者の必要栄養量を学ぶ。	第1章 3. 栄養素の役割: pp.28-56 を読んでおく (90分)	配布資料および授業内容を整理する (90分)
担当教員			
第3回	【栄養の基礎エネルギー代謝】 エネルギー代謝の概略と消費エネルギーの算出方法を学ぶ。	第1章 2. エネルギー代謝: pp.23-27 を読んでおく (90分)	配布資料および授業内容を整理する (90分)
担当教員			

第4回	【主な病態の栄養療法①低栄養】 低栄養の病態生理・栄養評価と栄養療法を学ぶ。	第2章 1. 低栄養者の栄養管理: pp.86-91を読んでおく(90分)	配布資料および授業内容を整理する(90分)
担当教員			
第5回	【主な病態の栄養療法②摂食嚥下障害, フレイル・サルコペニア】 嚥下障害者の病態生理・栄養評価と栄養療法を学ぶ。 フレイル・サルコペニアの病態生理・栄養評価と栄養療法を学ぶ。	第2章 2. 摂食嚥下障害, 3. フレイル, 4.サルコペニア: pp.92-123 を読んでおく(90分)	配布資料および授業内容を整理する(90分)
担当教員			
第6回	【主な病態の栄養療法③ロコモティブシンドローム】 ロコモティブシンドロームの病態生理・栄養評価と栄養療法を学ぶ。	第2章 5. ロコモティブ・シンドローム: pp.124-128を読んでおく(90分)	配布資料および授業内容を整理する(90分)
担当教員			

第7回	【主な病態の栄養療法④メタボリックシンドローム】 メタボリックシンドロームの病態生理・栄養評価と栄養療法を学ぶ。	第2章 6. メタボリック・シンドローム: pp.129-137を読んでおく (90分)	配布資料および授業内容を整理する (90分)
担当教員			
第8回	【運動（身体活動と栄養）】 身体活動が多い者，多くなる場合の栄養について学ぶ。 【まとめ】 【確認試験】	身体活動と栄養の関連について調べ，興味を持ったことを整理しておく (90分) 1-7回の授業のまとめを作成しておく	配布資料および授業内容を整理する (90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合 (%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業復習課題: 35% レポート課題: 35% 確認試験: 30%
その他	0	なし
教科書		
リハビリテーションに役立つ 栄養学の基礎 [第3版] / 栢下淳・若林秀隆 編著 / 医歯薬出版株式会社		
参考文献		
履修条件・留意事項等		

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		臨床薬理学				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	續 佳代						

授業の位置づけ

理学療法学専攻のディプロマポリシーのうち、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」と特に関連し、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる(関心・意欲・態度)」とも関連する科目である。

作業療法学専攻のディプロマポリシーのうち、「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている(思考・判断・表現)」と特に関連し、「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている(思考・判断・表現)」とも関連する科目である。

授業の概要

医療において薬物治療の位置づけは非常に重要である。薬物治療で症状をコントロールしながら作業療法、理学療法を受けていることをいつも考えていなければならない。講義では臨床で頻繁に使用する薬剤の種類、薬効、副作用、および薬物相互作用について概説する。医療現場で患者への投薬状況を的確に把握できる知識を習得する。

到達目標

- ・剤形の種類と投与方法、体内における吸収、代謝、排泄までを概説できる。
- ・各疾患治療薬の薬効と副作用を概説できる。
- ・薬と薬、薬と食品やサプリメントの相互作用について概説できる。

授業の方法

パワーポイントを用いて講義形式ですすめる。毎回配布する国家試験対策問題で知識が深まるように解説する。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回配布する国家試験対策問題は講義内でフィードバックします。
復習試験を実施し回収後、問題の解説をします。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	・作業療法士、理学療法士が薬理学を学ぶ意義について理解する。 ・薬に関する基礎知識(薬の名称、薬の剤形、投与経路と吸収、体内動態、薬物作用部位、主作用と副作用など)を理解する。	自分のお薬手帳に記載されている薬品名、用法・容量など、まず薬に興味を持つこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第2回	薬物依存症 ・薬物の依存、耐性、逆耐性現象、離脱症状について理解する。 ・依存性薬物の種類と心身に及ぼす作用の特徴について理解する。	シラバスを参考にあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布した国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第3回	末梢神経の疾患と薬 ・自律神経系における情報伝達を理解する。 ・副交感神経系作用薬について理解する。 ・交感神経系作用薬について理解する。 ・痙縮治療薬について理解する。	シラバスを参考にあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布する国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			

第4回	中枢神経系の疾患と薬 ・神経伝達物質と受容体の関係を理解する。 ・中枢神経系の疾患(てんかん、パーキンソン病、アルツハイマー病、統合失調症)の治療薬について理解する。	シラバスを参考にあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布する国家試験問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第5回	中枢神経系の疾患と治療薬 ・中枢神経系疾患(不眠症、睡眠障害、うつ病、双極性障害、神経症性障害、注意欠如・多動性障害、ナルコレプシー)の治療薬について理解する。	シラバスを参考にあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布する国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第6回	循環器系の疾患と薬 ・狭心症、心筋梗塞の治療薬について理解する。 ・抗凝固薬、抗血小板薬、血栓溶解薬について理解する。 ・高血圧治療薬、利尿薬について理解する。	シラバスを参考にあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布する国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			

第7回	抗炎症薬、鎮痛薬 ・炎症、痛みと抗炎症薬、鎮痛薬について理解する。 ・抗炎症薬(ステロイド剤、NSAIDs)について理解する。 ・鎮痛薬(オピオイド鎮痛薬、非オピオイド鎮痛薬、神経障害性鎮痛薬)について理解する。 抗リウマチ薬 ・抗リウマチ薬について理解する。	シラバスを参考にあらかじめ教科書を読んでおくこと。(90分)	講義で配布する国家試験対策問題を復習すること。(90分)
担当教員			
第8回	第1回目から第7回目までのまとめの復習試験と解説を行う。	第1回目から第7回目までに配布した問題を学習しなおし、復習試験の準備をしておくこと。(90分)	復習試験の問題を復習すること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	8回目の筆記による復習試験(90点)と薬理学に関する課題(10点)で評価する。
その他	0	
教科書		
薬がみえる vol.1 (第2版)メディックメディア		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		

講義は8回ですので3回以上の欠席で単位不認定となります。
8回目の復習試験は必ず受験して下さい。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		救急医学				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	俵 敏弘、高橋 信行						
授業の位置づけ							
理学療法学専攻のディプロマ・ポリシーである「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる。(関心・意欲・態度)」と関連がある。また、作業療法学専攻のディプロマ・ポリシーである「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」、「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。(知識・技能)」、「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。(思考・判断・表現)」と関係がある。この科目は「微生物・免疫学」と「病理学」に関連する科目である。							
授業の概要							
急病や事故などの救急状況は思いもよらぬ時に起き、誰もが遭遇する可能性がある。このような救急状況に遭遇した時に、冷静に状況を判断し応急処置を行うことが重要である。本科目では、救急医療についての概念を学ぶとともに、基本的な応急処置の方法を、実技を通して身につけることを目的とする。							
到達目標							

(1) 医療施設以外の場所で正しい応急処置を行うことができる。
 (2) 外傷に対する応急処置の必要性を説明することができる。
 (3) 生命の危険を生じる危険性の高い疾患について説明することができる。
 (4) 正しい一次救命処置を実施することができる。

授業の方法

スライドを中心に講義を行う。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

救急専門医等が講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法

試験結果についてフィードバックを行う予定である。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	外傷(1)皮膚の損傷 応急処置、病院での処置、皮膚の構造、生体の防御反応、皮膚表面の細菌、皮膚の再生	皮膚の損傷について、予習をしておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	俵 敏弘		
第2回	外傷(2)骨折・脱臼・捻挫 応急処置、病院での処置、骨の構造、骨折の合併症、関節の構造、四肢の骨折・捻挫・脱臼	骨折・脱臼・捻挫について、予習をしておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	高橋 信行		
第3回	外傷(3)重要臓器の外傷 応急処置、病院での処置、頭部外傷、頭蓋内血腫、頸髄損傷、胸部外傷	臓器の仕組みについて、予習をしておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	俵 敏弘		

第4回	外傷(4)出血 応急処置、病院での処置、大量出血とショック、輸血、血液と感染症、止血機能障害	出血が身体に及ぼす影響を予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	俵 敏弘		
第5回	疾病(1)体温異常・熱傷・感電 応急処置、病院での治療、発熱と解熱、熱傷と凍傷、体温調節、感電	体温調節における生理学的機序について予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	俵 敏弘		
第6回	疾病(2)中毒 応急処置、病院での治療、ガス中毒、食中毒、アナフィラキシー	中毒にはどのようなものがあるかを予習しておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。(90分)
担当教員	俵 敏弘		

第7回	(疾病3) 心筋梗塞・脳梗塞 血管病変の救急。	心筋梗塞・脳梗塞について復習 しておくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。 (90分)
担当教員	俵 敏弘		
第8回	定期試験外試験とまとめ	試験範囲について復習をして おくこと。(90分)	授業内容を復習しておくこと。 (90分)
担当教員	俵 敏弘		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	まとめ試験の成績(100%)
その他	0	
教科書		
指定しない。		
参考文献		
指定しない。		
履修条件・留意事項等		

グーグルフォームによる出席入力を行うため、スマートフォンなどの端末を持参すること。

備考欄

非常勤講師の都合上、授業はシラバス順また、時間割通りとならないことがある。この場合、なるべく早めに予定を通知する。

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進					
科目名		言語障害治療学				ナンバリング	
配当年度	2年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	金浜 悦子						

授業の位置づけ

臨床現場で接する言語聴覚及び嚥下障害全般にわたる専門的な知識を得ることにより、患者や地域で暮らす利用者とのコミュニケーション能力を高めることができ、より良いリハビリテーションの提供ができる。又、当事者をとりまくあらたな環境整備を考えるための応用力を身につけることを目的とする。理学療法学専攻のディプロマポリシーのうち、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」ことと特に関連があり、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる(関心・意欲・態度)」ことにも関連する。作業療法学専攻のディプロマポリシーのうち、「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」、「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている(思考・判断・表現)」ことと関連する。

授業の概要

言語障害治療学の定義、言語障害の分類を理解し、各障害について、その特性、評価、治療、予防、指導、生活上の関わり方について学習する。具体的には構音障害、声の障害、吃音、口蓋裂、脳性麻痺障害、言語発達遅滞、失語症等について学習する。

到達目標

・言語(失語症を中心に)や聴覚障害者とのコミュニケーション技術、支援方法を習得する。
・医療、福祉、教育の現場等においての言語聴覚士の領域の専門的な知識について理解を深めることで、チームとしてより良い連携をし幅広い対応ができるセラピストになる。

授業の方法

教科書、配布資料、パワーポイントを用いての講義形式で行う。失語症者との接し方については実践体験を行う予定。

ICT活用

特に予定なし

実務経験のある教員の教育内容

言語聴覚士として、医療機関、訪問看護ステーション、介護保険施設に勤務し、現在はNPO法人で失語症に特化した支援活動に取り組む。臨床経験を活かし、言語障害全般のとらえ方や支援方法について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

各講義のポイントを教科書や配布資料に則って復習チェックしておく。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【オリエンテーション】言語聴覚士の成り立ちや仕事内容などを紹介する。又言葉の持つ役割やしぐみ、主な言語障害の種類について学ぶ。	教科書巻頭カラーページP2～16を読む(90分)	配布資料を復習し、確認事項を整理する。(90分)
担当教員			
第2回	【失語症①定義・症状】失語症とは、発話のみに限らず理解の障害であることを学ぶ。又、主な失語のタイプの症状や特徴を知り、失語症を正しく理解する。	第1章 失語症P24～47を読む(90分)	配布資料を読み返し、確認事項を整理する。(90分)
担当教員			
第3回	【失語症②評価・訓練内容】様々なタイプがある失語症を評価する方法や観察点について、又接し方のコツについてを学ぶ。	第1章 失語症P48～58を読む(90分)	教科書・配布資料を読み、小テストに備える。(90分)
担当教員			

第4回	【失語症③会話実践体験・小テスト】失語症者との会話場面を想定し、接し方や会話のコツについて実践を通して学ぶ。まとめとして失語症について的小テストを行う。	配布資料の接し方のコツを読み、次回実践学習に備える。(90分)	配布資料を読み返し、確認事項を整理する。(90分)
担当教員			
第5回	【摂食嚥下障害①】高齢者の死亡原因の上位とされる摂食嚥下障害について嚥下機能や障害の特徴について学ぶ。	第Ⅰ部第4章摂食嚥下障害p86～94を読む(90分)	配布資料を読み返し、確認事項を整理する。小テストのためのポイントをチェックする(90分)
担当教員			
第6回	【摂食嚥下障害②】嚥下障害の評価時の観察点や簡易検査の方法、訓練内容や対応を理解し、多職種がチームとなり関わる重要性を知る。摂食嚥下障害について小テストを実施する。	第Ⅰ章第4部摂食嚥下障害p90～94を読む(90分)	配布資料を読み返し、確認事項を整理する。(90分)
担当教員			

第7回	【その他のコミュニケーション障害】失語症と間違われやすい運動性構音障害について、また、聴覚障害について知識を深める。	第Ⅰ部第2章運動性構音障害p60～72、第Ⅱ部第2章聴覚障害p138～141まで読む(90分)	配布資料を読み返し、確認事項を整理する。(90分)
担当教員			
第8回	【小児の言語障害】近年、小児の言葉の発達や学習支援のニーズが増加傾向にある。小児の主な言語障害について学ぶ。	第Ⅱ部第6章学習障害p192～202を読む(90分)	全講義の配布資料に目を通し、復習する(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施予定なし。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	90	講義の出席姿勢10%、小テストの成績80%。
その他	10	各種届(欠席・遅刻)の提出。 小テストの結果によってレポートの提出が必要なことあり。
教科書		
図解やさしくわかる言語聴覚障害 小嶋知幸 編著 ナツメ社		
参考文献		
・絵でわかる言語障害 毛束真知子 著 学研 ・失語症の理解とケア 遠藤尚志 著 雲母書房 ・神経心理学入門 山鳥 重 著 医学書院 ・口から食べる嚥下障害Q&A 藤島一郎 著 清水一男絵 中央法規 他		
履修条件・留意事項等		

教科書、配布資料の持参。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 保健医療福祉とリハビリテーションの理念					
科目名		医学概論				ナンバリング	2282
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	鈴木 信						
授業の位置づけ							
理学療法士・作業療法士を目指す学生が医学とは何かを考え、医療職としての社会性や常識を学ぶ科目である。 理学療法学専攻のディプロマポリシーのうち、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」, 作業療法学専攻「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる(関心・意欲・態度)」 「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観, 社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる(関心・意欲・態度)」と特に関連がある科目である。また、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」 「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる(関心・意欲・態度)」 「臨床場面や研究において状況の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけている(思考・判断・表現)」とも関連する。 作業療法学専攻のディプロマポリシーのうち、「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている(知識・技能)」 「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる(関心・意欲・態度)」 「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観, 社会変化への適応力を持ち、作業療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる(関心・意欲・態度)」 「科学的根拠に基づいた作業療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている(思考・判断・表現)」ことと特に関連がある。また、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」 「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている(思考・判断・表現)」 「臨床場面や研究において状況の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけている(思考・判断・表現)」こととも関連する。 本科目は「リハビリテーション概論」「理学療法概論」「作業療法概論」「リハビリテーション医学」の各科目と関連し、その他すべての専門科目の基礎となる。							
授業の概要							
現代の医療は、医療が複雑化し高度化したことに加えて生命の質が求められている。様々な専門職が協働する医療の現場では、医学・医療に関して共通の基盤に立った認識が必要である。本講義は今日の医学がどのように発展してきたのか、現代医学はどのように成り立っているのか、これからの医学は何を目指しているのかを学び、「医学・医療とは何か」を客観的に把握できる内容である。医療専門職を目指す学生にとって最初に聴講すべき講義である。							
到達目標							

- ・医学・医療の必要性について論じることができる
- ・健康にとって必要なことは何かについて論じることができる
- ・医学・医療の過去、現在、未来について論じることができる
- ・現代日本の医療制度について説明することができる
- ・医学・医療の倫理や生命倫理について説明することができる

授業の方法

- ・教科書および配布資料に沿って授業を行い、講義形式ですすめる
- ・授業内において質問の時間を設ける
- ・各回の授業の終わりにGoogle Formを用いて小テストを行い、授業の振り返りを行う

ICT活用

自主学習支援のため、講義資料を Google Classroom で配布する
Google Form を用いた双方向型授業を取り入れる

実務経験のある教員の教育内容

担当者は医療機関において勤務経験があり、その経験を活かして具体的・実践的な内容を盛り込んで授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

Google Formによる小テストで出席者の理解度を確認した上で、必要な解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション. 医学の歴史について学ぶ. 病気とその治療・予防についての基本的な考え方を学ぶ.	教科書の 1章, 2章を予習すること(90分)	講義資料を活用して講義内容をノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			
第2回	患者の診察と検査の概略を学ぶ. わが国の社会保障と医療保険について学ぶ.	教科書の 3章, 4章を予習すること(90分)	講義資料を活用して講義内容をノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			
第3回	国民の医療の現状と国民の意識を理解し, わが国の医療の問題点と対策について考える.	教科書の 5章, 6章を予習すること(90分)	講義資料を活用して講義内容をノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			

第4回	生活習慣病と特定健診, 産業保健と勤労者医療, 学校保健と障害児教育について学ぶ.	教科書の 7章, 8章, 9章を予習すること(90分)	講義資料を活用して講義内容をノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			
第5回	高齢者医療, 介護保険, リハビリテーションについて学ぶ.	教科書の 10章, 11章を予習すること(90分)	講義資料を活用して講義内容をノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			
第6回	チーム医療の中での医療職の役割と医療安全について学ぶ.	教科書の 12章, 13章を予習すること(90分)	講義資料を活用して講義内容をノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			

第7回	災害医療について学ぶ. 医の倫理, 患者の権利について考える.	教科書の 14章, 15章を予習すること(90分)	講義資料を活用して講義内容をノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			
第8回	国際医療協力について学ぶ. 医学研究と臨床への応用についての基本的考え方を学ぶ. 医療と法律についての概略を学ぶ. 本科目全体のまとめ.	教科書の 16章, 17章, 18章を予習すること(90分)	講義資料を活用して講義内容をノートにまとめておくこと(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト(80%) 授業参加度(20%)
その他	0	
教科書		
現代医学概論 第3版 / 柳澤信夫 著 / 医歯薬出版		
参考文献		
必要に応じて授業中に参考図書を紹介する		
履修条件・留意事項等		

- ・準備学習で教科書を読んでいることを前提に授業をすすめる
- ・質問や確認事項がある場合は、積極的に発言すること
- ・Google Classroom にアクセスできる通信機器を持参のこと

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 保健医療福祉とリハビリテーションの理念					
科目名		リハビリテーション概論				ナンバリング	2284
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	白戸 力弥、牧野 均						
授業の位置づけ							
理学療法学専攻のディプロマ・ポリシー「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」と特に関連する。また、作業療法学専攻のディプロマ・ポリシー「作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。(知識・技能)」、「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる。(関心・意欲・態度)」と特に関連する。医学概論・日本国憲法・現代医療と福祉・介護と関連し、チーム医療概論、リハビリテーション医学、理学療法概論、作業療法学概論の基礎となる科目である。							

1. リハビリテーションの定義と理念を述べることができる
2. 健康の概念、病気や障害のとらえ方を説明できる
3. 各種リハビリテーション分野の定義や現状を具体的に説明できる
4. 各リハビリテーション分野関連職種の名称を述べるができる
5. リハビリテーションを支える社会制度や社会資源, 法律についておおまかに説明できる

授業の方法

パワーポイントを用いて講義形式ですすめる。授業の終わりに、理解度確認テストを実施する。

ICT活用

授業のパワーポイント資料を事前にGoogle Classroomにアップし予習・復習に活用できるようにする。
スマートフォンなどの媒体を用いて、出席および確認テストなどをGoogle Formで行う。

実務経験のある教員の教育内容

担当教員はともに理学療法士または作業療法士の資格を有し、臨床での勤務経験がある。これらを幅広い経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして理解度確認テストを回収後、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	リハビリテーションってなに？ リハビリテーションの意味、歴史、定義について学ぶ。	教科書の第1章1～13頁を読んでおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
担当教員	牧野 均		
第2回	リハビリテーションはなぜ必要か 障害と障害者の歴史、国際障害者分類(ICIDH)、国際生活機能分類(ICF)、障害受容について学ぶ。	教科書の第2章15～29頁を読んでおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
担当教員	白戸 力弥		
第3回	リハビリテーションとチーム医療 チーム医療の必要性、多職種連携、リハビリテーションを支える医療職について学ぶ。	教科書の第3章31～44頁を読んでおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
担当教員	牧野 均		

第4回	「活動を育む」リハビリテーション医学とは 活動とはなにか、人間が動くしくみ、歩行と移動、活動から 日常生活活動(ADL)へについて学ぶ。	教科書の第4章47～62頁を読ん でおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90 分)
担当教員	白戸 力弥		
第5回	リハビリテーションを支える社会保障制度 リハビリテーション関連法規、医療制度、介護保険制度に ついて学ぶ。	教科書の第5章65～86頁を読ん でおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90 分)
担当教員	白戸 力弥		
第6回	リハビリテーション工学 リハビリテーション工学とは何か、自助具、歩行補助具、車 椅子とシーティング、コミュニケーション支援機器、さらにロ ボティクスとリハビリテーションについて学ぶ。	教科書の第6章89～112頁を読 んでおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90 分)
担当教員	牧野 均		

第7回	栄養とリハビリテーション 栄養とは何か、食べることと摂食嚥下について、消化・吸収についてを学ぶ。	教科書の第7章113～126頁を読んでおくこと(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
担当教員	牧野 均		
第8回	教育的リハビリテーションと職業的リハビリテーション 教育的リハビリテーションと職業的リハビリテーションの役割と実践について学ぶ。	教育的リハビリテーションと職業的リハビリテーションにはどのようなものがあるか調べる(90分)	授業の内容を復習すること(90分)
担当教員	白戸 力弥		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認テストの合計点とする
その他	0	
教科書		
川手信行／リハビリテーション概論のいろは／南江堂		
参考文献		
田島文博 編著／リハビリテーション概論 改訂第4版／永井書店		
履修条件・留意事項等		

出席および確認テストなどに充電したスマートフォンなどを用いるので毎回、必ず持参すること。授業中に充電することはできない。

備考欄

教科書を必ず準備すること。

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 保健医療福祉とリハビリテーションの理念					
科目名		公衆衛生学				ナンバリング	2286
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	佐々木 幸子						
授業の位置づけ							
理学療法学専攻のディプロマポリシー「予防医療の観点から、健康の増進や維持、生涯にわたる心身の健康づくりに関して幅広いリハビリテーションを担うことができる(知識・技能)」、作業療法学専攻のディプロマポリシー「予防医療の観点から、健康の増進や維持、生涯にわたる心身の健康づくりに関して幅広いリハビリテーションを担うことができる(知識・技能)」と特に関連する科目である。							
</							

到達目標 ・公衆衛生の定義・概念を理解し、各領域とその活動の特徴についての概略を理解することができる。 ・わが国の医療保険制度の特色とその仕組みの概略について理解することができる。 ・公衆衛生学の基本的手法である、疫学の特徴について理解することができる。 ・生活習慣病対策として取り組んでいる健康づくりの施策について理解することができる。			
授業の方法 教科書を用いるが、適宜、参考資料となるプリントを用いて、講義形式ですすめる。また、講義の終了時に確認テストを実施し、内容の確認を行う。			
ICT活用 Google Formのアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる。			
実務経験のある教員の教育内容 該当なし			
課題に対するフィードバックの方法 フィードバックとして、理解度確認のためのテストの解説を行う。			
授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	公衆衛生と健康の概念 ・公衆衛生の定義、健康の定義を理解する。 ・予防医学の概念を理解する。 ・プライマリヘルスケアとヘルスプロモーションについて理解する。	教科書第1章を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第2回	保健統計 ・健康指標とその例について理解する。 ・各種統計指標の内容について理解する。	教科書第2章を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第3回	疫学 ・疫学の概念、方法論について理解する。 ・疾病、死亡の指標を理解する。	教科書第3章を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			

第4回	疾病予防と健康管理 ・予防医学の概念について理解する。 ・健康増進の具体的手法とその特徴について理解する。 ・健康日本21について理解する。	教科書第4章を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第5回	疾病予防と健康管理 ・スクリーニング検査について理解する。	教科書第4章を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第6回	感染症対策 ・主要感染症の発生状況について理解する。 ・主要感染症の感染経路と特徴について理解する。 ・標準予防策について理解する。	教科書第5章-1を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			

第7回	疾病予防と健康管理 ・循環器系疾患の予防について理解する ・代謝性疾患の予防について理解する	教科書第5章-2, 3を事前に読んでおくこと。(90分) 第8回に行うまとめのテストに備え、講義内容の復習をする。	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第8回	地域保健と保健行政 ・地域保健活動の進め方について理解する。 ・PDCAサイクルについてその概要を理解する。 ・理解度確認のため、まとめのテストを実施する。	教科書第7章を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で実施する課題(10%) まとめのテスト(80%) 授業への参加態度(10%)により評価する。
その他	0	なし
教科書		
シンプル衛生公衆衛生学2025、辻一郎/小山洋、南江堂		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		

講義は8回ですので3回以上の欠席で単位不認定になります。

備考欄

なし

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 保健医療福祉とリハビリテーションの理念					
科目名		地域包括ケアシステム論				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	水本 淳、小橋 拓真						
授業の位置づけ							
理学療法学専攻のディプロマ・ポリシー「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」、「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる(関心・意欲・態度)」、作業療法学専攻「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる(関心・意欲・態度)」、看護学科「地域で暮らす人々の健康や生活を支援するため、多様なケア環境に適した多職種連携・協働チームのあり方と看護師の役割を理解したうえでリーダー的な役割を担うことができる(知識・技能)」と特に関係がある科目である。また、理学療法および作業療法学専攻の「臨床場面や研究において、状況の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけている(思考・判断・表現)」などとも関係する。							
授業の概要							
超高齢社会を迎えた日本では、医療・介護保険制度また関連する施策改定により、各地域の実情に合った地域包括ケアシステムの構築を推進しており、看護師・理学療法士・作業療法士等の活躍が期待されている。そのため地域包括ケアシステムの制度およびその実践を学び、地域で暮らす人々の健康や生活を支援するため、地域包括ケアシステムにおいてリーダー的役割を担うことができる能力を養う。							
到達目標							

・地域連携の基本的な連携について説明できる。 ・地域包括ケアシステムにおける保健・医療・福祉と専門職の役割について説明できる。 ・在宅療養者と家族を中心とする地域包括ケアシステムについて説明できる。

授業の方法

・パワーポイントと配布資料、視聴覚教材を用いた講義形式とグループワークで進める。 ・授業の理解度確認のため小テストを実施する。 ・ゲストスピーカーによる地域における実践例について、レポート課題を実施する。

ICT活用

・Google classroomやGoogle Formを用いて、課題やアンケートを行い、双方向授業を取り入れる。 ・必要に応じて、オンデマンドやオンライン等での授業展開を検討する。

実務経験のある教員の教育内容

水本は理学療法士として、これまで臨床・研究、行政職の経験があり、地域リハビリテーションについて幅広い知識を有している。この経験を活かして地域包括ケアシステムに関する授業を行う。 小橋は、看護師、保健師としての実務経験、及び、地域包括支援センター、社会福祉協議会における実務経験を講義に活用する。

課題に対するフィードバックの方法

・アクティブラーニングとして小テストを実施し、実施後には、解答・解説を行い知識を深める。 ・小テストの最後に質問事項の記述欄を設け、次回の授業時に回答する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	1.地域包括ケアシステム論の概要, 地域連携の方法論および地域連携と多職種連携について【講義】(小橋) 1)地域包括ケアの概念 2)地域連携の理論と方法 3)我が国の社会保障制度の変遷 4)我が国の医療の背景と特徴, ケアサイクルの概念と理論 5)連携の方法と形式について 6)地域包括ケアシステムが求められる背景	教科書p3-36を読む。(90分)	教科書と講義資料の内容を復習する。講義から学んだこと, 感想についてレポートにまとめる。(90分)
担当教員	小橋 拓真		
第2回	2.地域包括ケアシステムにおけるリハ職の役割【講義】(水本) 1)退院支援から地域連携におけるリハ職の役割 2)様々な地域の事例から地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み 3)薬剤師, ソーシャルワーカーなど他の役割について 小テスト1および解説	教科書p100-120, 169-177を読む。(90分)	教科書と講義資料の内容を復習する。講義から学んだこと, 感想についてレポートにまとめる。(90分)
担当教員	水本 淳		
第3回	3.地域包括ケアシステムにおける看護職の役割【講義】(小橋) 1)退院支援から地域連携において, 看護師にはどのような役割があるのかについて 2)退院支援のプロセス第1段階, 第2段階, 第3段階について 3)地域連携の展望と課題 4)認知症ケアが必要とする地域連携 5)小規模多機能型居宅介護が進める地域連携	教科書p73-84を読む。(90分)	教科書と講義資料の内容を復習する。講義から学んだこと, 感想についてレポートにまとめる。(90分)
担当教員	小橋 拓真		

第4回	4.地域医療連携における退院支援の実践【講義】(小橋・水本) ゲストスピーカー: 盛岡友愛病院 退院支援専従看護師 看護師長 高江柄 敦子 先生 1)退院支援部門の看護師による退院支援院内チームと地域連携の取り組みについて	教科書p73-84を読む。(90分)	教科書と講義資料の内容を復習する。講義から学んだこと, 感想についてレポートにまとめる。(90分)
担当教員	小橋 拓真		
第5回	5.地域連携の方法論【演習】(水本・小橋) ゲストスピーカー: 大津 崇輔 先生 (元経済産業省/北海道子ども総合医療・療育センター 企画総務課) 1)日本における地域包括ケアシステム構築に向けた取り組み ・国の機関(経済産業省・厚生労働省・内閣府など)や地域公共団体が支える地域包括ケアシステム	教科書の関連する内容を読む。(90分)	教科書と講義資料の内容を復習する。講義から学んだこと, 感想についてレポートにまとめる。(90分)
担当教員	水本 淳		
第6回	6.地域包括ケアシステムにおける多職種の連携【演習】(水本) グループワーク 視聴覚教材の視聴	教科書p84-120を読む。(90分)	教科書と講義資料の内容を復習する。講義から学んだこと, 感想についてレポートにまとめる。(90分)
担当教員	水本 淳		

第7回	7.地域包括ケアにおける医師の役割と地域連携の実践【講義】(小橋・水本) ゲストスピーカー: 柴田 岳三 先生(緩和ケアクリニック恵庭) 1)恵庭市で緩和ケアクリニックを開業している医師から恵庭市における在宅緩和ケアを中心とした地域包括ケアシステムの取り組みについて	教科書p37-72を読む. (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する. 講義から学んだこと, 感想についてレポートにまとめる. (90分)
担当教員	小橋 拓真		
第8回	8.地域包括ケアシステムの展望について【講義】(水本) 1)インテグレートケアについて 2)地域包括ケアシステムの展望について 視聴覚教材の視聴 小テスト2および解説	教科書p3-36, 179-187を読む. (90分)	教科書と講義資料の内容を復習する. 講義から学んだこと, 感想についてレポートにまとめる. (90分)
担当教員	水本 淳		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	60	課題レポート(60%:8回)
その他	40	小テスト:2回(40%:20%×2回)
教科書		
ケアシステム「治し支える医療」を実現する地域包括ケア 飯島勝矢・山本則子／東京大学出版会		
参考文献		
地域連携論－医療・看護・介護・福祉の協働と包括的支援－ 高橋紘士・武藤正樹／オーム社 ほか、講義内で紹介する		
履修条件・留意事項等		

地域のサービスについて興味を持って学ぶこと

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 保健医療福祉とリハビリテーションの理念					
科目名		統計と社会調査法				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	2
担当教員	小田 史郎						

授業の位置づけ

ディプロマポリシーのうち、理学療法学専攻では「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている(知識・技能)」と特に関連し、作業療法学専攻では「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている(知識・技能)」などと関連する科目である。「統計の基礎」の応用科目に位置づけられる。

授業の概要

統計に関する基礎的知識の上に立って、自らの課題解決のための調査実施の原理と方法を理解し、疫学的調査の基本技術を身に付ける。特に社会集団を観察するとはどのようなことなのか、母集団や標本集団の設定、質問票の作成手順や技術、集計処理の方法など社会調査法全般について学ぶ。

到達目標

- ①学生が、社会調査法の理論に基づいた方法で、調査計画を立てることができるようになる。
 ②学生が、社会調査法の理論に基づいた方法で、質問紙を作成することができるようになる。
 ③学生が、社会調査法の理論に基づいた方法で、データを分析し、まとめることができるようになる。

授業の方法

パワーポイント、配付印刷物を活用しながら、講義形式で進める(全15回)。毎回、講義内容を小レポートにまとめる。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

毎回の小レポートに対しては、内容に関する質問に回答します。
 最終レポートについては第15回の講義時に講評します。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンスにおいて講義の流れや評価の方法について確認する。また社会調査とは何か、社会調査の目的やその分類について学ぶ。	シラバスを読み、社会調査の定義について調べておく(30分)	自分が調査したいテーマについて関連する資料を探しておく(150分)。
担当教員			
第2回	社会調査の流れについて、フローチャートに基づいて学ぶ。全体像をつかんだ後、最初に行うべき基礎資料の収集法について学ぶ。	社会調査の流れについて示した文献を探し、読んでおく(60分)。	講義で習った方法を用いて、調査テーマに関連する文献検索と収集を行う(120分)。
担当教員			
第3回	文献の読み方について学ぶ。調査テーマに関連する学術論文を題材に、どこまで明らかにされており、何が課題として残っているか、またどのような方法が用いられているかを読み解く方法について学ぶ。	収集した文献を読み、必要な部分をまとめておく(90分)。	講義で習ったことを参考に、収集した論文で明らかにされていること、課題として残されていることをまとめる(90分)。
担当教員			

第4回	考察やまとめを意識した学術論文の収集方法、整理方法について学ぶ。調査テーマに関する論文だけでなく、関係性を説明できる学術論文の集め方について学ぶ。さらに社会調査における倫理的な配慮についても学ぶ。	収集した文献を読み、研究背景として使える部分をまとめておく(90分)。	先行研究を参考に、研究背景と研究目的をレポートにまとめる(90分)。
担当教員			
第5回	調査バイアスや交絡因子について学ぶ。バイアスが入ったデータは精度が低くなることを理解し、調査の精度を高めるためにこれらをできるだけ少なくするための方法を学ぶ。	調査時に起きるバイアスや交絡の考え方について事前に調べておく(30分)。	講義で習った内容を参考に、調査質問紙の構成について整理する。また文献検討により、「方法」の部分に記載する事項について調べる(150分)。
担当教員			
第6回	妥当性と信頼性について学び、調査質問紙を作成する際にどのような点に注意するかについて学ぶ。また報告書の「方法」の部分の記載方法について学ぶ。	調査における妥当性や信頼性について事前に調べておく(30分)。	講義で習った内容を参考に、調査質問紙の構成や内容について精査する。また講義で習った記載方法に基づいて、自分の調査の「方法」の部分を文章化する(150分)。
担当教員			

第7回	質問の文章化、選択肢の作り方のルール、質問紙のレイアウトについても学ぶ。	調査質問紙作成のルールについて事前に調べておく(30分)。	講義で習った内容を参考に、調査内容を具体的に文章化する。また選択肢も作成する(150分)。
担当教員			
第8回	アンケート実施後のデータの編集方法、パソコンへの入力方法、集計方法について学ぶ。	「統計の基礎」で習ったデータの集計方法について復習する(30分)。	講義内容をもとに、自分の調査結果を入力するデータベースを作成する(150分)
担当教員			
第9回	データの種類に合わせた統計解析の方法について学ぶ。分割表の検定について学ぶ。	「統計の基礎」で習ったデータの検定方法について復習する(60分)。	調査質問紙を精査する。また自分のデータをどのように解析するかについてのレポート作成を開始する(120分)。
担当教員			

第10回	データの種類に合わせた統計解析の方法について学ぶ。 差の検定について学ぶ。	「統計の基礎」で習ったデータの 検定方法について復習する(60 分)。	架空のデータを入れて集計・解 析する。その結果に基づき、調 査質問紙の修正する(120分)。
担当教員			
第11回	データの種類に合わせた統計解析の方法について学ぶ。 相関係数の検定について学ぶ。	「統計の基礎」で習ったデータの 検定方法について復習する(60 分)。	調査質問紙、自分のデータをど のように解析するかについての レポートを作成する(120分)。
担当教員			
第12回	データの種類に合わせた統計解析の方法について学ぶ。 重複測定一分散分析法について学ぶ。さらに母集団と標 本について理解し、母集団から標本を抽出する無作為抽 出法について学ぶ。	全数調査と標本調査について 調べておく(30分)。	講義の内容を復習するとともに、 レポートを作成する(150分)。
担当教員			

第13回	標本誤差の考え方と社会調査で必要とされる標本数の求め方について学ぶ。	標本誤差や必要なサンプル数について事前に調べておく(30分)。	講義の内容を復習するとともに、レポートを完成させる(150分)。
担当教員			
第14回	有効回収率とこれを高める必要性について学ぶ。さらに有効回収率を高める工夫について学ぶ。最終レポートの提出を行う。	有効回収率に関して事前に調べておく。また最終レポートを完成し、提出できるように印刷しておく(120分)。	講義の内容をまとめる(60分)。
担当教員			
第15回	最終レポートへの講評により学びを深める。研究デザインとエビデンスレベルについて学び、症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験の特徴について理解する。	症例対照研究、コホート研究、ランダム化比較試験について事前に調べておく(30分)。	第15回の講義内容をまとめるとともに、講義全体で習ったことを整理する(150分)。
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	毎回の小レポート、あるいは課題(50点)、研究背景、研究目的、質問紙、解析計画に関するレポート(50点)の総合点で評価する。
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		

「統計の基礎」で使用した「4stepエクセル統計」をデータ解析の説明時に用います。
第8-12回の授業時には持参ください。

履修条件・留意事項等

この講義は、「統計の基礎」の応用科目に位置づけられる。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 保健医療福祉とリハビリテーションの理念					
科目名		チーム医療概論				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	坂東 奈穂美、佐藤 明紀、金谷 匡紘						
授業の位置づけ							
理学療法学専攻のディプロマポリシー「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる(関心・意欲・態度)」と特に関係する科目である。「リハビリテーション概論」「理学療法管理経営学Ⅰ・Ⅱ」と関係する科目である。 作業療法学専攻のディプロマポリシー「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる。(関心・意欲・態度)」「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる。(関心・意欲・態度)」と特に関係する科目である。「作業療法概論」「リハビリテーション医学」を基盤とする科目である。 看護学科のディプロマポリシー「地域で暮らす人々の健康や生活を支援するため、多様なケア環境に適した多職種連携・協働チームのあり方と看護師の役割を理解したうえでリーダー的な役割を担うことができる」に関連した科目である。 また、この科目は「健康支援と社会保障制度」の分野の中にある、「リハビリテーション論」や「地域包括ケアシステム論」と関連のある科目である。							
授業の概要							
本科目は、チーム医療の視点を持ち、多職種連携を理解することを目標とする。学習方法は異なる職種で構成されるチームメンバーの役割と機能を把握し、効果的なチームビルディングに必要な知識を習得する。これらの知識を基盤として各専門職の立場からチームにおける自らの役割を考察する。							
到達目標							

- ・チーム医療における各専門職の役割について説明できる
- ・多職種で連携する目的と、その実現に向けたシステムについて説明できる。
- ・多職種と協働するために必要なコミュニケーションスキルについて説明できる

授業の方法

パワーポイントとハンドアウトによる講義、および講義の内容に基づいたグループワークを行う。

ICT活用

Google Classroomを用いて、授業資料の配信や出席確認、レポート課題の提出などを行う場合がある。

実務経験のある教員の教育内容

坂東奈穂美：看護師として急性期病院での勤務経験を活かした授業を行う。
 佐藤明紀：理学療法士として、総合病院での臨床経験15年を有し、活動経験を基に授業を行う。
 金谷匡紘：作業療法士として急性期や回復期、生活期のリハビリテーションに従事しており、その経験を基に授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

コメントシートは授業内、もしくはGoogle Classroom内で解説する。レポート課題については、必要時、コメントによりフィードバックをする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス 【看護師の役割】 チーム医療が求められるようになった背景と、看護職に求められる役割について説明する。(坂東) 振り返りシート①	チーム医療における看護師の役割を調べる(90分)	授業内容をノートにまとめる(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		
第2回	【理学療法士の役割】 理学療法士の役割について説明する(佐藤) 振り返りシート②	理学療法士の仕事について調べる(90分)	授業内容をノートにまとめる(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第3回	【多職種との連携①】 他職種を理解し連携を考える(佐藤)	指定された他職種の仕事について調べる(90分)	レポート課題①を期限までに提出する(90分)
担当教員	佐藤 明紀		

第4回	【作業療法士の役割】 チーム医療における作業療法士の役割について説明する(金谷) 振り返りシート③	作業療法士の仕事について調べる(90分)	授業内容をノートにまとめる。(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
第5回	【多職種との連携②】 病院と地域をつなぐチーム医療について説明する(金谷)	医療ソーシャルワーカーの仕事について調べる(90分)	レポート課題②を期限までに提出する(90分)
担当教員	金谷 匡紘		
第6回	【連携・協働のためのスキル】(坂東) 多職種で連携・協働するためのコミュニケーション、チームが出来上がるまでのプロセス、連携のための心構え(DVD)、多職種で連携しやすくするための取り組み(IPW/IPE) 振り返りシート④	友人や知人などと関係性を作るときに気を付けていることをあげてくる(90分)	他職種を理解するために自分はどうしたいのか考えをまとめる(90分)
担当教員	坂東 奈穂美		

第7回	グループワーク:他職種を理解するために、どのようなことを行うと良いのか、ゲームを通してチームとして協力し合うために必要なことを学ぶ。(佐藤、金谷、坂東)	自分とは異なる考えや価値観を持った相手に対して、自分はどうのように捉えるのか、自分の傾向を振り返える(90分)	グループで検討した内容をまとめる(90分)
担当教員	坂東 奈穂美、佐藤 明紀、金谷 匡紘		
第8回	グループワークの発表会(佐藤・金谷・坂東) それぞれのグループで話し合った事について発表し、共有する。	発表の準備をする(90分)	レポート課題③に取り組む(90分)
担当教員	坂東 奈穂美、佐藤 明紀、金谷 匡紘		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	振り返りシート:40%(10%×4回) レポート課題:60%(15%×2回、30%×1回)
その他	0	
教科書		
なし。授業内で資料を配布する		
参考文献		
・実践チーム医療論ー実際と教育プログラム 水本清久他 編著 医歯薬出版 2011 ・「チーム医療」とは何かー患者・利用者本位のアプローチに向けて(第2版) 細田満和子 著 日本看護協会出版会 2021 ・新しいチーム医療ー看護とインタープロフェッショナル・ワーク入門(改訂版) 田村由美 編著 看護の科学社 2018		
履修条件・留意事項等		

コメントシートや課題は授業内容やグループで検討した内容や準備学習・事後学習に基づいているので、欠席しないこと。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 理学療法基礎					
科目名		応用解剖学演習(1組)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	2
担当教員	池野 秀則、南部 路治						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」および「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる(関心・意欲・態度)」ことと特に関係がある。またその他すべてのディプロマ・ポリシーと関係している。「解剖学Ⅰ」「解剖学Ⅱ」「生理学Ⅲ」「基礎解剖学実習」の発展的科目で形態学的側面のみでなく機能学的側面も学習する。さらに、「病態運動学」や「神経障害理学療法学・実習」とつながる科目である。

授業の概要

1年次に学んだ筋の起始・停止および支配神経の知識をもとに、触診を通してさらに理解を深める。また、中枢神経である脳・脊髄の形態と機能および脳神経について学ぶ。さらに、呼吸時・循環器・泌尿器などの内臓器の形態及び機能を学ぶことにより、科学的見地から人体の構造と各器官の連関についての知識を身に付ける。

到達目標

- ・脳・脊髄(中枢神経系)と末梢神経系の形態と機能を関連づけ、錐体路から運動器官までの一連の流れを説明できる。
- ・循環器系、呼吸器系など内臓に関する形態と機能について説明できる。

授業の方法

I については脳の標本等を活用しながら立体的に理解できるように進める(全22回)
II についてはパワーポイント、DVDを活用して理解しやすいように行う(全8回)

ICT活用

webアプリのvisible body、maruzen eBook libraryを適宜活用する。

実務経験のある教員の教育内容

池野は総合病院・介護老人保健施設にて理学療法士として勤務した経験を活かして神経系の実習を担当する。
南部は総合病院・大学病院にて理学療法士として勤務した経験を活かして内臓系の実習を担当する。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして理解度確認テストを実施し、回収後に解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション・神経系の全体像と脳の構造(1) (池野)	脳の構造について調べておくこと(60分)	脳の構造について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第2回	脳の構造(2)・ニューロンとグリア細胞・シナプス伝達 理解度確認テスト (池野)	脳の構造及びニューロン、グリア細胞、シナプス伝達について調べておくこと(60分)	脳の構造及びニューロン、グリア細胞、シナプス伝達について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第3回	脳の4つの葉 (池野)	脳の4つの葉についてそれぞれ調べておくこと(60分)	脳の4つの葉についてそれぞれ調べたことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		

第4回	大脳辺縁系・大脳基底核・間脳 理解度確認テスト (池野)	大脳辺縁系・大脳基底核・間脳 について調べておくこと(60分)	大脳辺縁系・大脳基底核・間脳 について学んだことを復習して おくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第5回	脳幹、小脳、立体的に理解する脳の構造 (池野)	脳幹、小脳を立体的に理解できる よう調べておくこと(60分)	脳幹、小脳を立体的に理解できる よう学んだことを復習しておく こと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第6回	脳動脈 理解度確認テスト (池野)	脳動脈について調べておくこと(60分)	脳動脈について学んだことを復 習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		

第7回	脳血管障害・脳梗塞 (池野)	脳血管障害・脳梗塞について調べておくこと(60分)	脳血管障害・脳梗塞について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第8回	脳内出血 理解度確認テスト (池野)	脳内出血について調べておくこと(60分)	脳内出血について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第9回	脳動脈瘤・くも膜下出血・脳動静脈奇形・もやもや病 (池野)	脳動脈瘤・くも膜下出血・脳動静脈奇形・もやもや病について調べておくこと(60分)	脳動脈瘤・くも膜下出血・脳動静脈奇形・もやもや病について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		

第10回	脳血管障害のリハビリテーション・高次脳機能障害・脳静脈・内頸動脈-海綿静脈洞瘻・脳脊髄液 理解度確認テスト(池野)	脳血管障害のリハビリテーション・高次脳機能障害・脳静脈・内頸動脈-海綿静脈洞瘻・脳脊髄液について調べておくこと(60分)	脳血管障害のリハビリテーション・高次脳機能障害・脳静脈・内頸動脈-海綿静脈洞瘻・脳脊髄液について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第11回	水頭症・正常圧水頭症・頭蓋内圧亢進・脳ヘルニア・運動と感覚(池野)	水頭症・正常圧水頭症・頭蓋内圧亢進・脳ヘルニア・運動と感覚について調べておくこと(60分)	水頭症・正常圧水頭症・頭蓋内圧亢進・脳ヘルニア・運動と感覚について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第12回	運動・運動の異常 理解度確認テスト(池野)	運動・運動の異常 について調べておくこと(60分)	運動・運動の異常 について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		

第13回	反射・運動の調節 (池野)	反射・運動の調節について調べておくこと(60分)	反射・運動の調節について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第14回	感覚 理解度確認テスト (池野)	感覚 について調べておくこと(60分)	感覚に について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第15回	自律神経系 (池野)	自律神経について調べておくこと(60分)	自律神経について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		

第16回	脳神経・三叉神経痛・顔面神経麻痺・脊髄・脊髄疾患 理解度確認テスト (池野)	脳神経・三叉神経痛・顔面神経麻痺・脊髄・脊髄疾患 について調べておくこと(60分)	脳神経・三叉神経痛・顔面神経麻痺・脊髄・脊髄疾患 について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第17回	末梢神経系・ギランバレー症候群・脱髄性疾患・多発性硬化症・神経変性疾患・筋萎縮性側索硬化症(ALS)・パーキンソン病・ハンチントン病・脊髄小脳変性症 (池野)	末梢神経系・ギランバレー症候群・脱髄性疾患・多発性硬化症・神経変性疾患・筋萎縮性側索硬化症(ALS)・パーキンソン病・ハンチントン病・脊髄小脳変性症 について調べておくこと(60分)	末梢神経系・ギランバレー症候群・脱髄性疾患・多発性硬化症・神経変性疾患・筋萎縮性側索硬化症(ALS)・パーキンソン病・ハンチントン病・脊髄小脳変性症 について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第18回	筋疾患・その他 理解度確認テスト (池野)	筋疾患について教科書に沿って調べておくこと(60分)	筋疾患について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		

第19回	認知症 (池野)	認知症について調べておくこと(60分)	認知症について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第20回	イラスト解剖学持参(復習) 理解度確認テスト (池野)	イラスト解剖学で 第VI章神経と感覚器について読んでおくこと(60分)	イラスト解剖学で 第VI章神経と感覚器について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第21回	札幌医大標本館見学 (池野)	病理標本(特に脳)について調べておくこと(60分)	標本館で学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		

第22回	札幌医大標本館見学 (池野)	病理標本(特に内臓)について 調べておくこと(60分)	標本館で学んだことを復習して おくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第23回	循環器系について理解する(1) (南部)	循環器系の形態と機能(特に心臓) について調べておくこと(60分)	循環器系の形態と機能(特に心臓) について学んだことを復習して おくこと(60分)
担当教員	南部 路治		
第24回	循環器系について理解する(2) (南部)	循環器系の形態と機能(特に血管系) について調べておくこと(60分)	循環器系の形態と機能(特に血管系) について学んだことを復習して おくこと(60分)
担当教員	南部 路治		

第25回	呼吸器系について理解する(1) (南部)	呼吸器系の形態と機能(特に気管・気管支)について調べておくこと(60分)	呼吸器系の形態と機能(特に気管・気管支)について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	南部 路治		
第26回	呼吸器系について理解する(2) (南部)	呼吸器系の形態と機能(特に肺)について調べておくこと(60分)	呼吸器系の形態と機能(特に肺)について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	南部 路治		
第27回	消化器系(消化管)について理解する (南部)	消化器系(消化管)について調べておくこと(60分)	消化器系(消化管)について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	南部 路治		

第28回	消化器系(肝・胆・膵)について理解する (南部)	消化器系(肝・胆・膵)について 調べておくこと(60分)	消化器系(肝・胆・膵)について 学んだことを復習しておくこと (60分)
担当教員	南部 路治		
第29回	泌尿器系(腎臓、尿管)について理解する (南部)	泌尿器系(腎臓、尿管)につい て調べておくこと(60分)	泌尿器系(腎臓、尿管)につい て学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	南部 路治		
第30回	泌尿器系(膀胱、尿道)について理解する (南部)	泌尿器系(膀胱、尿道)につい て調べておくこと(60分)	泌尿器系(膀胱、尿道)につい て学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	南部 路治		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	I は70%(理解度確認テストと総合評価)、II は30%(総合評価)
その他	0	なし
教科書		
病気がみえる(脳・神経) 尾上 尚志他 メディックメディア PT・OT・STのための解剖学 渡辺正仁監修 廣川書店 イラスト解剖学 松村譲児著 中外医学社		
参考文献		

ネッター解剖学アトラス 相磯禎和訳 南江堂

履修条件・留意事項等

演習科目なのでなるべく欠席しないこと

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 理学療法基礎					
科目名		応用解剖学演習(2組)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	2
担当教員	池野 秀則、南部 路治						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」および「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる(関心・意欲・態度)」ことと特に関係がある。またその他すべてのディプロマ・ポリシーと関係している。「解剖学Ⅰ」「解剖学Ⅱ」「生理学Ⅲ」「基礎解剖学実習」の発展的科目で形態学的側面のみでなく機能学的側面も学習する。さらに、「病態運動学」や「神経障害理学療法学・実習」とつながる科目である。

授業の概要

1年次に学んだ筋の起始・停止および支配神経の知識をもとに、触診を通してさらに理解を深める。また、中枢神経である脳・脊髄の形態と機能および脳神経について学ぶ。さらに、呼吸時・循環器・泌尿器などの内臓器の形態及び機能を学ぶことにより、科学的見地から人体の構造と各器官の連関についての知識を身に付ける。

到達目標

- ・脳・脊髄(中枢神経系)と末梢神経系の形態と機能を関連づけ、錐体路から運動器官までの一連の流れを説明できる。
- ・循環器系、呼吸器系など内臓に関する形態と機能について説明できる。

授業の方法

I については脳の標本等を活用しながら立体的に理解できるように進める(全22回)
II についてはパワーポイント、DVDを活用して理解しやすいように行う(全8回)

ICT活用

webアプリのvisible body、maruzen eBook libraryを適宜活用する。

実務経験のある教員の教育内容

池野は総合病院・介護老人保健施設にて理学療法士として勤務した経験を活かして神経系の実習を担当する。
南部は総合病院・大学病院にて理学療法士として勤務した経験を活かして内臓系の実習を担当する。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして理解度確認テストを実施し、回収後に解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション・神経系の全体像と脳の構造(1) (池野)	脳の構造について調べておくこと(60分)	脳の構造について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第2回	脳の構造(2)・ニューロンとグリア細胞・シナプス伝達 理解度確認テスト (池野)	脳の構造及びニューロン、グリア細胞、シナプス伝達について調べておくこと(60分)	脳の構造及びニューロン、グリア細胞、シナプス伝達について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第3回	脳の4つの葉 (池野)	脳の4つの葉についてそれぞれ調べておくこと(60分)	脳の4つの葉についてそれぞれ調べたことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		

第4回	大脳辺縁系・大脳基底核・間脳 理解度確認テスト (池野)	大脳辺縁系・大脳基底核・間脳 について調べておくこと(60分)	大脳辺縁系・大脳基底核・間脳 について学んだことを復習して おくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第5回	脳幹、小脳、立体的に理解する脳の構造 (池野)	脳幹、小脳を立体的に理解できる よう調べておくこと(60分)	脳幹、小脳を立体的に理解できる よう学んだことを復習しておく こと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第6回	脳動脈 理解度確認テスト (池野)	脳動脈について調べておくこと(60分)	脳動脈について学んだことを復 習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		

第7回	脳血管障害・脳梗塞 (池野)	脳血管障害・脳梗塞について調べておくこと(60分)	脳血管障害・脳梗塞について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第8回	脳内出血 理解度確認テスト (池野)	脳内出血について調べておくこと(60分)	脳内出血について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第9回	脳動脈瘤・くも膜下出血・脳動静脈奇形・もやもや病 (池野)	脳動脈瘤・くも膜下出血・脳動静脈奇形・もやもや病について調べておくこと(60分)	脳動脈瘤・くも膜下出血・脳動静脈奇形・もやもや病について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		

第10回	脳血管障害のリハビリテーション・高次脳機能障害・脳静脈・内頸動脈-海綿静脈洞瘻・脳脊髄液 理解度確認テスト (池野)	脳血管障害のリハビリテーション・高次脳機能障害・脳静脈・内頸動脈-海綿静脈洞瘻・脳脊髄液について調べておくこと(60分)	脳血管障害のリハビリテーション・高次脳機能障害・脳静脈・内頸動脈-海綿静脈洞瘻・脳脊髄液について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第11回	水頭症・正常圧水頭症・頭蓋内圧亢進・脳ヘルニア・運動と感覚 (池野)	水頭症・正常圧水頭症・頭蓋内圧亢進・脳ヘルニア・運動と感覚について調べておくこと(60分)	水頭症・正常圧水頭症・頭蓋内圧亢進・脳ヘルニア・運動と感覚について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第12回	運動・運動の異常 理解度確認テスト (池野)	運動・運動の異常 について調べておくこと(60分)	運動・運動の異常 について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		

第13回	反射・運動の調節 (池野)	反射・運動の調節について調べておくこと(60分)	反射・運動の調節について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第14回	感覚 理解度確認テスト (池野)	感覚 について調べておくこと(60分)	感覚に について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第15回	自律神経系 (池野)	自律神経について調べておくこと(60分)	自律神経について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		

第16回	脳神経・三叉神経痛・顔面神経麻痺・脊髄・脊髄疾患 理解度確認テスト (池野)	脳神経・三叉神経痛・顔面神経麻痺・脊髄・脊髄疾患 について調べておくこと(60分)	脳神経・三叉神経痛・顔面神経麻痺・脊髄・脊髄疾患 について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第17回	末梢神経系・ギランバレー症候群・脱髄性疾患・多発性硬化症・神経変性疾患・筋萎縮性側索硬化症(ALS)・パーキンソン病・ハンチントン病・脊髄小脳変性症 (池野)	末梢神経系・ギランバレー症候群・脱髄性疾患・多発性硬化症・神経変性疾患・筋萎縮性側索硬化症(ALS)・パーキンソン病・ハンチントン病・脊髄小脳変性症 について調べておくこと(60分)	末梢神経系・ギランバレー症候群・脱髄性疾患・多発性硬化症・神経変性疾患・筋萎縮性側索硬化症(ALS)・パーキンソン病・ハンチントン病・脊髄小脳変性症 について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第18回	筋疾患・その他 理解度確認テスト (池野)	筋疾患について教科書に沿って調べておくこと(60分)	筋疾患について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		

第19回	認知症 (池野)	認知症について調べておくこと(60分)	認知症について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第20回	イラスト解剖学持参(復習) 理解度確認テスト (池野)	イラスト解剖学で 第VI章神経と感覚器について読んでおくこと(60分)	イラスト解剖学で 第VI章神経と感覚器について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第21回	札幌医大標本館見学 (池野)	病理標本(特に脳)について調べておくこと(60分)	標本館で学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		

第22回	札幌医大標本館見学 (池野)	病理標本(特に内臓)について 調べておくこと(60分)	標本館で学んだことを復習して おくこと(60分)
担当教員	池野 秀則		
第23回	循環器系について理解する(1) (南部)	循環器系の形態と機能(特に心臓) について調べておくこと(60分)	循環器系の形態と機能(特に心臓) について学んだことを復習して おくこと(60分)
担当教員	南部 路治		
第24回	循環器系について理解する(2) (南部)	循環器系の形態と機能(特に血管系) について調べておくこと(60分)	循環器系の形態と機能(特に血管系) について学んだことを復習して おくこと(60分)
担当教員	南部 路治		

第25回	呼吸器系について理解する(1) (南部)	呼吸器系の形態と機能(特に気管・気管支)について調べておくこと(60分)	呼吸器系の形態と機能(特に気管・気管支)について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	南部 路治		
第26回	呼吸器系について理解する(2) (南部)	呼吸器系の形態と機能(特に肺)について調べておくこと(60分)	呼吸器系の形態と機能(特に肺)について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	南部 路治		
第27回	消化器系(消化管)について理解する (南部)	消化器系(消化管)について調べておくこと(60分)	消化器系(消化管)について学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	南部 路治		

第28回	消化器系(肝・胆・膵)について理解する (南部)	消化器系(肝・胆・膵)について 調べておくこと(60分)	消化器系(肝・胆・膵)について 学んだことを復習しておくこと (60分)
担当教員	南部 路治		
第29回	泌尿器系(腎臓、尿管)について理解する (南部)	泌尿器系(腎臓、尿管)につい て調べておくこと(60分)	泌尿器系(腎臓、尿管)につい て学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	南部 路治		
第30回	泌尿器系(膀胱、尿道)について理解する (南部)	泌尿器系(膀胱、尿道)につい て調べておくこと(60分)	泌尿器系(膀胱、尿道)につい て学んだことを復習しておくこと(60分)
担当教員	南部 路治		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	I は70%(理解度確認テストと総合評価)、II は30%(総合評価)
その他	0	なし
教科書		
病気がみえる(脳・神経) 尾上 尚志他 メディックメディア PT・OT・STのための解剖学 渡辺正仁監修 廣川書店 イラスト解剖学 松村譲児著 中外医学社		
参考文献		

ネッター解剖学アトラス 相磯禎和訳 南江堂

履修条件・留意事項等

演習科目なのでなるべく欠席しないこと

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門基礎科目 理学療法基礎					
科目名		精神医学Ⅱ（理学療法）				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	瀧山 晃弘						
授業の位置づけ							
理学療法・作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけるための科目である。 理学療法学専攻においては、ディプロマ・ポリシーの「【知識・技能】理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。」と関係する科目である。作業療法学専攻においては、ディプロマ・ポリシーの「【知識・技能】作業療法を実践するために必要な基本的知識を身につけている。」及び「【知識・技能】高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。」と関係する科目である。両専攻ともに「精神医学Ⅰ」と関連し、作業療法学専攻においては「精神障害作業療法治療学」の基礎となる。							
授業の概要							
精神医学Ⅰで得た主要精神科疾患の症状などについての知識に加え、それぞれの疾患の病因、心理社会的な困難、治療法についての理解を深める。							
到達目標							

1. 精神科疾患に関する知識を深め、説明できる。
2. これらの知識を、理学療法士・作業療法士としてリハビリテーションを実践していくときに応用できる。
3. 精神科疾患を持つ患者をよく理解し適切に対応できるようになる。

授業の方法

パワーポイントと配布印刷物を用いて講義形式ですすめる。
必要に応じてオンライン授業を実施する。
Google Classroomを用いた理解度確認テストを講義時間内に行う。

ICT活用

Google Classroomの小テスト機能を用いて練習問題を提供し自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

医師としての臨床経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

小テストのフィードバックとして解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	【神経症性障害①】 神経症性障害の概念(ICD-10)とその種類、臨床的特徴について学ぶ。DSM-5-TRの不安症群に分類される全般不安症、パニック症、広場恐怖症、社交不安症、分離不安症、限局性恐怖症など、及び強迫症及び関連症群に分類される強迫症、身体醜形症、ためこみ症、抜毛症、皮膚むしり症などについて学ぶ。	教科書のpp.164～169を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第2回	【神経症性障害②】 DSM-5-TRの心的外傷及びストレス因関連症群に分類される心的外傷後ストレス症、急性ストレス反応、適応反応症、解離症群に分類される解離性同一症、解離性健忘、離人感・現実感消失症、並びに身体症状症及び関連症群に分類される身体症状症、病気不安症、機能性神経学的症状(変換症)などについて学ぶ。	教科書のpp.169～175を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第3回	【生理的障害および身体的要因に関連した障害】 身体的要因と関連した精神障害にはどのようなものがあるか理解する。DSM-5-TRの食行動症及び摂食症群に分類される神経性やせ症、回避・制限性食物摂取症、神経性過食症、及び睡眠・覚醒障害群に分類される不眠障害、過眠障害、ナルコレプシー、呼吸関連睡眠障害群、睡眠時随伴症群などについて学ぶ。	教科書のpp.176～180を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			

第4回	【成人のパーソナリティ・行動・性の障害】 パーソナリティ障害(パーソナリティ症)の概念、代表的なパーソナリティ障害の類型とその特徴について学ぶ。特に臨床場面で問題となるボーダーラインパーソナリティ症を中心に、その病因と病態、治療と援助の基本的な考え方を学ぶ。	教科書のpp.181～187を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第5回	【コンサルテーション・リエゾン精神医学／心身医学】 コンサルテーション・リエゾン精神医学の概念を理解し、精神腫瘍学、臨死状態やターミナルケアにおける精神的問題について学ぶ。また、心身医学の概念と心身症の発現機序、心身症として考えられている多様な疾患、及び心身症の治療の基本について学ぶ。	教科書のpp.207～214を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第6回	【心理的発達の障害／精神遅滞[知的障害]／ライフサイクルにおける精神医学】 心理的発達の障害及び精神遅滞について学ぶ。DSM-5-TRの神経発達症群に分類される知的発達症群、コミュニケーション症群、自閉スペクトラム症、注意欠如多動症、限局性学習症、運動症群について学ぶ。また、ライフサイクルの観点から、小児期・青年期、成人期、初老期、老年期の精神・心理特性について学ぶ。	教科書のpp.188～206、pp.215～230を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			

第7回	【精神障害の治療とリハビリテーション①】 精神障害に対して用いられている主な治療法の種類と特徴、適応などについて学ぶ。薬物療法に関しては向精神薬の種類と主な薬物の作用、対象とする疾患や副作用、リハビリテーションにおける注意点などについて、精神療法に関しては、技法に基づく種類とその特色、対象疾患、実施にあたっての注意などを学ぶ。	教科書のpp.231～253を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第8回	【精神障害の治療とリハビリテーション②】 精神療法/心理療法各論その1 認知行動療法の第1世代から第3世代に至る3つの主要な流れを概観し、それらの文化的背景、共通する原則と基本技法、行動変容技法、認知変容技法の概要を学ぶ。	教科書のpp.242～247を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第9回	【精神障害の治療とリハビリテーション③】 精神療法/心理療法各論その2 芸術療法、特に音楽療法、箱庭療法を取り上げ、音楽療法の基礎となる音楽心理学、箱庭療法の背景にあるユング心理学をふまえつつそれらの概要を学ぶ。	教科書のpp.242～247を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			

第10回	【精神障害の治療とリハビリテーション④】 精神療法/心理療法各論その3 フロイトの精神分析とユング心理学の概要を学ぶ。フロイトの局所論モデルと構造論モデル、自我の防衛機制、精神的発達論、ユングの心理学的類型論、集合的無意識、個性化理論などについて学ぶ。	教科書のpp.242～247を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第11回	【精神科保健医療と福祉, 職業リハビリテーション】 精神保健福祉法と関連法規、精神障害者の職業リハビリテーションについて学ぶ。	教科書のpp.254～272を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第12回	【社会・文化とメンタルヘルス①】 学校におけるメンタルヘルス(学校精神保健)について学ぶ。いじめの歴史の変遷、古典的いじめと現代型いじめ、いじめ防止対策推進法などについて学ぶ。	教科書のpp.273～275を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			

第13回	【社会・文化とメンタルヘルス②】 職場のメンタルヘルス(産業精神保健)について学ぶ。長時間労働と過労死、職場のストレス、組織におけるメンタルヘルス対策などについて学ぶ。	教科書のpp.275～276を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第14回	【社会・文化とメンタルヘルス③】 家庭のメンタルヘルス(家族精神保健)、司法精神医学、社会現象とメンタルヘルスについて学ぶ。	教科書のpp.276～279を読んでおくこと。(90分)	教科書・資料を参照し理解を深めること。(90分)
担当教員			
第15回	【まとめと修了テスト】 第1回から第14回までの総括、および修了テストを実施する。	第1回から第14回までの内容を復習しておくこと。(90分)	修了テストを自己採点し、理解を深めること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト(50%)、修了テスト(50%)。詳細は授業中に伝える。
その他	0	なし
教科書		
標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 精神医学 第4版増補版／上野武治 編集／医学書院		
参考文献		

標準精神医学第9版／尾崎紀夫・三村將監修、水野雅文・村井俊哉・明智龍男 編集／医学書院

履修条件・留意事項等

精神医学Ⅰの修得を前提とする。

備考欄

特記事項なし。

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 基礎理学療法学					
科目名		理学療法概論 I				ナンバリング	3400
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	橋田 浩						
授業の位置づけ							
・ディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。また、「リハビリテーション概論」と関連する科目である。 ・初年次教育の一環として、理学療法士を目指す上で全ての専門基礎科目、専門科目を学習するための心構えを養うための科目である。							

- ・リハビリテーション理念の発展の歴史と、理学療法・理学療法士の歴史的経緯を説明できる。
- ・理学療法の定義、理念、対象と目的を説明できる。
- ・理学療法士に関する関係法規、教育制度、職域および職能団体などについて説明できる。

授業の方法

- ・プレゼンテーションの方法: パワーポイント等の視聴覚教材を用いた講義形式で進める。
- ・授業形態: 教科書の内容を中心とした講義形式で進める。
- ・アクティブラーニングの内容: 提示した課題に対し、グループで検討したものを発表する。

ICT活用

グーグルフォームのアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる

実務経験のある教員の教育内容

病院での理学療法士としての勤務経験を活かし授業を行う

課題に対するフィードバックの方法

- ・授業での確認課題や質問については、次回授業時に回答する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション :4年間の学ぶことや大学生活について説明する【アクティブラーニング】確認課題実施	教科書で該当する部分を事前学習すること。(90分)	授業内容の復習をしておくこと。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第2回	理学療法士とは？ 理学療法の定義や技術、歴史について紹介する【アクティブラーニング】確認課題実施	教科書で該当する部分を事前学習すること。(90分)	授業内容の復習をしておくこと。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第3回	理学療法士とは？ 理学療法士に関連する法規について紹介する【アクティブラーニング】確認課題実施	教科書で該当する部分を事前学習すること。(90分)	授業内容の復習をしておくこと。(90分)
担当教員	橋田 浩		

第4回	専門職としての理学療法士:理学療法の役割について紹介する【アクティブラーニング】確認課題実施	教科書で該当する部分を事前学習すること。(90分)	授業内容の復習をしておくこと。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第5回	専門職としての理学療法士:理学療法の対象について紹介する【アクティブラーニング】確認課題実施	教科書で該当する部分を事前学習すること。(90分)	授業内容の復習をしておくこと。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第6回	専門職としての理学療法士:理学療法士に求められる臨床思考について紹介する【アクティブラーニング】確認課題実施	教科書で該当する部分を事前学習すること。(90分)	授業内容の復習をしておくこと。(90分)
担当教員	橋田 浩		

第7回	専門職としての理学療法士:理学療法の実際の流れについて紹介する【アクティブラーニング】確認課題実施	教科書で該当する部分を事前学習すること。(90分)	授業内容の復習をしておくこと。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第8回	1回目から7回目までに行った授業について確認テストを実施する。	教科書で該当する部分を事前学習すること。(90分)	授業内容の復習をしておくこと。(90分)
担当教員	橋田 浩		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内での参加度、参加態度、課題提出(50%) 8回目確認テスト(50%)の総合点数で評価する。
その他	0	
教科書		
理学療法概論テキスト(改訂第4版)南江堂		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		

毎回の授業における授業課題提出、グループ発表や確認テストで成績を評価するので欠席をしないこと。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 基礎理学療法学					
科目名		理学療法概論Ⅱ				ナンバリング	3401
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	橋田 浩						
授業の位置づけ							
・ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。また、「地域医療を支える多職種の役割を理解し、主体的に協力関係を築くことができる。(関心・意欲・態度)」こととも関係する。また「リハビリテーション概論」と関連する科目である。 ・初年次教育の一環として、理学療法士を目指す上で全ての専門基礎科目、専門科目を学習するための心構えを養うための科目である。							

- ・理学療法・理学療法士の職能、教育を説明できる。
- ・理学療法研究、医療や福祉における役割、各種理学療法の手法を説明できる。
- ・理学療法士に必要な管理・運営、多職種チーム医療の重要性を説明できる。

授業の方法

- ・プレゼンテーションの方法: パワーポイント等の視聴覚教材を用いた講義形式で進める。
- ・授業形態: 教科書の内容を中心とした講義形式で進める。
- ・アクティブラーニングの内容: 提示した課題に対し、グループで検討したものを発表する。

ICT活用

googleのクラスルームを利用するのでスマートフォン等を持参する事。

実務経験のある教員の教育内容

病院での理学療法士としての勤務経験を活かし授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

- ・授業での確認課題や質問については、次回授業時に回答する

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	理学療法の方法について紹介する【アクティブラーニング】 確認課題実施	教科書で該当する部分を事前 学習すること。(90分)	授業内容の復習をしておくこと。 (90分)
担当教員	橋田 浩		
第2回	理学療法士の組織について紹介する【アクティブラーニング】 確認課題実施	教科書で該当する部分を事前 学習すること。(90分)	授業内容の復習をしておくこと。 (90分)
担当教員	橋田 浩		
第3回	理学療法士教育について紹介する【アクティブラーニング】 確認課題実施	教科書で該当する部分を事前 学習すること。(90分)	授業内容の復習をしておくこと。 (90分)
担当教員	橋田 浩		

第4回	医療・保健分野の理学療法について紹介する【アクティブラーニング】確認課題実施	教科書で該当する部分を事前学習すること。(90分)	授業内容の復習をしておくこと。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第5回	地域リハビリテーションと理学療法、理学療法研究について紹介する【アクティブラーニング】確認課題実施	教科書で該当する部分を事前学習すること。(90分)	授業内容の復習をしておくこと。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第6回	医療事故とリスクマネジメント、個人情報の管理と対象者の権利について紹介する【アクティブラーニング】確認課題実施	教科書で該当する部分を事前学習すること。(90分)	授業内容の復習をしておくこと。(90分)
担当教員	橋田 浩		

第7回	グループワークを行う。(詳細については授業時に説明する)	教科書で該当する部分を事前学習すること。(90分)	授業内容の復習をしておくこと。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第8回	グループ別に発表を実施する。	教科書で該当する部分を事前学習すること。(90分)	授業内容の復習をしておくこと。(90分)
担当教員	橋田 浩		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内の参加度、参加態度、課題提出(50%) 8回目のグループ発表(50%)の総合点数で評価する
その他	0	
教科書		
千住秀明監修 理学療法概論(第4版) 神陵文庫		
参考文献		
理学療法概論テキスト(改訂第4版) 南江堂		
履修条件・留意事項等		

毎回の授業における授業課題提出、グループ発表や確認テストで成績を評価するので欠席しないこと。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 基礎理学療法学					
科目名		運動生理学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	大森 圭、鈴木 信						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」と特に関連のある科目である。この科目は「生理学Ⅰ・Ⅱ」「運動学Ⅰ・Ⅱ」と関連し、「基礎運動療法学」の基礎となる。							

- ・有酸素運動と無酸素運動の違いを平易な表現で説明できる。
- ・運動強度の違いがもたらす身体機能の変化やエネルギー代謝系への影響を説明できる。
- ・体力向上や健康増進に有用なトレーニングの実施方法を科学的に理解するための基礎知識を説明できる。

授業の方法

パワーポイントと教科書、配布資料を用いて講義形式で進める。理解度の確認として小テストを実施し、Google Form等を用いて質問・感想などを記載させる。

ICT活用

- ・配布資料(記入式講義資料および授業内容補足版)をGoogle Classroomで公開し、準備学習と事後学習などの自主学習を支援する。
- ・Google Formのアンケート作成機能を用いて授業後の理解度確認と質問・意見を回答させる。

実務経験のある教員の教育内容

担当者は、リハビリテーションを実施している医療機関において勤務経験がある。この経験を活かして運動生理学の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

小テストの解説を行う。また、小テストや最終確認テストの結果、合格点に達しなかった場合は、合格点に達するまで繰り返し再テストやレポート課題を実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	運動と健康 ・健康とは ・運動のメリットとデメリット ・運動と疾患予防の関連	授業内容について教科書の関連する部分(第11章)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	大森 圭		
第2回	身体活動と健康 ・身体活動と生活活動 ・身体活動量を増やすことによる効果 ・健康づくりのための身体活動、運動ガイド2023	授業内容について教科書の関連する部分(第12章)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	大森 圭		
第3回	骨格筋の構造と筋収縮 ・骨格筋の構造 ・筋肉の収縮様式 ・トレーニングの5大原則	授業内容について教科書の関連する部分(第1章)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	大森 圭		

第4回	運動とエネルギー源 (1) •ATPの構造と役割 •ATP再合成システム •エネルギー源となる栄養素	授業内容について教科書の関連する部分(第4章)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	大森 圭		
第5回	運動とエネルギー源 (2) •運動に必要な3つのエネルギー供給系 •有酸素運動と無酸素運動 •トレーニングがエネルギー供給系に及ぼす影響	授業内容について教科書の関連する部分(第4章)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	大森 圭		
第6回	運動と呼吸 •胸郭の動きと筋の働き •血液によるガス運搬 •酸素摂取量	授業内容について教科書の関連する部分(第3章)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	鈴木 信		

第7回	運動と循環 ・心拍数と1回拍出量の関係 ・運動時の組織への血流配分 ・血圧と末梢血管抵抗の関係	授業内容について教科書の関連する部分(第3章)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	鈴木 信		
第8回	エネルギー消費量 ・代謝の定義 ・体温と代謝の関連 ・代謝当量(METs)	授業内容について教科書の関連する部分(第5章)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	鈴木 信		
第9回	筋肉づくりとタンパク質 ・タンパク質の役割 ・タンパク質の種類と摂取タイミング ・タンパク質とトレーニング負荷の関連	授業内容について教科書の関連する部分(第7章)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	鈴木 信		

第10回	骨づくりと栄養素・身体活動 ・骨の構造と機能 ・骨の代謝 ・運動と骨量の関連	授業内容について教科書の関連する部分(第8章)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	鈴木 信		
第11回	運動と内分泌 ・糖質と脂質の代謝 ・副腎皮質ホルモン ・化学的構造からみたホルモンの種類	授業内容に関して参考文献やインターネット等を用いて事前に調べておくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	鈴木 信		
第12回	運動と免疫 ・免疫細胞の種類 ・運動による免疫への効果 ・体液性免疫と細胞性免疫	授業内容に関して参考文献やインターネット等を用いて事前に調べておくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	鈴木 信		

第13回	スポーツ選手の食事管理 ・スポーツ活動の目的に合わせた食事の考え方 ・スポーツ貧血対策 ・スポーツにおけるサプリメントの役割	授業内容について教科書の関連する部分(第13章)を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	鈴木 信		
第14回	総復習	本講義の資料や教科書の関連する部分およびノートを確認しておくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	鈴木 信		
第15回	最終確認テスト	本講義の資料やノート、小テストを全て見直しておくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	鈴木 信		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業参加度(10%) 小テスト(30%) 最終確認テスト(60%)
その他	0	なし
教科書		
栄養科学イラストレイテッド運動生理学 改訂第2版 麻見直美・他編集 羊土社 2024年		
参考文献		

病気がみえる vol.3 糖尿病・代謝・内分泌 第5版 医療情報科学研究所編集 メディックメディア 2019年
 病気がみえる vol.6 免疫・膠原病・感染症 第2版 医療情報科学研究所編集 メディックメディア 2018年

履修条件・留意事項等

聴講に際しては、すでに学んだ運動器の解剖や生理学を十分に復習して臨むこと。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 基礎理学療法学					
科目名		病態運動学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	牧野 均						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーのうち、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる(関心・意欲・態度)」に関連する科目です。理学療法専門科目の基礎理学療学分野の科目の1つです。「運動学Ⅰ・Ⅱ」、「運動学実習」と関連し、「日常生活活動学」、「日常生活活動学実習」、「運動器障害理学療法学」、「神経障害理学療法学」などの基礎となる。また、「臨床実習」を理解するための基礎ともなります。							
授業の概要							
運動機能障害を有する病的状態における運動や動作の特徴について知り、臨床上の問題点について理解を深める。							
到達目標							

正常な状態における運動や動作を適切な用語で表現できる。
病的な状態における運動や動作を適切な用語で表現できる。
正常な動作と病的な動作の違いを適切な用語で記述できる。

授業の方法

パワーポイントと配布印刷物を用いて、講義形式ですすめる。予習、復習の確認のため、確認テストを各授業の最初と最後に実施する。また、第8回目に「まとめの課題」を行う。「まとめの課題」後に「正常な動作と病的な動作の違い」のグループワーク課題を行い、各自提出する。教科書に付属するweb動画を応用する。

ICT活用

スマホを用いて、課題の検索及び課題提出を行う。また、練習問題を提供し自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

科目担当者は、病院施設での実務経験を有している。

課題に対するフィードバックの方法

確認テストの実施後には、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 講義の進め方、成績評価の方法について 病態運動学の領域について学ぶ 観察による姿勢・動作分析の手順について 正常動作 ①	教科書pp15-55を事前に読んでおくこと(90分)	教科書pp15-55を事前に読んでおくこと(90分)
担当教員			
第2回	正常動作 ② 寝返り起き上がり動作から歩行までの基本動作について、多くのヒトがとる動作パターンについて観察の手順について学ぶ。	教科書pp15-55を事前に読んでおくこと(90分)	正常動作について、復習しておくこと(90分)
担当教員			
第3回	異常動作 歩行を中心に異常動作のチェックポイントを学ぶ。	教科書pp71-88を事前に読んでおくこと(90分)	異常動作について、復習しておくこと(90分)
担当教員			

第4回	脳卒中片麻痺の姿勢・動作・歩行分析 ① 脳卒中片麻痺の病態について学ぶ。中枢神経系の問題による異常姿勢・動作について学ぶ。	教科書pp150－226を事前に読んでおくこと、特に前半部分を読んでおくこと(90分)	中枢神経系の問題による異常姿勢・動作について復習をしておくこと(90分)
担当教員			
第5回	脳卒中片麻痺の姿勢・動作・歩行分析 ② 中枢神経系の問題による異常姿勢・動作について学ぶ。	教科書pp150－226を事前に読んでおくこと、特に後半部分を読んでおくこと(90分)	中枢神経系の問題による異常姿勢・動作について、復習をしておくこと(90分)
担当教員			
第6回	運動器障害の病態と姿勢・動作・歩行分析 ① 高齢者の姿勢・動作・歩行分析 大腿骨頸部骨折と変形性腰椎症の基本的姿勢と動作のチェックポイントについて学ぶ。	教科書pp71-105を事前に読んでおくこと(90分)	大腿骨頸部骨折と変形性腰椎症の基本的姿勢と動作について復習をしておくこと(90分)
担当教員			

第7回	運動器障害の病態と姿勢・動作・歩行分析 ② 変形性股関節症と変形性膝関節症の基本的姿勢と動作のチェックポイントについて学ぶ。	教科書pp71-149を事前に読んでおくこと(90分)	変形性股関節症と変形性膝関節症の基本的姿勢と動作について、復習をしておくこと(90分)
担当教員			
第8回	パーキンソン病の病態について学ぶ 要介護と認知症について学ぶ 病態運動学の「まとめ」	教科書pp227-275を事前に読んでおくこと。 1回目から7回目までの講義内容について理解しておくこと。(90分)	全範囲の復習をしておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内での課題 30% グループワークによる課題提出 10% 8講目に行う「まとめ」を60% として 評価を行う。
その他	0	なし
教科書		
「姿勢・動作・歩行分析 第2版」臨床歩行分析研究会・畠中泰彦 羊土社		
参考文献		
臨床運動学 第3版 中村隆一他 医歯薬出版 運動療法学総論 第3版 吉尾雅春(編) 医学書院 神経解剖カラーテキスト 第2版 野村巖(訳) 医学書院 神経局在診断 第5版 花北順哉(訳) 文光堂 運動器疾患の評価 D.J.Magee 医歯薬出版		
履修条件・留意事項等		

主体的かつ積極的な授業態度が望まれる。2年生で学んだ疾患の病態について、歩行を中心として授業を行います。3年生に向けて、知識をまとめ直す機会にしてください。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 基礎理学療法学					
科目名		基礎解剖学実習(1組)				ナンバリング	3408
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	実習	単位	1
担当教員	池野 秀則、松田 直樹						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」ことと特に関係がある。「理学療法を行うための基本的知識・技術を身に付けている」、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会的変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる」ことにも関係がある。 「解剖学Ⅰ」「解剖学Ⅱ」と関連し、「応用解剖学実習」の基礎となる。							
授業の概要							
1年次前期に学んだ人体の構造について人体模型およびご遺体を通して理解を深める。特に、骨の構造 と筋の起始・停止、支配神経および神経叢について 学び、運動器の構造について解剖学的知識を身に付 ける。							
到達目標							

- 1.骨の部位の名称をその形態に応じて分類することができる。
- 2.骨格筋の起始・停止及び支配神経を説明できる。
- 3.腕神経叢及び腰仙神経叢から出る神経を部位により分類し、それらが支配する筋の働きを説明できる。

授業の方法

骨学(関節と靭帯含む)においては、教科書と配布印刷物及び骨格標本を活用しながら実習形式ですすめる。
筋学においては、教科書と配布印刷物及び動画教材を活用しながら実習形式ですすめる。
札幌医科大学での解剖遺体見学実習を通して人体のしくみを立体的に学習する。
理解度確認テストを次回の授業の初めに実施する。
フィードバックとして理解度確認テストを回収後、解答の解説を行う(毎回)。

ICT活用

Webアプリのvisible body 等、必要に応じてを活用し自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

池野は総合病院・介護老人保健施設にて理学療法士として勤務し、その経験を活かして実習を担当。
松田はリハビリテーション病院・脳神経外科病院にて理学療法士として勤務し、その経験を活かして実習を担当。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして理解度確認テスト回収後、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	骨学オリエンテーション。脊柱、個々の椎骨、胸郭、上肢帯の形態について学ぶ。特に脊柱については弯曲のしかた、個々の椎骨についてはその特徴、胸郭及び上肢帯については骨連結について理解する。(池野)	教科書1のp146～p156を読んでおくこと	配布プリントを復習しておくこと
担当教員	池野 秀則		
第2回	自由上肢骨、下肢帯骨、骨盤の形態について学ぶ。特に自由上肢帯については左右の違い、下肢帯骨については寛骨の構成、骨盤については形態における男女差について理解する。(池野)	教科書1のp157～p166を読んでおくこと	配布プリントを復習しておくこと。
担当教員	池野 秀則		
第3回	自由下肢骨、頭蓋、関節と靭帯について学ぶ。特に自由下肢骨については左右の違い、頭蓋についてはその構成、関節と靭帯については関節の一般構造と靭帯の種類について理解する。(池野)	教科書1のp166～p172、p139～p145、p30～p57を読んでおくこと	配布プリントを復習しておくこと
担当教員	池野 秀則		

第4回	骨学のまとめ(口頭試問)。1回～3回の授業内容についてその理解度を確認する。 (池野)	1回～3回の授業内容について復習しておくこと	口頭試問で答えられなかった項目について復習しておくこと
担当教員	池野 秀則		
第5回	筋学オリエンテーション。上肢の筋。特に肘関節、肩関節、脊柱周囲の筋について学ぶ。 (池野)	教科書1のp261～p266を読んでおくこと	配布プリントを復習しておくこと
担当教員	池野 秀則		
第6回	上肢、体幹、頸部の筋。上肢では特に手関節・手指筋について学ぶ。 (松田)	教科書1のp241～p260、p286～p292を読んでおくこと。 (30分)	配布プリントを復習しておくこと
担当教員	池野 秀則		

第7回	下肢の筋。特に膝関節、股関節周囲の筋について学ぶ。 (松田)	教科書1のp293～p304を読んでおくこと	配布プリントを復習しておくこと
担当教員	松田 直樹		
第8回	下肢の筋。特に下腿、足関節の筋について学ぶ。 (松田)	教科書1のp305～p320を読んでおくこと。	配布プリントを復習しておくこと。
担当教員	松田 直樹		
第9回	総論(骨と関節・筋系)。骨、骨格筋の構造について学ぶ。 (松田)	教科書1のp30～p58を読んでおくこと	配布プリントを復習しておくこと
担当教員	松田 直樹		

第10回	筋学のまとめ(口頭試問)5回～9回までの授業内容についてその理解度を確認する。 札幌医大解剖学見学実習オリエンテーション (松田)	5回～9回までの授業内容について復習しておくこと	口頭試問で答えられなかった項目を復習しておくこと
担当教員	松田 直樹		
第11回	札幌医大解剖学見学実習① ご遺体の見学を通して人体のしくみを立体的に観察する。①では特に浅層筋の見学を中心に見学する。(松田)	浅層筋についての図譜をよく見 ておくこと	見学したご遺体の考察を書いて おくこと
担当教員	松田 直樹		
第12回	札幌医大解剖学見学実習② ご遺体の見学を通して人体のしくみを立体的に観察する。②では特に深層筋の見学を中心に学習する。(松田)	深層筋についての図譜をよく見 ておくこと	学したご遺体の考察を書いてお くこと
担当教員	松田 直樹		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	理解度確認課題10% 口頭試問(骨学・筋学)各10% 筆記試験70%
その他	0	なし
教科書		
PT・OT・STのための解剖学 渡辺正仁監修 廣川書店 イラスト解剖学 松村謙児著 中外医学社 ネッター解剖学アトラス 相磯貞和訳 南江堂 ネッター解剖学カラーリングテキスト第3版		
参考文献		

運動学 小島悟 中山書店 運動学 第2版 山崎敦 羊土社

履修条件・留意事項等

実習科目なので原則として欠席の場合は単位取得できない。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 基礎理学療法学					
科目名		基礎解剖学実習(2組)				ナンバリング	3408
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	実習	単位	1
担当教員	池野 秀則、松田 直樹						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」ことと特に関係がある。「理学療法を行うための基本的知識・技術を身に付けている」、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会的変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる」ことにも関係がある。 「解剖学Ⅰ」「解剖学Ⅱ」と関連し、「応用解剖学実習」の基礎となる。							
授業の概要							
1年次前期に学んだ人体の構造について人体模型およびご遺体を通して理解を深める。特に、骨の構造と筋の起始・停止、支配神経および神経叢について学び、運動器の構造について解剖学的知識を身に付ける。							
到達目標							

- 1.骨の部位の名称をその形態に応じて分類することができる。
- 2.骨格筋の起始・停止及び支配神経を説明できる。
- 3.腕神経叢及び腰仙神経叢から出る神経を部位により分類し、それらが支配する筋の働きを説明できる。

授業の方法

骨学(関節と靭帯含む)においては、教科書と配布印刷物及び骨格標本を活用しながら実習形式ですすめる。
筋学においては、教科書と配布印刷物及び動画教材を活用しながら実習形式ですすめる。
札幌医科大学での解剖遺体見学実習を通して人体のしくみを立体的に学習する。
理解度確認テストを次回の授業の初めに実施する。
フィードバックとして理解度確認テストを回収後、解答の解説を行う(毎回)。

ICT活用

Webアプリのvisible body 等、必要に応じてを活用し自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

池野は総合病院・介護老人保健施設にて理学療法士として勤務し、その経験を活かして実習を担当。
松田はリハビリテーション病院・脳神経外科病院にて理学療法士として勤務し、その経験を活かして実習を担当。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして理解度確認テスト回収後、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	骨学オリエンテーション。脊柱、個々の椎骨、胸郭、上肢帯の形態について学ぶ。特に脊柱については弯曲のしかた、個々の椎骨についてはその特徴、胸郭及び上肢帯については骨連結について理解する。(池野)	教科書1のp146～p156を読んでおくこと	配布プリントを復習しておくこと
担当教員	池野 秀則		
第2回	自由上肢骨、下肢帯骨、骨盤の形態について学ぶ。特に自由上肢帯については左右の違い、下肢帯骨については寛骨の構成、骨盤については形態における男女差について理解する。(池野)	教科書1のp157～p166を読んでおくこと	配布プリントを復習しておくこと。
担当教員	池野 秀則		
第3回	自由下肢骨、頭蓋、関節と靭帯について学ぶ。特に自由下肢骨については左右の違い、頭蓋についてはその構成、関節と靭帯については関節の一般構造と靭帯の種類について理解する。(池野)	教科書1のp166～p172、p139～p145、p30～p57を読んでおくこと	配布プリントを復習しておくこと
担当教員	池野 秀則		

第4回	骨学のまとめ(口頭試問)。1回～3回の授業内容についてその理解度を確認する。 (池野)	1回～3回の授業内容について復習しておくこと	口頭試問で答えられなかった項目について復習しておくこと
担当教員	池野 秀則		
第5回	筋学オリエンテーション。上肢の筋。特に肘関節、肩関節、脊柱周囲の筋について学ぶ。 (池野)	教科書1のp261～p266を読んでおくこと	配布プリントを復習しておくこと
担当教員	池野 秀則		
第6回	上肢、体幹、頸部の筋。上肢では特に手関節・手指筋について学ぶ。 (池野)	教科書1のp241～p260、p286～p292を読んでおくこと。 (30分)	配布プリントを復習しておくこと
担当教員	池野 秀則		

第7回	下肢の筋。特に膝関節、股関節周囲の筋について学ぶ。 (松田)	教科書1のp293～p304を読んでおくこと	配布プリントを復習しておくこと
担当教員	松田 直樹		
第8回	下肢の筋。特に下腿、足関節の筋について学ぶ。 (松田)	教科書1のp305～p320を読んでおくこと。	配布プリントを復習しておくこと。
担当教員	松田 直樹		
第9回	総論(骨と関節・筋系)。骨、骨格筋の構造について学ぶ。 (松田)	教科書1のp30～p58を読んでおくこと	配布プリントを復習しておくこと
担当教員	松田 直樹		

第10回	筋学のまとめ(口頭試問)5回～9回までの授業内容についてその理解度を確認する。 札幌医大解剖学見学実習オリエンテーション(松田)	5回～9回までの授業内容について復習しておくこと	口頭試問で答えられなかった項目を復習しておくこと
担当教員	松田 直樹		
第11回	札幌医大解剖学見学実習① ご遺体の見学を通して人体のしくみを立体的に観察する。①では特に浅層筋の見学を中心に見学する。(松田)	浅層筋についての図譜をよく見 ておくこと	見学したご遺体の考察を書いて おくこと
担当教員	松田 直樹		
第12回	札幌医大解剖学見学実習② ご遺体の見学を通して人体のしくみを立体的に観察する。②では特に深層筋の見学を中心に学習する。(松田)	深層筋についての図譜をよく見 ておくこと	学したご遺体の考察を書いてお くこと
担当教員	松田 直樹		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	理解度確認課題10% 口頭試問(骨学・筋学)各10% 筆記試験70%
その他	0	なし
教科書		
PT・OT・STのための解剖学 渡辺正仁監修 廣川書店 イラスト解剖学 松村謙児著 中外医学社 ネッター解剖学アトラス 相磯貞和訳 南江堂 ネッター解剖学カラーリングテキスト第3版		
参考文献		

運動学 小島悟 中山書店 運動学 第2版 山崎敦 羊土社

履修条件・留意事項等

実習科目なので原則として欠席の場合は単位取得できない。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 基礎理学療法学					
科目名		理学療法研究法				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	佐々木 幸子						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる(関心・意欲・態度)」、「科学的根拠に基づいた理学療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている(関心・意欲・態度)」と特に関係がある科目である。これまでに学んできた専門領域の科目と関連し、「理学療法研究セミナー」「理学療法研究」の基礎となる。							

理学療法における研究の意義、用語、理論、倫理が説明できる。
実験・調査計画、計測・データ分析の基本的手法について説明できる。
文献的考察を実施することができる。
論文の作成に関する基本的な手法、考え方について説明できる。

授業の方法

参考資料となるプリントを用いて、講義形式ですすめる。
学生同士で議論、発表する回を設ける。
また、興味のある理学療法領域の先行研究の論文を読み、その内容について自身の考えをまとめたレポートを提出する。

ICT活用

Google Form のアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

理学療法士として調査・研究を行ってきた経験を活かして指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして発表課題に対するコメント、解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	理学療法研究総論:理学療法学における研究の位置付けと概要について理解する。	事前配布資料を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	研究デザイン:研究デザインの分類、各手法の利点と欠点について実例を通して学ぶ。 対象者のサンプリングについて学ぶ。	事前配布資料を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	測定手法:理学療法研究で測定する変数とその信頼性、妥当性について学ぶ。 研究における各種バイアスについて学ぶ。	事前配布資料を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			

第4回	研究倫理:ヘルシンキ宣言、人を対象とした医学系研究の倫理指針について学ぶ。 個人情報の取り扱いについて学ぶ。	事前配布資料を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第5回	統計解析:基本的な統計技法について学ぶ。	事前配布資料を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。また、興味のある研究分野の論文を探すこと。(90分)
担当教員			
第6回	研究計画書の作成法:グループディスカッションを通して、研究計画書を作成する	事前配布資料を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。また、興味のある研究分野の論文を探すこと。(90分)
担当教員			

第7回	研究計画書の作成法:グループディスカッションを通して、研究計画書を作成する	事前配布資料を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。また、興味のある分野の論文を熟読すること。(90分)
担当教員			
第8回	課題発表:グループで作成した研究計画書の内容を発表する。	第8回目に発表するプレゼンテーション資料を作成する。(90分)	課題発表時に指摘された部分について修正を行う。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で提示する課題レポート(90%) 授業への参加態度(10%)
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		
標準理学療法学 専門分野 理学療法研究法 内山靖編集 医学書院		
履修条件・留意事項等		

なし

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 基礎理学療法学					
科目名		理学療法研究セミナー				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、松田 直樹、南部 路治、鈴木 信						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「高度に専門家かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている」(知識・技術)、「科学的根拠に基づいた理学療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を見につけている」(思考・判断・表現)、「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる」(関心・意欲・態度)と特に関連している。理学療法学の発展に貢献するという使命感を持つための科目であり、理学療法の専門領域で学んだ知識を基盤として、特定領域の学習を通して科学的思考を深める。これまでに学んだ全ての科目と関連し、収集した文献等を通して研究テーマに発展させる。卒業研究計画書を作成することにより「理学療法研究」の基礎となる。							
授業の概要							
理学療法の専門領域で学んだ知識を基盤に、「理学療法研究法」で各自が立案した研究テーマの研究背景について理解を深めるために、先行研究の検索・収集を行い、少人数グループにおいて担当セミナー教員の指導の下に特定領域の学習・討議を通して理学療法についての科学的思考を深める。さらにそれらを基盤として、理学療法研究に向けての研究課題・研究計画を立案する。							
到達目標							

- ①研究テーマ決定に必要な文献を収集しその概要について紹介することができる。
- ②集めた文献等から生じた研究や臨床に対する疑問を基にして研究テーマを立案することができる。
- ③具体的な卒業研究計画書を作成することができる。

授業の方法

セミナー担当教員の指導の下、少人数による理学療法手技の確認、理学療法研究に関する文献検索など、学生の主体性を重視した演習形式で実施する。

ICT活用

対面指導の他に必要に応じて、オンラインにて指導を行う。

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして、ゼミナール担当教員や所属学生と共に理学療法手技や研究内容の確認および討論を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 本科目の課題や内容およびセミナーの進め方、文献収集の方法を学ぶ。(橋田)	自身の研究内容について、ゼミ担当教員と打ち合わせを行うこと。(25分)	自身の研究内容について、ゼミ担当教員と打ち合わせをし、今後の研究の準備を行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		
第2回	文献収集 研究テーマを探索するために文献の収集を行う。(ゼミ担当教員)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考し、完成させること。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		
第3回	文献講読・紹介① 収集した文献を熟読し、その内容をまとめる。(ゼミ担当教員)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考し、完成させること。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		

第4回	文献講読・紹介② 収集した文献を講読し、その内容を少人数グループ内で紹介する。(ゼミ担当教員)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考し、完成させること。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		
第5回	文献講読・紹介② 収集した文献を講読し、その内容を少人数グループ内で紹介する。(ゼミ担当教員)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考し、完成させること。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		
第6回	文献講読・紹介④ 収集した文献を講読し、その内容を少人数グループ内で紹介し、考察に対する自身の意見を発表する。(ゼミ担当教員)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考し、完成させること。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		

第7回	研究テーマの検討 4年次に行う理学療法研究における研究テーマを検討する。(ゼミ担当教員)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考し、完成させること。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		
第8回	研究テーマに関する文献収集・講読① 研究テーマに関連した文献の収集を行う。(ゼミ担当教員)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考し、完成させること。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		
第9回	研究テーマに関する文献収集・講読② 研究テーマに関連した文献の収集と講読を行う。(ゼミ担当教員)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考し、完成させること。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		

第10回	研究テーマに関する文献収集・講読③ 研究テーマに関連した文献の収集と講読を行い、その内容をまとめる。(ゼミ担当教員)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考し、完成させること。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		
第11回	研究テーマの決定と研究仮説の検討を行う。(ゼミ担当教員)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考し、完成させること。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		
第12回	研究テーマを遂行するために必要なデータ収集手段を検討する。(ゼミ担当教員)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考し、完成させること。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		

第13回	研究テーマを遂行するために必要なデータ収集手段を検討し、少人数グループの中で発表する。(ゼミ担当教員)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考し、完成させること。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		
第14回	研究テーマ解析方法の検討を行う。(ゼミ担当教員)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考し、完成させること。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		
第15回	卒業研究計画書案を作成する。(ゼミ担当教員)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、作成した研究計画書の内容を熟考し、完成させること。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	卒業研究計画書の作成およびその内容(80%)、授業参加度(20%)
その他	0	なし
教科書		
理学療法研究法/内山靖編集/医学書院(理学療法研究法で購入)		
参考文献		

なし

履修条件・留意事項等

学生自身の主体的な取り組み、積極的な研究態度が望まれる。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 基礎理学療法学					
科目名		理学療法研究				ナンバリング	
配当年次	4年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	2
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、松田 直樹、南部 路治、鈴木 信						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーにある「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる(関心・意欲・態度)」「臨床場面や研究において状況の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけている(思考・判断・表現)」と特に関連した科目である。理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけるための科目であり、研究課題に沿った対象者や実験機器の選択、調査表の作成をし、理学療法における科学的検証能力を養う。卒業研究論文作成や卒業研究発表を目指すため「理学療法研究法」「理学療法研究セミナー」と関連する。							

- ①研究の目的に沿った実験・調査方法を立案することができる。
- ②障がいを持ち、理学療法が必要な対象者を、研究の対象者として研究を立案することができる
- ③実験や調査データを解析および分析から、論理的に考察することができる。
- ④研究論文の抄録を所定の書式で完成させることができる。
- ⑤研究論文発表のためのスライドを用いてプレゼンテーションできる。
- ⑥研究論文発表における基本的技術、マナーを身につけることができる。

授業の方法

ゼミナー担当教員の指導のもと自らの課題を探究し、その解決を同じゼミナーの所属学生と共に演習形式で実施していく。

ICT活用

対面指導の他にオンライン指導を併用して行う

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

ゼミナー担当教員や所属学生と共に研究内容の確認や討論を行い、各課題へのフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーションを受講し、研究の進め方や注意点について理解する。	自身の研究内容について、ゼミ担当教員と打ち合わせを行い、本科目内での実施方法について熟考すること。(25分)	ゼミ担当教員との打ち合わせから本科目内での実施方法についての改善点を熟考すること。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		
第2回	研究を立案する① これまでに学んだ知識の確認と先行研究と照らし合わせ、自身の研究について考える。	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		
第3回	研究を立案する② これまでに学んだ知識の確認と研究と照らし合わせ、自身の研究疑問を検討する。	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		

第4回	研究を立案する③ これまでに学んだ知識の確認と研究と照らし合わせ自身の研究疑問を検討する。	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		
第5回	研究を立案する④ これまでに学んだ知識の確認と自分の研究疑問について、幅広く研究論文を精読して、研究の可能性を検討する。	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		
第6回	研究を立案する⑤ これまでに学んだ知識の確認と自分の研究疑問について、幅広く研究論文を精読して、研究の可能性を検討する。	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		

第7回	研究を立案する⑥ これまでに学んだ知識の確認と自分の研究疑問について、幅広く研究論文を精読して、研究の可能性を検討する。	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		
第8回	研究を立案する⑦ これまでに学んだ知識と基盤として自身の研究疑問について、明らかにするための具体的な研究手法、研究データ収集方法、研究手順を検討する。	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		
第9回	研究を立案する⑧ これまでに学んだ知識と基盤としての研究疑問について、明らかにするための具体的な研究手法、研究データ収集方法、研究手順を検討する。	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		

第10回	研究を立案する⑨ これまでに学んだ知識と基盤として研究手法、研究データ収集方法、研究手順を検討するするためパイロットスタディを行う。	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		
第11回	研究を立案する⑩ これまでに学んだ知識と基盤として研究手法、研究データ収集方法、研究手順を検討するするためパイロットスタディを行う。	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		
第12回	研究を立案する⑪ これまでに学んだ知識と基盤として研究手法、研究データ収集方法、研究手順を検討するするためパイロットスタディを行う。	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		

第13回	研究を立案する12これまでに学んだ知識と基盤として研究手法、研究データ収集方法、研究手順を検討するするためパイロットスタディを行う。	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		
第14回	研究を立案する13 これまでに学んだ知識と基盤として研究手法、研究データ収集方法、研究手順を検討するするためパイロットスタディを行う。	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		
第15回	研究を立案する14これまでに学んだ知識と基盤として研究手法、研究データ収集方法、研究手順を検討するするためパイロットスタディを行う。	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		

第16回	研究を立案する15 これまでに学んだ知識と基盤として研究手法、研究データ収集方法、研究手順を検討するするためパイロットスタディを行う。	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		
第17回	データ測定① 研究対象者を、理学療法の対象者(運動器疾患や、神経障害など障がいのある人など)から検討し、実際にデータ測定を行う。	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		
第18回	データ測定② 研究対象者を、理学療法の対象者(運動器疾患や、神経障害など障がいのある人など)から検討し、実際にデータ測定を行う。	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		

第19回	データ測定③ 研究対象者を、理学療法の対象者(運動器疾患や、神経障害など障がいのある人など)から検討する	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		
第20回	データ測定④ 研究対象者を、理学療法の対象者(運動器疾患や、神経障害など障がいのある人など)から検討する	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		
第21回	データ測定⑤研究対象者を、理学療法の対象者(運動器疾患や、神経障害など障がいのある人など)から検討する	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		

第22回	サマリー作成① 測定したデータのまとめ、分析を行い、統計処理方法を検討した上でサマリー作成を行う	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		
第23回	サマリー作成② 測定したデータのまとめ、分析を行い、統計処理方法を検討した上でサマリー作成を行う	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		
第24回	サマリー作成③ 測定したデータのまとめ、分析を行い、統計処理方法を検討した上でサマリー作成を行う	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		

第25回	サマリー作成④ 測定したデータのまとめ、分析を行い、統計処理方法を検討した上でサマリー作成を行う	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		
第26回	サマリー作成⑤ 測定したデータのまとめ、分析を行い、統計処理方法を検討した上でサマリー作成を行う	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		
第27回	サマリー作成⑥ 測定したデータのまとめ、分析を行い、統計処理方法を検討した上でサマリー作成を行う	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		

第28回	研究報告会① 自身の研究内容について、プレゼンテーションと原稿を準備してゼミ内で発表する	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		
第29回	研究発表会② 自身の研究内容について、プレゼンテーションと原稿を準備して発表する。	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		
第30回	研究発表会③ 自身の研究内容について、プレゼンテーションと原稿を準備して発表する。	ゼミ担当教員の指導の下、自身の研究に必要な知識の補完に努めること。(25分)	ゼミ担当教員の指導のもと、研究内容の見直しを行うこと。(20分)
担当教員	橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、佐藤 明紀、柴田 恵理子、水本 淳、		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	研究立案への論理性、研究方法の実現性、研究実施に対する参加態度、プレゼンテーションを総合的に評価する。
その他	0	
教科書		
なし		
参考文献		

理学療法研究法/内山康編集/医学書院(理学療法研究法で購入)

履修条件・留意事項等

学生自身の主体的な取り組み、積極的な研究態度が望まれる。ただし、遵守事項が多いので指導教員の指導のもとにすすめること。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 基礎理学療法学					
科目名		医療統計学				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	加茂 憲一						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシー「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている(知識・技能)」と特に関連し、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」「幅広く教養を高め、豊かな人間性と高い倫理観、社会変化への適応力を持ち、理学療法学の持続的な発展に貢献して社会を支えることができる(関心・意欲・態度)」とも関連する科目である。1年生「統計の基礎」の発展的科目である。							

統計学の基本的な内容を復習し、上記3つのテーマに関する内容を活用できるようになることを到達目標とする。

授業の方法

1回90分の講義において、前半の60分はパワーポイントを用いた座学講義を行う。必要に応じて統計フリーソフト「R」を用いた実践法を紹介する。学習内容の定着のため、最後の30分は筆記による演習を行う。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

各回の講義の最後に行う演習問題について、解答およびポイントの解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	「統計学」の復習①・・・既に学習済の「統計学」から重要な内容を復習する。母集団とサンプルの概念、統計量、確率分布について復習する。	高校数学および第一学年における「統計の基礎」の復習(90分)	演習問題を完答できるようになっておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	「統計学」の復習②・・・第一回目に引き続き、推定、仮説検定に関して復習する。	高校数学および第一学年における「統計の基礎」の復習(90分)	演習問題を完答できるようになっておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	感度と特異度・・・検査結果の有効性の評価指標である感度と特異度について学習する。これらの間に存在するトレードオフの概念を理解する。	二項分布 区間推定 (90分)	演習問題を完答できるようになっておくこと。(90分)
担当教員			

第4回	ROC曲線とカットオフ値・・・陽性・陰性の判断といった意思決定における数値をどのように決定すれば良いのかを理解する。	二項分布 (30分)	演習問題を完答できるようになっておくこと。(90分)
担当教員			
第5回	回帰分析①・・・単回帰の復習を行い、その概念を重回帰に拡張する。最小2乗法に基づくパラメータ推定を理解する。	単回帰 (90分)	演習問題を完答できるようになっておくこと。(90分)
担当教員			
第6回	回帰分析②・・・重回帰に関する様々な事例分析に取り組む。ダミー変数の取り扱いと意味を理解する。	単回帰 (90分)	演習問題を完答できるようになっておくこと。(90分)
担当教員			

第7回	生存時間解析①・・・イベント発生までの時間に関する解析方法を学習する。センサー症例について理解し、カプラン・マイヤー法に基づき生存曲線を描くことを目標とする。	カイ2乗分布（90分）	演習問題を完答できるようになっておくこと。（90分）
担当教員			
第8回	生存時間解析②・・・生存時間の異なる群を比較し、その差異の有無をログランク検定により判断する。併せて仮説検定の考え方についても復習する。	カイ2乗分布 生存関数 センサー症例 検定（90分）	演習問題を完答できるようになっておくこと。（90分）
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合（%）	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	10	講義後のミニレポート(10%)
その他	90	期末レポート(90%)
教科書		
なし(毎回講義内容のプリントを配布し、最後に演習問題を配布する)		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		

高校までの「数学」および第一学年で学習した「統計学」の知識を用いるので、復習をしておくこと。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法管理学					
科目名		理学療法管理経営学Ⅰ				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	南部 路治						
授業の位置づけ							
本科目はディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる(関心・意欲・態度)」、「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる。(関心・意欲・態度)」と特に関係がある科目である。 ・「医学概論」、「リハビリテーション概論」、「リハビリテーション医学」、「地域包括ケアシステム論」、「理学療法管理経営学Ⅱ」と関連し、「チーム医療概論」につながる科目である。							
授業の概要							
・理学療法士として職業倫理、チーム医療における理学療法士の役割について理解する。また近年、理学療法士の働き方は多様化している。この科目では病院・施設の組織および記録・報告、臨床におけるリスク管理、理学療法施設基準、診療報酬等の理学療法部門の管理運営について理解する。また多くの理学療法士が勤務する中で、自らの特長を生かし、変化する社会に貢献できるように自ら考える能力を養う。 ・ゲスト講師からの卒後教育システムについての話を聞き、生涯学習の理解を深める。 ・理学療法研究職、理学療法士が所属する学会等について理解し、将来の自分のキャリアについて考える機会とする。							
到達目標							

1. 理学療法部門の管理・運営について説明できる。
2. 医療専門職として倫理感を有し、理学療法を遂行できる。
3. 多様化している理学療法士の働き方を理解する
4. 医療事故の原因を理解し、事故の予防に努め、リスク管理ができる。
5. 理学療法士の業務に関わる法令と、社会保障制度について述べることができる。

授業の方法

授業資料のPDFは事前にGoogleクラスルームで提示するので、教科書と併せて確認すること。
授業はパワーポイントを用いた講義形式である。また、理解度の確認として小テストを実施する。
授業に関する質問はGoogleクラスルームでのメールで対応する。

ICT活用

Googleクラスルームで資料配付します。印刷して持参するか、ノートPC、タブレット等を持参すること。

実務経験のある教員の教育内容

担当教員は理学療法士としての病院勤務経験があり、その経験を元に、理学療法士に必要とされる管理業務全般について講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で作成する課題レポートについては、提出後確認して必要に応じてコメントを記載する。
ゲスト講師の講義の場合は感想を含めた学びレポートを提出する。必要に応じてコメントを記載する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション。理学療法管理経営学とは。理学療法士の業務に関わる法令と、社会保障制度における理学療法士の役割について理解する。	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	南部 路治		
第2回	専門職と倫理、患者の権利(リスボン宣言)、理学療法士の職業倫理について理解する。	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	南部 路治		
第3回	理学療法におけるリスク管理、とくに安全管理と感染対策について理解する。	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	南部 路治		

第4回	医療保険制度における各種リハビリテーション料の内容と、施設基準(設備・人的基準)を理解する。	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	南部 路治		
第5回	リハビリテーション医療に必要な診療録、ならびに帳票類について理解する。	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	南部 路治		
第6回	職場における人事管理(採用から退職まで)、人的資源計画について理解する。	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	南部 路治		

第7回	介護保険制度が成立した背景と制度の概要、および主なサービスの内容を理解する。 介護保険施設での業務管理(人事管理・帳票管理・多職種連携)について理解する。	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	南部 路治		
第8回	レジデント制度を通じて、理学療法士の卒後教育と専門職に必要な生涯学習を理解する。	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	南部 路治		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	80	8回の講義内での課題を提出する。 授業内課題レポートを10点満点とし、8回行う
その他	20	自宅学習用の課題レポート提出にて20点とする
教科書		
リハビリテーション管理学 第1版 齋藤昭彦・下田信明編 羊土社		
参考文献		
必要に応じて提示する		
履修条件・留意事項等		

毎回の授業で授業内課題を行うので欠席しないこと。
但し、止むを得ない理由（公欠と認められる）場合においては代替方法にて評価する。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法管理学					
科目名		理学療法管理経営学Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	横井 裕一郎						
授業の位置づけ							
本科目はディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる(関心・意欲・態度)」、「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる。(関心・意欲・態度)」と特に関係がある科目である。 ・「医学概論」、「リハビリテーション概論」、「リハビリテーション医学」、「地域包括ケアシステム論」、「理学療法管理経営学Ⅰ」と関連し、「チーム医療概論」につながる科目である。							
授業の概要							
近年、理学療法士の働き方は多様化している。この科目では訪問看護ステーション、児童発達支援センターや放課後等児童デイサービスなど幅広い理学療法士の仕事を理解する。また多くの理学療法士が勤務する中で、自らの特長を生かし、変化する社会に貢献できるように自ら考える能力を養う							
到達目標							

1. 理学療法部門の管理・運営について説明できる。
2. 医療専門職として倫理感を有し、理学療法を遂行できる。
3. 多様化している理学療法士の働き方を理解する
4. 海外での勤務、児童発達支援センターなど、病院勤務以外の理学療法士としての仕事について理解する
5. 理学療法研究、専門理学療法士、認定理学療法士について理解する

授業の方法

授業資料のPDFは事前にGoogleクラスルームで提示するので、教科書と併せて確認すること。
授業はパワーポイントを用いた講義形式である。また、理解度の確認としてレポート作成を行う。
講義中にグループディスカッションを行い、理解を深める。
授業に関する質問はGoogleクラスルームでのメールで対応する。

ICT活用

Googleクラスルームで資料配付します。印刷して持参するか、ノートPC、タブレット等を持参すること。

実務経験のある教員の教育内容

担当教員は理学療法士としての病院勤務経験があり、その経験を元に、理学療法士に必要とされる管理業務全般について講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で作成する課題レポートについては、提出後確認して必要に応じてコメントを記載する。
ゲスト講師の講義の場合は感想を含めた学びレポートを提出する。必要に応じてコメントを記載する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 理学療法管理経営の考え方 リハビリテーション、理学療法の組織、管理(マネジメント) について理解する。	授業内容について事前に配布 した資料および教科書の関連す る部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまと めること。(90分)
担当教員			
第2回	理学療法士の卒前・卒後教育と、専門職に必要な生涯学 習	授業内容について事前に配布 した資料および教科書の関連す る部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまと めること。(90分)
担当教員			
第3回	理学療法教員や研究者をめざすために	授業内容について事前に配布 した資料および教科書の関連す る部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまと めること。(90分)
担当教員			

第4回	病院、リハビリテーション科の管理運営について～理学療法士の多角的業務～	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第5回	児童発達支援、放課後等デイサービスでの理学療法業務～令和時代の子どものリハビリテーションとは～	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第6回	海外での理学療法経験について～青年海外協力隊～	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			

第7回	多様な理学療法士キャリア 車椅子、座位保持装置などの福祉機器業者での理学療法業務	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第8回	理学療法士のリーダーシップ、社会貢献、起業について講義の後、グループディスカッションにて自分の将来像について考える	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	80	8回の講義内での課題を提出する。 授業内課題レポートを10点満点とし、8回行う
その他	20	自宅学習用の課題レポート提出にて20点とする
教科書		
リハビリテーション管理学 第1版 齋藤昭彦・下田信明編 羊土社		
参考文献		
必要に応じて提示する		
履修条件・留意事項等		

毎回の授業で授業内課題を行うので欠席しないこと。
但し、止むを得ない理由（公欠と認められる）場合においては代替方法にて評価する。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法評価学					
科目名		理学療法評価学Ⅰ				ナンバリング	3442
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	佐藤 明紀、柴田 恵理子						
授業の位置づけ							
本授業は、ディプロマ・ポリシーに掲げる「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている」および「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている」(知識・技能)に対応する科目である。 理学療法評価は、問診にはじまり、観察・検査・測定・統合・解釈へと続く一連の思考過程を修得する学問領域である。 本授業は、理学療法士としての専門性を高める専門科目として「理学療法評価学Ⅱ・Ⅲ」、「理学療法評価学実習Ⅰ・Ⅱ」と関連し、「臨床実習」の基礎となる重要な科目であり、理学療法を行うための基本的な専門的知識および技術を修得することを目的とする。							
授業の概要							
理学療法を実施する上で展開される一連の過程について、国際障害分類(International Classification of Impairments, Disabilities and Handicaps:ICIDH)および国際生活機能分類(International Classification of Functioning:ICF)との関連を含めて理解し、理学療法評価の目的と意義について総論的に学修する。 その後、各論として医療情報の収集、問診、ならびに理学療法評価の基本技術のうち、主として筋骨格系を対象とした項目について理論と概要を理解し、各項目に必要な基礎知識および検査の実際と留意点について学修する。							
到達目標							

- ・理学療法評価の概念・意義および目的を理解できる。
- ・身体評価 (physical assessment) 全般の基本原則を理解できる。
- ・評価に必要な検査・測定の意義および正しい方法を理解できる。
- ・疾患を有する患者の全体像を全人的視点から捉えることの必要性を理解できる。

授業の方法

パワーポイントおよび配布資料を用い、講義形式で授業を進める。
また、理解度を確認するために小テストを実施する。

ICT活用

Google Classroomを活用し、課題提示やアンケート等を通じて双方向型授業を取り入れる。
また、必要に応じてオンデマンド形式またはオンライン形式での授業実施を検討する。

実務経験のある教員の教育内容

佐藤、柴田は理学療法士としての臨床経験および研究経験を有しており、それらの実務経験を基に授業を展開する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内容および小テスト課題に対して、その都度、解説および補足説明を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	理学療法評価総論 理学療法評価の概念と目的を学習する。	教科書1の「総論、第1章 一般的評価事項」を事前に読んでおくこと。 必要時間:90分	小テストを実施するので、講義内容の復習し理解を深めること。 必要時間:90分
担当教員	佐藤 明紀		
第2回	情報収集と医療面接 理学療法評価における情報収集と医療面接の基本を学習する。	教科書1の「総論、各論第1章 一般的評価事項」を事前に読んでおくこと。 必要時間:90分	小テストを実施するので、講義内容の復習し理解を深めること。 必要時間:90分
担当教員	佐藤 明紀		
第3回	検査・測定 関節可動域の概論と特徴について学習する。	教科書1の「各論第4章 関節可動域測定」を事前に読んでおくこと。 必要時間:90分	小テストを実施するので、講義内容の復習し理解を深めること。 必要時間:90分
担当教員	佐藤 明紀		

第4回	検査・測定 関節可動域測定(上肢・下肢)について学習する。	教科書1の「各論第4章 関節可動域測定」を事前に読んでおくこと。 必要時間:90分	小テストを実施するので、講義内容の復習し理解を深めること。 必要時間:90分
担当教員	佐藤 明紀		
第5回	検査・測定 バイタルチェックについて学習する。	教科書1の「各論第2章 バイタルサイン」を事前に読んでおくこと。 必要時間:90分	小テストを実施するので、講義内容の復習し理解を深めること。 必要時間:90分
担当教員	柴田 恵理子		
第6回	検査・測定 形態計測について学習する。	教科書1の「各論第3章 形態測定」を事前に読んでおくこと。 必要時間:90分	小テストを実施するので、講義内容の復習し理解を深めること。 必要時間:90分
担当教員	柴田 恵理子		

第7回	検査・測定 筋力の概論と特徴について学習する。 筋力(上肢・下肢・体幹)について学習する。	教科書1の「各論第5章 筋力検査」を事前に読んでおくこと。 必要時間:90分	小テストを実施するので、講義内容の復習し理解を深めること。 必要時間:90分
担当教員	柴田 恵理子		
第8回	まとめと試験 理学療法評価のまとめと復習を含めた試験を行う。	これまで学んだことに対し、内容を深めるため復習すること 必要時間:90分	講義内容の復習をし理解を深めること。 必要時間:90分
担当教員	柴田 恵理子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	まとめと試験(90%) 授業内の課題、小テスト、授業への参加態度等(10%)
その他	0	なし
教科書		
1.理学療法評価学:松澤正他／金原出版 2.新・徒手筋力検査法:Hislop, Montgomery他／協同医書出版		
参考文献		
1.ベッドサイドの神経の診かた:田崎義昭他/南山堂 2.図解理学療法検査・測定ガイド:奈良勲他/文光堂		
履修条件・留意事項等		

復習のための小テストを行う。

備考欄

なし

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法評価学					
科目名		理学療法評価学Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	柴田 恵理子、松田 直樹						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」ことと特に関係があり、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」ことも関連する科目である。
 多岐にわたる理学療法評価のなかから、主に神経症候学的検査及び姿勢・動作評価に関連する項目を扱うものである。
 本科目は、「解剖学I」「生理学I」など多くの専門基礎科目全般と関連し、「理学療法評価学実習Ⅱ」、「神経障害理学療法学」などの基礎となる。

授業の概要

理学療法評価学Iで学習した内容を基本とし、理学療法評価基本技術のうち主として中枢神経系、日常生活活動を対象とした項目について理論と概要を理解し、各項目に必要な基礎知識および検査の実際と留意点について学習する。また、理学療法の対象となる代表的疾患について、検査・測定のポイントを学習する。その後、検査・測定で収集したデータの解釈の仕方について学習し、理学療法評価の基本的思考過程について理解する。

到達目標

1. 理学療法評価の概念・意義および目的を理解できる
2. 理学療法評価の基本原則を理解できる
3. 評価に必要な検査・測定の方法と目的を理解できる
4. 評価技術の基盤となる理論的背景が理解できる

授業の方法

教科書、スライド、配布印刷物を用いて、講義形式ですすめる。
本講義内容を理解するためには、その基礎となる解剖学・生理学・運動学的知識が必要である。これらの理解を促すため、毎講義ごとに理解度確認の課題を行う。

ICT活用

授業資料をGoogle Classroomにて公開し、復習に活用できるようにする。
必要に応じて、授業のスライドに説明音声を読み込んだ動画を Google Classroomにアップし、復習に活用できるようにする。

実務経験のある教員の教育内容

科目担当(柴田・松田)はいずれも理学療法士として勤務した経験を活かして授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして確認課題を回収後、課題の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	理学療法評価について:評価の意義、目的を学ぶ。本講義に必要な神経解剖学・神経生理学的知識を概説する。	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
第2回	脳神経検査:脳神経障害を理解し、検査方法を学ぶ。	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
第3回	知覚検査:知覚とその障害を理解し、検査方法を学ぶ。	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	柴田 恵理子		

第4回	反射・筋緊張検査:それぞれの障害を理解し、検査方法を学ぶ。	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
第5回	協調性検査:協調性障害を理解し、その検査方法を学ぶ。	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	松田 直樹		
第6回	バランス・姿勢反射検査:それぞれの障害を理解し、その検査方法を学ぶ。	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	松田 直樹		

第7回	片麻痺機能検査, 高次脳機能検査:これらの検査について理解し、その検査方法を学ぶ。片麻痺機能検査についての歴史的背景と変遷について学ぶ。	教科書を事前に読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	松田 直樹		
第8回	これまでの授業内容の理解度確認のため、まとめテストを行う。	これまでの授業内容を復習しておくこと(90分)	テスト内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・第1～7回講義の確認課題(30%) ・第8回講義のまとめテスト(70%)
その他	0	
教科書		
理学療法評価学, 松澤正, 江口勝彦(著), 金原出版 神経診察クローズアップ, 鈴木則宏(編), MEDICALVIEW		
参考文献		
神経症候学, 改訂第2版, 平山恵三(著), 文光堂 神経局在診断, 第6版, Peter Duus(著), 花北順哉(訳), 文光堂		
履修条件・留意事項等		

基礎的な解剖生理学的な用語については、皆さんがある程度理解しているものとして授業を進めることがあります。教科書の予習部位は事前にお伝えしますので、十分に準備してから授業に臨んでください。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法評価学					
科目名		理学療法評価学Ⅲ				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	松田 直樹、南部 路治						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーのうち、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」に特に関連し、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」に関連した、理学療法評価に必要な知識および技術を身につけるための科目である。 理学療法評価のうち、脳画像および循環器・呼吸器疾患に関連した医用画像の読影を行うための基礎と臨床応用を扱うものである。また、健康関連QOLや患者立脚型評価といった発展的な理学療法評価方法も扱う。 本科目は、「理学療法評価学Ⅱ」、「神経障害理学療法学」「内部障害理学療法学」などの専門基礎科目全般と関連し、「臨床実習Ⅳ・Ⅴ」などの基礎となる							
授業の概要							
近年の医療技術の高度化や地域包括ケアシステムの推進に伴い、理学療法が対象とする障害の構造は重複かつ複雑化している。この状況に対応すべく、理学療法の根幹をなす評価学の基礎をより多角的な視点で学び、卒後の臨床推論能力の向上の礎とするため画像等の評価も含め、教授する。							
到達目標							

- 1.医用画像の撮像原理とその読影法の基礎を身につけることができる
- 2.脳画像を活用した理学療法評価について理解できる
- 3.循環器・呼吸疾患に関連した医用画像とその活用について理解できる
- 4.健康関連QOLの評価、患者立脚型の評価等について理解できる
- 5.喀痰吸引の理論と実際を理解できる

授業の方法

教科書、スライド、配布印刷物を用いて、講義形式ですすめる。
本講義内容を理解するためには、その基礎となる解剖学・生理学・運動学的知識が必要である。学生は十分に予習をして講義に望むことが望ましい。
理解度確認として、講義内容に関するミニテストを実施する。

ICT活用

Google classroomを活用して講義資料配布、ミニテストなどを実施する。
必要に応じて、授業のスライドに説明音声吹き込んだ動画を Google Classroomにアップし、復習に活用できるようにする。

実務経験のある教員の教育内容

南部:総合病院で理学療法士として勤務した経験を生かして、講義を行う
松田:神経疾患の専門病院で理学療法士として勤務した経験を生かして、講義を行う

課題に対するフィードバックの方法

理解度確認課題の解答・解説を講義内で行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	脳画像の基礎 頭部CT, MRI, 拡散テンソル画像の撮像原理と基本的読影方法を学ぶ。 理解度確認として, 講義内容に関するミニテストを実施する。	教科書・参考文献の当該箇所を を事前に読んでおくこと (90分)	授業内容を復習しておくこと (90分)
担当教員	松田 直樹		
第2回	脳画像を活用した神経理学療法の実際1 脳卒中患者における脳画像診断の臨床応用についての基本的な考え方を学ぶ。 理解度確認として, 講義内容に関するミニテストを実施する。	教科書・参考文献の当該箇所を を事前に読んでおくこと (90分)	授業内容を復習しておくこと (90分)
担当教員	松田 直樹		
第3回	脳画像を活用した神経理学療法の実際2 脳卒中患者における脳画像診断の臨床応用の実際を症例を通して学ぶ。 理解度確認として, 講義内容に関するミニテストを実施する。	教科書・参考文献の当該箇所を を事前に読んでおくこと (90分)	授業内容を復習しておくこと (90分)
担当教員	松田 直樹		

第4回	循環器・呼吸器疾患に関連した医用画像の基礎 胸部CT・心エコー等, 循環器・呼吸器疾患に関連した医用画像の基本的な読影方法を学ぶ。 理解度確認として, 講義内容に関するミニテストを実施する。	教科書・参考文献の当該箇所を を事前に読んでおくこと (90分)	授業内容を復習しておくこと (90分)
担当教員	南部 路治		
第5回	循環器・呼吸器疾患に関連した医用画像を活用した理学療法の実践① 胸部CT・心エコー等, 循環器・呼吸器疾患に関連した医用画像の臨床応用の実際を症例を通して学ぶ。 理解度確認として, 講義内容に関するミニテストを実施する。	教科書・参考文献の当該箇所を を事前に読んでおくこと (90分)	授業内容を復習しておくこと (90分)
担当教員	南部 路治		
第6回	循環器・呼吸器疾患に関連した医用画像を活用した理学療法の実践②・喀痰吸引の理論と実践 胸部CT・心エコー等, 循環器・呼吸器疾患に関連した医用画像の臨床応用の実際を症例を通して学ぶ。 喀痰吸引の理論と実際について学ぶ。 理解度確認として, 講義内容に関するミニテストを実施する。	教科書・参考文献の当該箇所を を事前に読んでおくこと (90分)	授業内容を復習しておくこと (90分)
担当教員	南部 路治		

第7回	患者報告型アウトカムを活用した理学療法の実 理学療法における健康関連QoL尺度、患者立脚型評価の 基本的概念とその臨床応用について解説する。 理解度確認として、講義内容に関するミニテストを実施する 。	教科書・参考文献の当該箇所を を事前に読んでおくこと (90分)	授業内容を復習しておくこと (90分)
担当教員	松田 直樹		
第8回	まとめ これまでの授業内容の理解度確認のためテストを行う。	これまでの授業内容を復讐して おくこと(90分)。	テスト内容を復習しておくこと (90分)
担当教員	南部 路治		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	まとめテスト(80%) 理解確認課題の達成度・授業参加態度(20%)
その他	0	
教科書		
リハビリテーション医療に活かす 画像のみかた, 南江堂		
参考文献		
改訂第2版コツさえわかればあなたも読める リハに役立つ脳画像.酒向正春(監),メジカルビュー者,2020		
履修条件・留意事項等		

基本的な解剖学・生理学の用語については、皆さんがある程度理解しているものとして授業を進めることがあります。
講義内容についての質問は積極的に受けしますので、積極的な参加を期待します。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法評価学					
科目名		理学療法評価学実習 I (1組)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分	実習	単位	1
担当教員	佐藤 明紀、水本 淳、松田 直樹、鈴木 信						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている」および「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている」(知識・技能)に対応する科目である。 本授業は、問診にはじまり、観察・検査・測定・統合・解釈へと続く理学療法評価の一連の思考過程を習得する科目である。なかでも、形態計測、関節可動域、筋力検査は理学療法士が行う重要な評価項目であり、「臨床実習」へ向けた専門分野の基礎となる基本的な専門的知識・技術を身につけることを目的とする。							

- ・障害の特徴に応じた身体構造・機能の基礎を理解できる。
- ・各評価内容を模擬患者に対して適切に説明できる。
- ・各評価の目的および方法を正しく理解し、適切に実施できる。
- ・評価結果を正しく記録し、その意義を理解できる。

授業の方法

教員が評価の理論的背景について解説し、デモンストレーションを行う。
その後、学生同士で実技練習を行い、評価方法を学習する。
また、各グループごとに実習の様子を録画し、反復して振り返りを行うことで、形態計測、関節可動域測定、徒手筋力検査の正確性および信頼性の向上を図る。

ICT活用

Google Classroom を用いて、課題提示やアンケートを実施し、双方向型の授業を取り入れる。
また、必要に応じて、オンデマンド形式やオンラインによる授業展開を行う。

実務経験のある教員の教育内容

佐藤、水本、松田、鈴木は、理学療法士として医療機関に勤務し、臨床および臨床研究に継続して従事してきた経験を有している。これらの実務経験を活かし、本実習を担当する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中の課題に対して、その都度、解説および補足説明を行う。
また、各回の実習内容を録画し、各自が復習できる環境を整備する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	イントロダクション 形態測定 四肢長と肢節長、および四肢周径の評価方法を学び、実践する。	教科書の形態測定を読んでおくこと。 必要時間:25分	形態測定の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	佐藤 明紀		
第2回	関節可動域測定(肩、肘、手、手指関節) 肩、肘、手、手指関節の関節可動域測定の評価方法を学び、実践する。	肩、肘、手、手指関節の解剖学や運動学の復習と、関節可動域測定の教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	肩、肘、手、手指関節の関節可動域測定の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	鈴木 信		
第3回	関節可動域測定(股、膝、足、足趾関節) 股、膝、足、足趾関節の関節可動域測定の評価方法を学び、実践する。	股、膝、足、足趾関節の解剖学や運動学の復習と、関節可動域測定の教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	股、膝、足、足趾関節の関節可動域測定の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	鈴木 信		

第4回	関節可動域測定(頸部、肩甲帯、体幹) 頸部、肩甲帯、体幹の関節可動域測定の評価方法を学び、実践する。	頸部、肩甲帯、体幹の解剖学や運動学の復習と、関節可動域測定の教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	頸部、肩甲帯、体幹の関節可動域測定の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	鈴木 信		
第5回	徒手筋力検査(肩、肘関節) 肩、肘関節の徒手筋力検査の評価方法を学び、実践する。	肩、肘関節の解剖学や運動学の復習と、徒手筋力検査の教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	肩、肘関節の徒手筋力検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	水本 淳		
第6回	徒手筋力検査(手関節、手指) 手関節、手指の筋力検査の評価方法を学び、実践する。	手関節、手指の解剖学や運動学の復習と、徒手筋力検査の教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	手関節、手指の徒手筋力検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	水本 淳		

第7回	徒手筋力検査(頸部、肩甲帯、体幹) 頸部、肩甲帯、体幹の手筋力検査の評価方法を学び、実践する。	頸部、肩甲帯、体幹の解剖学や運動学の復習と、徒手筋力検査の教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	頸部、肩甲帯、体幹の徒手筋力検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	水本 淳		
第8回	徒手筋力検査(股、膝関節) 股、膝関節の手筋力検査の評価方法を学び、実践する。	股、膝関節の解剖学や運動学の復習と、徒手筋力検査の教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	股、膝関節の徒手筋力検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	松田 直樹		
第9回	徒手筋力検査(足関節、足趾) 足関節、足趾の手筋力検査の評価方法を学び、実践する。	足関節、足趾の解剖学や運動学の復習と、徒手筋力検査の教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	足関節、足趾の徒手筋力検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	松田 直樹		

第10回	徒手筋力検査(脳神経支配筋) 脳神経支配筋の徒手筋力検査の方法を学び、実践する。	脳神経支配筋の解剖学、生理学および運動学の復習と、徒手筋力検査の教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	脳神経支配筋の徒手筋力検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	松田 直樹		
第11回	まとめと実技試1 形態計測と関節可動域測定の方法と実践の確認をする。	形態計測と関節可動域測定の目的や方法を復習し、練習すること。 必要時間:25分	形態計測と関節可動域測定の目的や方法を復習し、練習すること。 必要事項:20分
担当教員	水本 淳		
第12回	まとめと実技試験2 徒手筋力検査の方法と実践の確認をする。	徒手筋力検査の目的や方法を復習し、練習する。 必要時間:25分	徒手筋力検査の目的や方法を復習し、練習する。 必要時間:20分
担当教員	松田 直樹		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	実技試験は、形態計測および関節可動域測定、徒手筋力検査の2項目について実施し、両方の試験ともに60%以上を合格することを単位認定の要件とする。 実習内の課題への取り組み状況、参加態度および出席状況等を総合的に評価する。
その他	0	なし
教科書		
理学療法評価学:松澤正他/金原出版 新・徒手筋力検査法:Hislop他/協同医書出版		
参考文献		

理学療法評価学テキスト:細田多穂他/南江堂
臨床ROM:隈元庸夫他/ヒューマン・プレス

履修条件・留意事項等

本科目は、臨床実習の履修要件の一つとする。
実習の際は、Tシャツおよび短パンを着用し、必要器具(角度計、メジャー)を準備すること。

備考欄

なし

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法評価学					
科目名		理学療法評価学実習 I (2組)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度前期	区分	実習	単位	1
担当教員	佐藤 明紀、水本 淳、松田 直樹、鈴木 信						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている」および「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている」(知識・技能)に対応する科目である。 本授業は、問診にはじまり、観察・検査・測定・統合・解釈へと続く理学療法評価の一連の思考過程を習得する科目である。なかでも、形態計測、関節可動域、筋力検査は理学療法士が行う重要な評価項目であり、「臨床実習」へ向けた専門分野の基礎となる基本的な専門的知識・技術を身につけることを目的とする。							
授業の概要							
解剖学、生理学、生体力学を基礎とし、理学療法評価のうち形態計測、関節可動域検査、徒手筋力検査等についての詳細を学ぶ。各検査の意義および目的、検査方法を理解するとともに理学療法評価の臨床推論過程を学び、系統的理解と他評価との統合解釈ができる基礎的能力を養うことを目的とする。							
到達目標							

- ・障害の特徴に応じた身体構造・機能の基礎を理解できる。
- ・各評価内容を模擬患者に対して適切に説明できる。
- ・各評価の目的および方法を正しく理解し、適切に実施できる。
- ・評価結果を正しく記録し、その意義を理解できる。

授業の方法

教員が評価の理論的背景について解説し、デモンストレーションを行う。
その後、学生同士で実技練習を行い、評価方法を学習する。
また、各グループごとに実習の様子を録画し、反復して振り返りを行うことで、形態計測、関節可動域測定、徒手筋力検査の正確性および信頼性の向上を図る。

ICT活用

Google Classroom を用いて、課題提示やアンケートを実施し、双方向型の授業を取り入れる。
また、必要に応じて、オンデマンド形式やオンラインによる授業展開を行う。

実務経験のある教員の教育内容

佐藤、水本、松田、鈴木は、理学療法士として医療機関に勤務し、臨床および臨床研究に継続して従事してきた経験を有している。これらの実務経験を活かし、本実習を担当する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中の課題に対して、その都度、解説および補足説明を行う。
また、各回の実習内容を録画し、各自が復習できる環境を整備する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	イントロダクション 形態測定 四肢長と肢節長、および四肢周径の評価方法を学び、実践する。	教科書の形態測定を読んでおくこと。 必要時間:25分	形態測定の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	佐藤 明紀		
第2回	関節可動域測定(肩、肘、手、手指関節) 肩、肘、手、手指関節の関節可動域測定の評価方法を学び、実践する。	肩、肘、手、手指関節の解剖学や運動学の復習と、関節可動域測定の教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	肩、肘、手、手指関節の関節可動域測定の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	鈴木 信		
第3回	関節可動域測定(股、膝、足、足趾関節) 股、膝、足、足趾関節の関節可動域測定の評価方法を学び、実践する。	股、膝、足、足趾関節の解剖学や運動学の復習と、関節可動域測定の教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	股、膝、足、足趾関節の関節可動域測定の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	鈴木 信		

第4回	関節可動域測定(頸部、肩甲帯、体幹) 頸部、肩甲帯、体幹の関節可動域測定の評価方法を学び、実践する。	頸部、肩甲帯、体幹の解剖学や運動学の復習と、関節可動域測定 の教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	頸部、肩甲帯、体幹の関節可動域測定 の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	鈴木 信		
第5回	徒手筋力検査(肩、肘関節) 肩、肘関節の徒手筋力検査の評価方法を学び、実践する。	肩、肘関節の解剖学や運動学の復習と、徒手筋力検査の教科書 を読んでおくこと。 必要時間:25分	肩、肘関節の徒手筋力検査の復習を すること。 必要時間:20分
担当教員	水本 淳		
第6回	徒手筋力検査(手関節、手指) 手関節、手指の筋力検査の評価方法を学び、実践する。	手関節、手指の解剖学や運動学の復習と、徒手筋力検査の教科書 を読んでおくこと。 必要時間:25分	手関節、手指の徒手筋力検査の復習を すること。 必要時間:20分
担当教員	水本 淳		

第7回	徒手筋力検査(頸部、肩甲帯、体幹) 頸部、肩甲帯、体幹の手筋力検査の評価方法を学び、実践する。	頸部、肩甲帯、体幹の解剖学や運動学の復習と、徒手筋力検査の教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	頸部、肩甲帯、体幹の徒手筋力検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	水本 淳		
第8回	徒手筋力検査(股、膝関節) 股、膝関節の手筋力検査の評価方法を学び、実践する。	股、膝関節の解剖学や運動学の復習と、徒手筋力検査の教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	股、膝関節の徒手筋力検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	松田 直樹		
第9回	徒手筋力検査(足関節、足趾) 足関節、足趾の手筋力検査の評価方法を学び、実践する。	足関節、足趾の解剖学や運動学の復習と、徒手筋力検査の教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	足関節、足趾の徒手筋力検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	松田 直樹		

第10回	徒手筋力検査(脳神経支配筋) 脳神経支配筋の徒手筋力検査の方法を学び、実践する。	脳神経支配筋の解剖学、生理学および運動学の復習と、徒手筋力検査の教科書を読んでおくこと。 必要時間:25分	脳神経支配筋の徒手筋力検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	松田 直樹		
第11回	脳神経支配筋の徒手筋力検査の復習をすること。 必要時間:20分	形態計測と関節可動域測定の方法を復習し、練習する。 必要時間:25分	形態計測と関節可動域測定の方法を復習し、練習する。 必要事項:20分
担当教員	水本 淳		
第12回	形態計測と関節可動域測定の方法を復習し、練習する。 必要事項:20分	徒手筋力検査の方法を復習し、練習する。 必要時間:25分	徒手筋力検査の方法を復習し、練習する。 必要時間:20分
担当教員	松田 直樹		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	実技試験は、形態計測および関節可動域測定、徒手筋力検査の2項目について実施し、両方の試験ともに60%以上を合格することを単位認定の要件とする。 実習内の課題への取り組み状況、参加態度および出席状況等を総合的に評価する。
その他	0	なし
教科書		
理学療法評価学:松澤正他/金原出版 新・徒手筋力検査法:Hislop他/協同医書出版		
参考文献		

理学療法評価学テキスト:細田多穂他/南江堂
臨床ROM:隈元庸夫他/ヒューマン・プレス

履修条件・留意事項等

本科目は、臨床実習の履修要件の一つとする。
実習の際は、Tシャツおよび短パンを着用し、必要器具(角度計、メジャー)を準備すること。

備考欄

なし

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法評価学					
科目名		理学療法評価学実習Ⅱ（1組）				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分	実習	単位	1
担当教員	佐藤 明紀、柴田 恵理子、松田 直樹、鈴木 信						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている」および「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている」(知識・技能)に対応する科目である。 本授業は、「理学療法評価学Ⅱ」と関連し、問診にはじまり、観察・検査・測定・統合・解釈へと続く理学療法評価の一連の思考過程を習得する科目である。 なかでも、評価学実習Ⅱで実施する評価は、理学療法士が行う一般的な評価項目であり、「臨床実習」へ向けた専門分野の基礎となる基本的な専門的知識・技術を身につけることを目的とする。							
授業の概要							
理学療法の評価にあたり、神経系の障害および運動機能の障害に対する基本的な評価を行う。具体的には、バイタルサイン、反射検査、バランス検査・姿勢反射検査、協調性検査、筋緊張検査、感覚検査、脳神経検査、片麻痺運動機能検査、日常生活動作検査等の実習を実施する。 実習では、学生同士が理学療法士役および模擬患者役となり、実践的に学習する。							
到達目標							

- ・障害の特徴に応じた身体構造・機能の基礎を説明できる。
- ・各評価内容を模擬患者に対して適切に説明できる。
- ・各評価の目的および方法を正しく理解し、適切に実施できる。
- ・評価結果の意義を理解し、その結果を正しく記録できる。

授業の方法

教員が評価の理論的背景について解説し、デモンストレーションを行う。
その後、学生同士で実技練習を行い、評価方法を学習する。
また、各グループごとに実習の様子を録画し、反復的に振り返りを行うことで、各検査の正確性および信頼性の向上を図る。

ICT活用

Google Classroom を用いて、課題提示やアンケートを実施し、双方向型の授業を取り入れる。
また、必要に応じて、オンデマンド形式やオンラインによる授業展開を行う。

実務経験のある教員の教育内容

佐藤、柴田、松田、鈴木は、理学療法士として医療機関に勤務し、臨床および臨床研究に継続して従事してきた経験を有している。これらの実務経験を活かし、本実習を担当する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中の課題に対して、その都度、解説および補足説明を行う。
また、各回の実習内容を録画し、各自が復習できる環境を整備する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	イントロダクション バイタルサイン: 血圧測定、呼吸・脈拍測定 学生同士で検者・被検者となり、血圧・呼吸・脈拍などのバイタルサインを測定、観察する	教科書のバイタルサイン: 血圧測定、呼吸・脈拍測定の項目を読んでおくこと。 必要時間: 25分	バイタルサイン: 血圧測定、呼吸・脈拍測定の復習をすること。 必要時間: 20分
担当教員	鈴木 信		
第2回	脳神経検査、高次脳機能障害検査 学生同士で検者・被検者となり、脳神経検査、各種高次脳機能障害の検査を実施する	教科書の脳神経検査、高次脳機能障害検査の関連項目を読んでおくこと。 必要時間: 25分	脳神経検査、高次脳機能障害検査の復習をすること。 必要時間: 20分
担当教員	松田 直樹		
第3回	感覚検査: 表在感覚、深部感覚、複合感覚 学生同士で検者・被検者となり、検査器具を用いて感覚検査を実施する	教科書の感覚検査の項目を読んでおくこと。 必要時間: 25分	感覚検査の復習をすること。 必要時間: 20分
担当教員	鈴木 信		

第4回	反射検査:腱反射、表在反射、病的反射 学生同士で検者・被検者となり、反射検査を実施し、反応を観察する	教科書の反射検査の項目を読んでおくこと。 必要時間:25分	反射検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	鈴木 信		
第5回	バランス・姿勢反射検査:各種バランス検査や姿勢反射検査を 学生同士で検者・被検者と実施し、検査方法や実際の反応を確認する。	教科書のバランス・姿勢反射検査の項目を読んでおくこと。 必要時間:25分	バランス・姿勢反射検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	松田 直樹		
第6回	協調性検査:測定障害の検査、変換運動障害の検査、ロンベルグ試験等 学生同士で検者・被検者となり、協調性検査を実施する	教科書の協調性検査の項目を読んでおくこと。 必要時間:25分	協調性検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	柴田 恵理子		

第7回	筋緊張検査:安静時および動作時筋緊張の評価等 学生同士で検者・被検者となり、安静時と動作時の筋緊張の程度やその違いについて観察する	教科書の筋緊張検査の項目を読んでおくこと。 必要時間:25分	筋緊張検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	柴田 恵理子		
第8回	片麻痺機能検査:上肢・手指 学生同士で検者・被検者となり、Brunnstrom test および12段階片麻痺機能テストを実施する	教科書の片麻痺機能検査(上肢・手指)の項目を読んでおくこと。 必要時間:25分	片麻痺機能検査(上肢・手指)の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	松田 直樹		
第9回	片麻痺機能検査:下肢 学生同士で検者・被検者となり、Brunnstrom test および12段階片麻痺機能テストを実施する	教科書の片麻痺機能検査(上肢・手指)の項目を読んでおくこと。 必要時間:25分	片麻痺機能検査(上肢・手指)の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	松田 直樹		

第10回	日常生活活動（ADL）検査と動作分析、介助方法 学生同士で検者・被検者となり、ADL検査及び動作分析、起居動作～移乗介助方法等を実施する	教科書のADL 検査、動作分析、介助方法の項目を読んでおくこと。 必要時間:25分	ADL 検査、動作分析、介助方法の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	柴田 恵理子		
第11回	総復習 これまでの授業内容を踏まえ、模擬患者へのオリエンテーション、評価の実施、結果の記録までの一連の過程について学習する 本実習を通して、既習内容の理解を確認するとともに、自らの課題を明確し克服に努める	これまでに学習した実習項目を整理し、復習しておくこと。 必要時間:25分	学習内容のうち理解が不十分な点について整理し、復習しておくこと。 必要時間:20分
担当教員	佐藤 明紀		
第12回	まとめ(実技試験) 臨床で患者を評価することを想定し、オリエンテーション・各評価の実施・結果の記載までを連続して一人で実施する	これまでに学んだ各評価の目的や方法を復習し、練習する。 必要時間:25分	これまでに学んだ各評価の目的や方法を復習し、練習する。 必要時間:20分
担当教員	柴田 恵理子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	まとめ(実技試験)の結果により、60%以上を合格基準とし、単位認定の要件とする。 あわせて、実習内の課題への取り組み状況、参加態度および出席状況等を総合的に評価する。
その他	0	なし
教科書		
理学療法評価学:松澤正他/南江堂 神経診療クローズアップ:鈴木則宏/MEDICAL VIEW		
参考文献		

ベッドサイドの神経の診かた：田崎義昭他/南山堂

履修条件・留意事項等

本科目は、臨床実習の履修要件の一つとする。
実習の際は、Tシャツおよび短パンを着用し、必要な評価器具を準備すること。

備考欄

なし

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法評価学					
科目名		理学療法評価学実習Ⅱ(2組)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分	実習	単位	1
担当教員	佐藤 明紀、柴田 恵理子、松田 直樹、鈴木 信						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている」および「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている」(知識・技能)に対応する科目である。 本授業は、「理学療法評価学Ⅱ」と関連し、問診にはじまり、観察・検査・測定・統合・解釈へと続く理学療法評価の一連の思考過程を習得する科目である。 なかでも、評価学実習Ⅱで実施する評価は、理学療法士が行う一般的な評価項目であり、「臨床実習」へ向けた専門分野の基礎となる基本的な専門的知識・技術を身につけることを目的とする。							
授業の概要							
理学療法の評価にあたり、神経系の障害および運動機能の障害に対する基本的な評価を行う。具体的には、バイタルサイン、反射検査、バランス検査・姿勢反射検査、協調性検査、筋緊張検査、感覚検査、脳神経検査、片麻痺運動機能検査、日常生活動作検査等の実習を実施する。 実習では、学生同士が理学療法士役および模擬患者役となり、実践的に学習する。							
到達目標							

- ・障害の特徴に応じた身体構造・機能の基礎を説明できる。
- ・各評価内容を模擬患者に対して適切に説明できる。
- ・各評価の目的および方法を正しく理解し、適切に実施できる。
- ・評価結果の意義を理解し、その結果を正しく記録できる。

授業の方法

教員が評価の理論的背景について解説し、デモンストレーションを行う。
その後、学生同士で実技練習を行い、評価方法を学習する。
また、各グループごとに実習の様子を録画し、反復的に振り返りを行うことで、各検査の正確性および信頼性の向上を図る。

ICT活用

Google Classroom を用いて、課題提示やアンケートを実施し、双方向型の授業を取り入れる。
また、必要に応じて、オンデマンド形式やオンラインによる授業展開を行う。

実務経験のある教員の教育内容

佐藤、柴田、松田、鈴木は、理学療法士として医療機関に勤務し、臨床および臨床研究に継続して従事してきた経験を有している。これらの実務経験を活かし、本実習を担当する。

課題に対するフィードバックの方法

授業中の課題に対して、その都度、解説および補足説明を行う。
また、各回の実習内容を録画し、各自が復習できる環境を整備する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	イントロダクション バイタルサイン: 血圧測定、呼吸・脈拍測定 学生同士で検者・被検者となり、血圧・呼吸・脈拍などのバイタルサインを測定、観察する	教科書のバイタルサイン: 血圧測定、呼吸・脈拍測定の項目を読んでおくこと。 必要時間: 25分	バイタルサイン: 血圧測定、呼吸・脈拍測定の復習をすること。 必要時間: 20分
担当教員	鈴木 信		
第2回	脳神経検査、高次脳機能障害検査 学生同士で検者・被検者となり、脳神経検査、各種高次脳機能障害の検査を実施する	教科書の脳神経検査、高次脳機能障害検査の関連項目を読んでおくこと。 必要時間: 25分	脳神経検査、高次脳機能障害検査の復習をすること。 必要時間: 20分
担当教員	松田 直樹		
第3回	感覚検査: 表在感覚、深部感覚、複合感覚 学生同士で検者・被検者となり、検査器具を用いて感覚検査を実施する	教科書の感覚検査の項目を読んでおくこと。 必要時間: 25分	感覚検査の復習をすること。 必要時間: 20分
担当教員	鈴木 信		

第4回	反射検査:腱反射、表在反射、病的反射 学生同士で検者・被検者となり、反射検査を実施し、反応を観察する	教科書の反射検査の項目を読んでおくこと。 必要時間:25分	反射検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	鈴木 信		
第5回	バランス・姿勢反射検査:各種バランス検査や姿勢反射検査を 学生同士で検者・被検者と実施し、検査方法や実際の反応を確認する。	教科書のバランス・姿勢反射検査の項目を読んでおくこと。 必要時間:25分	バランス・姿勢反射検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	松田 直樹		
第6回	協調性検査:測定障害の検査、変換運動障害の検査、ロンベルグ試験等 学生同士で検者・被検者となり、協調性検査を実施する	教科書の協調性検査の項目を読んでおくこと。 必要時間:25分	協調性検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	柴田 恵理子		

第7回	筋緊張検査:安静時および動作時筋緊張の評価等 学生同士で検者・被検者となり、安静時と動作時の筋緊張の程度やその違いについて観察する	教科書の筋緊張検査の項目を読んでおくこと。 必要時間:25分	筋緊張検査の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	柴田 恵理子		
第8回	片麻痺機能検査:上肢・手指 学生同士で検者・被検者となり、Brunnstrom test および12段階片麻痺機能テストを実施する	教科書の片麻痺機能検査(上肢・手指)の項目を読んでおくこと。 必要時間:25分	片麻痺機能検査(上肢・手指)の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	松田 直樹		
第9回	片麻痺機能検査:下肢 学生同士で検者・被検者となり、Brunnstrom test および12段階片麻痺機能テストを実施する	教科書の片麻痺機能検査(上肢・手指)の項目を読んでおくこと。 必要時間:25分	片麻痺機能検査(上肢・手指)の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	松田 直樹		

第10回	日常生活活動（ADL）検査と動作分析、介助方法 学生同士で検者・被検者となり、ADL検査及び動作分析、起居動作～移乗介助方法等を実施する	教科書のADL 検査、動作分析、介助方法の項目を読んでおくこと。 必要時間:25分	ADL 検査、動作分析、介助方法の復習をすること。 必要時間:20分
担当教員	柴田 恵理子		
第11回	総復習 これまでの授業内容を踏まえ、模擬患者へのオリエンテーション、評価の実施、結果の記録までの一連の過程について学習する 本実習を通して、既習内容の理解を確認するとともに、自らの課題を明確し克服に努める	これまでに学習した実習項目を整理し、復習しておくこと。 必要時間:25分	学習内容のうち理解が不十分な点について整理し、復習しておくこと。 必要時間:20分
担当教員	佐藤 明紀		
第12回	まとめ(実技試験) 臨床で患者を評価することを想定し、オリエンテーション・各評価の実施・結果の記載までを連続して一人で実施する	これまでに学んだ各評価の目的や方法を復習し、練習する。 必要時間:25分	これまでに学んだ各評価の目的や方法を復習し、練習する。 必要時間:20分
担当教員	柴田 恵理子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	まとめ(実技試験)の結果により、60%以上を合格基準とし、単位認定の要件とする。 あわせて、実習内の課題への取り組み状況、参加態度および出席状況等を総合的に評価する。
その他	0	なし
教科書		
理学療法評価学:松澤正他/南江堂 神経診療クローズアップ:鈴木則宏/MEDICAL VIEW		
参考文献		

ベッドサイドの神経の診かた：田崎義昭他/南山堂

履修条件・留意事項等

本科目は、臨床実習の履修要件の一つとする。
実習の際は、Tシャツおよび短パンを着用し、必要な評価器具を準備すること。

備考欄

なし

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法評価学					
科目名		高次脳機能障害学				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	大坂 隆介						

授業の位置づけ

理学療法学専攻のディプロマポリシー「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」 「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」を達成するための科目である。また、本科目は「神経障害理学療法学Ⅰ・Ⅱ」と関連する。

授業の概要

高次脳機能障害は、さまざまな原因による大脳病変に由来し、認知症や失語症以外にもいろいろな症状を呈するので、理学療法士にとっても避けては通れない領域である。本講義では、高次脳機能障害の基本的事項について解説するが、主として臨床症状、診断、画像診断と病態の理解、患者さんに対する対応のしかたについて講義する。

到達目標

1. 高次脳機能障害の各症状について説明することができる。
2. 高次脳機能障害の各症状に対する評価方法について述べることができる。
3. 検査結果から症状の特徴を説明することができる。
4. 頭部のCT画像やMRIから病巣部位を説明することができる。
5. 脳の損傷部位から起こりうる高次脳機能障害を推定できる。
6. 高次脳機能障害に対する基本的な治療、介入方法について述べることができる。

授業の方法

パワーポイントと必要に応じて配布資料を用いて講義を行う。

ICT活用

なし

実務経験のある教員の教育内容

大坂隆介はリハビリテーション病院にて高次脳機能障害患者を対象としたリハビリテーションを実践した経験を持ち、実際の臨床現場での経験も踏まえて、高次脳機能障害学の授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

理解度確認のテストを行い、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	高次脳機能障害とは 高次脳機能障害の概要とそれを理解するための脳解剖等の基礎知識について学習する。	教科書の該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義資料ならびに教科書を参考に復習すること(90分)
担当教員			
第2回	失語・失書・失読 失語や失書、失読についてメカニズム、症状、評価、支援について学習する。	教科書の該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義資料ならびに教科書を参考に復習すること(90分)
担当教員			
第3回	失行・行為・行動の障害 失行や行為の障害についてメカニズム、症状、評価、支援について学習する。	教科書の該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義資料ならびに教科書を参考に復習すること(90分)
担当教員			

第4回	失認 失認についてメカニズム、症状、評価、支援について学習する。	教科書の該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義資料ならびに教科書を参考に復習すること(90分)
担当教員			
第5回	視空間認知障害 半側空間無視、構成障害についてメカニズム、症状、評価、支援について学習する。	教科書の該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義資料ならびに教科書を参考に復習すること(90分)
担当教員			
第6回	注意障害 注意障害についてメカニズム、症状、評価、支援について学習する。	教科書の該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義資料ならびに教科書を参考に復習すること(90分)
担当教員			

第7回	記憶障害・認知症 記憶障害と認知症についてメカニズム、症状、評価、支援について学習する。	教科書の該当する箇所を読んでおくこと(90分)	講義資料ならびに教科書を参考に復習すること(90分)
担当教員			
第8回	全般的知能・理解度確認テストとまとめ 全般的知能についての概略とその評価法について学習する これまでに学習した内容についてまとめのテストを行い、理解度について確認を行う。	今までの講義内容を復習しておくこと(90分)	講義資料ならびに教科書を参考に復習すること(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	

定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	定期試験外テスト(70%)、授業出席態度(30%)
その他	0	特になし
教科書		
石合純夫／高次脳機能障害学 第3版／医歯薬出版		
参考文献		
梗間剛／リハビリPT・OT・ST・Dr. のための脳画像の新しい勉強本／三輪書店 岡庭豊／病気がみえるVol.7 脳・神経／メディックメディア		
履修条件・留意事項等		

講義開始より10分以上遅れた際は遅刻として扱う。30分以上の遅れは欠席扱いとする。
講義終了時刻よりも10分以上早く退席する場合を早退とし、30分以上前に退席する場合は欠席とする。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		物理療法学Ⅰ				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	水本 淳						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」と特に関係がある科目である。また、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる(関心・意欲・態度)」、「科学的根拠に基づいた理学療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている(思考・判断・表現)」こととも関係する。「物理療法学Ⅱ」と関連し、「物理療法学演習」の基礎となる。							
授業の概要							
物理的エネルギーを応用した物理療法の目的、疼痛のメカニズム、物理療法機器の特性、生理学的作用、治療効果、禁忌等について学習する。物理療法Ⅰでは、自然エネルギーを生体に作用させる各種物理療法を主に学修する。							
到達目標							

1. 物理療法で用いられる基本用語を用いて各治療法を説明できる。
2. 物理的刺激と生体反応の関係を説明できる。
3. 各種物理療法の適応と禁忌を説明できる。
4. 機器の特殊性を理解し、各機器の特徴や相違点を説明できる。

授業の方法

【プレゼンテーションの方法】パワーポイント等のスライドを用いた講義形式で進める。
 【授業形態】教科書の内容を中心とした講義形式で進める。
 【アクティブラーニング】授業内課題もしくは確認テストで授業の理解を確認する。

ICT活用

Google classroomを利用し資料提示、課題提出、確認テストの実施を行う。

実務経験のある教員の教育内容

病院での理学療法士としての実務経験を活かし授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業での確認課題および確認テストについては、その授業内で解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 物理療法総論、物理療法の歴史、理学療法における物理療法の位置付けを学ぶ。 【アクティブラーニング】物理療法について知っているものを挙げよ	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第2回	物理療法の基礎 物理療法におけるリスク管理、理学療法士に係る医療事故・医療過誤について学ぶ。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第3回	温熱療法、温熱の基礎 温熱の生理的反応 熱の伝達様式、温熱療法実施上の注意点を学ぶ。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			

第4回	寒冷療法 寒冷療法の生理学的作用、寒冷療法の適応および禁忌、寒冷療法の種類、RICE処置について学ぶ。 【確認テスト:授業1～4の範囲】	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第5回	電磁波療法 I 逆自乗の法則、ランバートの余弦則、高周波の熱発生原理と治療機器について学ぶ。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第6回	高周波治療 超短波治療法、極超短波療法の生理学的効果、適応と禁忌について学ぶ。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			

第7回	電磁波療法Ⅱ 光線療法の歴史、紫外線・赤外線・レーザー光線の医学的応用について学ぶ。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第8回	光線療法各論 紫外線・赤外線・レーザー治療の生理学的作用、適応と禁忌、治療上の注意を学ぶ。 【確認テスト:授業5～8の範囲】	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内課題の配点(授業毎の配点5点で6回行う。合計30点) 確認テストの配点(授業4回目、8回目に行う。各35点満点で合計70点)
その他	0	
教科書		
物理療法学改訂版第3版 松澤 正・江口勝彦 金原出版		
参考文献		
理学療法学テキスト 物理療法学 編集 吉田秀樹 MEDICAL VIEW 理学療法学講座 物理療法学 編著 烏野 大 川村博文 医歯薬出版		
履修条件・留意事項等		

毎回の授業における授業課題や確認テストで成績を評価するので欠席をしないこと。
ただし、やむを得ない理由（公欠と認められる）場合においては代替の手段を講じて評価する。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		物理療法学Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	水本 淳						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」と特に関係がある科目である。また、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる(関心・意欲・態度)」、「科学的根拠に基づいた理学療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている(思考・判断・表現)」こととも関係する。「物理療法学Ⅰ」と関連し、「物理療法学演習」の基礎となる。							
授業の概要							
物理療法学Ⅱでは、最近の人工エネルギーを生体に作用させる物理療法の目的、疼痛のメカニズム、物理療法機器の特性、生理学的作用、治療効果、禁忌等について学修する。							
到達目標							

1. 物理療法で用いられる基本用語を用いて各治療法を説明できる。
2. 物理的刺激と生体反応の関係を説明できる。
3. 各種物理療法の適応と禁忌を説明できる。
4. 機器の特殊性を理解し、各機器の特徴や相違点を説明できる。

授業の方法

【プレゼンテーションの方法】パワーポイント等のスライドを用いた講義形式で進める。
 【授業形態】教科書の内容を中心とした講義形式で進める。
 【アクティブラーニング】授業内課題もしくは確認テストで授業の理解を確認する。

ICT活用

Google classroomを利用し資料提示、課題提出、確認テストの実施を行う。

実務経験のある教員の教育内容

病院での理学療法士としての実務経験を活かし授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業での確認課題および確認テストについては、その授業内で解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	電気刺激療法の基礎 生体への電流作用、皮膚の電気整理、電気での生体制御などを学ぶ。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第2回	電気刺激の臨床応用Ⅰ 痛み軽減を目的にした各種電気刺激療法の概要を学ぶ。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第3回	電気刺激の臨床応用Ⅱ 筋機能改善のための各種電気刺激療法を学ぶ。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			

第4回	電気刺激の臨床応用Ⅲ 機能を補うための各種電気刺激療法を学ぶ。 【確認テスト:授業1～4の範囲】	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第5回	超音波療法 超音波発生メカニズム、伝播、周波数と深達度、有効照射面積、ビーム不均等率、適当と禁忌を学ぶ。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第6回	水治療法 温泉を含めた水治療法の紹介、生理学的作用、適応と禁忌を学ぶ。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			

第7回	牽引療法、力学的機器を用いた治療 牽引療法、生理学的作用、適応と禁忌 CPM等を学ぶ。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第8回	マッサージの基本手技 生理学的作用、および物理療法の総括。 【確認テスト:物理療法学Ⅰ・物理療法学Ⅱの全範囲】	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内課題の配点(授業毎の配点5点で6回行う。合計30点) 確認テストの配点(授業4回目、8回目に行う。各35点満点で合計70点)
その他	0	
教科書		
物理療法学改訂版第3版 松澤 正・江口勝彦 金原出版		
参考文献		
理学療法学テキスト 物理療法学 編集 吉田秀樹 MEDICAL VIEW 理学療法学講座 物理療法学 編著 烏野 大 川村博文 医歯薬出版		
履修条件・留意事項等		

毎回の授業における授業課題や確認テストで成績を評価するので欠席をしないこと。
ただし、やむを得ない理由（公欠と認められる）場合においては代替の手段を講じて評価する。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		物理療法学演習(1組)				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	水本 淳、鈴木 信						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている」とと特に関係がある科目である。また、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている」、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる」、「科学的根拠に基づいた理学療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている」とも関係する。物理療法学で学んだ知識を演習形式で学習する。							
授業の概要							
物理療法学Ⅰ・Ⅱの講義で学んだ知識をもとに温熱・寒冷療法、高周波電気療法、低周波刺激法、超音波療法、赤外線・紫外線、水治療法、牽引療法について学生相互に演習を行うことにより、機器の具体的使用法、リスク管理、効果について学習する。							
到達目標							

1. 物理療法を安全かつ効果的に実施できる。
2. リスク管理を考慮し、各種物理療法機器を安全に操作できる。
3. 物理療法により得られる生体反応・効果を測定し、結果に基づいて治療効果を考察できる。

授業の方法

- ・グループ単位で各種の物理療法機器を使用し、患者役、治療者役の双方を経験した演習を行う。
- ・また、物理療法に関する課題を各グループに割り振り、その検討した内容を発表する。

ICT活用

Googleのクラスルームを利用するのでスマートフォン等を持参すること。

実務経験のある教員の教育内容

理学療法士としての病院勤務の経験から臨床に即した情報を加えながら演習を進めていく。

課題に対するフィードバックの方法

スライドによるグループ発表を行う。各発表を基に行われるディスカッションに対し適宜教員からのフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション この演習で行う物理療法機器全般の紹介と適応、禁忌を学ぶ。 演習後半に発表する課題について、各グループごとの分担、および今後の進め方を検討する。	物理療法学Ⅰ・Ⅱで学んだ内容を復習しておくこと。(30分)	オリエンテーションで示された内容について、予習すべきことを確認する。(30分)
担当教員	水本 淳		
第2回	温熱療法(ホットパック・パラフィン浴など)に関する機器について作用機序や使用方法等について学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	課題内容を復習すること。(30分)
担当教員	水本 淳		
第3回	温熱療法(ホットパック・パラフィン浴など)に関する機器について作用機序や使用方法等について学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	課題内容を復習すること。(30分)
担当教員	水本 淳		

第4回	温熱療法(高周波療法・光線療法)に関する機器について作用機序や使用方法等について学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	課題内容を復習すること。(30分)
担当教員	水本 淳		
第5回	温熱療法(高周波療法・光線療法)に関する機器について作用機序や使用方法等について学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	課題内容を復習すること。(30分)
担当教員	水本 淳		
第6回	寒冷療法・水治療法に関する機器について作用機序や使用方法等について学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	課題内容を復習すること。(30分)
担当教員	水本 淳		

第7回	寒冷療法・水治療法に関する機器について作用機序や使用方法等について学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	課題内容を復習すること。(30分)
担当教員	水本 淳		
第8回	各種電気療法に関する機器について作用機序や使用方法等について学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	課題内容を復習すること。(30分)
担当教員	水本 淳		
第9回	各種電気療法に関する機器について作用機序や使用方法等について学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	課題内容を復習すること。(30分)
担当教員	鈴木 信		

第10回	超音波療法、レーザー光線等に関する機器について作用機序や使用方法等を学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	課題内容を復習すること。(30分)
担当教員	鈴木 信		
第11回	超音波療法、レーザー光線等に関する機器について作用機序や使用方法等を学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	課題内容を復習すること。(30分)
担当教員	鈴木 信		
第12回	力学的作用を用いた治療(牽引療法、振動療法など)に関する機器について作用機序や使用方法を学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	課題内容を復習すること。(30分)
担当教員	鈴木 信		

第13回	力学的作用を用いた治療(牽引療法、振動療法など)に関する機器について作用機序や使用方法を学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	課題内容を復習すること。(30分)
担当教員	鈴木 信		
第14回	プレゼンテーション 各グループ別に割り振られた課題について、パワーポイントを用いた資料を発表し、その内容について全体で検討する。	グループ発表の準備をしておくこと。(30分)	各グループの発表を整理し、復習すること。(30分)
担当教員	鈴木 信		
第15回	プレゼンテーション 各グループ別に割り振られた課題について、パワーポイントを用いた資料を発表し、その内容について全体で検討する。 確認テスト	グループ発表の準備をしておくこと。(30分)	各グループの発表を整理し、復習すること。(30分)
担当教員	鈴木 信		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	毎回の課題内容および確認テストの得点、発表内容、授業態度等で評価する。課題の内容20%、確認テスト30%、発表40%、参加度、授業態度10%。
その他	0	
教科書		
物理療法学改訂第3版 松澤正・江口勝彦 金原出版		
参考文献		

最新理学療法学講座 物理療法学 烏野 大・川村博文編著 医歯薬出版
CrossLink理学療法学テキスト 物理療法学 吉田英樹編 MEDICAL VIEW

履修条件・留意事項等

演習内容に応じケーシー着用もしくはTシャツ・短パン着用の指示あり。
ピアス、ネックレス、ネイルチップ等は外すこと(加熱の危険性あり)。
機材の都合等により順序の入れ替えあり。
毎回の授業で課題があるので欠席をしないこと。
ただし、やむを得ない理由(公欠と認められる)場合においては代替の手段を講じて評価する。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		物理療法学演習(2組)				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	水本 淳、鈴木 信						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている」とことと特に関係がある科目である。また、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている」、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる」、「科学的根拠に基づいた理学療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている」とことも関係する。物理療法学で学んだ知識を演習形式で学習する。							
授業の概要							
物理療法学Ⅰ・Ⅱの講義で学んだ知識をもとに温熱・寒冷療法、高周波電気療法、低周波刺激法、超音波療法、赤外線・紫外線、水治療法、牽引療法について学生相互に演習を行うことにより、機器の具体的使用法、リスク管理、効果について学習する。							
到達目標							

1. 物理療法を安全かつ効果的に実施できる。
2. リスク管理を考慮し、各種物理療法機器を安全に操作できる。
3. 物理療法により得られる生体反応・効果を測定し、結果に基づいて治療効果を考察できる。

授業の方法

- ・グループ単位で各種の物理療法機器を使用し、患者役、治療者役の双方を経験した演習を行う。
- ・また、物理療法に関する課題を各グループに割り振り、その検討した内容を発表する。

ICT活用

Googleのクラスルームを利用するのでスマートフォン等を持参すること。

実務経験のある教員の教育内容

理学療法士としての病院勤務の経験から臨床に即した情報を加えながら演習を進めていく。

課題に対するフィードバックの方法

スライドによるグループ発表を行う。各発表を基に行われるディスカッションに対し適宜教員からのフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション この演習で行う物理療法機器全般の紹介と適応、禁忌を学ぶ。 演習後半に発表する課題について、各グループごとの分担、および今後の進め方を検討する。	物理療法学Ⅰ・Ⅱで学んだ内容を復習しておくこと。(30分)	オリエンテーションで示された内容について、予習すべきことを確認する。(30分)
担当教員	水本 淳		
第2回	温熱療法(ホットパック・パラフィン浴など)に関する機器について作用機序や使用方法等について学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	課題内容を復習すること。(30分)
担当教員	水本 淳		
第3回	温熱療法(ホットパック・パラフィン浴など)に関する機器について作用機序や使用方法等について学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	課題内容を復習すること。(30分)
担当教員	水本 淳		

第4回	温熱療法(高周波療法・光線療法)に関する機器について作用機序や使用方法等について学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	課題内容を復習すること。(30分)
担当教員	水本 淳		
第5回	温熱療法(高周波療法・光線療法)に関する機器について作用機序や使用方法等について学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	課題内容を復習すること。(30分)
担当教員	水本 淳		
第6回	寒冷療法・水治療法に関する機器について作用機序や使用方法等について学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	課題内容を復習すること。(30分)
担当教員	水本 淳		

第7回	寒冷療法・水治療法に関する機器について作用機序や使用方法等について学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	課題内容を復習すること。(30分)
担当教員	水本 淳		
第8回	各種電気療法に関する機器について作用機序や使用方法等について学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	課題内容を復習すること。(30分)
担当教員	水本 淳		
第9回	各種電気療法に関する機器について作用機序や使用方法等について学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	課題内容を復習すること。(30分)
担当教員	鈴木 信		

第10回	超音波療法、レーザー光線等に関する機器について作用機序や使用方法等を学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	課題内容を復習すること。(30分)
担当教員	鈴木 信		
第11回	超音波療法、レーザー光線等に関する機器について作用機序や使用方法等を学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	課題内容を復習すること。(30分)
担当教員	鈴木 信		
第12回	力学的作用を用いた治療(牽引療法、振動療法など)に関する機器について作用機序や使用方法を学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	課題内容を復習すること。(30分)
担当教員	鈴木 信		

第13回	力学的作用を用いた治療(牽引療法、振動療法など)に関する機器について作用機序や使用方法を学ぶ。	各種物理療法について作用機序と手順等について教科書の当該部分を読んでおくこと。(30分)	課題内容を復習すること。(30分)
担当教員	鈴木 信		
第14回	プレゼンテーション 各グループ別に割り振られた課題について、パワーポイントを用いた資料を発表し、その内容について全体で検討する。	グループ発表の準備をしておくこと。(30分)	各グループの発表を整理し、復習すること。(30分)
担当教員	鈴木 信		
第15回	プレゼンテーション 各グループ別に割り振られた課題について、パワーポイントを用いた資料を発表し、その内容について全体で検討する。 確認テスト	グループ発表の準備をしておくこと。(30分)	各グループの発表を整理し、復習すること。(30分)
担当教員	鈴木 信		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	毎回の課題内容および確認テストの得点、発表内容、授業態度等で評価する。 課題の内容20%、確認テスト30%、発表40%、参加度、授業態度10%。
その他	0	
教科書		
物理療法学改訂第3版 松澤正・江口勝彦 金原出版		
参考文献		

最新理学療法学講座 物理療法学 烏野 大・川村博文編著 医歯薬出版
CrossLink理学療法学テキスト 物理療法学 吉田英樹編 MEDICAL VIEW

履修条件・留意事項等

演習内容に応じケーシー着用もしくはTシャツ・短パン着用の指示あり。
ピアス、ネックレス、ネイルチップ等は外すこと(加熱の危険性あり)。
機材の都合等により順序の入れ替えあり。
毎回の授業で課題があるので欠席をしないこと。
ただし、やむを得ない理由(公欠と認められる)場合においては代替の手段を講じて評価する。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		基礎運動療法学				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	柴田 恵理子						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に対応できる能力を身につけている(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。また、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」および「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる(関心・意欲・態度)」ことにも関連する。「運動生理学」と関連し、3年生後期で履修する「専門科目」の演習の基礎となる。							
授業の概要							
理学療法における運動療法の歴史、意義、目的について概説し、運動による呼吸・循環・代謝系への影響、筋の収縮様式、関節拘縮、筋萎縮、日常生活におけるバランスやスタビリティ等、運動療法の基礎となる問題について学習する。							
到達目標							

- ① 運動療法に関する基礎知識と基本的な考え方を説明できる
- ② 運動療法に関する基本的な用語を説明できる
- ③ 運動療法に関する基本的な方法を見て説明できる

授業の方法

教科書およびスライドを用いる講義形式ですすめる。適宜、講義資料を配布する。
毎回確認テストを時間内に行う。

ICT活用

授業資料をGoogle Classroomにて公開し、復習に活用できるようにする。
必要に応じて、授業のスライドに説明音声吹き込んだ動画を Google Classroomにアップし、復習に活用できるようにする。

実務経験のある教員の教育内容

担当教員は、理学療法士としての臨床経験、臨床実習の指導の経験を活かし講義を担当する。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして確認テストを回収後、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	総論 各論1:骨・関節の基礎知識を確認し、骨・関節に対する運動療法の基本事項を整理する	教科書p43～p68、p186～220を 読んでおくこと(90分)	授業内容を復習し、骨・関節について解剖学・生理学・運動学の知識を運動療法と関連させて理解すること(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
第2回	各論2:筋の基礎知識を確認し、筋に対する運動療法の基本事項を整理する	教科書p69～p89、p221～268を 読んでおくこと(90分)	授業内容を復習し、筋について解剖学・生理学・運動学の知識を運動療法と関連させて理解すること(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
第3回	各論3:呼吸・循環・代謝の基礎知識を確認し、呼吸・循環・代謝に対する運動療法の基本事項を整理する	教科書p105～p134,421～489を 読んでおくこと(90分)	授業内容を復習し、呼吸・循環・代謝について解剖学・生理学・運動学の知識を運動療法と関連させて理解すること(90分)
担当教員	柴田 恵理子		

第4回	各論4:脳と神経の基礎知識を確認し、中枢性と末梢性の運動麻痺に対する運動療法の基本事項を整理する	教科書p90～104、269～291を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習し、脳と神経について解剖学・生理学・運動学の知識を運動療法と関連させて理解すること(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
第5回	各論5:脳と神経の基礎知識を確認し、感覚・バランス・協調性障害に対する運動療法の基本事項を整理する	教科書p292～336、370～385を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習し、脳と神経について解剖学・生理学・運動学の知識を運動療法と関連させて理解すること(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
第6回	各論6:基本動作の基礎知識を確認し、基本動作・歩行障害に対する運動療法の実際について基本事項を整理する	教科書p337～p369を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習し、基本動作・歩行障害に対する運動療法について理解すること(90分)
担当教員	柴田 恵理子		

第7回	各論7:運動制御と運動学習の基礎知識を確認し、運動制御と運動学習の運動療法に関する基本事項を整理する	教科書p135～160を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習し、運動制御と運動学習について運動療法と関連させて理解すること(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
第8回	まとめテスト	授業で配布した資料や教科書をよく読み、復習しておくこと(90分)	全授業内容について復習すること(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・第1～7回講義の確認テスト(30%) ・第8回講義のまとめテスト(70%)
その他	0	
教科書		
運動療法学 障害別アプローチの理論と実際 第2版, 市橋則明 編集, 文光堂		
参考文献		
Crosslink 理学療法学テキスト 運動療法学 第3版, 対馬栄輝 編集, メジカルビュー社		
履修条件・留意事項等		

解剖学、機能解剖学、生理学、運動学、内科、整形外科、運動生理学で学んだ知識について十分復習して授業に望むこと

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		義肢装具学Ⅰ				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	牧野 均						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーにある「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。(知識・技能)」、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる。(関心・意欲・態度)」、「科学的根拠に基づいた理学療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。(思考・判断・表現)」ことと特に関係のある科目である。運動器疾患や中枢神経疾患を運動学的に理解し、機能障害に対する効果的な装具や義肢を用いることにより活動能力を高める治療法を学ぶための科目である。「整形外科学」「運動器障害理学療法学」「神経障害理学療法学」「子どもの理学療法学」「日常生活活動学」等多くの科目と関連し、「運動器障害理学療法学演習」「神経障害理学療法学演習」「子どもの理学療法学演習」「日常生活活動学演習」「義肢装具学演習」や「臨床実習」等多くの科目の基礎となる。							
授業の概要							
義肢の基本的知識について学習する。歴史、切断術および股義足、大腿義足、下腿義足などの各種義足と上腕・前腕義手の構造、目的、特徴について理解するとともに、断端管理、義足の適合判定および切断者に対する理学療法の進め方について学習する。							
到達目標							

- ① 義肢、装具、自助具および車椅子の基本的用語を説明できる。
- ② 義肢、装具、自助具および車椅子の適合判定ができる。
- ③ 義肢、装具、自助具および車椅子を用いた理学療法が説明できる

授業の方法

講義資料の一部は適宜PDFにて事前にGoogleクラスルーム上にて配布を行います。
教科書とパワーポイントを用いて、講義形式ですすめます。
講義終了後に、Googleクラスルーム上もしくは紙面にて講義の確認の課題を行います。
初回は、義足及び下肢装具に必要な解剖の知識を確認します。教科書に付属するまた、web動画を応用します。

ICT活用

スマホを用いて、課題の検索及び課題提出を行う。また、練習問題を提供し自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

美唄労災病院(現北海道せき損センター)において理学療法士として23年勤務し、義肢装具士の国家資格を有する。この経験を活かして義肢装具学実習について実習を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして小テストを回収後、回答の確認を行います。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 義肢装具概論 義肢学 ① 義肢学総論 下肢切断の理学療法評価	下肢体幹の解剖、運動学について確認しておく。 教科書のp18-p49を読んでおくこと。(90分)	配布プリントを復習し、義肢の基本的用語と下肢切断の理学療法評価について確認する。(90分)
担当教員			
第2回	義肢学 ② 大腿義足ソケットの種類と適合評価 膝義足ソケットの種類と適合評価	下肢体幹の解剖、運動学について確認しておく。 教科書のp50～p69を読んでおくこと。(90分)	課題を行います。義肢の基本的構造について確認しておくこと。 大腿義足ソケットの種類と適合評価、膝義足ソケットの種類と適合評価について確認しておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	義肢学 ③ 大腿義足・膝義足のアライメント	下肢体幹の解剖、運動学について確認しておく。 教科書1のp70～p91を読んでおくこと(90分)	課題を行います。大腿義足・膝義足のアライメントについて確認しておくこと。(90分)
担当教員			

第4回	義肢学 ④ 大腿義足のダイナミックアライメント 下腿義足ソケットの種類と適合評価	下肢体幹の解剖、運動学について確認しておく。 教科書のp92～p147を読んでおくこと(90分)	課題を行います。大腿義足と下腿義足の種類・構造とアライメントについて確認しておくこと。(90分)
担当教員			
第5回	義肢学 ⑤ サイム義足ソケットの種類と適合評価 下腿義足・サイム義足アライメント	下肢体幹の解剖、運動学について確認しておく。 教科書のp92～p147を読んでおくこと。(90分)	課題を行います。サイム義足ソケットの種類と適合評価、下腿義足・サイム義足アライメントについて確認しておくこと。(90分)
担当教員			
第6回	義肢学 ⑥ 股義足ソケットの種類・股義足のアライメント 足部部分義足の種類と適合評価 股・膝継ぎ手の種類とその設定調整法	下肢体幹の解剖、運動学について確認しておく。 教科書p92～p147を読んでおくこと。(90分)	課題を行います。股義足ソケットの種類・股義足のアライメント、足部部分義足の種類と適合評価、股・膝継ぎ手の種類とその設定調整法を確認しておくこと。(90分)
担当教員			

第7回	義肢学 ⑦ 足部の種類とその設定調整法 下肢切断者に対する理学療法プログラム 下肢切断の理学療法 上肢切断のリハビリテーション	下肢体幹の解剖、運動学について確認しておく。教科書p92～p147、p228～p241を読んでおくこと。(90分)	足部の種類とその設定調整法、下肢切断者に対する理学療法プログラム、下肢切断の理学療法、上肢切断のリハビリテーションを確認しておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	義肢学 ⑧ 「義肢学」に関するグループワークを行い自分の考えをまとめて提出 義肢学のまとめ	下肢体幹の解剖、運動学について確認しておく。p18～227を復習しておくこと。	義肢学についてまとめ、復習しておくこと
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内での課題 30% グループワークによる課題提出 10% 8講目に行う「まとめ」を60% として 評価を行う。
その他	0	なし
教科書		
PT・OTビジュアルテキスト「義肢・装具 第2版」高田治実監修 羊土社		
参考文献		
装具学 第4版 加倉井周一編集 医歯薬出版株式会社義肢学 石川 朗・永富史子編集 中山書店 義肢製作マニュアル 田澤英二著 医歯薬出版株式会社義肢学 第3版 澤村誠志編集 医歯薬出版株式会社		
履修条件・留意事項等		

新しく憶えなければならないことがたくさんあります。毎講義の小テストを通してしっかりと身につけてください。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		義肢装具学Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	牧野 均						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーにある「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。(知識・技能)」、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる。(関心・意欲・態度)」、「科学的根拠に基づいた理学療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。(思考・判断・表現)」ことと特に関係のある科目である。運動器疾患や中枢神経疾患を運動学的に理解し、機能障害に対する効果的な装具や義肢を用いることにより活動能力を高める治療法を学ぶための科目である。「運動器障害理学療法学演習」「神経障害理学療法学演習」「子どもの理学療法学演習」「日常生活活動学演習」「義肢装具学演習」や「臨床実習」等多くの科目の基礎となる。							
授業の概要							
装具および自助具・車いすの基本的知識について学習する。部位別および機能別装具と装着目的、適合判定について学習する。また、理学療法の進め方について学習する。							
到達目標							

① 義肢、装具、自助具および車椅子の基本的用語を説明できる。② 義肢、装具、自助具および車椅子の適合判定ができる。③ 義肢、装具、自助具および車椅子を用いた理学療法が説明できる

授業の方法

講義資料の一部は適宜PDFにて事前にGoogleクラスルーム上にて配布を行います。教科書とパワーポイントを用いて、講義形式ですすめます。講義終了後に、Googleクラスルーム上もしくは紙面にて講義の確認の課題を行います。初回は、義足及び下肢装具に必要な解剖の知識を確認します。教科書に付属するまた、web動画を応用します。

ICT活用

スマホを用いて、課題の検索及び課題提出を行う。また、練習問題を提供し自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

美唄労災病院(現北海道せき損センター)において理学療法士として23年勤務し、義肢装具士の国家資格を有する。この経験を活かして義肢装具学実習について実習を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして小テストを回収後、回答の確認を行います。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	装具学 ① 1 装具学総論 2.1 下肢装具の構成部品とそのチェックアウト	下肢体幹の解剖、運動学について確認しておく。 教科書p242～272読んでおくこと。(90分)	課題を行います。下肢装具の構成部品とチェックアウト、足継ぎ手の制御機構について理解しておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	装具学 ② 2.2 下肢装具の構成部品とそのチェックアウト② 3. 足継ぎ手の制御機構	下肢体幹の解剖、運動学について確認しておく。 教科書p242～272読んでおくこと。(90分)	課題を行います。下肢装具の構成部品とチェックアウト、足継ぎ手の制御機構について理解しておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	装具学 ③ 疾患別の装具療法（番号はテキストの章番号） 4. 脳卒中片麻痺の装具 5. 対麻痺の装具	脳卒中片麻痺、対麻痺の病態について確認しておくこと。教科書p273～302を読んでおくこと。(90分)	課題を行います。脳卒中片麻痺の装具、対麻痺の装具について理解しておくこと。(90分)
担当教員			

第4回	装具学 ④ 疾患別の装具療法(番号はテキストの章番号) 6. 整形外科的装具 8. 末梢神経障害の装具	整形外科的疾患、上肢の末梢神経疾患について確認しておくこと。 教科書p303～p310、p327～p337を読んでおくこと。(90分)	課題を行います。整形外科的装具、末梢神経疾患の装具について理解しておくこと。(90分)
担当教員			
第5回	装具学 ⑤ 疾患別の装具療法(番号はテキストの章番号) 7. 頸椎疾患の装具 胸腰椎疾患の装具 9. 脊柱側弯症の装具	脊柱疾患について確認しておくこと。 教科書p310～p326、p338～p344を読んでおくこと。(90分)	課題を行います。脊椎疾患の装具について理解しておくこと。(90分)
担当教員			
第6回	装具学 ⑥ 疾患別の装具療法(番号はテキストの章番号) 10. 小児疾患の装具 11. 関節リウマチの装具	小児の疾患、関節リウマチについて確認しておくこと。 教科書p345～p360を読んでおくこと。(90分)	課題を行います。小児の疾患の装具、関節リウマチの装具について理解しておくこと。(90分)
担当教員			

第7回	装具学 ⑧ 12. 靴型装具 13. 車いす・杖 14. 義肢装具の給付制度 装具学に関するグループワーク	足部の疾患、車いすを使用する疾患について確認しておくこと。教科書p361～p374を読んでおくこと。(90分)	課題を行います。靴型装具、車いすの構造と処方について理解しておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	装具学 ⑦ 義肢装具の給付制度 短下肢装具装着における歩行分析 装具学のまとめ	福祉制度、歩行の運動学について確認しておくこと。教科書p375～p390を読んでおくこと。(90分)	装具学について知識の確認を行うこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	定期試験は行わない。	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内での課題 30% グループワークによる課題提出 10% 8講目に行う「まとめ」を60% として 評価を行う。
その他	0	なし
教科書		
PT・OTビジュアルテキスト「義肢・装具 第2版」高田治実監修 羊土社		
参考文献		
装具学 第4版 加倉井周一編集 医歯薬出版株式会社義肢学 石川 朗・永富史子編集 中山書店 義肢製作マニュアル 田澤英二著 医歯薬出版株式会社義肢学 第3版 澤村誠志編集 医歯薬出版株式会社		
履修条件・留意事項等		

新しく憶えなければならないことがたくさんあります。毎講義の小テストを通してしっかりと身につけてください。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		義肢装具学演習(1組)				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	牧野 均						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーのうち、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」と特に関連する科目である。「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる。(関心・意欲・態度)」、「科学的根拠に基づいた理学療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。(思考・判断・表現)」に関連する科目です。義肢装具学の実践について理解し、効果的な臨床応用を学ぶための科目である。「義肢装具学Ⅰ・Ⅱ」と関連し、その他の実習科目や「臨床実習」の基礎となる。							
授業の概要							
装具演習は、実際に下肢の装具を製作し、歩行や応用動作を試み、装具の機能について理解を深める。自助具に関しては、種々の自助具の装着により機能を理解する。また、車いすの設計の演習を行う。義肢演習は、模擬断端での断端管理、模擬大腿義足での歩行演習、訓練用仮義足の分解・組み立て演習を行う。							
到達目標							

- ① 義肢、装具、自助具および車椅子の基本的用語を説明できる。
- ② 義肢、装具、自助具および車椅子の適合判定ができる。
- ③ 義肢、装具、自助具および車椅子を用いた理学療法が説明できる。

授業の方法

小グループを編成し、グループごとに装具製作や歩行分析、車いすの設計を行い、製作設計の実際について学ぶ。また、適宜プリントを用いて内容を確認する。また、車いす設計課題は、「車いすの処方の実際」と「臨床におけるシーティング・設計の実際」について、グループワークにて疾患別の設計を行い、プレゼンテーションを行う。義足や装具の部品、模擬大腿義足を用いて装具の実際について調節実習を行い理解する。「義肢の実際」については、下肢切断の患者様にきていただき、実習・講義を行い、「義肢」の実際について学ぶ。

ICT活用

スマホを用いて、課題の検索及び課題提出を行う。また、練習問題を提供し自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

美唄労災病院(現北海道せき損センター)において理学療法士として23年勤務し、義肢装具士の国家資格を有する。この経験を活かして義肢装具学実習について実習を行う。

課題に対するフィードバックの方法

各実習において、課題レポートを提出し、回収後、レポートの解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション プラスチック短下肢装具の制作 プラスチック短下肢装具の製作 ① SHB講義 採型と製作 プラスチック短下肢装具の採型・製作を行う。	正常歩行に関する基本事項を 確認しておく。足部の筋・骨関節 の確認をしておく。(90分)	装具装着での歩行についてま とめる。(90分)
担当教員			
第2回	オリエンテーション プラスチック短下肢装具の制作 プラスチック短下肢装具の製作 ② 陽性モデルの作成 プラスチック短下肢装具の採型・製作を行う。	正常歩行に関する基本事項を 確認しておく。足部の筋・骨関節 の確認をしておく。(90分)	装具装着での歩行についてま とめる。(90分)
担当教員			
第3回	プラスチック短下肢装具の製作 ③ 陽性モデル修正とポリプロピレン成型	プラスチック短下肢装具の設計 を行う。足部の筋・骨関節の確 認をしておく。(90分)	足部の筋・骨関節の確認をして おく。(90分)
担当教員			

第4回	車いす ① 車いすの基本構造と設計	車いすの設計に関して、「義肢装具学講義」資料を復習し理解しておく。(90分)	車いす設計についてまとめる。(90分)
担当教員			
第5回	プラスチック短下肢装具の設計と車いす プラスチック短下肢装具の製作 ④ SHBのトリミングとベルト製作、インソール/アウトソール製作	プラスチック短下肢装具の制作を行う。足部の筋・骨関節の確認をしておく。正常歩行について理解しておく。(90分)	正常歩行について理解しておく。(90分)
担当教員			
第6回	車いす ② 講義、疾患を想定しグループワークにて車いす設計を行う。	車いす設計に関して復習をしておく。(90分)	車いす設計についてまとめる。(90分)
担当教員			

第7回	プラスチック短下肢装具の製作 ⑤ ベルトつけ、完成へ。	歩行とバランスに関する基本事項を確認しておく。正常歩行について復習しておく。(90分)	実習の工程をまとめる。正常歩行と装具歩行の違いについてまとめる。(90分)
担当教員			
第8回	車いす ③ 疾患を想定しグループワークにて車いす設計を行う。 歩行講義	車いす設計に関して復習しておく。正常歩行について理解しておく。(90分)	車いす設計に関してまとめる。正常歩行についてまとめる。(90分)
担当教員			
第9回	歩行 完成したSHBの歩行と正常歩行との違いについて歩行分析	正常歩行について理解しておく。(90分)	歩行分析をまとめる。(90分)
担当教員			

第10回	義肢装具の知識の整理 義肢装具のパーツ、構造について理解する。	義肢装具の部品構造に関して 理解しておく。(90分)	義肢装具の部品構造に関して 復習を行う。(90分)
担当教員			
第11回	野坂先生講義① ・義肢学と装具学の実際について	歩行周期と大腿義足の基礎事 項について確認しておく。大腿 義足・下腿義足のアライメントに ついて確認しておく。(90分)	正常歩行、大腿義足の処方と異 常歩行の対処の実際について 確認する。(90分)
担当教員			
第12回	学習内容 野坂先生講義② ・大腿後足のアライメント調整について	歩行周期と大腿義足の基礎事 項について確認しておく。大腿 義足・下腿義足のアライメントに ついて確認しておく。(90分)	正常歩行、大腿義足の処方と異 常歩行の対処の実際について 確認する。(90分)
担当教員			

第13回	車いす設計の実際とシーティング シーティングの専門家と実際の車いす利用者を招き、「シーティングの実際」と「車いす設計の実際」について学ぶ。 ① ① 「シーティングの実際」について講義	車いすの基本事項について確認しておく。体幹、下肢の筋関節系の基本について確認しておく。(90分)	車いすの処方の実際について確認し、設計図の修正を行う。シーティングの基本について確認する。(90分)
担当教員			
第14回	車いす設計の実際とシーティング シーティングの専門家と実際の車いす利用者を招き、「シーティングの実際」と「車いす設計の実際」について学ぶ。 ② ② 車いすの処方、設計の実際について実習する。 グループワークにて行った課題について、プレゼンテーションを行う。 ③ シーティングの基本について実習する。 ウレタンを加工し、車いすに装着することによってシーティングの実際について学ぶ。	車いすの基本事項について確認しておく。体幹、下肢の筋関節系の基本について確認しておく。(90分)	車いすの処方の実際について確認し、設計図の修正を行う。シーティングの基本について確認する。(90分)
担当教員			
第15回	模擬大腿義足を用いて、義足の構造と異常歩行への対処について理解する。 断端包帯の巻き方に関して理解する。 三角巾の巻き方に関して理解する。 義肢装具のまとめ	装具の処方の実際について講義資料を基に確認しておくこと。(90分)	正常歩行、装具の処方の実際について確認する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	行わない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	演習内での課題 30% グループワークによる課題提出 10% 14講目に行う「まとめ」を60%として評価を行う。
その他	0	なし
教科書		
なし 適宜資料配布		
参考文献		

「PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具 第2版」高田治実監修 羊土社

義肢製作マニュアル 日本義肢装具学会監修 田澤英二著 医歯薬出版株式会社

装具学 第4版 加倉井周一編集 医歯薬出版株式会社

義肢学 石川 朗・永富史子編集 中山書店

義肢学 第3版 澤村誠志編集 医歯薬出版株式会社

履修条件・留意事項等

前期の義肢装具学を十分に理解していることが履修条件となります。

実際の装具製作では、服装は自由ですが、石膏を使用するため、汚れても良いものを身につけてください。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		義肢装具学演習(2組)				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	牧野 均						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーのうち、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」と特に関連する科目である。「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる。(関心・意欲・態度)」、「科学的根拠に基づいた理学療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている。(思考・判断・表現)」に関連する科目です。義肢装具学の実践について理解し、効果的な臨床応用を学ぶための科目である。「義肢装具学Ⅰ・Ⅱ」と関連し、その他の実習科目や「臨床実習」の基礎となる。							
授業の概要							
装具演習は、実際に下肢の装具を製作し、歩行や応用動作を試み、装具の機能について理解を深める。自助具に関しては、種々の自助具の装着により機能を理解する。また、車いすの設計の演習を行う。義肢演習は、模擬断端での断端管理、模擬大腿義足での歩行演習、訓練用仮義足の分解・組み立て演習を行う。							
到達目標							

- ① 義肢、装具、自助具および車椅子の基本的用語を説明できる。
- ② 義肢、装具、自助具および車椅子の適合判定ができる。
- ③ 義肢、装具、自助具および車椅子を用いた理学療法が説明できる。

授業の方法

小グループを編成し、グループごとに装具製作や歩行分析、車いすの設計を行い、製作設計の実際について学ぶ。また、適宜プリントを用いて内容を確認する。また、車いす設計課題は、「車いすの処方の実際」と「臨床におけるシーティング・設計の実際」について、グループワークにて疾患別の設計を行い、プレゼンテーションを行う。義足や装具の部品、模擬大腿義足を用いて装具の実際について調節実習を行い理解する。「義肢の実際」については、下肢切断の患者様に来ていただき、実習・講義を行い、「義肢」の実際について学ぶ。

ICT活用

スマホを用いて、課題の検索及び課題提出を行う。また、練習問題を提供し自主学習を促す。

実務経験のある教員の教育内容

美唄労災病院(現北海道せき損センター)において理学療法士として23年勤務し、義肢装具士の国家資格を有する。この経験を活かして義肢装具学実習について実習を行う。

課題に対するフィードバックの方法

各実習において、課題レポートを提出し、回収後、レポートの解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション プラスチック短下肢装具の制作 プラスチック短下肢装具の製作 ① SHB講義 採型と製作 プラスチック短下肢装具の採型・製作を行う。	正常歩行に関する基本事項を 確認しておく。足部の筋・骨関節 の確認をしておく。(90分)	装具装着での歩行についてまと める。(90分)
担当教員			
第2回	プラスチック短下肢装具の設計と車いす プラスチック短下肢装具の製作 ② プラスチック短下肢装具の制作 プラスチック短下肢装具の製作 ② 陽性モデルの作成 プラスチック短下肢装具の採型・製作を行う	正常歩行に関する基本事項を 確認しておく。足部の筋・骨関節 の確認をしておく。(90分)	装具装着での歩行についてまと める。(90分)
担当教員			
第3回	プラスチック短下肢装具の製作 ③ 陽性モデル修正とポリプロピレン成型	プラスチック短下肢装具の設計 を行う。足部の筋・骨関節の確 認をしておく。(90分)	足部の筋・骨関節の確認をして おく。(90分)
担当教員			

第4回	車いす ① 車いすの基本構造と設計	車いすの設計に関して、「義肢装具学講義」資料を復習し理解しておく。(90分)	車いす設計についてまとめる。(90分)
担当教員			
第5回	プラスチック短下肢装具の製作 ④ SHBのトリミングとベルト製作、インソール/アウトソール製作	プラスチック短下肢装具の制作を行う。足部の筋・骨関節の確認をしておく。正常歩行について理解しておく。(90分)	正常歩行について理解しておく。(90分)
担当教員			
第6回	車いす ② 講義、疾患を想定しグループワークにて車いす設計を行う。	車いす設計に関して復習をしておく。(90分)	車いす設計についてまとめる。(90分)
担当教員			

第7回	プラスチック短下肢装具の製作 ⑤ ベルトつけ、完成へ。	歩行とバランスに関する基本事項を確認しておく。正常歩行について復習しておく。(90分)	実習の工程をまとめる。正常歩行と装具歩行の違いについてまとめる。(90分)
担当教員			
第8回	車いす ③ 疾患を想定しグループワークにて車いす設計を行う。 歩行講義	車いす設計に関して復習しておく。正常歩行について理解しておく。(90分)	車いす設計に関してまとめる。正常歩行についてまとめる。(90分)
担当教員			
第9回	歩行 完成したSHBの歩行と正常歩行との違いについて歩行分析	正常歩行について理解しておく。(90分)	歩行分析をまとめる。(90分)
担当教員			

第10回	義肢装具の知識の整理 義肢装具のパーツ、構造について理解する。	義肢装具の部品構造に関して 理解しておく。(90分)	義肢装具の部品構造に関して 復習を行う。(90分)
担当教員			
第11回	野坂先生講義① ・義肢学と装具学の実際について	歩行周期と大腿義足の基礎事 項について確認しておく。大腿 義足・下腿義足のアライメントに ついて確認しておく。(90分)	正常歩行、大腿義足の処方と異 常歩行の対処の実際について 確認する。(90分)
担当教員			
第12回	野坂先生講義② ・大腿後足のアライメント調整について	歩行周期と大腿義足の基礎事 項について確認しておく。大腿 義足・下腿義足のアライメントに ついて確認しておく。(90分)	正常歩行、大腿義足の処方と異 常歩行の対処の実際について 確認する。(90分)
担当教員			

第13回	車いす設計の実際とシーティング シーティングの専門家と実際の車いす利用者を招き、「シーティングの実際」と「車いす設計の実際」について学ぶ。 ① ① 「シーティングの実際」について講義	車いすの基本事項について確認しておく。体幹、下肢の筋関節系の基本について確認しておく。(90分)	車いすの処方について確認し、設計図の修正を行う。シーティングの基本について確認する。(90分)
担当教員			
第14回	車いす設計の実際とシーティング シーティングの専門家と実際の車いす利用者を招き、「シーティングの実際」と「車いす設計の実際」について学ぶ。 ② ② 車いすの処方、設計の実際について実習する。 グループワークにて行った課題について、プレゼンテーションを行う。 ③ シーティングの基本について実習する。 ウレタンを加工し、車いすに装着することによってシーティングの実際について学ぶ。	車いすの基本事項について確認しておく。体幹、下肢の筋関節系の基本について確認しておく。(90分)	車いすの処方について確認し、設計図の修正を行う。シーティングの基本について確認する。(90分)
担当教員			
第15回	模擬大腿義足を用いて、義足の構造と異常歩行への対処について理解する。 断端包帯の巻き方に関して理解する。 三角巾の巻き方に関して理解する。 義肢装具のまとめ	装具の処方について講義資料を基に確認しておくこと。(90分)	正常歩行、装具の処方について確認する。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験を行わない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	演習内での課題 30% グループワークによる課題提出 10% 14講目に行う「まとめ」を60%として評価を行う。
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		

「PT・OTビジュアルテキスト 義肢・装具 第2版」高田治実監修 羊土社

義肢製作マニュアル 日本義肢装具学会監修 田澤英二著 医歯薬出版株式会社
 装具学 第4版 加倉井周一編集 医歯薬出版株式会社
 義肢学 石川 朗・永富史子編集 中山書店
 義肢学 第3版 澤村誠志編集 医歯薬出版株式会社

履修条件・留意事項等

前期の義肢装具学を十分に理解していることが履修条件となります。
 実際の装具製作では、服装は自由ですが汚れても良いものを身につけてください。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		運動器障害理学療法学				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	橋田 浩、牧野 均、鈴木 信						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーにある「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力にみにつけている(知識・技能)」ことと特に関係のある科目である。また、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につける(知識・技能)」ことも関係する。運動器疾患を運動学的および解剖学的に理解し、効果的な治療法を学ぶ。「整形外科学」「病態運動学」「基礎運動療法学」と関連し、「運動器障害理学療法学実習」や「スポーツ領域理学療法学実習」「臨床実習」の基礎となる。							

1. 各々の運動器障害の評価において系統的に評価の進め方を説明できる。
2. 評価に基づいて障害像を把握し、説明できる。
3. 各種障害に対する適切な理学療法を選択でき、治療計画を立案できる

授業の方法

授業資料のPDFは事前にGoogleクラスルームに載せるので、教科書と併せて確認すること。授業はパワーポイントを用いて講義形式ですすめる。また、理解度の確認として小テストを実施する。授業に関する質問はGoogleクラスルームでのメールで対応する。

ICT活用

Googleのクラスルームを利用するのでスマートフォン等を持参する事。

実務経験のある教員の教育内容

病院での理学療法士としての実務経験を活かした授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

・授業での確認課題については、その授業内または次回授業で解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	総論 運動器障害の評価と理学療法 運動器障害に対する理学療法の評価・治療の原則を理解する。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第2回	機能障害の評価と理学療法、その治療手順を理解する。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第3回	脊椎・脊髄疾患の病態像、評価、治療手順の基本を理解する。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	牧野 均		

第4回	頸髄・脊髄損傷の病態像や評価、理学療法の治療手順を理解する。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	牧野 均		
第5回	頸椎疾患、腰部脊柱管狭窄症、腰痛の病態像、評価、理学療法の治療手順を理解する。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	牧野 均		
第6回	肩関節障害の病態像や評価、理学療法の治療手順を理解する。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		

第7回	関節リウマチの病態、評価、治療手順を理解する。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第8回	肘関節障害の評価と理学療法の治療手順を理解する 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第9回	大腿骨頸部骨折、変形性股関節症などの病態、評価、理学療法の治療手順を理解する。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		

第10回	膝関節周囲の骨折、変形性膝関節症などの病態、評価、理学療法の治療手順を理解する。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第11回	足関節周囲の骨折、足部変形などの病態、評価、理学療法の治療手順を理解する。(橋田) 【確認テスト:授業6回～10回より出題する】	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第12回	スポーツ障害・傷害～とくに上肢の病態、評価、理学療法の治療手順を理解する。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	鈴木 信		

第13回	スポーツ障害・傷害～とくに下肢の病態、評価、理学療法の治療手順を理解する。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	鈴木 信		
第14回	末梢神経障害、腕神経叢麻痺、胸郭出口症候群、火傷の病態、評価、理学療法の治療手順を理解する。 【アクティブラーニング】確認課題実施	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
第15回	運動器障害理学療法のまとめテストを行う。 【確認テスト:1回～14回より出題する】	授業内容について事前に配布した資料および教科書の関連する部分を読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員	橋田 浩		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内での課題確認実施内容(50%)とまとめテスト(50%)によって判断する
その他	0	なし
教科書		
標準理学療法学 専門分野 骨関節理学療法学 編集:吉尾雅春・小柳琢磨 医学書院		
参考文献		

理学療法学テキスト 運動器障害理学療法学 編集 加藤浩 MEDICAL VIEW
脊髄損傷理学療法マニュアル 第2版 編集 岩崎 洋 文光堂

履修条件・留意事項等

定期試験は行わず、授業内の確認課題と確認テストで成績を評価するので欠席をしないこと。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		運動器障害理学療法学演習(1組)				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	高田 雄一、牧野 均						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシー「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」と特に関係のある科目である。また「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる。(関心・意欲・態度)」「科学的根拠に基づいた理学療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている(思考・判断・表現)」とも関係している。 整形外科学、基礎運動療法学、病態運動学、運動器障害理学療法学に関連して臨床実習Ⅳ・Ⅴの基礎となる。							
授業の概要							
運動器に対する運動療法の基本的な技術を学生相互の実習を通して習得するとともに、障害例に対する評価・問題点の把握、治療手技の選択、治療プログラムの立案を系統的に実施できる能力を養う。							
到達目標							

1. 運動器障害に対する理学療法評価を理解できる。
2. 運動器障害に対する評価結果から問題点抽出までの一連の過程を理解できる。
3. 運動器障害に対する治療プログラム立案について理解できる。
4. 適切な治療方法の選択、基本的な治療手技について理解できる。
5. 術後のリスク管理を理解できる。

授業の方法

1. ペーパーペイシエントを用いて運動器疾患に対する一連の理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。一連の過程をグループワークを基にまとめる。
2. パワーポイント、教科書を基に説明を行い、運動器疾患の評価、治療手技の実習を行う。

ICT活用

Google classroomを用いる。

実務経験のある教員の教育内容

高田は整形外科で理学療法士として勤務経験があり、現在も継続して整形外科疾患の理学療法に携わっている。その経験を活かして実習を担当する。牧野はせき損センターにおいて理学療法士として23年勤務した経験を活かして基礎運動療法について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

1. 三人一組もしくは四人一組となり技術練習を行い、方法について確認、指導を行う。
2. 必要に応じてレポート課題を出して理解度を確認して、解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	神経筋促通手技① 神経筋促通手技の基本手技の理解と応用を実習する。	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。(60分)	授業で行った実技について練習しておくこと。(60分)
担当教員	牧野 均		
第2回	神経筋促通手技② 神経筋促通手技の基本手技の理解と応用を実習する。	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。(60分)	授業で行った実技について練習しておくこと。(60分)
担当教員	牧野 均		
第3回	頸髄損傷・脊髄損傷のリハビリテーション①-1 脊髄・頸髄損傷の急性期から慢性期までの運動療法を実習する。 ペーパーペイシエント(脊損頸損急性期)を用いて理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。骨関節理学療法学P187-203。(60分)	授業で行った実技について練習しておくこと。ペーパーペイシエントに関する課題のまとめを行う。(60分)
担当教員	牧野 均		

第4回	頸髄損傷・脊髄損傷のリハビリテーション①-2 脊髄・頸髄損傷の急性期から慢性期までの運動療法を実習する。 ペーパーペイシエント(脊損頸損急性期)を用いて理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。骨関節理学療法学P187-203。(60分)	授業で行った実技について練習しておくこと。ペーパーペイシエントに関する課題のまとめを行う。(60分)
担当教員	牧野 均		
第5回	頸髄損傷・脊髄損傷のリハビリテーション②-1 脊髄・頸髄損傷の日常生活動作中心に実習する。 ペーパーペイシエント(脊損頸損慢性期)を用いて理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。 まとめたペーパーペイシエント課題を報告する。発表はパワーポイントを用いるものとして、資料をA3サマリーとして配布して説明を行う。	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。骨関節理学療法学P187-203。(60分)	授業で行った実技について練習しておくこと。ペーパーペイシエントに関する課題のまとめを行う。ペーパーペイシエントに関する課題について、修正を行いサマリーを完成させる。(60分)
担当教員	牧野 均		
第6回	頸髄損傷・脊髄損傷のリハビリテーション②-2 脊髄・頸髄損傷の日常生活動作中心に実習する。 ペーパーペイシエント(脊損頸損慢性期)を用いて理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。 まとめたペーパーペイシエント課題を報告する。発表はパワーポイントを用いるものとして、資料をA3サマリーとして配布して説明を行う。	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。骨関節理学療法学P187-203。(60分)	授業で行った実技について練習しておくこと。ペーパーペイシエントに関する課題のまとめを行う。ペーパーペイシエントに関する課題について、修正を行いサマリーを完成させる。(60分)
担当教員	牧野 均		

第7回	腰痛のリハビリテーション① 腰痛症の運動療法を実習する。 ペーパーペイシエント(頸椎脊椎疾患)を用いて理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。骨関節理学療法学P237-252。(60分)	授業で行った実技について練習しておくこと。ペーパーペイシエントに関する課題のまとめを行う。(60分)
担当教員	牧野 均		
第8回	評価における病態、評価、統合と解釈、問題点抽出に対して学習する。	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。(60分)	授業で行った実技について練習しておくこと。学習したことに関する課題のまとめを行う。(60分)
担当教員	高田 雄一		
第9回	上肢運動器障害に対する理学療法① 肩関節を中心に実習する。ペーパーペイシエント(肩関節周囲炎)を用いて運動器疾患に対する一連の理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。骨関節理学療法学P71-81,254-275。運動器障害理学療法学テキストP217-235。(60分)	授業で行った実技について練習しておくこと。ペーパーペイシエントに関する課題のまとめを行う。(60分)
担当教員	高田 雄一		

第10回	上肢運動器障害に対する理学療法② 肩関節を中心に実習する。ペーパーペイシエント(肩関節周囲炎)を用いて運動器疾患に対する一連の理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。骨関節理学療法学P71-81,254-275。運動器障害理学療法学テキストP217-235。(60分)	授業で行った実技について練習しておくこと。ペーパーペイシエントに関する課題のまとめを行う。(60分)
担当教員	高田 雄一		
第11回	下肢運動器障害に対する理学療法①-1 股関節を中心に実習する。ペーパーペイシエント(大腿骨頸部骨折)を用いて運動器疾患に対する一連の理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。骨関節理学療法学P110-128。運動器障害理学療法学テキストP67-85, 147-185。(60分)	授業で行った実技について練習しておくこと。ペーパーペイシエントに関する課題のまとめを行う。(60分)
担当教員	高田 雄一		
第12回	下肢運動器障害に対する理学療法①-2 股関節を中心に実習する。ペーパーペイシエント(大腿骨頸部骨折)を用いて運動器疾患に対する一連の理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。骨関節理学療法学P110-128。運動器障害理学療法学テキストP67-85, 147-185。(60分)	授業で行った実技について練習しておくこと。ペーパーペイシエントに関する課題のまとめを行う。(60分)
担当教員	高田 雄一		

第13回	下肢運動器障害に対する理学療法②-1 膝関節、足関節の一部を中心に実習する。 ペーパーペイシエント(変形性膝関節症)を用いて運動器疾患に対する一連の理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。骨関節理学療法学P51-70,128-152。運動器障害理学療法学Ⅰ P73-116。運動器障害理学療法学テキストP37-65, 87-96。(60分)	授業で行った実技について練習しておくこと。ペーパーペイシエントに関する課題のまとめを行う。(60分)
担当教員	高田 雄一		
第14回	下肢運動器障害に対する理学療法②-2 膝関節、足関節の一部を中心に実習する。 ペーパーペイシエント(変形性膝関節症)を用いて運動器疾患に対する一連の理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。骨関節理学療法学P51-70,128-152。運動器障害理学療法学Ⅰ P73-116。運動器障害理学療法学テキストP37-65, 87-96。(60分)	授業で行った実技について練習しておくこと。ペーパーペイシエントに関する課題のまとめを行う。(60分)
担当教員	高田 雄一		
第15回	1-14回で行った演習内容についての知識、理学療法のまとめを行う。症例をまとめたサマリーを作成する。 まとめのテストを行う(60分)	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。(60分)	授業で行った実技について練習しておくこと。(60分)
担当教員	高田 雄一		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内の課題であるレポート、出席・授業参加態度等(30)まとめのテスト(70)として、高田、牧野がそれぞれ出題するテストをいずれも6割以上とすることで合格とする。
その他	0	なし
教科書		
運動器障害理学療法学テキスト/細田多穂/南江堂 臨床運動学/小林麻衣,小島 悟/中山書店 骨関節理学療法学第2版/吉尾雅春,福井勉,小柳磨毅/医学書院		
参考文献		

PNFマニュアル 改訂第3版 柳澤 健、乾 公美 南江堂
 脊髄損傷理学療法マニュアル 第2版 編集 岩崎洋 文光堂

履修条件・留意事項等

運動器疾患に関連する解剖学、運動学を復習して臨むこと。
 運動器障害理学療法学や整形外科学の内容について予習、復習をして臨むこと。
 授業へは積極的に参加すること。
 分からない事柄については、質問等によってその日のうちに解決すること。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		運動器障害理学療法学演習(2組)				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	高田 雄一、牧野 均						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシー「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」と特に関係のある科目である。また「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている。(知識・技能)」、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる。(関心・意欲・態度)」「科学的根拠に基づいた理学療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている(思考・判断・表現)」とも関係している。 整形外科学、基礎運動療法学、病態運動学、運動器障害理学療法学に関連して臨床実習Ⅳ・Ⅴの基礎となる。							
授業の概要							
運動器に対する運動療法の基本的な技術を学生相互の実習を通して習得するとともに、障害例に対する評価・問題点の把握、治療手技の選択、治療プログラムの立案を系統的に実施できる能力を養う。							
到達目標							

1. 運動器障害に対する理学療法評価を理解できる。
2. 運動器障害に対する評価結果から問題点抽出までの一連の過程を理解できる。
3. 運動器障害に対する治療プログラム立案について理解できる。
4. 適切な治療方法の選択、基本的な治療手技について理解できる。
5. 術後のリスク管理を理解できる。

授業の方法

1. ペーパーペイシェントを用いて運動器疾患に対する一連の理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。一連の過程をグループワークを基にまとめる。
2. パワーポイント、教科書を基に説明を行い、運動器疾患の評価、治療手技の実習を行う。

ICT活用

Google classroomを用いる。

実務経験のある教員の教育内容

高田は整形外科で理学療法士として勤務経験があり、現在も継続して整形外科疾患の理学療法に携わっている。その経験を活かして実習を担当する。牧野はせき損センターにおいて理学療法士として23年勤務した経験を活かして基礎運動療法について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

1. 三人一組または四人一組となり技術練習を行い、方法について確認、指導を行う。
2. 必要に応じてレポート課題を出して理解度を確認して、解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	神経筋促通手技① 神経筋促通手技の基本手技の理解と応用を実習する。	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。(60分)	授業で行った実技について練習しておくこと。(60分)
担当教員	牧野 均		
第2回	神経筋促通手技② 神経筋促通手技の基本手技の理解と応用を実習する。	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。(60分)	授業で行った実技について練習しておくこと。(60分)
担当教員	牧野 均		
第3回	頸髄損傷・脊髄損傷のリハビリテーション①-1 脊髄・頸髄損傷の急性期から慢性期までの運動療法を実習する。 ペーパーペイシエント(脊損頸損急性期)を用いて理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。骨関節理学療法学P187-203。(60分)	授業で行った実技について練習しておくこと。ペーパーペイシエントに関する課題のまとめを行う。(60分)
担当教員	牧野 均		

第4回	頸髄損傷・脊髄損傷のリハビリテーション①-2 脊髄・頸髄損傷の急性期から慢性期までの運動療法を実習する。 ペーパーペイシエント(脊損頸損急性期)を用いて理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。骨関節理学療法学P187-203。(60分)	授業で行った実技について練習しておくこと。ペーパーペイシエントに関する課題のまとめを行う。(60分)
担当教員	牧野 均		
第5回	頸髄損傷・脊髄損傷のリハビリテーション②-1 脊髄・頸髄損傷の日常生活動作中心に実習する。 ペーパーペイシエント(脊損頸損慢性期)を用いて理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。 まとめたペーパーペイシエント課題を報告する。発表はパワーポイントを用いるものとして、資料をA3サマリーとして配布して説明を行う。	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。骨関節理学療法学P187-203。(60分)	授業で行った実技について練習しておくこと。ペーパーペイシエントに関する課題のまとめを行う。ペーパーペイシエントに関する課題について、修正を行いサマリーを完成させる。(60分)
担当教員	牧野 均		
第6回	頸髄損傷・脊髄損傷のリハビリテーション②-2 脊髄・頸髄損傷の日常生活動作中心に実習する。 ペーパーペイシエント(脊損頸損慢性期)を用いて理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。 まとめたペーパーペイシエント課題を報告する。発表はパワーポイントを用いるものとして、資料をA3サマリーとして配布して説明を行う。	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。骨関節理学療法学P187-203。(60分)	授業で行った実技について練習しておくこと。ペーパーペイシエントに関する課題のまとめを行う。ペーパーペイシエントに関する課題について、修正を行いサマリーを完成させる。(60分)
担当教員	牧野 均		

第7回	下腰痛のリハビリテーション 腰痛症の運動療法を実習する。 ペーパーペイシエント(頸椎脊椎疾患)を用いて理学療法 評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。	授業内容に関連する教科書の 部分を確認しておくこと。骨関節 理学療法学P237-252。(60分)	授業で行った実技について練 習しておくこと。ペーパーペイシ エントに関する課題のまとめを行 う。(60分)
担当教員	牧野 均		
第8回	評価における病態、評価、統合と解釈、問題点抽出に対 して学習する。	授業内容に関連する教科書の 部分を確認しておくこと。(60分)	授業で行った実技について練 習しておくこと。学習した内容に 関する課題のまとめを行う。(60 分)
担当教員	高田 雄一		
第9回	上肢運動器障害に対する理学療法① 肩関節を中心に実習する。ペーパーペイシエント(肩関節 周囲炎)を用いて運動器疾患に対する一連の理学療法評 価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。	授業内容に関連する教科書の 部分を確認しておくこと。骨関節 理学療法学P71-81,254-275。 運動器障害理学療法学テキスト P217-235。(60分)	授業で行った実技について練 習しておくこと。ペーパーペイシ エントに関する課題のまとめを行 う。(60分)
担当教員	高田 雄一		

第10回	上肢運動器障害に対する理学療法② 肩関節を中心に実習する。ペーパーペイシエント(肩関節周囲炎)を用いて運動器疾患に対する一連の理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。骨関節理学療法学P71-81,254-275。運動器障害理学療法学テキストP217-235。(60分)	授業で行った実技について練習しておくこと。ペーパーペイシエントに関する課題のまとめを行う。(60分)
担当教員	高田 雄一		
第11回	下肢運動器障害に対する理学療法①-1 股関節を中心に実習する。ペーパーペイシエント(大腿骨頸部骨折)を用いて運動器疾患に対する一連の理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。骨関節理学療法学P110-128。運動器障害理学療法学テキストP67-85, 147-185。(60分)	授業で行った実技について練習しておくこと。ペーパーペイシエントに関する課題のまとめを行う。(60分)
担当教員	高田 雄一		
第12回	下肢運動器障害に対する理学療法①-2 股関節を中心に実習する。ペーパーペイシエント(大腿骨頸部骨折)を用いて運動器疾患に対する一連の理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。骨関節理学療法学P110-128。運動器障害理学療法学テキストP67-85, 147-185。(60分)	授業で行った実技について練習しておくこと。ペーパーペイシエントに関する課題のまとめを行う。(60分)
担当教員	高田 雄一		

第13回	下肢運動器障害に対する理学療法②-1 膝関節、足関節の一部を中心に実習する。 ペーパーペイシエント(変形性膝関節症)を用いて運動器疾患に対する一連の理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。骨関節理学療法学P51-70,128-152。運動器障害理学療法学Ⅰ P73-116。運動器障害理学療法学テキストP37-65, 87-96。(60分)	授業で行った実技について練習しておくこと。ペーパーペイシエントに関する課題のまとめを行う。(60分)
担当教員	高田 雄一		
第14回	下肢運動器障害に対する理学療法②-2 膝関節、足関節の一部を中心に実習する。 ペーパーペイシエント(変形性膝関節症)を用いて運動器疾患に対する一連の理学療法評価、問題点の抽出、治療プログラムを立案する。	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。骨関節理学療法学P51-70,128-152。運動器障害理学療法学Ⅰ P73-116。運動器障害理学療法学テキストP37-65, 87-96。(60分)	授業で行った実技について練習しておくこと。ペーパーペイシエントに関する課題のまとめを行う。(60分)
担当教員	高田 雄一		
第15回	1-14回で行った演習内容についての知識、理学療法のまとめを行う。症例をまとめたサマリーを作成する。 まとめのテストを行う(60分)	授業内容に関連する教科書の部分を確認しておくこと。(60分)	授業で行った実技について練習しておくこと。(60分)
担当教員	高田 雄一		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内の課題であるレポート、出席・授業参加態度等(30)まとめのテスト(70)として、高田、牧野がそれぞれ出題するテストをいずれも6割以上とすることで合格とする。
その他	0	なし
教科書		
運動器障害理学療法学テキスト/細田多穂/南江堂 臨床運動学/小林麻衣,小島 悟/羊土社 骨関節理学療法学第2版/吉尾雅春,福井勉,小柳磨毅/医学書院		
参考文献		

PNFマニュアル 改訂第3版 柳澤 健、乾 公美 南江堂
 脊髄損傷理学療法マニュアル 第2版 編集 岩崎洋 文光堂

履修条件・留意事項等

運動器疾患に関連する解剖学、運動学を復習して臨むこと。
 運動器障害理学療法学や整形外科学の内容について予習、復習をして臨むこと。
 授業へは積極的に参加すること。
 分からない事柄については、質問等によってその日のうちに解決すること。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		神経障害理学療法学Ⅰ				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	柴田 恵理子、松田 直樹						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーのうち、ディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に対応できる能力を身につけている(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。また、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる(関心・意欲・態度)」および「科学的根拠に基づいた理学療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている(関心・意欲・態度)」ことにも関連する。 神経障害を有する対象者への理学療法に必要な臨床推論能力の基礎を身につけるための科目である。臨床推論能力とは、考慮すべき病態、症状、治療、予後を理解したうえで、適切な理学療法介入の意思決定を行うことである。学生には十分な基礎知識に基づいた柔軟な思考能力を養うことが望まれる。 本科目は「理学療法評価学Ⅱ」「病態運動学」「脳神経内科学」「高次脳機能障害学」などに関連し、「神経障害理学療法学演習」「臨床実習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」の基礎となる。							
授業の概要							
神経障害理学療法法の総論を講義する。神経理学療法法の歴史的変遷を理解する。脳・脊髄の病態と症状を理解し、それらと運動・高次脳機能障害等との関連を理解する。ICFの概念に基づき、患者の正体を包括的に捉える手法を理解する。							
到達目標							

1. 対象となる神経疾患の病態・症状・治療・予後について理解できる
2. 神経理学療法法の基盤をなす神経系の構造・機能と理学療法との関連を理解できる
3. 神経理学療法法の基本的な評価, 介入戦略, 目標設定について理解できる
4. 神経理学療法における臨床推論の過程を理解できる

授業の方法

教科書およびスライドを用いる講義形式ですすめる。適宜、講義資料を配布する。
また、毎回確認テストを時間内に行う。

ICT活用

授業資料をGoogle Classroomにて公開し、復習に活用できるようにする。
必要に応じて、授業のスライドに説明音声吹き込んだ動画を Google Classroomにアップし、復習に活用できるようにする。

実務経験のある教員の教育内容

担当教員は、理学療法士としての臨床経験、臨床実習の指導の経験を活かし講義を担当する。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして確認テストを回収後、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	神経障害理学療法の基本1:感覚・運動システムの障害発生メカニズムについて、運動機能の観点から整理する	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
第2回	神経障害理学療法の基本2:感覚・運動システムの障害発生メカニズムについて、感覚機能の観点から整理する	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
第3回	脳卒中各論1:脳卒中理学療法の基礎および運動療法の考え方を学習する	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	松田 直樹		

第4回	脳卒中各論2:脳卒中による歩行障害に対する理学療法を学習する	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	松田 直樹		
第5回	脳卒中各論3:脳卒中による姿勢・バランス障害に対する理学療法を学習する	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	松田 直樹		
第6回	脳卒中各論4:脳卒中急性期の理学療法に関して, リスク管理を含めて学習する	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	松田 直樹		

第7回	脳卒中各論5:脳卒中回復期および生活期の理学療法に関して学習する	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	松田 直樹		
第8回	まとめテスト	授業で配布した資料や教科書をよく読み、復習しておくこと(90分)	全授業内容について復習すること(90分)
担当教員	松田 直樹		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・第1～7回講義の確認テスト(30%) ・第8回講義のまとめテスト(70%)
その他	0	
教科書		
神経局在診断, 第6版, Peter Duus(著), 花北順哉(訳), 文光堂 最新 理学療法学講座 中枢神経系理学療法学, 山口智史ら(著), 医歯薬出版株式会社 リハビリテーション医療に活かす画像のみかた, 水間正澄ら, 南江堂		
参考文献		
病気がみえるVol.7 脳神経, MEDIC MEDIA		
履修条件・留意事項等		

基本的な解剖生理学的用語は理解しているものとして授業をすすめることがある。よって学生は事前に教科書を熟読し、予習したうえで授業に望むことが望ましい。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		神経障害理学療法学Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	柴田 恵理子、松田 直樹						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーのうち、ディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に対応できる能力を身につけている(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。また、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる(関心・意欲・態度)」および「科学的根拠に基づいた理学療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている(関心・意欲・態度)」ことにも関連する。 神経障害を有する対象者への理学療法に必要な臨床推論能力の基礎を身につけるための科目である。臨床推論能力とは、考慮すべき病態、症状、治療、予後を理解したうえで、適切な理学療法介入の意思決定を行うことである。学生には十分な基礎知識に基づいた柔軟な思考能力を養うことが望まれる。 本科目は「理学療法評価学Ⅱ」「病態運動学」「脳神経内科学」「高次脳機能障害学」などに関連し、「神経障害理学療法学演習」「臨床実習Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」の基礎となる。							
授業の概要							
神経障害理学療法法の各論を講義する。脳血管障害、運動失調症、パーキンソン病、運動ニューロン疾患などに伴う機能障害および能力障害を理解し、それぞれに対する評価、運動療法、動作トレーニング、ゴール設定などについて学習する。							
到達目標							

1. 対象となる神経疾患の病態・症状・治療・予後について理解できる
2. 神経理学療法法の基盤をなす神経系の構造・機能と理学療法との関連を理解できる
3. 神経理学療法法の基本的な評価, 介入戦略, 目標設定について理解できる
4. 神経理学療法における臨床推論の過程を理解できる

授業の方法

教科書およびスライドを用いる講義形式ですすめる。適宜、講義資料を配布する。
また、毎回確認テストを時間内に行う。

ICT活用

授業資料をGoogle Classroomにて公開し、復習に活用できるようにする。
必要に応じて、授業のスライドに説明音声吹き込んだ動画を Google Classroomにアップし、復習に活用できるようにする。

実務経験のある教員の教育内容

担当教員は、理学療法士としての臨床経験、臨床実習の指導の経験を活かし講義を担当する。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして確認テストを回収後、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	神経難病1:神経難病における理学療法の基礎を学習する	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
第2回	神経難病2:神経難病における理学療法について基本戦略を学習する(ゲスト講師)	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
第3回	神経難病3:神経難病における理学療法について基本戦略を学習する(ゲスト講師)	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	柴田 恵理子		

第4回	脳卒中の理学療法1:ニューロリハビリテーションの理論および実践されている治療アプローチを学習する。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	柴田 恵理子		
第5回	脳卒中の理学療法2:神経障害理学療法に必要な基本動作、歩行分析を学習する。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	松田 直樹		
第6回	臨床推論1:神経障害理学療法における臨床推論の基礎および基本所見の取り方を学習する。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	柴田 恵理子		

第7回	臨床推論2: 模擬症例を通して臨床推論の実践を学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	松田 直樹		
第8回	まとめテスト	授業で配布した資料や教科書をよく読み、復習しておくこと(90分)	全授業内容を復習しておくこと(90分)
担当教員	松田 直樹		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・第1～7回講義の確認テスト(30%) ・第8回講義のまとめテスト(70%)
その他	0	
教科書		
神経局在診断, 第6版, Peter Duus(著), 花北順哉(訳), 文光堂 最新 理学療法学講座 中枢神経系理学療法学, 山口智史ら(著), 医歯薬出版株式会社 リハビリテーション医療に活かす画像のみかた, 水間正澄ら, 南江堂		
参考文献		
病気がみえるVol.7 脳神経, MEDIC MEDIA		
履修条件・留意事項等		

基本的な解剖生理学的用語は理解しているものとして授業をすすめることがある。よって学生は事前に教科書を熟読し、予習したうえで授業に望むことが望ましい。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		神経障害理学療法学演習(1組)				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	柴田 恵理子、松田 直樹						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーのうち、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている」と特に関係し、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている」、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる」、および「科学的根拠に基づいた理学療法の実践のために必要な問題探究力と問題解決思考を身につけている」ことも関連する科目である。 神経障害理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術・態度・探究心を身につけるための科目であり、神経障害を有する対象者への理学療法に必要な臨床推論能力の基礎を身につけるための科目である。学生には十分な基礎知識に基づいた柔軟な思考能力を養うことが望まれる。 本科目は「神経障害理学療法学Ⅰ・Ⅱ」「基礎運動療法学」などに関連し、「臨床実習Ⅳ・Ⅴ」の基礎となる。							
授業の概要							
講義で学んだ知識をもとに、神経障害における種々の理学療法評価、運動療法、動作練習の具体的な進め方を実習を通して学習する。							
到達目標							

1. 対象となる神経疾患の病態・症状・治療・予後について理解できる
2. 神経障害理学療法における運動療法を理解し、基本的な手技が実践できる
3. 神経障害理学療法の基本的な評価、介入戦略、目標設定について理解できる
4. 神経障害理学療法における臨床推論の過程を理解できる

授業の方法

講義で配布した資料やスライドおよび実技での説明に基づき、実技を行う。
適宜、グループワークや理解度の確認課題を行う。

ICT活用

学生・教員の相互のコミュニケーションや質疑応答などにGoogle classroomを利用する。

実務経験のある教員の教育内容

科目担当者は病院で理学療法士としての実務経験を有している。

課題に対するフィードバックの方法

授業内での質疑応答、確認課題を実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	脳卒中の理学療法1:基本所見の取り方、理学療法評価および動作観察を学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	柴田 恵理子		
第2回	脳卒中の理学療法2:基本所見の取り方、理学療法評価および動作観察を学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	松田 直樹		
第3回	脳卒中の理学療法3:実際の症例に対する理学療法評価および動作観察の実践について学ぶ。(ゲスト講師)	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	柴田 恵理子		

第4回	脳卒中の理学療法4:実際の症例に対する理学療法評価および動作観察の実践について学ぶ。(ゲスト講師)	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	松田 直樹		
第5回	脳卒中の理学療法5:神経障害理学療法における統合と解釈、問題点の抽出、目標設定を学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	柴田 恵理子		
第6回	脳卒中の理学療法6:神経障害理学療法における、治療アプローチの立案・再評価による治療効果の検証を学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	松田 直樹		

第7回	脳卒中の理学療法7:長・短下肢装具を用いた歩行練習の技術について学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	松田 直樹		
第8回	脳卒中の理学療法8:長・短下肢装具を用いた歩行練習の技術について学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	松田 直樹		
第9回	脳卒中の理学療法9:電気刺激を用いた歩行練習の技術について学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	柴田 恵理子		

第10回	脳卒中の理学療法10:電気刺激を用いた歩行練習の技術について学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	柴田 恵理子		
第11回	症例検討1:模擬症例を通して臨床推論の実践を学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	柴田 恵理子		
第12回	症例検討2:模擬症例を通して臨床推論の実践を学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	松田 直樹		

第13回	症例検討3: 模擬症例を通して臨床推論の実践を学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	柴田 恵理子		
第14回	症例検討4: 模擬症例を通して臨床推論の実践を学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	松田 直樹		
第15回	まとめ課題: これまでの内容について理解度確認の課題を行う。	授業で配布した資料や教科書をよく読み、復習しておくこと(90分)	全授業内容について復習すること(45分)
担当教員	柴田 恵理子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・各演習の課題(30%) ・まとめ課題(70%)
その他	0	
教科書		
神経局在診断, 第6版, Peter Duus(著), 花北順哉(訳), 文光堂 最新 理学療法学講座 中枢神経系理学療法学, 山口智史ら(著), 医歯薬出版株式会社 リハビリテーション医療に活かす画像のみかた, 水間正澄ら, 南江堂		
参考文献		

病気がみえるVol.7 脳神経, MEDIC MEDIA

履修条件・留意事項等

予習・復習を怠らず、主体的かつ積極的な授業への参加を望みます

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		神経障害理学療法学演習(2組)				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	柴田 恵理子、松田 直樹						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーのうち、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている」とことと特に関係し、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている」、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる」、および「科学的根拠に基づいた理学療法の実践のために必要な問題探究力と問題解決思考を身につけている」ことも関連する科目である。 神経障害理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術・態度・探究心を身につけるための科目であり、神経障害を有する対象者への理学療法に必要な臨床推論能力の基礎を身につけるための科目である。学生には十分な基礎知識に基づいた柔軟な思考能力を養うことが望まれる。 本科目は「神経障害理学療法学Ⅰ・Ⅱ」「基礎運動療法学」などに関連し、「臨床実習Ⅳ・Ⅴ」の基礎となる。							
授業の概要							
講義で学んだ知識をもとに、神経障害における種々の理学療法評価、運動療法、動作練習の具体的な進め方を実習を通して学習する。							
到達目標							

1. 対象となる神経疾患の病態・症状・治療・予後について理解できる
2. 神経障害理学療法における運動療法を理解し、基本的な手技が実践できる
3. 神経障害理学療法の基本的な評価、介入戦略、目標設定について理解できる
4. 神経障害理学療法における臨床推論の過程を理解できる

授業の方法

講義で配布した資料やスライドおよび実技での説明に基づき、実技を行う。
適宜、グループワークや理解度の確認課題を行う。

ICT活用

学生・教員の相互のコミュニケーションや質疑応答などにGoogle classroomを利用する。

実務経験のある教員の教育内容

科目担当者は病院で理学療法士としての実務経験を有している。

課題に対するフィードバックの方法

授業内での質疑応答、確認課題を実施する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	脳卒中の理学療法1:基本所見の取り方、理学療法評価および動作観察を学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	柴田 恵理子		
第2回	脳卒中の理学療法2:基本所見の取り方、理学療法評価および動作観察を学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	松田 直樹		
第3回	脳卒中の理学療法3:実際の症例に対する理学療法評価および動作観察の実践について学ぶ。(ゲスト講師)	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	柴田 恵理子		

第4回	脳卒中の理学療法4:実際の症例に対する理学療法評価および動作観察の実践について学ぶ。(ゲスト講師)	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	松田 直樹		
第5回	脳卒中の理学療法5:神経障害理学療法における統合と解釈、問題点の抽出、目標設定を学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	柴田 恵理子		
第6回	脳卒中の理学療法6:神経障害理学療法における、治療アプローチの立案・再評価による治療効果の検証を学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	松田 直樹		

第7回	脳卒中の理学療法7:長・短下肢装具を用いた歩行練習の技術について学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	松田 直樹		
第8回	脳卒中の理学療法8:長・短下肢装具を用いた歩行練習の技術について学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	松田 直樹		
第9回	脳卒中の理学療法9:電気刺激を用いた歩行練習の技術について学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	柴田 恵理子		

第10回	脳卒中の理学療法10:電気刺激を用いた歩行練習の技術について学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	柴田 恵理子		
第11回	症例検討1:模擬症例を通して臨床推論の実践を学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	柴田 恵理子		
第12回	症例検討2:模擬症例を通して臨床推論の実践を学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	松田 直樹		

第13回	症例検討3: 模擬症例を通して臨床推論の実践を学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	柴田 恵理子		
第14回	症例検討4: 模擬症例を通して臨床推論の実践を学ぶ。	教科書、参考文献の関連する部分を読んでおくこと(90分)	授業内容を復習をしておくこと(45分)
担当教員	松田 直樹		
第15回	まとめ課題: これまでの内容について理解度確認の課題を行う。	授業で配布した資料や教科書をよく読み、復習しておくこと(90分)	全授業内容について復習すること(45分)
担当教員	柴田 恵理子		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・各演習の課題(30%) ・まとめ課題(70%)
その他	0	
教科書		
神経局在診断, 第6版, Peter Duus(著), 花北順哉(訳), 文光堂 最新 理学療法学講座 中枢神経系理学療法学, 山口智史ら(著), 医歯薬出版株式会社 リハビリテーション医療に活かす画像のみかた, 水間正澄ら, 南江堂		
参考文献		

病気がみえるVol.7 脳神経, MEDIC MEDIA

履修条件・留意事項等

予習・復習を怠らず、主体的かつ積極的な授業への参加を望みます

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		内部障害理学療法学				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	2
担当教員	佐藤 明紀、南部 路治						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「高度に専門的かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」に対応する科目である。 本科目では、内科領域の疾患に対する理学療法について学ぶ。 特に内科学や老年医学などと関連し、他領域の理学療法とも併せて実施される分野である。 本講義で学んだ内容に基づき、「内科学」「終末期医療」「老年医学」との関連を理解するとともに、「内部障害理学療法学実習」の基礎を形成する。							

- ・内部障害疾患の病態を理解できる。
- ・主な疾患に対する評価指標および理学療法における治療を理解できる。
- ・内部障害リハビリテーションチームにおける理学療法の役割を説明できる。

授業の方法

教科書および配布資料を基に講義形式で授業を行う。
適宜、PowerPointを用いて説明する。
また、毎回の講義の初めに確認小テストを実施する。

ICT活用

適宜、Google Classroomを活用し、学習の補助教材の配布や学習到達度の確認を行う。

実務経験のある教員の教育内容

佐藤、南部は理学療法士として医療機関での勤務および臨床研究を継続してきた経験を活かし、本講義を担当する。

課題に対するフィードバックの方法

講義内で実施する確認小テストについて適宜解説を行い、フィードバックを行う。また、授業内容に関する質問についても随時受け付ける。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション、イントロダクション 内部障害に対するリハビリテーションの必要性および理学療法の役割について理解する。	教科書の当該部分および事前配布資料を読んでおくこと。(90分)	教科書, 講義資料を見直し理解を深めること。(90分)
担当教員	南部 路治		
第2回	循環器疾患の理学療法1 循環器系の解剖と生理について学ぶ。	教科書の当該部分および事前配布資料を読んでおくこと。(90分)	教科書, 講義資料を見直し理解を深めること。(90分)
担当教員	南部 路治		
第3回	循環器疾患の理学療法2 虚血性心疾患・心不全・末梢動脈疾患の病態を理解し、治療プログラムについて学ぶ。	教科書の当該部分および事前配布資料を読んでおくこと。(90分)	教科書, 講義資料を見直し理解を深めること。(90分)
担当教員	南部 路治		

第4回	循環器疾患の理学療法3 理学療法治療に必要な循環器機能の評価を学ぶ。	教科書の当該部分および事前配布資料を読んでおくこと。(90分)	教科書, 講義資料を見直し理解を深めること。(90分)
担当教員	南部 路治		
第5回	循環器疾患の理学療法4 循環器疾患の病期別理学療法、疾病管理と再発予防について学ぶ。	教科書の当該部分および事前配布資料を読んでおくこと。(90分)	教科書, 講義資料を見直し理解を深めること。(90分)
担当教員	南部 路治		
第6回	腎疾患の理学療法5 腎疾患の病態、評価と理学療法について学ぶ。	教科書の当該部分および事前配布資料を読んでおくこと。(90分)	教科書, 講義資料を見直し理解を深めること。(90分)
担当教員	南部 路治		

第7回	がんのリハビリテーション1 がんの病態の理解と評価方法、理学療法における治療について学ぶ。	教科書の当該部分および事前配布資料を読んでおくこと。(90分)	教科書、講義資料を見直し理解を深めること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第8回	がんのリハビリテーション2 がんのリハビリテーションの目的、適応および具体的な介入方法について学ぶ。	教科書の当該部分および事前配布資料を読んでおくこと。(90分)	教科書、講義資料を見直し理解を深めること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第9回	内分泌代謝疾患・腎疾患・肝疾患の理学療法1 内分泌・代謝系の解剖、生理および代謝機構について学ぶ。	教科書の当該部分および事前配布資料を読んでおくこと。(90分)	教科書、講義資料を見直し理解を深めること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		

第10回	内分泌代謝疾患・腎疾患・肝疾患の理学療法2 肥満、メタボリックシンドロームなどの内分泌・代謝疾患の病態について学ぶ。	教科書の当該部分および事前配布資料を読んでおくこと。(90分)	教科書、講義資料を見直し理解を深めること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第11回	内分泌代謝疾患・腎疾患・肝疾患の理学療法3 内分泌代謝疾患、腎疾患および肝疾患に対する理学療法とリスク管理について学ぶ。	教科書の当該部分および事前配布資料を読んでおくこと。(90分)	教科書、講義資料を見直し理解を深めること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第12回	呼吸器疾患の理学療法1 呼吸器疾患の病態について学ぶ。	教科書の当該部分および事前配布資料を読んでおくこと。(90分)	教科書、講義資料を見直し理解を深めること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		

第13回	呼吸器疾患の理学療法2 呼吸器疾患における検査データの読み方について学ぶ。	教科書の当該部分および事前配布資料を読んでおくこと。(90分)	教科書, 講義資料を見直し理解を深めること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第14回	呼吸器疾患の理学療法3 呼吸器疾患の評価および理学療法について学ぶ。	教科書の当該部分および事前配布資料を読んでおくこと。(90分)	教科書, 講義資料を見直し理解を深めること。(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第15回	内部障害理学療法学のまとめおよび確認試験 これまでに学んだ内容について整理・確認を行う。	これまでの授業内容について復習しておくこと。(90分)	学習理解が不十分であった項目を確認し、復習し理解を深めること。(90分)
担当教員	南部 路治		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業態度・出席状況 15% 最終回の授業で実施するまとめおよび理解度確認試験 85%
その他	0	なし
教科書		
内部障害理学療法学 / 高橋哲也ほか / 医学書院		
参考文献		

がんのリハビリテーション / 辻 / 医学書院
生涯スポーツと運動の科学 / 森谷潔 / 市村出版

履修条件・留意事項等

解剖学、生理学、運動生理学、内科学および病理学の知識を基礎とするため、履修前に十分に復習しておくこと。

備考欄

なし

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		内部障害理学療法学演習(1組)				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	佐藤 明紀、南部 路治						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「高度に専門的かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」に対応する科目である。 理学療法を実施するための基本的な知識・技術を習得するとともに、課題を論理的思考や判断に基づいて探究する能力を身につけることを目的とする。 内部障害理学療法学で学んだ内容に基づき演習を行う。 本科目の理解には「基礎運動学」「内部障害理学療法学」等の基礎的知識が必要である。							
授業の概要							
内部障害理学療法学の講義で学んだ知識を基に、内部障害を有する患者の評価方法および科学的根拠に基づいた運動療法プログラムの作成方法について、演習を通して学習する。							
到達目標							

- ・リンパ浮腫に対する検査および治療の流れを説明できる。
- ・呼吸機能の評価および治療の流れを理解し、適切な運動療法プログラムを作成できる。
- ・循環器の評価を実施し、得られたデータを解釈できる。
- ・運動耐容能を評価し、適切な運動療法プログラムを作成できる。
- ・一次救急処置の理解を深め、適切に対応できる。

授業の方法

教科書および配布資料を使用し、演習を行う。
 演習終了後にはレポートを提出する。
 演習中は他の学生の迷惑にならないよう配慮するとともに、疑問点があればその場で質問し、理解を深めること。
 また、生体データを測定する演習では、それぞれの測定結果についてグループディスカッションを行う。

ICT活用

適宜、Google Classroomを活用し、授業資料や補助教材を配布する。

実務経験のある教員の教育内容

佐藤、南部は理学療法士としての実務経験を踏まえ、臨床に即した情報を加えながら演習を行う。

課題に対するフィードバックの方法

実習で測定されたデータを基にレポートを作成し、得られたデータの意味や数値の平均・分布について、教員からフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション リンパ浮腫の原理・評価・治療を学ぶ。	なし	課題内容をノートもしくは課題資料にまとめること(30分)
担当教員	佐藤 明紀		
第2回	リンパ浮腫(医療徒手リンパドレナージ)の治療について学ぶ	なし	課題内容をノートもしくは課題資料にまとめること(30分)
担当教員	佐藤 明紀		
第3回	リンパ浮腫(圧迫療法、運動療法)の治療について学ぶ	なし	課題内容をノートもしくは課題資料にまとめること(30分)
担当教員	佐藤 明紀		

第4回	呼吸理学療法評価－バイタルサインのチェック、触診について学ぶ。	なし	課題内容をノートもしくは課題資料にまとめること(30分)
担当教員	佐藤 明紀		
第5回	呼吸理学療法評価－聴診・打診などについて学ぶ。	なし	課題内容をノートもしくは課題資料にまとめること(30分)
担当教員	佐藤 明紀		
第6回	呼吸理学療法評価－スパイロメトリー等機器を用いて治療方法を演習する。	なし	課題内容をノートもしくは課題資料にまとめること(30分)
担当教員	佐藤 明紀		

第7回	呼吸理学療法 胸部に対する徒手のテクニック・呼吸器疾患に対する運動療法などについて学ぶ。	なし	課題内容をノートもしくは課題資料にまとめること(30分)
担当教員	佐藤 明紀		
第8回	リスク管理に対する評価と治療について学ぶ	なし	課題内容をノートもしくは課題資料にまとめること(30分)
担当教員	佐藤 明紀		
第9回	循環器評価:血圧・ABIについて学ぶ。	なし	課題内容をノートもしくは課題資料にまとめること(30分)
担当教員	南部 路治		

第10回	循環器評価:心電図について学ぶ。	なし	課題内容をノートもしくは課題資料にまとめること(30分)
担当教員	南部 路治		
第11回	運動耐容能評価:運動負荷試験(フィールド・テスト)について学ぶ。	なし	課題内容をノートもしくは課題資料にまとめること(30分)
担当教員	南部 路治		
第12回	運動耐容能評価:6分間歩行負荷試験について学ぶ。	なし	課題内容をノートもしくは課題資料にまとめること(30分)
担当教員	南部 路治		

第13回	運動耐容能評価:心肺運動負荷試験(CPX)について、CPX実施・意義について学ぶ。	なし	課題内容をノートもしくは課題資料にまとめること(30分)
担当教員	南部 路治		
第14回	運動耐容能評価:心肺運動負荷試験で得られたデータから運動処方箋作成について学ぶ。	なし	課題内容をノートもしくは課題資料にまとめること(30分)
担当教員	南部 路治		
第15回	一次救命処置:救命救急の現場において必要とされる一次救命処置(BLS)の基本的な知識と技術について学び、心肺蘇生法(CPR)やAEDの適切な使用方法を学ぶ。	なし	課題内容についてノートもしくは課題資料にまとめること(30分)
担当教員	南部 路治		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各演習後の提出課題(80%) 出席状況および授業態度(20%)
その他	0	なし
教科書		
内部障害理学療法学 / 高橋哲也 / 医学書院		
参考文献		

生涯スポーツと運動の科学 / 森谷潔 / 市村出版

履修条件・留意事項等

ケーシーの着用を必須とする。Tシャツ、短パン等の薄着になれる服装を準備すること。運動靴が必要となる回もある。各回の準備物については適宜掲示する。
なお、授業の進行状況により、授業の順序を変更する場合がある。

備考欄

なし

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		内部障害理学療法学演習(2組)				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	佐藤 明紀、南部 路治						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「高度に専門的かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」に対応する科目である。 理学療法を実施するための基本的な知識・技術を習得するとともに、課題を論理的思考や判断に基づいて探究する能力を身につけることを目的とする。 内部障害理学療法学で学んだ内容に基づき演習を行う。 本科目の理解には「基礎運動学」「内部障害理学療法学」等の基礎的知識が必要である。							
授業の概要							
内部障害理学療法学の講義で学んだ知識を基に、内部障害を有する患者の評価方法および科学的根拠に基づいた運動療法プログラムの作成方法について、演習を通して学習する。							
到達目標							

- ・リンパ浮腫に対する検査および治療の流れを説明できる。
- ・呼吸機能の評価および治療の流れを理解し、適切な運動療法プログラムを作成できる。
- ・循環器の評価を実施し、得られたデータを解釈できる。
- ・運動耐容能を評価し、適切な運動療法プログラムを作成できる。
- ・一次救急処置の理解を深め、適切に対応できる。

授業の方法

教科書および配布資料を使用し、演習を行う。
 演習終了後にはレポートを提出する。
 演習中は他の学生の迷惑にならないよう配慮するとともに、疑問点があればその場で質問し、理解を深めること。
 また、生体データを測定する演習では、それぞれの測定結果についてグループディスカッションを行う。

ICT活用

適宜、Google Classroomを活用し、授業資料や補助教材を配布する。

実務経験のある教員の教育内容

佐藤、南部は理学療法士としての実務経験を踏まえ、臨床に即した情報を加えながら演習を行う。

課題に対するフィードバックの方法

実習で測定されたデータを基にレポートを作成し、得られたデータの意味や数値の平均・分布について、教員からフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション リンパ浮腫の原理・評価・治療を学ぶ。	なし	課題内容をノートもしくは課題資料にまとめること(30分)
担当教員	佐藤 明紀		
第2回	リンパ浮腫(医療徒手リンパドレナージ)の治療について学ぶ	なし	課題内容をノートもしくは課題資料にまとめること(30分)
担当教員	佐藤 明紀		
第3回	リンパ浮腫(圧迫療法、運動療法)の治療について学ぶ	なし	課題内容をノートもしくは課題資料にまとめること(30分)
担当教員	佐藤 明紀		

第4回	呼吸理学療法評価－バイタルサインのチェック、触診について学ぶ。	なし	課題内容をノートもしくは課題資料にまとめること(30分)
担当教員	佐藤 明紀		
第5回	呼吸理学療法評価－聴診・打診などについて学ぶ。	なし	課題内容をノートもしくは課題資料にまとめること(30分)
担当教員	佐藤 明紀		
第6回	呼吸理学療法評価－スパイロメトリー等機器を用いて治療方法を演習する。	なし	課題内容をノートもしくは課題資料にまとめること(30分)
担当教員	佐藤 明紀		

第7回	呼吸理学療法 胸部に対する徒手のテクニック・呼吸器疾患に対する運動療法などについて学ぶ。	なし	課題内容をノートもしくは課題資料にまとめること(30分)
担当教員	佐藤 明紀		
第8回	リスク管理に対する評価と治療について学ぶ	なし	課題内容をノートもしくは課題資料にまとめること(30分)
担当教員	佐藤 明紀		
第9回	循環器評価:血圧・ABIについて学ぶ。	なし	課題内容をノートもしくは課題資料にまとめること(30分)
担当教員	南部 路治		

第10回	循環器評価:心電図について学ぶ。	なし	課題内容をノートもしくは課題資料にまとめること(30分)
担当教員	南部 路治		
第11回	運動耐容能評価:運動負荷試験(フィールド・テスト)について学ぶ。	なし	課題内容をノートもしくは課題資料にまとめること(30分)
担当教員	南部 路治		
第12回	運動耐容能評価:6分間歩行負荷試験について学ぶ。	なし	課題内容をノートもしくは課題資料にまとめること(30分)
担当教員	南部 路治		

第13回	運動耐容能評価:心肺運動負荷試験(CPX)について、CPX実施・意義について学ぶ。	なし	課題内容をノートもしくは課題資料にまとめること(30分)
担当教員	南部 路治		
第14回	運動耐容能評価:心肺運動負荷試験で得られたデータから運動処方箋作成について学ぶ。	なし	課題内容をノートもしくは課題資料にまとめること(30分)
担当教員	南部 路治		
第15回	一次救命処置:救命救急の現場において必要とされる一次救命処置(BLS)の基本的な知識と技術について学び、心肺蘇生法(CPR)やAEDの適切な使用方法を学ぶ。	なし	課題内容をノートもしくは課題資料にまとめること(30分)
担当教員	南部 路治		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	各演習後の提出課題(80%) 出席状況および授業態度(20%)
その他	0	なし
教科書		
内部障害理学療法学 / 高橋哲也 / 医学書院		
参考文献		

生涯スポーツと運動の科学 / 森谷潔 / 市村出版

履修条件・留意事項等

ケーシーの着用を必須とする。Tシャツ、短パン等の薄着になれる服装を準備すること。運動靴が必要となる回もある。各回の準備物については適宜掲示する。
なお、授業の進行状況により、授業の順序を変更する場合がある。

備考欄

なし

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		子どもの理学療法学Ⅰ				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	横井 裕一郎						
授業の位置づけ							
理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけるための科目である。「人間発達学」「小児科学」「子どもの理学療法学Ⅱ」と関連し、「子どもの理学療法学演習」の基礎となる。カリキュラムマップで示している人間発達学、小児科学、神経内科学、整形外科学、理学療法評価学などを基礎とした専門かつ応用的な講義である。本講義はディプロマポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」に強く関連し、また「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる(関心・意欲・態度)」と、「科学的根拠に基づいた理学療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている(思考・判断・表現)」に関連した科目である。							
授業の概要							
この科目では正常発達の理解に加えて早産低出生児、脳性まひや重症心身障がいのある児・者を中心とした障がい特徴と理学療法評価・治療について学習する。神経障害に起因する運動障害の違いを学習し、それに対する運動療法に関する理論的背景を理解する。							
到達目標							

- 1.正常運動発達と反射の関係を理解し、障がいのある子どもの理学療法へ応用できる
- 2.脳性まひの児・者の発達・神経障害・運動器障害、知覚運動障害と理学療法について理解できる
- 3.ハイリスク新生児の特徴と治療を理解して、その後の発達や障害を予想した理学療法を考えることができる
- 4.発達障害に対するクリニカルリーズニング(理学療法評価、治療、目標設定など)を理解できる
- 5.障がいを持つ子どもと成人を取り巻く社会背景について理解できる

授業の方法

教科書、パワーポイント、動画、配付資料を使用して講義形式ですすめる。
講義中に課題レポートを作成する。

ICT活用

講義資料、障がいのある子どもの動画をgoogle classroomを使用して提示する。

実務経験のある教員の教育内容

小児理学療法の実務経験があり、現在でも児童発達支援センター等にて小児理学療法を行い、35年経験している。この経験を生かして新生児・乳幼児から大人まで成長した人の障がいに対する理学療法について講義する。障がい種類は発達の遅れや発達性協調運動障害から神経障害である脳性麻痺まで幅広く講義する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回、提出する課題レポートをチェックして、必要に応じて返却時にコメントを記載してフィードバックする

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 発達障害・肢体不自由児療育総論、正常運動発達と異常運動発達① 発達障害理学療法学の対象となる疾患・概念・歴史、Frame work、発達に関する概念、生後6ヶ月までの運動発達と原始・姿勢反射について学習する。	教科書①第1～4章、事前配付資料を学習する。必要であれば資料を印刷すること(90分)	配付資料の見直し(90分)
担当教員			
第2回	正常運動発達と異常運動発達② 発達に関する概念、生後6ヶ月以降の運動発達と原始・姿勢反射について学習する 正常児と障がいを持つ子どもの発達の違いについて学習する	教科書①第1～4章、事前配付資料を学習する。必要であれば資料を印刷すること(90分)	配付資料の見直し(90分)
担当教員			
第3回	脳性まひの総論、評価と理学療法① 脳性まひの原因、定義、筋の性状による分類 脳性まひの運動発達経過(神経系の問題と運動器系の問題)、痙直型四肢麻痺の特徴を学習する。	教科書①第6章、事前配付資料を学習する。必要であれば資料を印刷すること(90分)	配付資料の見直し(90分)
担当教員			

第4回	脳性まひの評価と理学療法② 痙直型両麻痺の特徴・評価・理学療法を学習する 脳室周囲白質軟化症による脳性まひの理学療法を学習する。さらに多く見られる筋骨格系の問題と装具療法、筋緊張を減弱する手術療法、薬物治療について学習する。	教科書①第7～9章、事前配付資料を学習する。必要であれば資料を印刷すること。教科書②2～4章を読んで、動画を確認する(90分)	配付資料の見直し(90分)
担当教員			
第5回	脳性まひの評価と理学療法③ アトーゼ型・失調型の特徴・評価・理学療法、成人期の問題、重症心身障害、姿勢ポジショニング、理学療法の必要性について学習する。	教科書①第10章、事前配付資料を学習する。必要であれば資料を印刷すること。教科書②第5～7章を読んで動画を確認する(90分)	配付資料の見直し(90分)
担当教員			
第6回	ハイリスク児の特徴と理学療法 NICUにおける児の認知・運動特性と評価・理学療法、呼吸・嚥下の問題、ポジショニング、カンガルーケアなどを利用した母子愛着形成、退院後の子育て指導などについて学習する	教科書①第6章と15章、事前配付資料を学習する。必要であれば資料を印刷すること。教科書②の第1章を読んで、動画を確認する(90分)。	配付資料の見直し(90分)
担当教員			

第7回	障がいのある児・者の臨床リハビリテーションと評価、運動療法 (ICFに基づく障害構造の理解) GMFM, GMFCS, PEDI, SMTCP、WeeFIMなどの評価バッテリーの意義、評価・治療の具体的進め方、制限因子、目標、プログラムの立案について学習する。さらに運動療法の基盤である運動学習理論、ダイナミックシステムズ理論、筋緊張の解釈、機能的理学療法、ボイタ法等について学習する	教科書①第2章、第6章、事前配付資料を学習する。必要であれば資料を印刷すること。(90分)	配付資料の見直し(90分)
担当教員			
第8回	到達度の確認	1回目から7回目までの講義を復習する(300分)	確認テストの見直し(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	72	到達度の確認テストの点数、講義の参加態度(100点満点テスト×0.72=72点とする) 72点+レポート28点
その他	28	毎回の課題レポート(7回×4点)
教科書		
①小児理学療法学テキスト改訂第3版／細田多穂監修／南江堂 ②イラストでわかる小児理学療法学演習／上杉雅之監修／医歯薬出版(後期の演習でも使用)		
参考文献		
小児リハ 評価ガイド／楠本泰士 編／メディカルビュー 脳性まひ児の24時間姿勢ケア／今川忠男監訳／三輪書店 人間発達学／上杉雅之／医歯薬出版		
履修条件・留意事項等		

遅刻3回を1回の欠席として計算する。
毎回、レポートを作成して提出すること。それを点数化する。
休んだ場合は、レポート点数は0点とする。

備考欄

毎回、教科書を使用した出席課題レポートを作成していただきます。こちらも成績評価に含みます。
講義資料は事前にgoogle classroomにて提示します。

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		子どもの理学療法学Ⅱ				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	横井 裕一郎						
授業の位置づけ							
理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけるための科目である。「人間発達学」「小児科学」「子どもの理学療法学Ⅰ」と関連し、「子どもの理学療法学演習」の基礎となる。カリキュラムマップで示している人間発達学、小児科学、神経内科学、整形外科学、理学療法評価学などを基礎とし、子どもの理学療法学Ⅰとのつながりのある専門かつ応用的な講義である。本講義はディプロマポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」に強く関連し、また「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる(関心・意欲・態度)」と、「科学的根拠に基づいた理学療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている(思考・判断・表現)」に関連した科目である。							
授業の概要							
この科目ではダウン症や精神発達遅滞などの運動発達が遅れる子ども、発達性協調運動障害、自閉症スペクトラムの障がい特徴と理学療法評価・治療について学習する。また筋ジストロフィー、脊髄性筋萎縮症の遺伝子疾患についても学習する。障がい児・者を取り巻く社会福祉教育環境、北海道の療育の歴史を学習する。							
到達目標							

1. 発達性協調運動障害の特徴と評価、理学療法について理解できる
2. 運動発達遅滞の子どもの身体と認知面の問題を理解し理学療法について理解できる
3. 小児整形疾患の特徴を理解し、理学療法について理解できる
4. 先天性筋ジストロフィー、脊髄性筋萎縮症などの遺伝形式、運動特徴、評価、理学療法を理解できる
5. 重症心身障害のある人の運動器、呼吸器等の問題を理解して、評価、理学療法を考えることができる。

授業の方法

教科書、パワーポイント、動画、配付資料を使用して講義形式ですすめる。
講義中に課題レポートを作成する。

ICT活用

講義資料、障がいのある子どもの動画をgoogle classroomを使用して提示する。

実務経験のある教員の教育内容

小児理学療法の実務経験があり、現在でも児童発達支援センター等にて小児理学療法を行い、35年経験している。この経験を生かして発達の遅れや発達性協調運動障害など幅広く講義する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回、提出する課題レポートをチェックして、必要に応じて返却時にコメントを記載してフィードバックする

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	発達性協調運動障害、精神運動発達遅滞児の特徴と理学療法① 近年増加傾向である運動の協調性が問題となる自閉症スペクトラム障害、注意欠陥多動性障害、不器用児などの発達の特徴、ダウン症候群をはじめとする筋緊張低下を呈する精神運動発達遅滞児の特徴と理学療法について学習する。	教科書①第12章を読んでおく。 教科書②第8・12章を読んで、動画を確認する(90分)。	配付資料の見直し(90分)
担当教員			
第2回	発達性協調運動障害、精神運動発達遅滞児の特徴と理学療法② + 子どものスポーツ障害の特徴 運動発達遅滞児の理学療法を学習し、子どもの成長過程によく見られるスポーツ障害の原因と特徴を理解する。	参考書の子どものスポーツ障害とリハビリテーションを読んでおく(90分)	配付資料の見直し(90分)
担当教員			
第3回	小児整形疾患の特徴と理学療法 二分脊椎症、骨形成不全症、軟骨異栄養症、ペルテス病などの特徴・評価・手術療法・理学療法について学習する	教科書①第11章を読んでおく。 教科書②の第10章を読んで動画を確認する(90分)	配付資料の見直し(90分)
担当教員			

第4回	神経・筋疾患、脳炎後遺症の特徴と理学療法 先天性筋ジストロフィー、脊髄性筋萎縮症などの遺伝形式、運動特徴、評価、理学療法について学習する。また小児期に見られる脳炎後遺症の特徴について学習する。	教科書①第13章を読んでおく。 教科書②第9章を読んで動画を 確認する(90分)	配付資料の見直し(90分)
担当教員			
第5回	重症心身障害児・者の特徴・評価と理学療法① 運動機能評価、姿勢運動の特徴、摂食、嚥下、呼吸機能の問題と評価・理学療法を学習する 24時間姿勢ケアをはじめとするポジショニングによる身体への影響について学習する	教科書①第14～15章、理学療法評価学の呼吸機能検査を読んでおく(90分)	配付資料の見直し(90分)
担当教員			
第6回	重症心身障害児・者の特徴・評価と理学療法② 運動機能評価、姿勢運動の特徴、摂食、嚥下、呼吸機能の問題と評価・理学療法を学習する。在宅で生活している医療的ケア児のフォロー体制、理学療法的視点について学習する。	教科書①第14～15章、理学療法評価学の呼吸機能検査を読んでおく(90分)	配付資料の見直し(90分)
担当教員			

第7回	障がいのある児・者に対する評価・運動療法 近年、臨床でよく使用されている評価について学習する。 ボバース概念について歴史的背景、理論背景、治療例から学習する。	事前配付資料、教科書①第16章を読んでおく(90分)。	配付資料の見直し(90分)
担当教員			
第8回	到達度の確認	1回目から7回目までの講義を復習する(300分)	確認テストの見直し(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	72	到達度の確認テストの点数、講義の参加態度(100点満点テスト×0.72=72点とする) 72点+レポート28点
その他	28	毎回の課題レポート(7回×4点)
教科書		
①小児理学療法学テキスト改訂第3版／細田多穂監修／南江堂 ②イラストでわかる小児理学療法学演習／上杉雅之監修／医歯薬出版(後期の実習でも使用)		
参考文献		
脳性まひ児の24時間姿勢ケア／今川忠男監訳／三輪書店 子どものスポーツ障害とリハビリテーション／小山郁／ラビュータ 人間発達学/上杉雅之/医歯薬出版		
履修条件・留意事項等		

遅刻3回を1回の欠席として計算する。
毎回、レポートを作成して提出すること。それを点数化する。
休んだ場合は、レポート点数は0点とする。

備考欄

毎回、教科書を使用したレポートを作成していただきます。こちらも成績評価に含みます。
講義資料は事前にgoogle classroomにて提示します。

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		子どもの理学療法学演習(1組)				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	横井 裕一郎						
授業の位置づけ							
理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけるための科目である。本科目の理解には「基礎運動学」「子どもの理学療法学Ⅰ」「子どもの理学療法学Ⅱ」などの基礎的知識が必要である。子どもの理学療法学の講義で学んだことを中心に、理学療法評価学、基礎運動療法学、人間発達学、神経内科学、運動学等で学んだ知識と子どもの理学療法学Ⅰ・Ⅱで学んだことをより実践的に習得するために、演習形式で学習する。本科目はディプロマポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている」と強く関連している。また「理学療法を行うための基本的な専門知識・技術を身につけている(知識・技能)」、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる(関心・意欲・態度)」、「科学的根拠に基づいた理学療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている(思考・判断・表現)」にも関連している。							

1. 正常運動発達を獲得する背景と理学療法への応用を学習する
2. 障がいを持つ人、健常者の姿勢・動作を観察して、専門用語にて表現できるようになる
3. 障がいを持つ子どもを観察の中から評価し、評価プログラム、制限因子まで統合解釈できるようになる
4. 以上の内容をサマリーシートにまとめることができる
5. 模擬患者に対する治療の考え方、応用方法を修得し実践できる

授業の方法

- ・2～3人一組で模擬的患者役、理学療法士役になって評価、治療実習を行う。
- ・動画、写真を見て、姿勢運動を観察・分析し、グループディスカッションする
- ・それぞれのケースに対してPCでサマリーシートを作製する。
- ・運動発達の順序に従って実際に運動する

ICT活用

障がいのある子どもの動画をPCまたはタブレット端末で視聴しながら実習を行う。
学外の臨床理学療法士とwebで動画を配信して動作分析を行う。
その後のレポート提出はgoogle classroomを使用する

実務経験のある教員の教育内容

小児理学療法の実務経験があり、現在でも病院にて小児理学療法を行い、35年経験している。この小児理学療法分野での長い臨床経験を生かして、実践に応用できる正常運動発達の知識や、模擬的患者から治療実践を学習する。

課題に対するフィードバックの方法

実習中の課題については、回収して、到達度をチェックする。必要に応じてコメントにてフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 運動発達と正常運動分析、治療実習①-1 背臥位、腹臥位、寝返り、座位までの正常運動発達、正常運動を実習形式で学習する。 正常運動から運動学、生体力学、知覚・認知等の知識を応用して分析する	前期科目の子どもの理学療法学の運動発達を復習する(1時間)	内容を復習する(1時間)
担当教員			
第2回	運動発達と正常運動分析、治療実習①-2 背臥位、腹臥位、寝返り、座位までの正常運動発達、正常運動を実習形式で学習する。 正常運動から運動学、生体力学、知覚・認知等の知識を応用して分析する	前期科目の子どもの理学療法学の運動発達を復習する(1時間)	内容を復習する(1時間)
担当教員			
第3回	脳性麻痺の子どもの動作観察・分析① 写真、教科書の動画を使用して個人とグループで動作・姿勢を評価する。ICFによる機能レベルについて学習して、サマリーシートの記載方法を学び、レポートを作成する	教科書第2章の動画を事前確認する(2時間)	動画観察から学習した評価から問題点・目標までについて実習サマリーシートを作成する(3時間)
担当教員			

第4回	脳性麻痺の子どもの動作観察・分析② 写真、教科書の動画を使用して個人とグループで動作・姿勢を評価する。ICFによる機能レベルについて学習して、サマリーシートの記載方法を学び、レポートを作成する	教科書第2章の動画を事前確認する(2時間)	動画観察から学習した評価から問題点・目標までについて実習サマリーシートを作成する(3時間)
担当教員			
第5回	障がいを持つ人の講演会・座談会(1.2組合同)① 当事者から障がいを持って生きること、生活することについて講演を頂き、意見交換会を通して学習する。	障がいを理解するために教科書を確認する(1時間)	講演についての感想文の作製(1時間)
担当教員			
第6回	障がいを持つ人の講演会・座談会(1.2組合同)② 当事者から障がいを持って生きること、生活することについて講演を頂き、意見交換会を通して学習する。	障がいを理解するために教科書を確認する(1時間)	講演についての感想文の作製(1時間)
担当教員			

第7回	観察実習①-1 障がいのある子どもの動画と写真を使用して個人とグループでこどもの施設、病院、養護学校で障がいのある子どもの理学療法場面を観察から評価する。各グループで動作分析、理学療法内容、生活背景などをもとに、制限因子、目標、治療プログラムの立案までの一連のClinical Reasoningを学習する。運動場面、治療場面、補装具療法や姿勢ポジショニングなどを監察の中で評価する。	事前に提示する動画、患者情報を確認しておく(1時間)	演習で学習した評価から問題点 ・目標までについて実習サマリーシートを作成する(3時間)
担当教員			
第8回	観察実習①-2 障がいのある子どもの動画と写真を使用して個人とグループでこどもの施設、病院、養護学校で障がいのある子どもの理学療法場面を観察から評価する。各グループで動作分析、理学療法内容、生活背景などをもとに、制限因子、目標、治療プログラムの立案までの一連のClinical Reasoningを学習する。運動場面、治療場面、補装具療法や姿勢ポジショニングなどを監察の中で評価する。	事前に提示する動画、患者情報を確認しておく(1時間)	演習で学習した評価から問題点 ・目標までについて実習サマリーシートを作成する(3時間)
担当教員			
第9回	運動発達と正常運動分析、治療実習②-1 立ち上がり、立位、歩行の発達を学習する。正常運動を学習させるためのハンドリング、摂食およびその介助の正常運動を実習する。 正常運動から運動学、生体力学、知覚・認知等の知識を応用して分析する。	1回目と2回目の資料で準備する(1時間)	演習内容を復習する(1時間)
担当教員			

第10回	運動発達と正常運動分析、治療実習②-2 模擬患者とセラピスト役の2人一組で行う。 脳性麻痺や神経発達症などの子どもに対して、身体運動の問題を考え、理学療法プログラムを立案する。	前回までの学習内容を確認する(1時間)	演習内容を復習する(1時間)
担当教員			
第11回	観察実習②-1 障がいのある子どもの動画と写真を使用して個人とグループでこどもの施設、病院、養護学校で障がいのある子どもの理学療法場면을観察から評価する。各グループで動作分析、理学療法内容、生活背景などをもとに、制限因子、目標、治療プログラムの立案までの一連のClinical Reasoningを学習する。運動場面、治療場面、補装具療法や姿勢ポジショニングなどを監察の中で評価する。	前に提示する動画、患者情報を確認しておく。また前期に使用した教科書第14章、15章、配布資料を見直すこと。(1時間)	演習で学習した評価から問題点 ・目標までについて実習サマリーシートを作成する(1時間)
担当教員			
第12回	観察実習②-2 障がいのある子どもの動画と写真を使用して個人とグループでこどもの施設、病院、養護学校で障がいのある子どもの理学療法場면을観察から評価する。各グループで動作分析、理学療法内容、生活背景などをもとに、制限因子、目標、治療プログラムの立案までの一連のClinical Reasoningを学習する。運動場面、治療場面、補装具療法や姿勢ポジショニングなどを監察の中で評価する。	事前に提示する動画、患者情報を確認しておく。また前期に使用した教科書第14章、15章、配布資料を見直すこと。(1時間)	演習で学習した評価から問題点 ・目標までについて実習サマリーシートを作成する(1時間)
担当教員			

第13回	運動発達と正常運動分析、治療実習③-1 模擬患者とセラピスト役の2人一組で行う。 脳性麻痺や神経発達症などの子どもに対して、身体運動の問題を考え、理学療法プログラムを立案する。	前回までの学習内容を確認する (1時間)	演習内容を復習する(1時間)
担当教員			
第14回	運動発達と正常運動分析、治療実習③-2 模擬患者とセラピスト役の2人一組で行う。 脳性麻痺や神経発達症などの子どもに対して、身体運動の問題を考え、理学療法プログラムを立案する。	前回までの学習内容を確認する (1時間)	演習内容を復習する(1時間)
担当教員			
第15回	ダウン症候群の動作観察・分析 教科書の動画を使用して個人とグループで動作・姿勢を評価する。ICFによる機能レベルについて学習して、サマリーシートの記載方法を学び、レポートを作成する	教科書第8章の動画を事前確認する(2時間)	動画観察から学習した評価から問題点・目標までについて実習サマリーシートを作成する(3時間)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	80	4回のサマリー点数(各20点)
その他	20	演習中の積極的態度を点数ポイントとして加算します。
教科書		
イラストでわかる小児理学療法学演習／上杉雅之監修／医歯薬出版		
参考文献		

小児理学療法学テキスト改訂第4版／細田多穂監修／南江堂(前期購入済み)

履修条件・留意事項等

演習参加は原則、白衣着用とする。授業参加には教科書とサマリー作成、google classroomで提示する動画視聴できるパソコンが必要です。積極的に発言できる人、参加できる人は成績ポイントを付与し、成績に加えます。遅刻、欠席は原則、認めません。

備考欄

観察実習ではゲスト講師として臨床理学療法士に演習を手伝っていただきます。

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		子どもの理学療法学演習(2組)				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	横井 裕一郎						

授業の位置づけ

理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけるための科目である。本科目の理解には「基礎運動学」「子どもの理学療法学Ⅰ」「子どもの理学療法学Ⅱ」などの基礎的知識が必要である。子どもの理学療法学の講義で学んだことを中心に、理学療法評価学、基礎運動療法学、人間発達学、神経内科学、運動学等で学んだ知識と子どもの理学療法学Ⅰ・Ⅱで学んだことをより実践的に習得するために、演習形式で学習する。本科目はディプロマポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている」と強く関連している。また「理学療法を行うための基本的な専門知識・技術を身につけている(知識・技能)」、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる(関心・意欲・態度)」、「科学的根拠に基づいた理学療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている(思考・判断・表現)」にも関連している。

授業の概要

講義で学んだ知識をもとに、正常運動発達、正常運動から得られる運動要素を演習を通して学習する。また障がいのある子どもの動画をみて、障がいに対する理学療法評価を考え、問題点と治療の具体的方法について学習する。

到達目標

1. 正常運動発達を獲得する背景と理学療法への応用を学習する
2. 障がいを持つ人、健常者の姿勢・動作を観察して、専門用語にて表現できるようになる
3. 障がいを持つ子どもを観察の中から評価し、評価プログラム、制限因子まで統合解釈できるようになる
4. 以上の内容をサマリーシートにまとめることができる
5. 模擬患者に対する治療の考え方、応用方法を修得し実践できる

授業の方法

- ・2～3人一組で模擬的的患者役、理学療法士役になって評価、治療実習を行う。
- ・動画、写真を見て、姿勢運動を観察・分析し、グループディスカッションする
- ・それぞれのケースに対してPCでサマリーシートを作製する。
- ・運動発達の順序に従って実際に運動する

ICT活用

障がいのある子どもの動画をPCまたはタブレット端末で視聴しながら実習を行う。
学外の臨床理学療法士とwebで動画を配信して動作分析を行う。
その後のレポート提出はgoogle classroomを使用する

実務経験のある教員の教育内容

小児理学療法の実務経験があり、現在でも病院にて小児理学療法を行い、35年経験している。この小児理学療法分野での長い臨床経験を生かして、実践に応用できる正常運動発達の知識や、模擬的的患者から治療実践を学習する。

課題に対するフィードバックの方法

実習中の課題については、回収して、到達度をチェックする。必要に応じてコメントにてフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 運動発達と正常運動分析、治療実習①-1 背臥位、腹臥位、寝返り、座位までの正常運動発達、正常運動を実習形式で学習する。 正常運動から運動学、生体力学、知覚・認知等の知識を応用して分析する	前期科目の子どもの理学療法学の運動発達を復習する(1時間)	内容を復習する(1時間)
担当教員			
第2回	運動発達と正常運動分析、治療実習①-2 背臥位、腹臥位、寝返り、座位までの正常運動発達、正常運動を実習形式で学習する。 正常運動から運動学、生体力学、知覚・認知等の知識を応用して分析する	前期科目の子どもの理学療法学の運動発達を復習する(1時間)	内容を復習する(1時間)
担当教員			
第3回	脳性麻痺の子どもの動作観察・分析① 写真、教科書の動画を使用して個人とグループで動作・姿勢を評価する。ICFによる機能レベルについて学習して、サマリーシートの記載方法を学び、レポートを作成する	教科書第2章の動画を事前確認する(2時間)	動画観察から学習した評価から問題点・目標までについて実習サマリーシートを作成する(3時間)
担当教員			

第4回	脳性麻痺の子どもの動作観察・分析② 写真、教科書の動画を使用して個人とグループで動作・姿勢を評価する。ICFによる機能レベルについて学習して、サマリーシートの記載方法を学び、レポートを作成する	教科書第2章の動画を事前確認する(2時間)	動画観察から学習した評価から問題点・目標までについて実習サマリーシートを作成する(3時間)
担当教員			
第5回	障がいを持つ人の講演会・座談会(1.2組合同)① 当事者から障がいを持って生きること、生活することについて講演を頂き、意見交換会を通して学習する。	障がいを理解するために教科書を確認する(1時間)	講演についての感想文の作製(1時間)
担当教員			
第6回	障がいを持つ人の講演会・座談会(1.2組合同)② 当事者から障がいを持って生きること、生活することについて講演を頂き、意見交換会を通して学習する。	障がいを理解するために教科書を確認する(1時間)	講演についての感想文の作製(1時間)
担当教員			

第7回	観察実習①-1 障がいのある子どもの動画と写真を使用して個人とグループでこどもの施設、病院、養護学校で障がいのある子どもの理学療法場面を観察から評価する。各グループで動作分析、理学療法内容、生活背景などをもとに、制限因子、目標、治療プログラムの立案までの一連のClinical Reasoningを学習する。運動場面、治療場面、補装具療法や姿勢ポジショニングなどを監察の中で評価する。	事前に提示する動画、患者情報を確認しておく(1時間)	演習で学習した評価から問題点 ・目標までについて実習サマリーシートを作成する(3時間)
担当教員			
第8回	観察実習①-2 障がいのある子どもの動画と写真を使用して個人とグループでこどもの施設、病院、養護学校で障がいのある子どもの理学療法場面を観察から評価する。各グループで動作分析、理学療法内容、生活背景などをもとに、制限因子、目標、治療プログラムの立案までの一連のClinical Reasoningを学習する。運動場面、治療場面、補装具療法や姿勢ポジショニングなどを監察の中で評価する。	事前に提示する動画、患者情報を確認しておく(1時間)	演習で学習した評価から問題点 ・目標までについて実習サマリーシートを作成する(3時間)
担当教員			
第9回	運動発達と正常運動分析、治療実習②-1 立ち上がり、立位、歩行の発達を学習する。正常運動を学習させるためのハンドリング、摂食およびその介助の正常運動を実習する。 正常運動から運動学、生体力学、知覚・認知等の知識を応用して分析する。	1回目と2回目の資料で準備する(1時間)	演習内容を復習する(1時間)
担当教員			

第10回	運動発達と正常運動分析、治療実習②-2 模擬患者とセラピスト役の2人一組で行う。 脳性麻痺や神経発達症などの子どもに対して、身体運動の問題を考え、理学療法プログラムを立案する。	前回までの学習内容を確認する (1時間)	演習内容を復習する(1時間)
担当教員			
第11回	観察実習②-1 障がいのある子どもの動画と写真を使用して個人とグループでこどもの施設、病院、養護学校で障がいのある子どもの理学療法場面を観察から評価する。各グループで動作分析、理学療法内容、生活背景などをもとに、制限因子、目標、治療プログラムの立案までの一連のClinical Reasoningを学習する。運動場面、治療場面、補装具療法や姿勢ポジショニングなどを監察の中で評価する。	前に提示する動画、患者情報を確認しておく。また前期に使用した教科書第14章、15章、配布資料を見直すこと。(1時間)	演習で学習した評価から問題点 ・目標までについて実習サマリーシートを作成する(1時間)
担当教員			
第12回	観察実習②-2 障がいのある子どもの動画と写真を使用して個人とグループでこどもの施設、病院、養護学校で障がいのある子どもの理学療法場面を観察から評価する。各グループで動作分析、理学療法内容、生活背景などをもとに、制限因子、目標、治療プログラムの立案までの一連のClinical Reasoningを学習する。運動場面、治療場面、補装具療法や姿勢ポジショニングなどを監察の中で評価する。	事前に提示する動画、患者情報を確認しておく。また前期に使用した教科書第14章、15章、配布資料を見直すこと。(1時間)	演習で学習した評価から問題点 ・目標までについて実習サマリーシートを作成する(1時間)
担当教員			

第13回	運動発達と正常運動分析、治療実習③-1 模擬患者とセラピスト役の2人一組で行う。 脳性麻痺や神経発達症などの子どもに対して、身体運動の問題を考え、理学療法プログラムを立案する。	前回までの学習内容を確認する (1時間)	演習内容を復習する(1時間)
担当教員			
第14回	運動発達と正常運動分析、治療実習③-2 模擬患者とセラピスト役の2人一組で行う。 脳性麻痺や神経発達症などの子どもに対して、身体運動の問題を考え、理学療法プログラムを立案する。	前回までの学習内容を確認する (1時間)	演習内容を復習する(1時間)
担当教員			
第15回	ダウン症候群の動作観察・分析 教科書の動画を使用して個人とグループで動作・姿勢を評価する。ICFによる機能レベルについて学習して、サマリーシートの記載方法を学び、レポートを作成する	教科書第8章の動画を事前確認する(2時間)	動画観察から学習した評価から問題点・目標までについて実習サマリーシートを作成する(3時間)
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	80	4回のサマリー点数(各20点)
その他	20	演習中の積極的態度を点数ポイントとして加算します。
教科書		
イラストでわかる小児理学療法学演習／上杉雅之監修／医歯薬出版		
参考文献		

小児理学療法学テキスト改訂第4版／細田多穂監修／南江堂(前期購入済み)

履修条件・留意事項等

演習参加は原則、白衣着用とする。授業参加には教科書とサマリー作成、google classroomで提示する動画視聴できるパソコンが必要です。積極的に発言できる人、参加できる人は成績ポイントを付与し、成績に加えます。遅刻、欠席は原則、認めません。

備考欄

観察実習ではゲスト講師として臨床理学療法士に演習を手伝っていただきます。

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		日常生活活動学				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分	講義	単位	1
担当教員	佐々木 幸子						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」ことと特に 関係がある科目である。また、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」ことも関係する。「整形外科学」や「脳神経内科学」などの疾患学とそれに対する理学療法学に関連し、「日常生活活動学演習」の基礎となる。							

日常生活活動、生活関連動作の概念について説明することができる。
 国際生活機能分類の概念について説明することができる。
 日常生活活動における基本動作を運動学的に説明することができる。
 一般的な福祉用具の種類や使用方法を説明することができる。
 代表的な疾患の日常生活活動障害の特徴や問題点を説明することができる。

授業の方法

教科書を用いるが、適宜、参考資料となるプリントを用いて、講義形式ですすめる。また、小テストを実施し、内容の確認を行う。

ICT活用

Google Formのアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

理学療法士として病院勤務した経験を活かし、日常生活活動の概念、評価法及び実際の患者への介入法の要点について講義を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして小テストを回収後、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	日常生活活動の概念と範囲およびQOLについて理解する	教科書の第1章を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第2回	日常生活活動の各種評価法について理解する。	教科書の第2章を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第3回	日常生活活動における姿勢や基本動作を理解し、運動療法の考え方を理解する。	教科書第3章-1を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			

第4回	日常生活活動の評価と動作分析について理解する。	教科書第3章2-6を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第5回	日常生活活動を支援する福祉用具について理解する。1～4回目までの内容について小テストを行う。	教科書の当該箇所を事前に読んでおくこと。また、小テストに向けて1～4回目までの総復習をすること。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第6回	片麻痺患者のADLの特徴や評価・介入の要点について理解する。	教科書第6章-1を事前に読んでおくこと。また、片麻痺について復習しておくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			

第7回	脊髄損傷患者のADLの特徴や評価・介入の要点について理解する。	教科書第6章-2を事前に読んでおくこと。また、脊髄損傷について復習しておくこと。8回目のまとめのテストに向けて復習をしておくこと(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			
第8回	変形性関節症、関節リウマチのADLの特徴や評価・介入の要点について理解する。授業の最後にまとめのテストを実施する。	これまでの講義内容をまとめておくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめておくこと。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で実施する確認テスト(40%) まとめのテスト(50%) 授業への参加態度(10%)
その他	0	なし
教科書		
Crosslink 理学療法学テキスト 日常生活活動学／臼田滋／MEDICAL VIEW		
参考文献		
姿勢と動作／斎藤宏他／メヂカルフレンド社		
履修条件・留意事項等		

なし

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		日常生活活動学演習(1組)				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	佐々木 幸子、水本 淳						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。また、「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる(関心・意欲・態度)」、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる(関心・意欲・態度)」こととも関係する。「病態運動学」および「日常生活活動学」と関連し、各種障害治療学等科目の基礎となる。

授業の概要

講義で学んだ知識をもとに、基本動作および、各種障害に応じた床上動作、車椅子・杖使用の実際について介助法を含む指導法を実習する。また、福祉機器の適応、生活現場の調整についての指導法についても学習する。

到達目標

日常生活に必要となる基本動作および各種障害に応じた基本的な日常生活活動評価が実施できる。
基本動作の介助・指導・治療が実施できる。
生活環境に合わせた福祉機器等の使用法を説明することができる。
住宅改善の評価、指導等が実施できる。

授業の方法

配布資料、教科書に基づき、講義および実習をグループ学習とし、学生間ディスカッションを取り入れる。授業開始時に課題を提示し、授業内で作成する。

ICT活用

Google Formのアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

理学療法士として急性期病院、介護老人保健福祉施設に勤務した経験を活かして指導する(佐々木)
理学療法士として病院、訪問看護事業所、通所介護施設で勤務した経験を活かして指導する(水本)

課題に対するフィードバックの方法

授業内で示した課題に対して、授業時間の最後に解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 基本姿勢と基本動作1 基本姿勢の特徴と評価法について理解する。	なし	課題内容についてノートにまとめること(30分)
担当教員	佐々木 幸子		
第2回	基本姿勢と基本動作2 代表的な基本動作、バランス能力の評価方法について実習を行い、理解する。	なし	課題内容についてノートにまとめること(30分)
担当教員	佐々木 幸子		
第3回	寝返り、起き上がり、床からの立ち上がり動作の特徴と評価法、指導及び介助法について理解する。	なし	課題内容についてノートにまとめること(30分)
担当教員	佐々木 幸子		

第4回	寝返り、起き上がり、床からの立ち上がり動作の指導及び介助法について理解する。3-4名にグループ分けし、学生同士で患者と治療者、介護者の役割を経験、修得する。	なし	課題内容についてノートにまとめること(30分)
担当教員	佐々木 幸子		
第5回	起立・着座動作、移乗動作、歩行動作の特徴と評価法、指導及び介助法について理解する。	なし	課題内容についてノートにまとめること(30分)
担当教員	佐々木 幸子		
第6回	起立・着座動作、移乗動作、歩行動作の特徴と評価法、指導及び介助法について3-4名にグループ分けし、学生同士で患者と治療者、介護者の役割を経験、修得する。	なし	課題内容についてノートにまとめること(30分)
担当教員	佐々木 幸子		

第7回	歩行補助として用いられる様々な杖や歩行補助器を知り、実際に使用しながら適切な利用方法について理解する。	なし	課題内容についてノートにまとめること(30分)
担当教員	佐々木 幸子		
第8回	様々な杖や歩行補助器について、3-4名にグループ分けし、学生同士で患者と治療者、介護者の役割を経験、修得する。	なし	課題内容についてノートにまとめること(30分)
担当教員	佐々木 幸子		
第9回	車いす操作と車いす移動の介助、指導方法について理解する。	なし	課題内容についてノートにまとめること(30分)
担当教員	水本 淳		

第10回	車いす操作と車いす移動の介助、指導方法について、3-4名にグループ分けし、学生同士で患者と治療者、介護者の役割を経験、修得する。車いすに乗車、操作、介助を屋外環境なども含め実施する。	なし	課題内容についてノートにまとめること(30分)
担当教員	水本 淳		
第11回	入浴、更衣動作における姿勢・動作構成を知り、動作実施困難な場合の介助・指導方法を検討する。	なし	課題内容についてノートにまとめること(30分)
担当教員	水本 淳		
第12回	入浴、更衣動作について具体的な症例を想定し、動作中に支障が生じる場面での対応、自立度に影響する機能や能力の検討を行う。小グループに分かれ、環境設定を変更しながら複数回実施する。	なし	課題内容についてノートにまとめること(30分)
担当教員	水本 淳		

第13回	排泄動作における姿勢・動作構成を知り、動作実施困難な場合の介助・指導方法を検討する。	なし	課題内容についてノートにまとめること(30分)
担当教員	水本 淳		
第14回	排泄動作について具体的な症例を想定し、動作中に支障が生じえる場面での対応、自立度に影響する機能や能力の検討を行う。小グループに分かれ、環境設定を変更しながら複数回実施する。	なし	課題内容についてノートにまとめること(30分)
担当教員	水本 淳		
第15回	Functional Independence Measure(FIM)の実際日常生活活動の評価方法の一つである機能的自立度評価法(FIM)の内容を理解する。教科書に則って、FIM(Ver.3)の採点項目、採点対象、採点基準について学ぶ。実際に使用頻度が多いことから、FIM採点内容の概要および特徴的な採点基準についての確認を実習中に確認し、また筆記でも確認を行う。教科書使用必須。	なし	課題内容についてノートにまとめること(60分)
担当教員	水本 淳		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で作成した課題(90%) 受講態度・意欲、発表等(10%)
その他	0	
教科書		
Crosslink 理学療法学テキスト／臼田 滋編／メジカルビュー社 脳卒中の機能評価－SIASとFIM／千野直一他／金原出版		
参考文献		

標準理学療法日常生活活動学・生活環境学／鶴見隆正／医学書院

履修条件・留意事項等

原則、すべての出席が必要である
主体的かつ積極的な授業態度であること
実習開始前までにケーシーに着替えておくこと

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		日常生活活動学演習(2組)				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	演習	単位	1
担当教員	佐々木 幸子、水本 淳						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」ことと特に関係がある科目である。また、「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる(関心・意欲・態度)」、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる(関心・意欲・態度)」こととも関係する。「病態運動学」および「日常生活活動学」と関連し、各種障害治療学等科目の基礎となる。							
授業の概要							
講義で学んだ知識をもとに、基本動作および、各種障害に応じた床上動作、車椅子・杖使用の実際について介助法を含む指導法を実習する。また、福祉機器の適応、生活現場の調整についての指導法についても学習する。							
到達目標							

日常生活に必要となる基本動作および各種障害に応じた基本的な日常生活活動評価が実施できる。
基本動作の介助・指導・治療が実施できる。
生活環境に合わせた福祉機器等の使用法を説明することができる。
住宅改善の評価、指導等が実施できる。

授業の方法

配布資料、教科書に基づき、講義および実習をグループ学習とし、学生間ディスカッションを取り入れる。授業開始時に課題を提示し、授業内で作成する。

ICT活用

Google Formのアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

理学療法士として急性期病院、介護老人保健福祉施設に勤務した経験を活かして指導する(佐々木)
理学療法士として病院、訪問看護事業所、通所介護施設で勤務した経験を活かして指導する(水本)

課題に対するフィードバックの方法

授業内で示した課題に対して、授業時間の最後に解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	オリエンテーション 基本姿勢と基本動作1 基本姿勢の特徴と評価法について理解する。	なし	課題内容についてノートにまとめること(30分)
担当教員	佐々木 幸子		
第2回	基本姿勢と基本動作2 代表的な基本動作、バランス能力の評価方法について実習を行い、理解する。	なし	課題内容についてノートにまとめること(30分)
担当教員	佐々木 幸子		
第3回	寝返り、起き上がり、床からの立ち上がり動作の特徴と評価法、指導及び介助法について理解する。	なし	課題内容についてノートにまとめること(30分)
担当教員	佐々木 幸子		

第4回	寝返り、起き上がり、床からの立ち上がり動作の指導及び介助法について理解する。3-4名にグループ分けし、学生同士で患者と治療者、介護者の役割を経験、修得する。	なし	課題内容についてノートにまとめること(30分)
担当教員	佐々木 幸子		
第5回	起立・着座動作、移乗動作、歩行動作の特徴と評価法、指導及び介助法について理解する。	なし	課題内容についてノートにまとめること(30分)
担当教員	佐々木 幸子		
第6回	起立・着座動作、移乗動作、歩行動作の特徴と評価法、指導及び介助法について3-4名にグループ分けし、学生同士で患者と治療者、介護者の役割を経験、修得する。	なし	課題内容についてノートにまとめること(30分)
担当教員	佐々木 幸子		

第7回	歩行補助として用いられる様々な杖や歩行補助器を知り、実際に使用しながら適切な利用方法について理解する。	なし	課題内容についてノートにまとめること(30分)
担当教員	佐々木 幸子		
第8回	様々な杖や歩行補助器について、3-4名にグループ分けし、学生同士で患者と治療者、介護者の役割を経験、修得する。	なし	課題内容についてノートにまとめること(30分)
担当教員	佐々木 幸子		
第9回	車いす操作と車いす移動の介助、指導方法について理解する。	なし	課題内容についてノートにまとめること(30分)
担当教員	水本 淳		

第10回	車いす操作と車いす移動の介助、指導方法について、3-4名にグループ分けし、学生同士で患者と治療者、介護者の役割を経験、修得する。車いすに乗車、操作、介助を屋外環境なども含め実施する。	なし	課題内容についてノートにまとめること(30分)
担当教員	水本 淳		
第11回	入浴、更衣動作における姿勢・動作構成を知り、動作実施困難な場合の介助・指導方法を検討する。	なし	課題内容についてノートにまとめること(30分)
担当教員	水本 淳		
第12回	入浴、更衣動作について具体的な症例を想定し、動作中に支障が生じる場面での対応、自立度に影響する機能や能力の検討を行う。小グループに分かれ、環境設定を変更しながら複数回実施する。	なし	課題内容についてノートにまとめること(30分)
担当教員	水本 淳		

第13回	排泄動作における姿勢・動作構成を知り、動作実施困難な場合の介助・指導方法を検討する。	なし	課題内容についてノートにまとめること(30分)
担当教員	水本 淳		
第14回	排泄動作について具体的な症例を想定し、動作中に支障が生じえる場面での対応、自立度に影響する機能や能力の検討を行う。小グループに分かれ、環境設定を変更しながら複数回実施する。	なし	課題内容についてノートにまとめること(30分)
担当教員	水本 淳		
第15回	Functional Independence Measure(FIM)の実際日常生活活動の評価方法の一つである機能的自立度評価法(FIM)の内容を理解する。教科書に則って、FIM(Ver.3)の採点項目、採点対象、採点基準について学ぶ。実際に使用頻度が多いことから、FIM採点内容の概要および特徴的な採点基準についての確認を実習中に確認し、また筆記でも確認を行う。教科書使用必須。	なし	課題内容についてノートにまとめること(60分)
担当教員	水本 淳		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	なし
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で作成した課題(90%) 受講態度・意欲、発表等(10%)
その他	0	
教科書		
Crosslink 理学療法学テキスト／臼田 滋編／メジカルビュー社 脳卒中の機能評価－SIASとFIM／千野直一他／金原出版		
参考文献		

標準理学療法日常生活活動学・生活環境学／鶴見隆正／医学書院

履修条件・留意事項等

原則、すべての出席が必要である
主体的かつ積極的な授業態度であること
実習開始前までにケーシーに着替えておくこと

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		理学療法総合セミナー				ナンバリング	
配当年次	4年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	佐藤 明紀、橋田 浩、大森 圭、横井 裕一郎、池野 秀則、牧野 均、佐々木 幸子、高田 雄一、木村 一志、柴田 恵理子、水本 淳、松田 直樹、南部 路治、鈴木 信						

授業の位置づけ

本授業は、ディプロマ・ポリシーに掲げる「理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている。(知識・技能)」、「理学療法学における課題を論理的に探求する能力を身につけている。(思考・判断・表現)」、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる。(関心・意欲・態度)」、「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる。(関心・意欲・態度)」に関連する科目である。

本授業は、理学療法を実施するための基本的な専門知識および技術を修得することを目的とし、これまでに履修した専門科目の総括として位置づけられる。

授業の概要

基礎医学、臨床医学および理学療法学の全領域について、4年間を通して学修した知識を整理し、理解を深化させる。また、それらの知識を応用し、種々の疾患・症例に対して適切な理学療法評価および治療を実施できる能力の向上を目的とする。

学習形態は、課題に沿った講義およびグループ学習を中心とし、各領域の担当教員が講義を行う。

到達目標

- ・基礎医学、臨床医学および理学療法学の各内容を正しく理解できる。
- ・障害の診断に必要な基本的データを理解できる。
- ・各種症例に対し、基礎医学、臨床医学および理学療法学の知識を応用し、評価および治療計画を立案するとともに、適切な治療手技を選択できる。

授業の方法

パワーポイント、配布資料および教科書等を用い、講義形式で授業を進める。
また、模擬試験の結果を基にグループ学習を行い、理解の深化を図る。

ICT活用

本授業は原則として対面で実施し、必要に応じてオンライン形式(Google Meet等)を併用する。
加えて、動画コンテンツの活用や問題提示などのICTを活用した学習支援を行い、理解の深化を図る。

実務経験のある教員の教育内容

佐藤、池野、木村、大森、橋田、松田、横井、柴田、高田、牧野、水本、佐々木、南部、鈴木は、それぞれの専門領域における実務経験および教育経験を活かし、専門性に基づいた講義を実施する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内において随時質問を受け付けるとともに、課題に対して適宜講評および助言を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	ガイダンス(講義内容の説明およびスケジュールの確認)	シラバスを確認し、事前配布資料を学習しておくこと(90分)	講義内容の復習を行うこと(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
第2回	国家試験共通分野1(解剖学分野の理解)	該当分野について事前に教科書を読んでおくこと(90分)	講義内容の復習を行い、理解を深めること(90分)
担当教員	池野 秀則		
第3回	国家試験共通分野2(生理学分野の理解)	該当分野について事前に教科書を読んでおくこと(90分)	講義内容の復習を行い、理解を深めること(90分)
担当教員	木村 一志		

第4回	国家試験共通分野3(運動学の理解)	該当分野について事前に教科書を読んでおくこと(90分)	講義内容の復習を行い、理解を深めること(90分)
担当教員	大森 圭		
第5回	国家試験共通分野4(整形外科学分野の理解)	該当分野について事前に教科書を読んでおくこと(90分)	講義内容の復習を行い、理解を深めること(90分)
担当教員	鈴木 信		
第6回	国家試験専門分野1(理学療法評価学分野の理解)	該当分野について事前に教科書を読んでおくこと(90分)	講義内容の復習を行い、理解を深めること(90分)
担当教員	松田 直樹		

第7回	国家試験専門分野2(発達障害理学療法学分野の理解)	該当分野について事前に教科書を読んでおくこと(90分)	講義内容の復習を行い、理解を深めること(90分)
担当教員	横井 裕一郎		
第8回	国家試験専門分野3(リハビリテーション医学・理学療法概論分野の理解)	該当分野について事前に教科書を読んでおくこと(90分)	講義内容の復習を行い、理解を深めること(90分)
担当教員	橋田 浩		
第9回	国家試験専門分野4(運動療法分野:中枢神経障害の理解)	該当分野について事前に教科書を読んでおくこと(90分)	講義内容の復習を行い、理解を深めること(90分)
担当教員	柴田 恵理子		

第10回	国家試験専門分野5(運動療法分野:運動器障害の理解)	該当分野について事前に教科書を読んでおくこと(90分)	講義内容の復習を行い、理解を深めること(90分)
担当教員	高田 雄一		
第11回	国家試験専門分野6(補装具療法分野の理解)	該当分野について事前に教科書を読んでおくこと(90分)	講義内容の復習を行い、理解を深めること(90分)
担当教員	牧野 均		
第12回	国家試験専門分野7(地域理学療法分野・物理療法学分野の理解)	該当分野について事前に教科書を読んでおくこと(90分)	講義内容の復習を行い、理解を深めること(90分)
担当教員	水本 淳		

第13回	国家試験専門分野8(日常生活活動分野の理解)	該当分野について事前に教科書を読んでおくこと(90分)	講義内容の復習を行い、理解を深めること(90分)
担当教員	佐々木 幸子		
第14回	国家試験専門分野9(内部障害理学療法分野:呼吸・循環障害の理解)	該当分野について事前に教科書を読んでおくこと(90分)	講義内容の復習を行い、理解を深めること(90分)
担当教員	南部 路治		
第15回	国家試験専門分野10(内部障害理学療法分野:がん、浮腫の理解)およびまとめと試験	該当分野について事前に教科書を読んでおくこと(90分)	講義内容の復習を行い、理解を深めること(90分)
担当教員	佐藤 明紀		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	まとめと試験の結果で判定する。 (ただし、参加状況や出席態度を踏まえ総合的に判定する)
その他	0	なし
教科書		
指定教科書は設けない。これまでに使用した教科書を各自で準備すること。 なお、各回の授業において担当教員が資料を配布する。		
参考文献		

クエスチョン・バンク(メディックメディア)

履修条件・留意事項等

国家試験の願書提出後であっても、本科目が未修得の場合は卒業不可となり、国家試験を受験することができない。

備考欄

特になし

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		徒手理学療法学実習(1組)				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	実習	単位	1
担当教員	大森 圭、橋田 浩						
授業の位置づけ							
この科目はディプロマポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身に付けている(知識・技能)」と特に関連のある科目である。この科目は「運動学Ⅰ・Ⅱ」「運動学実習」を基礎とした科目であり、「臨床実習」につながる。							

- ・理学療法における徒手療法の意義について説明できる。
- ・骨運動と関節運動(副運動)の関係を理解し、評価・治療技術に適用できる。
- ・運動機能障害の問題点と臨床推論を系統的に説明できる。
- ・関節および関節の動きや、筋肉を触知でき、徒手療法の臨床推論と基本的評価・治療手技が遂行できる。

授業の方法

テキスト、パワーポイントによる基本事項の説明とデモンストレーションおよび実技を行う。

ICT活用

必要に応じてオンラインでの授業を行う。

実務経験のある教員の教育内容

両教員とも総合病院および整形外科での勤務経験があり、徒手理学療法の幅広い知識と臨床経験および最新の知見を有しており、これらを活かした講義と実技について指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

実技巡回にて個別にフィードバックする。オンライン授業の場合、メール等にて質問とフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	総論Ⅰ：徒手療法の歴史と国際的位置付けについて。治療概念、用語の定義、徒手療法の効果、適応と禁忌について。	テキストの該当箇所を読み予習しておくこと 90分	講義の復習をする事90分
担当教員	橋田 浩、大森 圭		
第2回	総論Ⅱ：関節の構造と運動、組織の治癒過程、評価方法について。	テキストの該当箇所を読み予習しておくこと 90分	講義の復習をする事90分
担当教員	橋田 浩、大森 圭		
第3回	・上肢の徒手療法① 肩甲帯の徒手療法 理論と実技(臨床推論、触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習しておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	橋田 浩、大森 圭		

第4回	・上肢の徒手療法② 肩関節の徒手療法 理論と実技(臨床推論、触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	橋田 浩、大森 圭		
第5回	・上肢の徒手療法③ 肘関節、前腕の徒手療法 理論と実技(臨床推論、触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。 。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	橋田 浩、大森 圭		
第6回	・上肢の徒手療法④ 手関節の徒手療法 理論と実技(臨床推論、触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	橋田 浩、大森 圭		

第7回	・上肢の徒手療法⑤ 手根骨・手指関節の徒手療法 理論と実技(臨床推論、触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	橋田 浩、大森 圭		
第8回	・下肢の徒手療法① 股関節の徒手療法 理論と実技(臨床推論、触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	橋田 浩、大森 圭		
第9回	・下肢の徒手療法② 膝関節の徒手療法 理論と実技(臨床推論、触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	橋田 浩、大森 圭		

第10回	・下肢の徒手療法③ 膝関節の徒手療法 理論と実技(臨床推論、触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	橋田 浩、大森 圭		
第11回	・下肢の徒手療法④ 足関節の徒手療法 理論と実技(臨床推論、触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	橋田 浩、大森 圭		
第12回	・下肢の徒手療法⑤ 足部の徒手療法 理論と実技(臨床推論、触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	橋田 浩、大森 圭		

第13回	脊柱の徒手療法① 脊柱の臨床推論、触診と評価・治療(腰椎、骨盤)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	橋田 浩、大森 圭		
第14回	脊柱の徒手療法② 脊柱の臨床推論、触診と評価・治療(頭部・頸部・胸椎)を 行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	橋田 浩、大森 圭		
第15回	まとめ これまでの徒手療法技術についての確認テストを行う。	まとめのための予習をしておくこ と 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	橋田 浩、大森 圭		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認テスト(90%) 参加態度(10%)
その他	0	なし
教科書		
整形徒手理学療法 富雅男・砂川勇監修 医歯薬出版株式会社		
参考文献		

筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版 Donald A.Neumann 医歯薬出版株式会社

履修条件・留意事項等

必要資料は随時配布します。
実習科目につき、白衣、Tシャツ、短パンを用意してください。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		徒手理学療法学実習(2組)				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	実習	単位	1
担当教員	大森 圭、橋田 浩						
授業の位置づけ							
この科目はディプロマポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身に付けている(知識・技能)」と特に関連のある科目である。この科目は「運動学Ⅰ・Ⅱ」「運動学実習」を基礎とした科目であり、「臨床実習」につながる。							

- ・理学療法における徒手療法の意義について説明できる。
- ・骨運動と関節運動(副運動)の関係を理解し、評価・治療技術に適用できる。
- ・運動機能障害の問題点と臨床推論を系統的に説明できる。
- ・関節および関節の動きや、筋肉を触知でき、徒手療法の臨床推論と基本的評価・治療手技が遂行できる。

授業の方法

テキスト、パワーポイントによる基本事項の説明とデモンストレーションおよび実技を行う。

ICT活用

必要に応じてオンラインでの授業を行う。

実務経験のある教員の教育内容

両教員とも総合病院および整形外科での勤務経験があり、徒手理学療法の幅広い知識と臨床経験および最新の知見を有しており、これらを活かした講義と実技について指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

実技巡回にて個別にフィードバックする。オンライン授業の場合、メール等にて質問とフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	総論Ⅰ：徒手療法の歴史と国際的位置付けについて。治療概念、用語の定義、徒手療法の効果、適応と禁忌について。	テキストの該当箇所を読み予習しておくこと 90分	講義の復習をする事90分
担当教員	橋田 浩、大森 圭		
第2回	総論Ⅱ：関節の構造と運動、組織の治癒過程、評価方法について。	テキストの該当箇所を読み予習しておくこと 90分	講義の復習をする事90分
担当教員	橋田 浩、大森 圭		
第3回	・上肢の徒手療法① 肩甲帯の徒手療法 理論と実技(臨床推論、触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習しておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	橋田 浩、大森 圭		

第4回	・上肢の徒手療法② 肩関節の徒手療法 理論と実技(臨床推論、触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	橋田 浩、大森 圭		
第5回	・上肢の徒手療法③ 肘関節、前腕の徒手療法 理論と実技(臨床推論、触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	橋田 浩、大森 圭		
第6回	・上肢の徒手療法④ 手関節の徒手療法 理論と実技(臨床推論、触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	橋田 浩、大森 圭		

第7回	・上肢の徒手療法⑤ 手根骨・手指関節の徒手療法 理論と実技(臨床推論、触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	橋田 浩、大森 圭		
第8回	・下肢の徒手療法① 股関節の徒手療法 理論と実技(臨床推論、触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	橋田 浩、大森 圭		
第9回	・下肢の徒手療法② 膝関節の徒手療法 理論と実技(臨床推論、触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする事90分
担当教員	橋田 浩、大森 圭		

第10回	・下肢の徒手療法③ 膝関節の徒手療法 理論と実技(臨床推論、触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	橋田 浩、大森 圭		
第11回	・下肢の徒手療法④ 足関節の徒手療法 理論と実技(臨床推論、触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	橋田 浩、大森 圭		
第12回	・下肢の徒手療法⑤ 足部の徒手療法 理論と実技(臨床推論、触診、評価、モビライゼーション、ストレッチ、マッサージ等)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	橋田 浩、大森 圭		

第13回	脊柱の徒手療法① 脊柱の臨床推論、触診と評価・治療(腰椎、骨盤)を行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	橋田 浩、大森 圭		
第14回	脊柱の徒手療法② 脊柱の臨床推論、触診と評価・治療(頭部・頸部・胸椎)を 行う。	テキストの該当箇所を読み予習 をしておくこと 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	橋田 浩、大森 圭		
第15回	まとめ これまでの徒手療法技術についての確認テストを行う。	まとめのための予習をしておくこ と 90分	講義の復習と実技の練習をする 事90分
担当教員	橋田 浩、大森 圭		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	確認テスト(90%) 参加態度(10%)
その他	0	なし
教科書		
整形徒手理学療法 富雅男・砂川勇監修 医歯薬出版株式会社		
参考文献		

筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版 Donald A.Neumann 医歯薬出版株式会社

履修条件・留意事項等

必要資料は随時配布します。
実習科目につき、白衣、Tシャツ、短パンを用意してください。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		スポーツ領域理学療法学実習(1組)				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度後期	区分	実習	単位	1
担当教員	高田 雄一						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシー「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。(知識・技能)」「予防医療の観点から、健康の増進や維持、生涯にわたる心身の健康づくりに関して幅広いリハビリテーションを担うことができる(知識・技能)」と特に関係がある科目である。また「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる。(関心・意欲・態度)」のディプロマ・ポリシーと関係している。 理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけるための科目である。スポーツ領域の理学療法として、傷害、パフォーマンス改善に対するアプローチとして有用であるインソールとテーピング、関連領域の知識、技術について展開する。臨床的な実技授業であり、「整形外科学」、「運動器障害理学療法学」と関連し、「総合臨床実習」の基礎となる。							
授業の概要							
スポーツは一部の競技者だけにとどまらず、老若男女を問わず多くの人々が健康増進や楽しみなどの目的で広く行われている。しかしながらスポーツ傷害により理学療法の対象となるのが多いのもまた事実である。この授業では、スポーツ傷害の発生メカニズムを理解し、スポーツ傷害に対する適切な理学療法が実施できるよう、また、傷害予防目的で使用頻度の高いテーピングについても演習を通じて学習する。							
到達目標							

1. スポーツ領域の理学療法におけるインソールの意義を説明できる。
2. 足部から身体各分節に生じる運動連鎖を説明できる。
3. インソール作成の手順を説明できる。
4. 関節を安定させるために必要な基本的なテーピングの巻き方を説明することができる。
5. 代表的なスポーツ傷害に対するテーピングを実施することができる。

授業の方法

教員が手技の理論的な背景について解説しデモンストレーションを行う。その後、学生同士で実技練習を行う。

ICT活用

適宜、Google Classroomを活用し、授業資料や補助教材を配布する。

実務経験のある教員の教育内容

医療、スポーツ領域での理学療法士としての経験を活かし授業を行う。高田は陸上、馬術、バスケットボール、スキージャンプ競技など多くのスポーツ競技に対応できるオーダーメイドインソールを作製している。

課題に対するフィードバックの方法

授業中の課題に関して、その都度、解説や補足説明を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	歩行におけるインソールの役割1	歩行についての運動学を整理し、予習すること。(45分)	歩行についての運動学を復習すること。(15分)
担当教員	高田 雄一		
第2回	歩行におけるインソールの役割2	歩行についての運動学を整理し、予習すること。(45分)	歩行についての運動学を復習すること。(15分)
担当教員	高田 雄一		
第3回	姿勢歩行分析1	前足部および中足部、後足部の機能解剖を予習すること。(45分)	歩行における前足部および中足部の役割を復習すること。(15分)
担当教員	高田 雄一		

第4回	姿勢歩行分析2	姿勢評価について矢状面、前額面、水平面からの評価、足部採型について予習をすること。(45分)	姿勢評価について矢状面、前額面、水平面からの評価、足部採型について復習をすること。(15分)
担当教員	高田 雄一		
第5回	インソール作製1	歩行分析結果と足部採型からインソールの研磨について予習すること。(45分)	歩行分析結果と足部採型からインソールの研磨について復習すること。(45分)
担当教員	高田 雄一		
第6回	ウイミンズ・ヘルス領域の理学療法の実践について学ぶ。	講義内容に関連する項目について教科書を読んでおくこと。(45分)	講義で実施した実技について解剖学、運動学の観点から復習し、理解を深めること。(20分)
担当教員	高田 雄一		

第7回	膝関節の代表的なスポーツ傷害に対するテーピングを実施する。	講義内容に関連する項目について教科書を読んでおくこと。(45分)	講義で実施した実技について解剖学、運動学の観点から復習し、理解を深めること。(20分)
担当教員	高田 雄一		
第8回	アスリートのパフォーマンス評価について学ぶ。アスリートの身体評価からエクササイズ実践について学ぶ。	姿勢評価、体幹機能評価、歩行評価について予習を行う。(45分)	実際に行った評価、エクササイズの目的について復習を行う。(15分)
担当教員	高田 雄一		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への出席・参加態度等(40) 作製したインソール、テーピングの実技を総合的に評価する(60)
その他	0	なし
教科書		
入谷式足底板 基礎編 入谷 誠、運動と医学の出版社		
参考文献		
履修条件・留意事項等		

実技授業の際にはひざ下のだせる格好で参加すること。
靴底の擦り減っていない中敷きのとれる運動靴を用意すること。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		スポーツ領域理学療法学実習(2組)				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度後期	区分	実習	単位	1
担当教員	高田 雄一						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシー「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。(知識・技能)」「予防医療の観点から、健康の増進や維持、生涯にわたる心身の健康づくりに関して幅広いリハビリテーションを担うことができる(知識・技能)」と特に関係がある科目である。また「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる。(関心・意欲・態度)」のディプロマ・ポリシーと関係している。 理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけるための科目である。スポーツ領域の理学療法として、傷害、パフォーマンス改善に対するアプローチとして有用であるインソールとテーピング、関連領域の知識、技術について展開する。臨床的な実技授業であり、「整形外科学」、「運動器障害理学療法学」と関連し、「総合臨床実習」の基礎となる。							
授業の概要							
スポーツは一部の競技者だけにとどまらず、老若男女を問わず多くの人々が健康増進や楽しみなどの目的で広く行われている。しかしながらスポーツ傷害により理学療法の対象となるのが多いのもまた事実である。この授業では、スポーツ傷害の発生メカニズムを理解し、スポーツ傷害に対する適切な理学療法が実施できるよう、また、傷害予防目的で使用頻度の高いテーピングについても演習を通じて学習する。							
到達目標							

1. スポーツ領域の理学療法におけるインソールの意義を説明できる。
2. 足部から身体各分節に生じる運動連鎖を説明できる。
3. インソール作成の手順を説明できる。
4. 関節を安定させるために必要な基本的なテーピングの巻き方を説明することができる。
5. 代表的なスポーツ傷害に対するテーピングを実施することができる。

授業の方法

教員が手技の理論的な背景について解説しデモンストレーションを行う。その後、学生同士で実技練習を行う。

ICT活用

適宜、Google Classroomを活用し、授業資料や補助教材を配布する。

実務経験のある教員の教育内容

医療、スポーツ領域での理学療法士としての経験を活かし授業を行う。高田は陸上、馬術、バスケットボール、スキージャンプ競技など多くのスポーツ競技に対応できるオーダーメイドインソールを作製している。

課題に対するフィードバックの方法

授業中の課題に関して、その都度、解説や補足説明を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	歩行におけるインソールの役割1	歩行についての運動学を整理し、予習すること。(45分)	歩行についての運動学を復習すること。(15分)
担当教員	高田 雄一		
第2回	歩行におけるインソールの役割2	歩行についての運動学を整理し、予習すること。(45分)	歩行についての運動学を復習すること。(15分)
担当教員	高田 雄一		
第3回	姿勢歩行分析1	前足部および中足部、後足部の機能解剖を予習すること。(45分)	歩行における前足部および中足部の役割を復習すること。(15分)
担当教員	高田 雄一		

第4回	姿勢歩行分析2	姿勢評価について矢状面、前額面、水平面からの評価、足部採型について予習をすること。(45分)	姿勢評価について矢状面、前額面、水平面からの評価、足部採型について復習をすること。(15分)
担当教員	高田 雄一		
第5回	インソール作製1	歩行分析結果と足部採型からインソールの研磨について予習すること。(45分)	歩行分析結果と足部採型からインソールの研磨について復習すること。(45分)
担当教員	高田 雄一		
第6回	ウイミンズ・ヘルス領域の理学療法の実践について学ぶ。	講義内容に関連する項目について教科書を読んでおくこと。(45分)	講義で実施した実技について解剖学、運動学の観点から復習し、理解を深めること。(20分)
担当教員	高田 雄一		

第7回	膝関節の代表的なスポーツ傷害に対するテーピングを実施する。	講義内容に関連する項目について教科書を読んでおくこと。(25分)	講義で実施した実技について解剖学、運動学の観点から復習し、理解を深めること。(20分)
担当教員	高田 雄一		
第8回	アスリートのパフォーマンス評価について学ぶ。アスリートの身体評価からエクササイズ実践について学ぶ。	姿勢評価、体幹機能評価、歩行評価について予習を行う。(45分)	実際に行った評価、エクササイズの目的について復習を行う。(15分)
担当教員	高田 雄一		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	実施しない	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業への出席・参加態度等(40) 作製したインソール、テーピングの実技を総合的に評価する(60)
その他	0	なし
教科書		
入谷式足底板 基礎編 入谷 誠、運動と医学の出版社		
参考文献		
なし		
履修条件・留意事項等		

実技授業の際にはひざ下のだせる格好で参加すること。
靴底の擦り減っていない中敷きのとれる運動靴を用意すること。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		トレーニング・コンディショニング理学療法学実習(1組)				ナンバリング	3534
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	実習	単位	1
担当教員	大森 圭、原 清和						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」、また初年次教育の一環として「予防医療の観点から、健康の増進や維持、生涯にわたる心身の健康づくりに関して幅広いリハビリテーションを担うことができる(知識・技能)」と特に関連のある科目である。							

- ・トレーニングの理論を理解する
- ・コンディショニングの理論を理解する
- ・マッサージの理論と実技を習得する
- ・Redcordの概念を理解する
- ・Redcordの機能評価(Weak Link)を理解する
- ・Redcordの基本的使用方法がマスターできる
- ・Redcordの臨床応用を理解することができる

授業の方法

配布資料、パワーポイント、テキストによる説明と講義、デモンストレーション、各回の実技とその応用を小グループで行う。

ICT活用

確認小テストや、必要に応じてオンラインでの講義を行う。

実務経験のある教員の教育内容

両教員とも総合病院および整形外科での勤務経験があり、理学療法とredcoredの幅広い知識と臨床経験および最新の知見を有しており、これらを活かした講義と実技について指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

実技巡回にて個別にフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	・トレーニングの理論① 理論と背景について	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		
第2回	・トレーニングの理論② 運動処方について	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		
第3回	・コンディショニングの理論 ストレッチング理論、リラクゼーションについて	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		

第4回	・マッサージの理論と実技① 西洋医学のマッサージと東洋医学のマッサージについて	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		
第5回	・マッサージの理論と実技② フリクション&ファンクショナル・マッサージおよびあん摩・指圧の実技を行う	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		
第6回	Redcordの理論と実技① Redcordの背景と適応範囲について	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		

第7回	•Redcordの理論と実技② - Redcordにおける生体力学的原理および体幹深部安定化筋群機能について	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		
第8回	•Redcordの理論と実技③ - 機能評価の方法(Weak Link) OKC (開放性運動連鎖)とCKC(閉鎖性運動連鎖)について	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		
第9回	•Redcordの理論と実技④ - 感覚-運動機能および段階的漸増運動負荷について	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		

第10回	•Redcordの理論と実技⑤ 運動(筋・骨格)器疾患に対するアプローチの実際を学ぶ	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		
第11回	•Redcordの理論と実技⑥ 高齢者、小児に対するアプローチおよびアスリートに対するアプローチの実際を学ぶ	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		
第12回	•Redcordの理論と実技⑦ Redcordの使用方法和注意事項を学ぶ	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		

第13回	•Redcordの理論と実技⑧ 応用実技Ⅰ リラクゼーション、Helping Hand を学ぶ	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		
第14回	•Redcordの理論と実技⑨ 応用実技Ⅱ 様々な治療手技への応用を学ぶ	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	原 清和		
第15回	•Redcordの理論と実技⑩ 応用実技Ⅲ 予防、トレーニング、グループエクササイズ まとめ	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	原 清和		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	参加態度、課題を総合的に判断する
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		

なし

履修条件・留意事項等

実技を行うので、運動しやすい服装に着替えて出席すること

備考欄

都度必要な資料を配布します。

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 理学療法治療学					
科目名		トレーニング・コンディショニング理学療法学実習(2組)				ナンバリング	3534
配当年次	1年	開講学期	2026年度前期	区分	実習	単位	1
担当教員	大森 圭、原 清和						
授業の位置づけ							
ディプロマポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」、また初年次教育の一環として「予防医療の観点から、健康の増進や維持、生涯にわたる心身の健康づくりに関して幅広いリハビリテーションを担うことができる(知識・技能)」と特に関連のある科目である。							

- ・トレーニングの理論を理解する
- ・コンディショニングの理論を理解する
- ・マッサージの理論と実技を習得する
- ・Redcordの概念を理解する
- ・Redcordの機能評価(Weak Link)を理解する
- ・Redcordの基本的使用方法がマスターできる
- ・Redcordの臨床応用を理解することができる

授業の方法

配布資料、パワーポイント、テキストによる説明と講義、デモンストレーション、各回の実技とその応用を小グループで行う。

ICT活用

確認小テストや、必要に応じてオンラインでの講義を行う。

実務経験のある教員の教育内容

両教員とも総合病院および整形外科での勤務経験があり、理学療法とredcoredの幅広い知識と臨床経験および最新の知見を有しており、これらを活かした講義と実技について指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

実技巡回にて個別にフィードバックする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	・トレーニングの理論① 理論と背景について	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		
第2回	・トレーニングの理論② 運動処方について	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		
第3回	・コンディショニングの理論 ストレッチング理論、リラクゼーションについて	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		

第4回	・マッサージの理論と実技① 西洋医学のマッサージと東洋医学のマッサージについて	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		
第5回	・マッサージの理論と実技② フリクション&ファンクショナル・マッサージおよびあん摩・指圧の実技を行う	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		
第6回	Redcordの理論と実技① Redcordの背景と適応範囲について	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		

第7回	- Redcordの理論と実技② - Redcordにおける生体力学的原理および体幹深部安定化筋群機能について	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		
第8回	- Redcordの理論と実技③ - 機能評価の方法(Weak Link) OKC (開放性運動連鎖)とCKC(閉鎖性運動連鎖)について	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		
第9回	- Redcordの理論と実技④ - 感覚-運動機能および段階的漸増運動負荷について	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		

第10回	•Redcordの理論と実技⑤ 運動(筋・骨格)器疾患に対するアプローチの実際を学ぶ	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		
第11回	•Redcordの理論と実技⑥ 高齢者、小児に対するアプローチおよびアスリートに対するアプローチの実際を学ぶ	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		
第12回	•Redcordの理論と実技⑦ Redcordの使用方法和注意事項を学ぶ	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		

第13回	•Redcordの理論と実技⑧ 応用実技Ⅰ リラクゼーション、Helping Hand を学ぶ	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	大森 圭		
第14回	•Redcordの理論と実技⑨ 応用実技Ⅱ 様々な治療手技への応用を学ぶ	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	原 清和		
第15回	•Redcordの理論と実技⑩ 応用実技Ⅲ 予防、トレーニング、グループエクササイズ まとめ	項目の予習をしておくこと(90分)	講義の復習と実技の練習をする事(90分)
担当教員	原 清和		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は行わない。
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	参加態度、課題を総合的に判断する
その他	0	なし
教科書		
なし		
参考文献		

なし
履修条件・留意事項等
実技を行うので、運動しやすい服装に着替えて出席すること
備考欄
都度必要な資料を配布します。

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 地域理学療法学					
科目名		高齢者理学療法学				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	佐々木 幸子						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」ことと特に 関係がある科目である。また、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる(関心・意欲・態度)」こととも関係する。加齢による生理的変化や高齢者が抱える精神のおよび身体的問題点を把握した上で理学療法を考える科目であり、様々な疾患学や「老年医学」と関連し、「地域理学療法学」や「地域理学療法学演習」などの基礎となる。

授業の概要

高齢者の100年ライフを見越して、加齢による身体面、精神面、情緒面の変化および高齢者の障害および合併症について理解するとともに、高齢者に対する運動器系、中枢神経系、呼吸・循環器系疾患に対する理学療法評価および治療プログラムの立案、治療の実施法について学習する。

到達目標

- ・高齢者の身体的・精神的・情緒的特徴を説明できる。
- ・高齢者の身体機能、生活機能、認知機能に対する評価法を理解し、実施することができる。
- ・高齢者に対する理学療法の実施法およびリスク管理法について理解し、実施することができる。

授業の方法

教科書を用いるが、適宜、参考資料となるプリントを用いて、講義形式ですすめる。また、小テストを実施し、内容の確認を行う。

ICT活用

Google Form のアンケート作成機能を用いて双方向授業を取り入れる。

実務経験のある教員の教育内容

理学療法士として病院及び介護老人保健施設に勤務した経験を活かし、多様な問題を抱える高齢者に対する理学療法について授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

フィードバックとして小テストを回収後、解答の解説を行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	高齢者の身体・精神機能の特性およびサルコペニア、フレイルについて理解する。	教科書第1章-1を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第2回	加齢に伴う生理機能、体力、姿勢、歩行機能、認知機能の変化について理解する。	教科書第1章-2を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第3回	高齢者の筋量、筋力、サルコペニアの評価法について理解する。	教科書第2章を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			

第4回	高齢者の持久力、バランス能力、姿勢、歩行能力、身体活動、認知機能の評価法について理解する	教科書第2章を事前に読んでおくこと。また、小テストに備えて復習をしておくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第5回	高齢者に対する筋力トレーニングについて、その基礎理論と実際を理解する。また、1～4回目の内容について理解度確認のため時間内に小テストを行う。	教科書第3章-1を事前に読んでおくこと(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第6回	高齢者に対するバランス、持久力・歩行トレーニングについて理解する。高齢者の身体活動促進に対するアプローチについて理解する。	教科書第3章2-4章を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			

第7回	高齢者の転倒・骨折予防について理解する。	教科書第3章-5を事前に読んでおくこと。またまとめのテストに備えて復習しておくこと(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
第8回	高齢者に対する運動および理学療法のエビデンスについて理解する。授業の最後に理解度確認のため、まとめのテストを実施する。	教科書第4章を事前に読んでおくこと。(90分)	授業内容についてノートにまとめること。(90分)
担当教員			
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0	なし	

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	授業内で実施する小テスト(40%) まとめのテスト(50%) 授業への参加態度(10%)により評価する。
その他	0	なし
教科書		
Crosslink 理学療法学テキスト 高齢者理学療法学／池添冬芽編／MEDICAL VIEW		
参考文献		
老人のリハビリテーション第8版／福井 圀彦監修／医学書院		
履修条件・留意事項等		

なし

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 地域理学療法学					
科目名		地域理学療法学				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度前期	区分	講義	単位	1
担当教員	水本 淳、横井 裕一郎						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる」、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている」と特に関係がある科目である。また「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている」、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる」、「科学的根拠に基づいた理学療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている」こととも関係する。本科目は「高齢者理学療法学」と関連し、「地域理学療法学演習」の基礎となる。							
授業の概要							
地域リハビリテーションについて理解を深め、理学療法の役割や考え方、方法を学ぶ。 在宅障害者(児)や高齢者・療養者のニーズの実情を理解し、地域・在宅における理学療法の展開に向けて、退院時のあり方、医療関係以外の施設リハ、通院・通所指導、訪問指導、介護予防などの考え方と方法について学習する。							
到達目標							

- ・地域リハビリテーションの概念や具体的内容について説明できる。
- ・急性期・回復期・生活期・終末期リハビリテーションの各時期に渡って理学療法士の役割を説明できる。
- ・入所・通所・訪問における理学療法について説明できる。
- ・地域包括ケアシステムの展開を述べることができる。

授業の方法

- ・パワーポイントと資料を用いた講義形式で進める。
- ・毎回、授業の理解度確認のため小テストを実施する。
- ・初回と最終回は、事前事後の学習の取り組みのためにレポートを実施する。

ICT活用

- ・Google classroomやGoogle Formを用いて、課題やアンケートを行い、双方向授業を取り入れる。
- ・必要に応じて、オンデマンドやオンライン等での授業展開を検討する。

実務経験のある教員の教育内容

水本は理学療法士として、これまで臨床・研究、行政職の経験があり、地域リハビリテーションについて幅広い知識を有している。この経験を活かして地域理学療法に関する授業を行う。

課題に対するフィードバックの方法

- ・アクティブラーニングとして小テストを実施し、実施後には、解答・解説を行い知識を深める。
- ・小テストの最後に質問事項の記述欄を設け、次回の授業時に回答する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	講義ガイダンス 日本の人口推移に伴う地域課題と社会保障制度の概略を学習する。 国際支援および災害時の理学療法について学習する。	社会保障制度について、直近の社会情勢や新聞記事、インターネット等で最新の情報を把握しておくこと。教科書のP1～P12、P42を読んでおくこと(90分)。	資料と小テストを復習しておくこと(90分)。
担当教員	水本 淳		
第2回	地域理学療法とは何か、地域リハビリテーションの概念・歴史・定義を学び、介護保険法と障害者総合支援法の仕組みについて学習する。	教科書のP1～P12、P27～P41を読んでおくこと(90分)。	資料と小テストを復習しておくこと(90分)。
担当教員	水本 淳		
第3回	地域包括ケアシステムの中で地域リハビリテーションにかかわるリハビリテーション専門職種に求められる役割、関連職種の専門性を理解し、多職種連携の重要性について学習する。	教科書のP13～P25を読んでおくこと(90分)。	資料と小テストを復習しておくこと(90分)。
担当教員	水本 淳		

第4回	地域理学療法の展開Ⅰ 急性期、回復期、生活期、終末期における国際生活機能分類(ICF)モデルの考え方、利用者ニーズの捉え方を学習する(ゲスト講師:櫻田先生)。	国際生活機能分類(ICF)について、配布資料やインターネットからその内容を読んでおくこと。教科書のP57～P68を読んでおくこと(90分)。	資料と小テストを復習しておくこと(90分)。
担当教員	水本 淳		
第5回	地域理学療法の展開Ⅱ 介護保険サービス下での施設サービス(介護老人保健施設、介護老人福祉施設)、居宅サービス(訪問リハビリテーション、通所リハビリテーション、通所介護、短期入所療養介護など)、障害福祉サービス下での自立支援給付(生活介護、施設入所支援、短期入所、就労移行・継続支援など)について地域資源の実際と理学療法士の役割を学習する(ゲスト講師:櫻田先生)。	教科書のP69～P94を読んでおくこと(90分)。	資料と小テストを復習しておくこと(90分)。
担当教員	水本 淳		
第6回	地域理学療法の展開Ⅲ 介護予防と健康増進についての基本的概念と実際の理学療法士の取り組みについて学習する。 スポーツ活動支援および産業分野における理学療法について学習する。	教科書のP26、P179～192を読んでおくこと(90分)。	資料と小テストを復習しておくこと(90分)。
担当教員	水本 淳		

第7回	地域理学療法の展開Ⅳ 認知症について疾病分類や特徴的な症状を理解し、事例における対応方法について学習する。また、終末期や緩和ケアにおける理学療法士の関わりについて学習する。	教科書のP95～P107、P153～P164を読んでおくこと(90分)。	資料と小テストを復習しておくこと(90分)。
担当教員	水本 淳		
第8回	地域理学療法の展開Ⅴ 学校保健および特別支援教育における理学療法を学び、北海道内の療育状況について学習する。 「地域理学療法」から学んだことを整理し、理学療法と地域との関連性について自ら考える。	教科書のP165～P178を読んでおくこと。 これまで学んだことをノートに整理すること(90分)。	資料と小テストを復習しておくこと(90分)。
担当教員	横井 裕一郎		
成績評価の方法			
区分	割合(%)	内容	
定期試験	0		

定期試以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	小テスト・レポート等(60%) 受講態度・意欲、参加度、発表等(40%)
その他	0	
教科書		
地域理学療法学第2版／医歯薬出版株式会社		
参考文献		
地域リハビリテーション原論 Ver.9／大田仁史／医歯薬出版 新版訪問リハビリテーション実践テキスト／青海社		
履修条件・留意事項等		

講義毎に小テストを実施するので遅刻、欠席しないこと。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 地域理学療法学					
科目名		地域理学療法学演習(1組)				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	水本 淳、櫻田 周						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている」と特に関係がある科目である。また「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている」、「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる」、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる」、「科学的根拠に基づいた理学療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている」こととも関係する。地域理学療法学で学んだ知識を演習形式で学習する。							
授業の概要							
地域リハビリテーションに関連する制度や社会の実態を調査し、また、地域ケアを支援する各種の制度やサービスの利用法、福祉用具等の利用法、関連職種との連携についてグループワークを中心とした演習を行う。							
到達目標							

- ・地域社会への関心を高め、地域リハビリテーション活動における理学療法士の活動と役割を説明できる。
- ・更にグループワークを通じ、議論の展開を体得できる。
- ・演習を通じて、コミュニケーション能力を高めることができる。

授業の方法

教科書と配布資料を用いた講義と学外の実態調査およびグループ学習、ディスカッション、プレゼンテーションの形式で実施する。

ICT活用

- ・Google classroomやGoogle Formを用いて、課題やアンケートを行い、双方向授業を取り入れる。
- ・必要に応じて、オンデマンドやオンライン等での授業展開を検討する。

実務経験のある教員の教育内容

水本、櫻田は理学療法士として、これまでの臨床・研究の経験を活かして講義・指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に適宜、質問を受け付けたり、ディスカッションを通じてフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	講義ガイダンス 本演習における教育目標、スケジュール、諸注意などについて説明。学生のグループ分け。 グループワークⅠ 多種多様な福祉用具・機器の見学及び体験学習を通じて、理学療法士の視野を広める。社会資源の活用を体得し、連携の重要性を理解する。 連携先の事業所と課題解決型の授業としてアクティブラーニングを実施する。	福祉用具等について調べておくこと(30分)。	疑問点等を調べること(30分)
担当教員	水本 淳		
第2回	グループワークⅠ 多種多様な福祉用具・機器の見学及び体験学習を通じて、理学療法士の視野を広める。社会資源の活用を体得し、連携の重要性を理解する。 連携先の事業所と課題解決型の授業としてアクティブラーニングを実施する。	福祉用具等について調べておくこと(30分)。	疑問点等を調べること(30分)
担当教員	水本 淳		
第3回	グループワークⅠ 多種多様な福祉用具・機器の見学及び体験学習を通じて、理学療法士の視野を広める。社会資源の活用を体得し、連携の重要性を理解する。 連携先の事業所と課題解決型の授業としてアクティブラーニングを実施する。	福祉用具等について調べておくこと(30分)。	疑問点等を調べること(30分)
担当教員	水本 淳		

第4回	グループワークⅡ 各グループに与えられた「学外実習Ⅰ」の課題を整理し、行動計画を立てる。 社会環境の調査を通じて、地域社会の現状と課題を知ると共に地域リハビリテーションの視点及び実践力を養う。	参考文献等を読んでおくこと(30分)。	学外実習Ⅰの情報を整理しておくこと(30分)。
担当教員	水本 淳		
第5回	学外実習Ⅰ 社会環境の調査を通じて、地域社会の現状と課題を知ると共に地域リハビリテーションの視点及び実践力を養う。 グループワークⅡ 学外実習Ⅰで調査した内容を各グループでまとめる。	参考文献等を読んでおくこと(30分)。	学外実習Ⅰの情報を整理しておくこと(30分)。
担当教員	水本 淳		
第6回	グループワークⅡ 学外実習Ⅰで調査した内容を各グループでまとめる。 グループワークⅡのまとめを発表し、討議する。	参考文献等を読んでおくこと(30分)。	学外実習Ⅰの情報を整理しておくこと(30分)。
担当教員	水本 淳		

第7回	グループワークⅢ 認知症基本法および認知症予防について学習し、コグニサイズの定義について理解する。 グループごとにオリジナルのコグニサイズを作成する。	参考文献等を読んでおくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	水本 淳		
第8回	グループワークⅢ グループごとにオリジナルのコグニサイズを作成する。	参考文献等を読んでおくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	水本 淳		
第9回	グループ発表 「グループワークⅢ」のまとめを発表し、実施する。	参考文献等を読んでおくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	水本 淳		

第10回	グループワークⅣ 事例検討:各グループにおいて事例の情報を整理し、家屋評価を行う。 事例検討:各グループにおいて事例の情報を整理し、リハビリテーション実施計画書を作成する	理学療法評価の復習をしておくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	櫻田 周		
第11回	グループワークⅣ 事例検討:各グループにおいて事例の情報を整理し、家屋評価を行う。 事例検討:各グループにおいて事例の情報を整理し、リハビリテーション実施計画書を作成する	理学療法評価の復習をしておくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	櫻田 周		
第12回	グループワークⅣ 事例検討:各グループにおいて事例の情報を整理し、家屋評価を行う。 事例検討:各グループにおいて事例の情報を整理し、リハビリテーション実施計画書を作成する	理学療法評価の復習をしておくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	櫻田 周		

第13回	グループワークⅤ 事例検討:各グループにおいて事例の情報を整理し、リハビリテーション実施計画書を作成する。	グループワークⅣの情報を整理しておくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	櫻田 周		
第14回	グループ発表 「グループワークⅤ」のまとめを発表し、討議する。	グループワークⅣの情報を整理しておくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	櫻田 周		
第15回	グループ発表 「グループワークⅤ」のまとめを発表し、討議する。	グループワークⅣの情報を整理しておくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	櫻田 周		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題レポート・発表等(60%) 参加度、受講態度・意欲(40%)
その他	0	
教科書		
地域理学療法学第2版／医歯薬出版株式会社		
参考文献		

地域リハビリテーション原論 Ver.9／大田仁史／医歯薬出版
新版訪問リハビリテーション実践テキスト／青海社

履修条件・留意事項等

講義ガイダンスには必ず出席すること。学外実習の交通費、入場料等は自己負担です。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 地域理学療法学					
科目名		地域理学療法学演習(2組)				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度後期	区分	演習	単位	1
担当教員	水本 淳、櫻田 周						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている」と特に関係がある科目である。また「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている」、「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる」、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる」、「科学的根拠に基づいた理学療法の実践のために必要な問題探求力と問題解決思考を身につけている」こととも関係する。地域理学療法学で学んだ知識を演習形式で学習する。

授業の概要

地域リハビリテーションに関連する制度や社会の実態を調査し、また、地域ケアを支援する各種の制度やサービスの利用法、福祉用具等の利用法、関連職種との連携についてグループワークを中心とした演習を行う。

到達目標

- ・地域社会への関心を高め、地域リハビリテーション活動における理学療法士の活動と役割を説明できる。
- ・更にグループワークを通じ、議論の展開を体得できる。
- ・演習を通じて、コミュニケーション能力を高めることができる。

授業の方法

教科書と配布資料を用いた講義と学外の実態調査およびグループ学習、ディスカッション、プレゼンテーションの形式で実施する。

ICT活用

- ・Google classroomやGoogle Formを用いて、課題やアンケートを行い、双方向授業を取り入れる。
- ・必要に応じて、オンデマンドやオンライン等での授業展開を検討する。

実務経験のある教員の教育内容

水本、櫻田は理学療法士として、これまでの臨床・研究の経験を活かして講義・指導を行う。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に適宜、質問を受け付けたり、ディスカッションを通じてフィードバックを行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	講義ガイダンス 本演習における教育目標、スケジュール、諸注意などについて説明。学生のグループ分け。 グループワークⅠ 多種多様な福祉用具・機器の見学及び体験学習を通じて、理学療法士の視野を広める。社会資源の活用を体得し、連携の重要性を理解する。 連携先の事業所と課題解決型の授業としてアクティブラーニングを実施する。	福祉用具等について調べておくこと(30分)。	疑問点等を調べること(30分)
担当教員	水本 淳		
第2回	グループワークⅠ 多種多様な福祉用具・機器の見学及び体験学習を通じて、理学療法士の視野を広める。社会資源の活用を体得し、連携の重要性を理解する。 連携先の事業所と課題解決型の授業としてアクティブラーニングを実施する。	福祉用具等について調べておくこと(30分)。	疑問点等を調べること(30分)
担当教員	水本 淳		
第3回	グループワークⅠ 多種多様な福祉用具・機器の見学及び体験学習を通じて、理学療法士の視野を広める。社会資源の活用を体得し、連携の重要性を理解する。 連携先の事業所と課題解決型の授業としてアクティブラーニングを実施する。	福祉用具等について調べておくこと(30分)。	疑問点等を調べること(30分)
担当教員	水本 淳		

第4回	グループワークⅡ 各グループに与えられた「学外実習Ⅰ」の課題を整理し、行動計画を立てる。 社会環境の調査を通じて、地域社会の現状と課題を知ると共に地域リハビリテーションの視点及び実践力を養う。	参考文献等を読んでおくこと(30分)。	学外実習Ⅰの情報を整理しておくこと(30分)。
担当教員	水本 淳		
第5回	学外実習Ⅰ 社会環境の調査を通じて、地域社会の現状と課題を知ると共に地域リハビリテーションの視点及び実践力を養う。 グループワークⅡ 学外実習Ⅰで調査した内容を各グループでまとめる。	参考文献等を読んでおくこと(30分)。	学外実習Ⅰの情報を整理しておくこと(30分)。
担当教員	水本 淳		
第6回	グループワークⅡ 学外実習Ⅰで調査した内容を各グループでまとめる。 グループワークⅡのまとめを発表し、討議する。	参考文献等を読んでおくこと(30分)。	学外実習Ⅰの情報を整理しておくこと(30分)。
担当教員	水本 淳		

第7回	グループワークⅢ 認知症基本法および認知症予防について学習し、コグニサイズの定義について理解する。 グループごとにオリジナルのコグニサイズを作成する。	参考文献等を読んでおくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	水本 淳		
第8回	グループワークⅢ グループごとにオリジナルのコグニサイズを作成する。	参考文献等を読んでおくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	水本 淳		
第9回	グループ発表 「グループワークⅢ」のまとめを発表し、実施する。	参考文献等を読んでおくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	水本 淳		

第10回	グループワークⅣ 事例検討:各グループにおいて事例の情報を整理し、家屋評価を行う。 事例検討:各グループにおいて事例の情報を整理し、リハビリテーション実施計画書を作成する	理学療法評価の復習をしておくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	櫻田 周		
第11回	グループワークⅣ 事例検討:各グループにおいて事例の情報を整理し、家屋評価を行う。 事例検討:各グループにおいて事例の情報を整理し、リハビリテーション実施計画書を作成する	理学療法評価の復習をしておくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	櫻田 周		
第12回	グループワークⅣ 事例検討:各グループにおいて事例の情報を整理し、家屋評価を行う。 事例検討:各グループにおいて事例の情報を整理し、リハビリテーション実施計画書を作成する	理学療法評価の復習をしておくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	櫻田 周		

第13回	グループワークⅤ 事例検討:各グループにおいて事例の情報を整理し、リハビリテーション実施計画書を作成する。	グループワークⅣの情報を整理しておくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	櫻田 周		
第14回	グループ発表 「グループワークⅤ」のまとめを発表し、討議する。	グループワークⅣの情報を整理しておくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	櫻田 周		
第15回	グループ発表 「グループワークⅤ」のまとめを発表し、討議する。	グループワークⅣの情報を整理しておくこと(30分)。	グループワークのまとめを復習しておくこと(30分)。
担当教員	櫻田 周		
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	課題レポート・発表等(60%) 参加度、受講態度・意欲(40%)
その他	0	
教科書		
地域理学療法学第2版／医歯薬出版株式会社		
参考文献		

地域リハビリテーション原論 Ver.9／大田仁史／医歯薬出版
新版訪問リハビリテーション実践テキスト／青海社

履修条件・留意事項等

講義ガイダンスには必ず出席すること。学外実習の交通費、入場料等は自己負担です。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 臨床実習					
科目名		臨床実習Ⅰ(見学実習)				ナンバリング	3701
配当年次	1年	開講学期	2026年度後期	区分	実習	単位	1
担当教員	柴田 恵理子、松田 直樹						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている」、「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる」、および「臨床場面や研究において状況の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけている」と特に関係があり、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている」、「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている」、および「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる」ことにも関連する。初年次教育の一環として、他の職種との協力関係を築く能力や、理学療法対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動する能力を身につけるための科目である。 理学療法場面の見学の中から、理学療法の業務内容、役割、対象者について理解を深める。前期に学習した「理学療法概論」「リハビリテーション概論」「解剖学Ⅰ」「生理学Ⅰ」と関連し、後期の「解剖学Ⅱ」「生理学Ⅱ」「運動学Ⅰ」「理学療法評価学Ⅰ」「基礎解剖学実習」など専門基礎科目、専門科目、3年次の「臨床実習Ⅲ」の基礎となる。							
授業の概要							
理学療法の実務的な視点で初めて病院・施設あるいは患者に接する機会であり、早期体験としての意義を持っている。臨床実習指導者をはじめ関係スタッフとの関わりの中で、理学療法士の業務や活動についての初歩的な理解を得ることに主眼をおいている。さらに患者を通して障害および障害者に理解を深め、リハビリテーションおよび理学療法が臨床的に果たす役割を認識することを目的とする。							
到達目標							

- ・理学療法対象者を尊重し、共感的態度をもって、より良い・善い人間関係を構築できる
- ・職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員としての自覚ある言動をとることができる

授業の方法

- ・事前オリエンテーション、実習前講義を通して実習への準備を行う
- ・学生それぞれが、学外実習施設(病院、施設など)にて理学療法場面を見学する
- ・毎日、ポートフォリオに見学した内容と自己学習(不明なことは教科書等を使用して調べる)、感想等を記載して、実習指導者に提出する
- ・チェックリストを用いて学習段階を確認する
- ・サマリーシート(報告書)を作成し、大学に提出する
- ・サマリーシートを使用してアドバイザー教員、学生へ実習成果を報告する

ICT活用

- ・実習前オリエンテーション、講義は状況に応じてオンデマンド授業で行う
- ・必要に応じてスライドに音声吹き込んだ動画をGoogle Classroomにアップし学生が活用できるようにする

実務経験のある教員の教育内容

該当なし

課題に対するフィードバックの方法

実習報告会の中での学生からの質問、アドバイザー教員からの指導、アドバイスとする。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	実習前オリエンテーション ・実習の目的、注意事項の説明 ・実習の歩み、ポートフォリオの説明 ・実習の目標設定 ・学生紹介書の作成 ・服装髪型チェック ・実習施設への電話連絡の説明	シラバスで実習日程、実習内容について確認しておくこと。 臨床実習チェックリストの第1章、第2章を読んでおくこと(120分)	配付資料を見直すこと(30分)
担当教員	柴田 恵理子、松田 直樹		
第2回	実習前講義および実習前試験 ・医療人としてのマナー講座 ・身体部位、姿勢の名称 ・専門用語、装具の説明 ・デイリーノート、チェックリスト、サマリーシートの説明 ・実習に関する理解度確認のテスト	理学療法評価学の教科書、臨床実習チェックリスト、配付資料を見直し、持参すること(60分)	配付資料を見直すこと(90分)
担当教員	柴田 恵理子、松田 直樹		
第3回	臨床実習Ⅰ:2026年8月31日(月)～9月4日(金)(実習施設によっては6日土曜日までの実習、日程に変更の可能性あり) 1.学生は実習指導者または他の理学療法士と一緒に行動することを基本とし、理学療法業務の「見学」または「協同参加」によって理学療法について学習する 2.実習オリエンテーション(施設見学、施設概要の説明、実習全体の流れ、実習中の注意点、実習生自身が立てた「実習目標」の共有など)を実施する 3.対象者や家族とのコミュニケーションの取り方、接し方を学習する 4.「見学」または「協同参加」した対象者の疾患・障害の特徴を調べる 5.理学療法場面の他に作業療法、言語療法、病棟などを見学する 6.多職種とのカンファレンス、院内学習会などへ参加する 7.チェックリストを用いて実習指導者と共同して作成する 8.学生はポートフォリオを作成し、実習指導者の確認・指導を受ける	実習施設へ持参物の確認、配付資料、実習の手引きの熟読、チェックリスト、デイリーノートを確認すること(90分)	見学した内容をデイリーノートに記載し、自己学習資料と合わせてポートフォリオにファイリングすること(90分)
担当教員	柴田 恵理子、松田 直樹		

第4回	実習報告会の実施(日程未定) ・実習終了後、報告会にむけて、見学した内容について図書館等で調べた上で実習サマリーシートを作成・提出し、報告会を行う ・実習後の提出物: ポートフォリオ、チェックシート、臨床実習Ⅰサマリーシート、実習の歩み、お礼状 ・実習報告会終了後、サマリーシートを修正して完成させ全員再提出する	実習報告会に向け、見学した内容の要点をまとめ、発表する練習をしておくこと。報告会での提出物を確認すること(90分)	他学生の発表、サマリーシートを見直したり、質問、アドバイスを参考にサマリーシートを修正し再提出する(90分)
担当教員	柴田 恵理子、松田 直樹		
第5回			
担当教員			
第6回			
担当教員			

第7回			
担当教員			
第8回			
担当教員			
第9回			
担当教員			

第10回			
担当教員			
第11回			
担当教員			
第12回			
担当教員			

第13回			
担当教員			
第14回			
担当教員			
第15回			
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	・実習前試験、実習報告会およびポートフォリオの内容(70%) ・臨床実習における到達度(30%)
その他	0	
教科書		
①PT臨床実習チェックリスト, 青木主税 編集, メディカルビュー ②理学療法評価学, 松澤正 著, 金原出版		
参考文献		

必要に応じて資料を配付する

履修条件・留意事項等

オリエンテーション、実習前試験、実習、実習報告会の遅刻・欠席は原則認めない

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 臨床実習					
科目名		臨床実習Ⅱ(訪問・通所)				ナンバリング	
配当年次	2年	開講学期	2026年度後期	区分	実習	単位	1
担当教員	水本 淳、佐々木 幸子						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる(関心・意欲・態度)」、「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている(知識・技能)」、「臨床場面や研究において状況の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけている(思考・判断・表現)」と特に関係がある科目である。また、「理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけている(知識・技能)」こととも関係する。							

- 1) 対象者(および家族)の生活特性について理解し、説明できる。
- 2) 対象者(および家族)や関係者に対して適切なコミュニケーションをとることができる。
- 3) 各事業所で提供しているサービス内容の特徴を理解し説明できる。
- 4) 理学療法士及び他の医療従事者の業務内容と役割を理解して説明できる。
- 5) 対象者のニーズを理解することができる。
- 6) 地域における多職種との連携を理解し、説明できる。
- 7) 関係する保険制度について調べて、示すことができる。
- 8) 学内での報告会で上記について報告し、ディスカッションすることができる。

授業の方法

実際に実習施設に行き、見学する。
また、実習前の学習、サマリーを用いた実習後の報告会を行う。

ICT活用

実習前、実習中の指導として、必要に応じてzoomやGoogle classroomを使用した遠隔指導を行う。

実務経験のある教員の教育内容

担当教員2名は現場での実務経験を有する。

課題に対するフィードバックの方法

実習中はデイリーノートおよびポートフォリオの提出を行う。こちらは実習指導者が主に指導する。
実習前学習は担当教員による課題提案や試験を実施し、それに対する指導を行う。
また、報告会についてはグループディスカッション形式にて実施し、報告会後の指導は担当教員とアドバイザー教員が行う。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	実習前学習(水本・佐々木) 本実習に必要な知識について講義および試験を実施する。	事前配布資料を予習すること。(60分)	実習前学習で提案する課題について学習すること。(60分)
担当教員			
第2回	臨床実習(水本・佐々木) 訪問・通所リハビリテーションを見学する。 12月7日～12月11日の5日間。 実習施設の配置については、事前に学生に公表する。	実習に必要な知識を予習すること。 実習地への交通機関を調べること。また、施設の特徴に合わせた事前学習を行うこと。(60分)	見学した内容、不明な点を教科書、文献で調べ、デイリーノートに記載すること。(60分)
担当教員			
第3回	実習後学習(水本・佐々木) 実習終了時にサマリーシートを作成し、グループディスカッション形式の報告会を実施する。 サマリーシートは、 1) 各事業所で提供しているサービス内容の特徴 2) 対象者の疾患・障害の特徴 3) 対象者のニーズ 4) 生活場面における理学療法の役割 5) 対象者に関連する多職種連携 6) 見学から学んだこと 7) 実習を通じ学んだこと について理解を深めることを目的に作成する。	サマリーシートを作成し、規定時間で発表できるよう準備を行うこと。(60分)	他者の報告内容を聞き、学んだことを整理すること。報告会で受けた指摘を踏まえ、サマリーシートを修正すること。(60分)
担当教員			

第4回			
担当教員			
第5回			
担当教員			
第6回			
担当教員			

第7回			
担当教員			
第8回			
担当教員			
第9回			
担当教員			

第10回			
担当教員			
第11回			
担当教員			
第12回			
担当教員			

第13回			
担当教員			
第14回			
担当教員			
第15回			
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	実習地成績(30%)及び実習前後の学内成績(70%)で評価する。 ※成績には、出席態度、参加態度、試験結果、報告会の発表内容等を含むものとする。
その他	0	
教科書		
特になし		
参考文献		

必要資料については事前配布する

履修条件・留意事項等

実習前学習、実習前オリエンテーションは原則、全出席とする。
 正当な理由のない欠席の場合は、実習中止とする。
 実習後学習の実習報告会を欠席した場合は実習再履修とする。
 実習前学習、実習後学習(報告会)の日程については後日、連絡する。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス

学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 臨床実習					
科目名		臨床実習Ⅲ(検査測定評価)				ナンバリング	
配当年次	3年	開講学期	2026年度後期	区分	実習	単位	6
担当教員	高田 雄一、佐藤 明紀、南部 路治、鈴木 信						

授業の位置づけ

ディプロマ・ポリシー「高度に専門化かつ多様化された医療技術に柔軟に適応できる能力を身につけている。(知識・技能)」、「医療・保健・福祉の多様な問題を総合的に把握し、データを分析し解決できる能力を身につけている。(知識・技能)」、「グローバル化の進展を視野に入れつつ、生涯にわたり医療・保健の質の向上に貢献することができる。(関心・意欲・態度)」、「地域医療を支える多職種連携を理解し、主体的に協力関係を築くことができる。(関心・意欲・態度)」と「臨床場面や研究において状況の変化に柔軟に対応できるコミュニケーション能力を身につけている。(思考・判断・表現)」と関係している。

理学療法を行うための基本的な専門的知識・技術を身につけ、対象者に配慮しながら理学療法士として主体的な行動ができるようになるための科目である。1年次、2年次の臨床実習に関連して4年次臨床実習の基礎となる。

授業の概要

理学療法実習施設において、これまで学んできた検査・測定などの基本的な理学療法評価手技を、実際の対象者(患者等)を相手に行うものである。その結果から得られた情報や結果に対する分析を行い、障害における問題点の抽出までを学習する。実習を通じて医療人としての適性を学び、人間のおよび学術的、技術的な向上心、そして質の高いコミュニケーション能力を養う。

到達目標

1. 対象者に検査・測定についてのオリエンテーションができる。
2. 対象者の評価に必要な情報収集について理解できる。
3. 適切な検査・測定方法を実施できる。
4. 対象者のリスク管理に配慮できる。
5. 問題点について、実習指導者の見解や説明を理解できる。
6. 専門用語を用いて評価結果を記述できる。

授業の方法

基本的な知識と技術を確認するため、実習前試験(筆記試験、OSCE)を行う。6週間の臨床実習を行い、実習後には報告会、OSCEを実施する。

ICT活用

Google classroomを使用する。

実務経験のある教員の教育内容

高田、佐藤、南部、鈴木は理学療法士としての臨床経験、臨床実習指導者の経験を活かして臨床実習Ⅲを担当する。

課題に対するフィードバックの方法

臨床実習後に、学内にて実習報告会を実施し、発表、質疑応答を行なう。
実習前後にOSCEを行いゼミ担当教員と課題を確認する。
必要に応じてゼミ担当教員、臨床実習Ⅲ担当教員と面談を行なう。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	実習前学習 基本的な知識と技術を確認するため、実習前試験(筆記試験、OSCE)を実施する。	実習前試験(筆記試験、OSCE)に向けてこれまで学んだ内容について予習する。	試験結果を基に臨床実習に向けた準備を行う。
担当教員	高田 雄一、佐藤 明紀、南部 路治、鈴木 信		
第2回	実習前オリエンテーション 実習の手引きをもとに実習内容についての説明と注意事項の確認を行う。	実習の手引きをよく読んでおく。	オリエンテーションにて説明した内容について復習する。
担当教員	高田 雄一、佐藤 明紀、南部 路治、鈴木 信		
第3回	6週間の臨床実習を行う。	臨床実習指導者の指導のもとに、理学療法評価を経験し、統合と解釈、問題点の抽出までの過程を理解し学習する。また診療チームに参加し、その一員として診療業務を分担しながら理学療法士の職業的な知識・思考法・技能・態度の基本的な部分を習得する。	実習過程をデイリーノートに記録し、確認を行う。
担当教員	高田 雄一、佐藤 明紀、南部 路治、鈴木 信		

第4回	実習後学習 学内において実習報告会および実習後OSCEを行う。	OSCEにむけて準備を行う。報告会にむけてサマリーシートを作成し、発表の準備を行う。	OSCE後のフィードバックを受ける。報告会でのアドバイスを基に実習の再確認と知識の整理を行う。サマリーシートの修正、再提出を行う。
担当教員	高田 雄一、佐藤 明紀、南部 路治、鈴木 信		
第5回			
担当教員			
第6回			
担当教員			

第7回			
担当教員			
第8回			
担当教員			
第9回			
担当教員			

第10回			
担当教員			
第11回			
担当教員			
第12回			
担当教員			

第13回			
担当教員			
第14回			
担当教員			
第15回			
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	30	臨床実習指導者からの報告書
その他	70	実習前試験(筆記試験、OSCE),実習後OSCE 学内での実習報告会および提出物による成績。
教科書		
なし		
参考文献		

臨床実習教育の手引き 第6版 社団法人 日本理学療法士協会

履修条件・留意事項等

臨床実習Ⅰ、Ⅱ、理学療法評価学ⅠおよびⅡ、理学療法評価学実習ⅠおよびⅡが修得または修得が見込まれていること。
 実習前試験に合格すること。
 実習前試験、実習オリエンテーション、臨床実習、報告会、実習後OSCEの遅刻、欠席は原則認めない。
 提出物は期限を守り提出すること。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 臨床実習					
科目名		臨床実習Ⅳ(総合Ⅰ)				ナンバリング	
配当年次	4年	開講学期	2026年度前期	区分	実習	単位	6
担当教員	池野 秀則、佐々木 幸子、水本 淳						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門知識・技術を身につけている(知識・技能)」、「理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる脳力を身につけている」、「理学療法学における課題を論理的に探究する能力を身につけている」、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる」、「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる」、理学療法士としての臨床場面での技術や研究におけるコミュニケーション能力を身につけている」と関係がある科目である。また、本科目は「臨床実習Ⅲ」と関連し「臨床実習Ⅴ」の基礎となる。							
授業の概要							
理学療法の総合的能力である目標設定、治療プログラムの立案、および実施までの一貫した流れを、実習を通して理解する。							
到達目標							

- 対象者を尊重し、共感的態度をもって、より良い・善い人間関係を構築できる(理学療法の対象者との関係性構築) - 職場における理学療法士の役割と責任について理解し、その一員としての自覚のある言動をとることができる(チーム内での多職種との関係性および理学療法士としての役割) - 指導者の直接監督下で、実習生により実施されるべき項目(水準Ⅰ)において、①リスク管理について、②理学療法評価について、また、指導者の考えを理解し、指導者と一緒に考え、実習生により実施されるべき項目(水準Ⅲ・水準Ⅱ・水準Ⅰ)について、③理学療法治療技術におけるプログラム立案および実践ができる

授業の方法

基本的な知識と技術を確認するため、筆記試験、講義(パワーポイント・ハンドアウト)、実習前OSCE(客観的臨床能力試験)を行う。その後、実習施設・病院で、リハビリテーションチームの一員として、理学療法の実践を経験する。実習後には、実習後試験、報告会・グループワークを実施する。

ICT活用

必要に応じて適宜活用する。

実務経験のある教員の教育内容

池野は間理学療法士として病院に勤務した経験を活かして臨床実習Ⅴを担当する。 佐々木は理学療法士として病院に勤務した経験を活かして臨床実習Ⅳを担当する。 水本は理学療法士として病院に勤務した経験を活かして臨床実習Ⅳを担当する。

課題に対するフィードバックの方法

実習前OSCEの結果をフィードバックし、臨床実習に生かす。また、実習後試験の結果から臨床実習における知識の成果をフィードバックする。また、実習終了後、実習指導者からの成績と学内報告会の成績を踏まえて、ゼミ教員と面談を行い、臨床実習Ⅴに向けての準備を行う。また、学内報告会に引き続きグループワークを実施し、他の学生の実習内容を共有する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	実習オリエンテーション 実習オリエンテーションを通して実習内容を理解し、実習の準備ができるようにする。(池野、佐々木、水本)	実習の手引きを事前に読んでおく、実習内容を理解しておく。	実習の内容の復習をしておく。
担当教員			
第2回	実習前OSCE: 事前に提示した課題について中枢神経領域・整形外科領域から試験を実施する。その後フィードバックを行い臨床実習に備える。(池野、佐々木、水本)	実習前OSCEに向けて治療室等を使用して準備する。	実習前OSCEの結果を踏まえてできなかった部分を復習しておく。
担当教員			
第3回	実習前学習: 特別講義および自己学習を行い、臨床実習Ⅳの目的を理解する。評価結果に基づいて問題点を抽出し、治療プログラムの立案と実践について学習する。(池野、佐々木、水本)	実習前学習の時間割に沿って事前学習しておく。	実習前学習で理解できなかった点を復習しておく。
担当教員			

第4回	臨床実習:6週間(令和8年6月1日～7月10日)の実習を臨床実習Ⅳとする。指導者の見本を通して実際の患者の評価・プログラム立案ができるようにする。	理学療法実践に関して知識・技術の整理を行う。	実習過程をデイリーノートに記録し、確認を行う。
担当教員			
第5回	実習後試験 臨床実習で学んだ知識・技術をもとに試験を実施する。(池野、佐々木、水本)	臨床実習で学習した内容を整理し、実習後試験に備える。	実習後試験の結果について復習しておく。
担当教員			
第6回	実習後学習および報告会・グループワーク 臨床実習で学んだ知識・技術をまとめ、学生相互でその内容について説明でき、疑問に思った点は質問できるようにする。報告会の後、グループワークを実施し、他の学生の実習内容を共有する。(池野、佐々木、水本)	6週間の臨床実習の内容をまとめる。	報告会でのアドバイスを基に実習の再確認と知識の整理を行い、サマリーシートの修正と再提出を行う。
担当教員			

第7回	なし	なし	なし
担当教員			
第8回	なし	なし	なし
担当教員			
第9回	なし	なし	なし
担当教員			

第10回	なし	なし	なし
担当教員			
第11回	なし	なし	なし
担当教員			
第12回	なし	なし	なし
担当教員			

第13回	なし	なし	なし
担当教員			
第14回	なし	なし	なし
担当教員			
第15回	なし	なし	なし
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	指導者からの形成的評価をもとにOSCEの結果、発表会、提出物を総合的に判断する
その他	0	なし
教科書		
参考文献		

姿勢・動作・歩行分析 畠中泰彦 羊土社
 PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版 補訂版
 才藤栄一監修 金原出版株式会社

履修条件・留意事項等

総合臨床実習Ⅳの単位取得を条件として臨床実習Ⅴを履修できる。

備考欄

2026 北海道文教大学 シラバス							
学部・学科		医療保健科学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻					
区分		専門科目 臨床実習					
科目名		臨床実習Ⅴ(総合Ⅱ)				ナンバリング	
配当年次	4年	開講学期	2026年度前期	区分	実習	単位	6
担当教員	佐藤 明紀、柴田 恵理子、南部 路治						
授業の位置づけ							
ディプロマ・ポリシーの「理学療法を行うための基本的な専門知識・技術を身につけている(知識・技能)」、「理学療法学やリハビリテーション医学の進歩に対応できる能力を身につけている」、「理学療法学における課題を論理的に探究する能力を身につけている」、「対象者に配慮しながら理学療法士として主体的に行動できる」、「医療に関わる他の職種の役割を理解し、協力関係を築くことができる」、「理学療法士としての臨床場面での技術や研究におけるコミュニケーション能力を身につけている」に対応し、理学療法士として求められる専門的能力および臨床実践力を統合的に養う科目である。 本科目は「臨床実習Ⅲ」「臨床実習Ⅳ」と関連する科目である。							
授業の概要							
理学療法の総合的能力である目標設定、治療プログラムの立案および実施、さらに再評価に至る一連の過程を、診療参加型実習を通して統合的に修得する。 対象者の状態を的確に把握し、問題点を抽出したうえで目標を設定し、治療を実施し、その反応や変化を踏まえて再評価を行うまでの臨床推論過程を実践的に学ぶことを目的とする。							
到達目標							

・対象者を尊重し、共感的態度をもって良好な人間関係を構築できる(理学療法の対象者との関係性構築)。
 ・職場における理学療法士の役割と責任を理解し、その一員として自覚のある言動をとることができる(チーム内での多職種との関係性および理学療法士としての役割)。
 ・指導者の直接監督下において、実習生により実施されるべき項目(水準Ⅰ)における①リスク管理、②理学療法評価を实践できる。また、指導者の考えを理解し、ともに検討しながら、実習生により実施されるべき項目(水準Ⅲ・水準Ⅱ・水準Ⅰ)における③理学療法治療技術のプログラム立案および実践ができる。

授業の方法

基本的な知識および技術の確認のため、実習前講義、実習前試験および実習前OSCE(客観的臨床能力試験)を実施する。その後、実習施設・病院において、リハビリテーションチームの一員として理学療法の実践を経験する。実習期間中は、臨床実習指導報告書に基づき評価を行う。
 実習終了後には、実習後試験および実習報告会を実施する。

ICT活用

必要に応じて適宜活用する。

実務経験のある教員の教育内容

佐藤、南部、柴田は、理学療法士として医療機関に勤務した経験を有し、これまで臨床実習の指導を担当してきた実績を有している。これらの実務経験を活かし、臨床実習Ⅴを担当する。

課題に対するフィードバックの方法

実習前OSCEの結果をフィードバックし、臨床実習に生かす。また、実習後試験の結果から臨床実習における知識の成果をフィードバックする。また、実習終了後、実習指導者からの成績と学内報告会の成績を踏まえて、ゼミ教員と面談を行い、臨床実習Ⅵに向けての準備を行う。また、学内報告会に引き続きグループワークを実施し、他の学生の実習内容を共有する。

授業計画	学習内容	準備学習の内容および時間(分)	事後学習の内容および時間(分)

第1回	実習オリエンテーション 実習オリエンテーションを通して実習内容を理解し、実習に向けた準備ができるようにする。(佐藤、南部、柴田)	実習の手引きを事前に読んでおく、実習内容を理解しておく。	実習の内容の復習をしておく。
担当教員			
第2回	実習前OSCE 事前に提示した課題について、中枢神経領域および整形外科領域から試験を実施する。その後フィードバックを行い、臨床実習に備える。(佐藤、南部、柴田)	実習前OSCEに向けて治療室等を使用して準備する。	実習前OSCEの結果を踏まえ、十分に習得できていない知識・技術について復習しておく。
担当教員			
第3回	実習前学習 特別講義および自己学習を通して臨床実習Ⅴの目的を理解する。評価結果に基づいて問題点を抽出し、治療プログラムの立案および実践について学習する。(佐藤、南部、柴田)	実習前学習の時間割に沿って事前学習しておく。	実習前学習で理解できなかった点を復習しておく。
担当教員			

第4回	臨床実習:6週間(令和8年8月3日～9月11日)の実習を臨床実習Ⅴとする。指導者の見本を通して実際の患者の評価・プログラム立案ができるようにする。	理学療法実践に関して知識・技術の整理を行う。	実習過程をデイリーノートに記録し、確認を行う。
担当教員			
第5回	実習後試験 臨床実習で学んだ知識・技術をもとに試験を実施する。(佐藤、南部、柴田)	臨床実習で学習した内容を整理し、実習後試験に備える。	実習後試験の結果について復習しておく。
担当教員			
第6回	臨床実習で学んだ知識・技術を整理・まとめ、学生相互にその内容を説明できるようにするとともに、疑問点については質問できるようにする。報告会終了後にはグループワークを実施し、他の学生の実習内容を共有する。(佐藤、南部、柴田)	6週間の臨床実習の内容をまとめる。	報告会でのアドバイスを基に、実習内容の再確認と知識の整理を行い、サマリーシートを修正のうえ再提出する。
担当教員			

第7回	なし	なし	なし
担当教員			
第8回	なし	なし	なし
担当教員			
第9回	なし	なし	なし
担当教員			

第10回	なし	なし	なし
担当教員			
第11回	なし	なし	なし
担当教員			
第12回	なし	なし	なし
担当教員			

第13回	なし	なし	なし
担当教員			
第14回	なし	なし	なし
担当教員			
第15回	なし	なし	なし
担当教員			
成績評価の方法			

区分	割合(%)	内容
定期試験	0	定期試験は実施しない
定期試験以外(授業内容の課題・参加度・出席態度等)	100	本実習の成績は、下記の内容および実習中の取り組み状況を含め、総合的に評価する。 実習前講義、実習前試験、臨床実習指導報告書、実習報告会、実習後試験
その他	0	なし
教科書		
PT・OTのための臨床技能とOSCE コミュニケーションと介助・検査測定編 第2版 補訂版 才藤栄一監修 金原出版株式会社		
参考文献		

姿勢・動作・歩行分析 畠中泰彦 羊土社

履修条件・留意事項等

本科目は必修科目であり、理学療法士養成課程における最終の臨床実習である。臨床実習Ⅳまでの学習内容を十分に理解していることを前提とする。
実習施設では、指導者の監督下で理学療法士に必要な知識・技能・態度を段階的に習得する。
本学および実習施設の規則を遵守し、専門職としての自覚をもって行動すること。また、指定された課題および提出物を期日までに提出すること。

備考欄